清武町埋蔵文化財調査報告書　第18集

YAMADA

山田第1遺跡

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書

2006

清武町教育委員会

清武町埋蔵文化財調査報告書　第18集

YAMADA

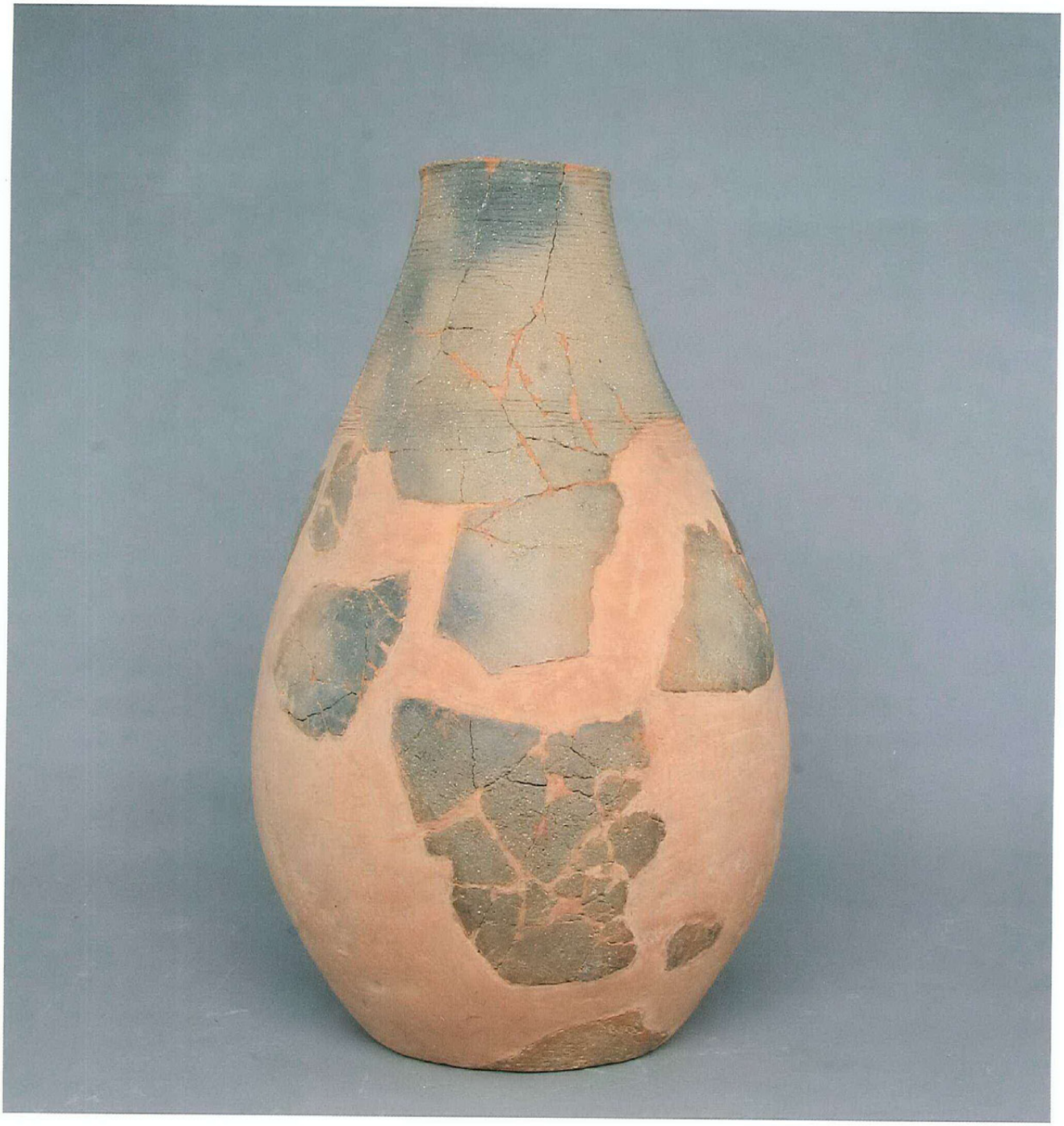
山田第1遺跡

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書

2006

清武町教育委員会

巻頭カラー①　山田第1遺跡遠景（西から）



巻頭カラー②　SC-12出土土器

序

本書は、清武町船引地区で進められている県営農地保全整備事業に伴い、平成11年度事業区で実施した山田第１遺跡の発掘調査報告書です。

山田第１遺跡では、旧石器時代の様々な用途に応じた石器や、縄文時代早期の蒸し焼き料理施設である集石遺構、また、古墳時代初頭の竪穴式住居跡など幅広い時期にわたる数多くの資料が確認されました。なかでも縄文時代早期の文化層から発見された耳飾りについては、今から8000年も前の時代を生きた人々の豊かな精神性を物語るとても貴重な資料だと言えるでしょう。

今後、これら先人の残した貴重な郷土の文化遺産を、生きた教材として豊かな心を育む教育の場で活用することにより、21世紀を担う子供たちへ着実に継承するとともに、一般の方々が直に資料を手にとることのできるような生涯学習の機会を積極的に設け、古の人々の息吹、想い、願いを多くの方々に感じていただけるよう努めていきたいと思います。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり多大な御協力をいただきました船引土地改良区をはじめとする地元の皆様に対し、心より厚く御礼申し上げます。

平成18年３月

清武町教育委員会

教育長　水元　三千夫

例　　言

1．本書は、県営農地保全整備事業（船引工区）に伴い、平成11年度に実施された山田第１遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査における測量・実測については、井田篤・松原一哉及び実測補助員が行った。

実測補助員：

柳田裕三、　　（50音順）

3．遺物･図面の整理及び報告書作成業務については、一部を平成11年度に清武町文化財管理事務所で実施し、残りを平成17年度に清武町埋蔵文化財センターで実施した。

平成11年度

担　　当：井田、松原

整理作業員：　　柳田裕三、　　（50音順）

平成17年度

担　　当：井田、秋成雅博、若杉知和、今村結記

整理作業員：

（50音順）

4．本書で使用した写真については、調査に関するものは井田･松原が撮影し、報告書掲載遺物については井田･秋成･若杉･今村が撮影した。又、空中写真については（株）スカイサーベイに委託した。

5．放射性炭素年代測定及び樹種同定については、（株）古環境研究所に委託した。分析結果については、本書Ｐ180からＰ186に掲載している。尚、本書で使用している放射性炭素年代測定値については、加速器質量分析法による補正^{14}Ｃ年代である。

6．石器実測については一部を㈱テイケイトレードに委託し、また石器実測図のトレースについては一部をアイシン精機株式会社新規事業企画室に委託した。なおこれらの委託業務の監修については秋成が行った。

7．本書で使用した土層及び土器等の色調については、『新版　標準土色帖（1997年後期版）』の土色に準拠した。

8．本書では、磁北と座標北の２種類の方位を使用している。（座標北を用いる場合のみＧ･Ｎと表示している。）又、標高については海抜絶対高である。

9．本書に使用した記号は次のとおりである。

ＳＩ：集石遺構　ＳＣ：土坑（炉穴も含む）　ＳＡ：竪穴式住居跡

10．本書の執筆と編集については井田･秋成･今村が担当し、文責については本文目次に記している。

11．出土遺物その他諸記録は、清武町埋蔵文化財センターに保管している。

目　次

第Ⅰ章　はじめに　（文責　井田）
第１節　調査に至る経緯と調査組織 …… 1
１．調査に至る経緯 …… 1
２．調査組織 …… 1
第２節　遺跡の環境 …… 1
１．地理的環境 …… 1
２．歴史的環境 …… 2
３．周辺遺跡 …… 2
第３節　調査の経過と方法 …… 2
１．調査の経過 …… 2
２．調査の方法 …… 5
第４節　基本土層 …… 6

第Ⅱ章　旧石器時代についての調査　（文責　秋成）
第１節　ナイフ形石器文化後半期の調査 …… 7
概要・Ａ区の調査・Ｇ区の調査 …… 7
第２節　細石器文化期の遺物について …… 17
第３節　小結 …… 19

第Ⅲ章　縄文時代早期についての調査　（文責　井田）
第１節　礫の出土状況及び遺構の検出状況 …… 26
１．礫の出土状況 …… 26
２．遺構の検出状況 …… 26
第２節　遺構 …… 29
１．集石遺構 …… 29
２．炉穴 …… 52
３．土坑 …… 53
４．遺構内遺物 ……（文責　井田　秋成） 57
第３節　包含層出土遺物 …… 64
１．土器 ……（文責　井田） 64
２．土製品 …… 105
３．石器 ……（文責　秋成） 107

第Ⅳ章　弥生・古墳時代についての調査　（文責　今村）
第１節　竪穴住居跡 …… 159
第２節　土坑 …… 166

第Ⅴ章　まとめ
縄文時代早期の石鏃について ……（文責　秋成） 175
当台地上における縄文時代早期の集石遺構使用時期について ……（文責　井田） 178
弥生・古墳時代の遺構群について ……（文責　今村） 179
把手付甕について ……（文責　今村） 179
山田第１遺跡における自然科学分析 …… 180～186

調査抄録 …… 187

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図 (S=1/25000)
第２図　遺跡周辺地形図……3・4 (S=1/2000)
第３図　調査区域図 ……5 (S=1/2000)
第４図　基本土層図 ……6 (S=1/30)
第５図　A区ナイフ形石器文化期遺物分布図【石材別】…8 (S=1/120)
第６図　A区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図 …9 (S=2/3)
第７図　G区ナイフ形石器文化期遺物分布図【石材別】 …10 (S=1/120)
第８図　G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図①……11 (S=2/3,1/2)
第９図　G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図②……12 (S=2/3)
第10図　G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図③……13 (S=2/3)
第11図　G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図④……14 (S=2/3)
第12図　G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図⑤……15 (S=2/3)
第13図　G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図⑥……16 (S=2/3)
第14図　G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図⑦……17 (S=2/3)
第15図　細石器文化期遺物分布図……18 (S=1/1200)
第16図　細石器文化期遺物実測図……19 (S=2/3)
第17図　縄文時代早期遺構配置図及びコンタ図……27 (S=1/1200)
第18図　集石遺構配置図及び礫分布図……28 (S=1/600)
第19図　SI-65実測図 ……29 (S=1/30)
第20図　SI-73実測図 ……29 (S=1/30)
第21図　SI-43実測図 ……30 (S=1/30)
第22図　SI-71実測図 ……30 (S=1/30)
第23図　SI-58実測図 ……30 (S=1/30)
第24図　SI-44実測図 ……31 (S=1/30)
第25図　SI-59実測図 ……31 (S=1/30)
第26図　SI-74実測図 ……31 (S=1/30)
第27図　SI-76実測図 ……31 (S=1/30)
第28図　SI-57実測図 ……33 (S=1/30)
第29図　SI-39実測図 ……33 (S=1/30)
第30図　SI-８実測図 ……34 (S=1/30)
第31図　SI-21実測図 ……34 (S=1/30)
第32図　SI-28実測図 ……34 (S=1/30)
第33図　SI-45実測図 ……34 (S=1/30)
第34図　SI-62実測図 ……35 (S=1/30)
第35図　SI-68実測図 ……35 (S=1/30)
第36図　SI-31実測図 ……35 (S=1/30)
第37図　SI-19実測図 ……35 (S=1/30)
第38図　SI-61実測図 ……41 (S=1/30)
第39図　SI-36実測図 ……41 (S=1/30)
第40図　SI-49実測図 ……42 (S=1/30)
第41図　SI-70実測図 ……42 (S=1/30)
第42図　SI-60実測図 ……42 (S=1/30)
第43図　SI-63実測図 ……42 (S=1/30)
第44図　SI-67実測図 ……43 (S=1/30)
第45図　SI-66実測図 ……43 (S=1/30)
第46図　SI-13実測図 ……43 (S=1/30)
第47図　SI-18実測図 ……43 (S=1/30)
第48図　SI-56実測図 ……43 (S=1/30)
第49図　SI-50実測図 ……44 (S=1/30)
第50図　SI-54実測図 ……44 (S=1/30)
第51図　SI-7実測図……44 (S=1/30)
第52図　SI-55実測図 ……44 (S=1/30)
第53図　SI-34実測図 ……44 (S=1/30)
第54図　SI-15実測図 ……44 (S=1/30)
第55図　SI-52実測図 ……45 (S=1/30)
第56図　SI-35実測図 ……45 (S=1/30)

第57図　SI-40実測図 (S=1/30) ……45
第58図　SI-37実測図 (S=1/30) ……45
第59図　SI-24実測図 (S=1/30) ……45
第60図　SI-51実測図 (S=1/30) ……45
第61図　SI-23実測図 (S=1/30) ……46
第62図　SI-27実測図 (S=1/30) ……46
第63図　SI-33実測図 (S=1/30) ……46
第64図　SI-30実測図 (S=1/30) ……46
第65図　SI-41実測図 (S=1/30) ……46
第66図　SI-32実測図 (S=1/30) ……46
第67図　SI-47実測図 (S=1/30) ……46
第68図　SI-77実測図 (S=1/30) ……47
第69図　SI-17実測図 (S=1/30) ……47
第70図　SI-14実測図 (S=1/30) ……47
第71図　SI-3実測図 (S=1/30) ……47
第72図　SI-16実測図 (S=1/30) ……47
第73図　SI-42実測図 (S=1/30) ……47
第74図　SI-25実測図 (S=1/30) ……47
第75図　SI-38実測図 (S=1/30) ……47
第76図　SI-75実測図 (S=1/30) ……47
第77図　SI-6実測図 (S=1/30) ……48
第78図　SI-20実測図 (S=1/30) ……48
第79図　SI-29実測図 (S=1/30) ……48
第80図　SI-26実測図 (S=1/30) ……48
第81図　SI-12実測図 (S=1/30) ……48
第82図　SI-11実測図 (S=1/30) ……48
第83図　SI-53実測図 (S=1/30) ……48
第84図　SI-69実測図 (S=1/30) ……49
第85図　SI-48実測図 (S=1/30) ……49
第86図　SI-72実測図 (S=1/30) ……49
第87図　SI-22実測図 (S=1/30) ……49
第88図　SI-78実測図 (S=1/30) ……49
第89図　SI-5実測図 (S=1/30) ……50
第90図　SI-1実測図 (S=1/30) ……50
第91図　SI-2実測図 (S=1/30) ……50
第92図　SI-4実測図 (S=1/30) ……50
第93図　SC-11実測図 (S=1/30) ……52
第94図　SC-14実測図 (S=1/30) ……52
第95図　SC-13実測図 (S=1/30) ……52
第96図　SC-12実測図 (S=1/30) ……53
第97図　SC-3実測図 (S=1/30) ……53
第98図　SC-4実測図 (S=1/30) ……53
第99図　SC-2実測図 (S=1/30) ……54
第100図　SC-6実測図 (S=1/30) ……54
第101図　遺構内遺物実測図① (S=1/3) ……58
第102図　遺構内遺物実測図② (S=1/3) ……59
第103図　遺構内遺物実測図③ (S=1/3) ……60
第104図　遺構内遺物実測図④ (S=2/3) ……62
第105図　縄文時代早期遺物包含層出土土器（Ⅰ類）分布図 (S=1/1200) …66
第106図　Ⅰ類土器実測図① (S=1/3) ……67
第107図　Ⅰ類土器実測図② (S=1/3) ……68
第108図　縄文時代早期遺物包含層出土土器（Ⅱ類）分布図 (S=1/1200) …71
第109図　Ⅱ類土器実測図① (S=1/3) ……72
第110図　Ⅱ類土器実測図② (S=1/3) ……73
第111図　Ⅱ類土器実測図③ (S=1/3) ……74
第112図　Ⅱ類土器実測図④ (S=1/3) ……75
第113図　Ⅲ類土器実測図① (S=1/3) ……77
第114図　Ⅲ類土器実測図② (S=1/3) ……78
第115図　縄文時代早期遺物包含層出土土器（Ⅲ類）分布図 (S=1/1200) …79
第116図　縄文時代早期遺物包含層出土土器（Ⅳ類）分布図 (S=1/1200) ……82

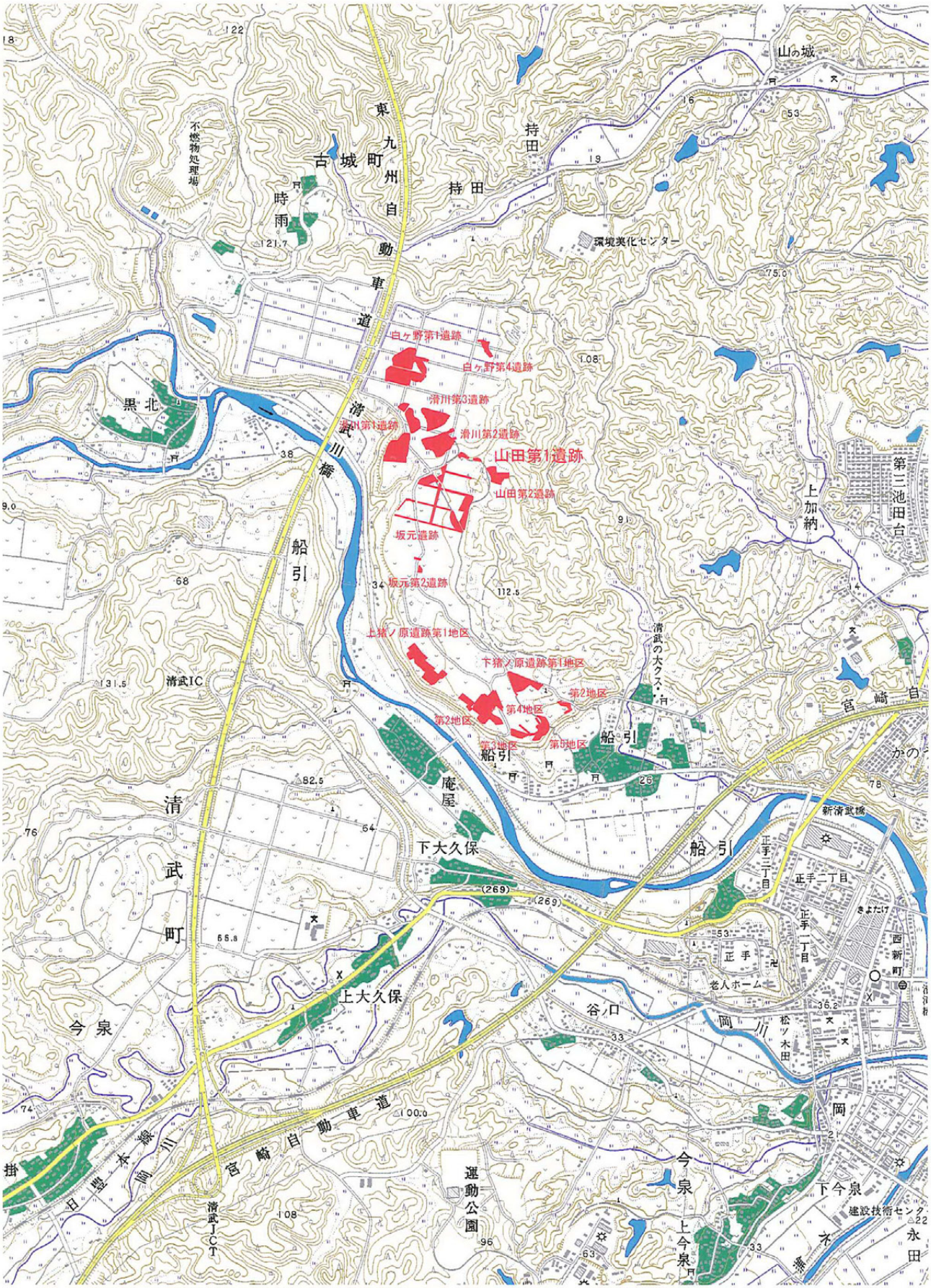
第117図　Ⅳ類土器実測図①……83
(S=1/3)
第118図　Ⅳ類土器実測図②……84
(S=1/3)
第119図　Ⅳ類土器実測図③……85
(S=1/3)
第120図　Ⅳ類土器実測図④……86
(S=1/3)
第121図　Ⅳ類土器実測図⑤……87
(S=1/3)
第122図　Ⅳ類土器実測図⑥……88
(S=1/3)
第123図　Ⅳ類土器実測図⑦……89
(S=1/3)
第124図　Ⅳ類土器実測図⑧……90
(S=1/3)
第125図　Ⅳ類土器実測図⑨……91
(S=1/3)
第126図　Ⅳ類土器実測図⑩……92
(S=1/3)
第127図　Ⅳ類土器実測図⑪……93
(S=1/3)
第128図　Ⅳ類土器実測図⑫……94
(S=1/3)
第129図　Ⅴ類土器実測図 ……101
(S=1/3)
第130図　縄文時代早期遺物包含層出土土器（Ⅴ類）分布図　…102
(S=1/1200)
第131図　Ⅵ類土器実測図 ……104
(S=1/3)
第132図　縄文時代早期遺物包含層出土土製品分布図及び実測図　…106
(S=1/1200，S=1/3)
第133図　縄文時代早期遺物包含層　敲石・磨石分布図 …110
(S=1/1200)
第134図　縄文時代早期遺物包含層　石鏃・槍先形尖頭器・
尖頭状石器【器種別】分布図 ……111・112
(S=1/900)
第135図　縄文時代早期遺物包含層　石鏃・槍先形尖頭器・
尖頭状石器【石材別】分布図 ……113・114
(S=1/900)
第136図　縄文時代早期遺物包含層　出土石器実測図① …115
(S=2/3)
第137図　縄文時代早期遺物包含層　出土石器実測図② …116
(S=2/3)
第138図　縄文時代早期遺物包含層　出土石器実測図③ …117
(S=2/3)
第139図　縄文時代早期遺物包含層　出土石器実測図④ …118
(S=2/3)
第140図　縄文時代早期遺物包含層　出土石器実測図⑤ …119
(S=2/3)
第141図　縄文時代早期遺物包含層　出土石器実測図⑥ …120
(S=2/3)
第142図　縄文時代早期遺物包含層　出土石器実測図⑦ …121
(S=2/3)
第143図　縄文時代早期遺物包含層　出土石器実測図⑧ …122
(S=2/3)
第144図　縄文時代早期遺物包含層　出土石器実測図⑨ …123
(S=2/3)
第145図　縄文時代早期遺物包含層　出土石器実測図⑩ …124
(S=2/3)
第146図　縄文時代早期遺物包含層　出土石器実測図⑪ …125
(S=2/3)
第147図　縄文時代早期遺物包含層　出土石器実測図⑫ …126
(S=2/3)
第148図　縄文時代早期遺物包含層　出土石器実測図⑬ …127
(S=2/3)
第149図　縄文時代早期遺物包含層　出土石器実測図⑭ …128
(S=2/3,1/2)
第150図　縄文時代早期遺物包含層　出土石器実測図⑮ …129
(S=1/2)
第151図　縄文時代早期遺物包含層　出土石器実測図⑯ …130
(S=1/2)
第152図　縄文時代早期遺物包含層　出土石器実測図⑰ …131
(S=1/2,1/4
第153図　A区竪穴式住居群配置図 ……159
(S=1/300)
第154図　SA-1実測図及びSA-1出土遺物実測図 …160
(S=1/60，S=1/3)
第155図　SA-2実測図 ……161
(S=1/60)
第156図　SA-2出土遺物実測図 ……162
(S=1/3,1/4)
第157図　SA-3実測図及びSA-3出土遺物実測図 …163
(S=1/60,S=1/3,2/3)
第158図　SA-5実測図及びSA-5出土遺物実測図 …164
(S=1/60,S=1/3)
第159図　SA-6実測図及びSA-6出土遺物実測図 …165
(S=1/60,S=1/3)
第160図　SC-10実測図 ……166
(S=1/30)
第161図　SC-10出土遺物実測図① ……167
(S=1/3)
第162図　SC-10出土遺物実測図② ……168
(S=1/3)
第163図　縄文時代早期中葉の土器と石鏃 ……176
(S=1/1200)
第164図　縄文時代早期後葉の土器と石鏃 ……177
(S=1/1200)

表　目　次

第1表　山田第1遺跡出土旧石器計測分類表 …20・21
第2表　集石遺構観察表 ……50・51
第3表　遺構内出土遺物一覧表……57
第4表　遺構内出土土器観察表 ……63・64
第5表　遺構内出土石器計測分類表……64
第6表　Ⅰ類土器観察表……69
第7表　Ⅱ類土器観察表 ……75・76
第8表　Ⅲ類土器観察表……78
第9表　Ⅳ類土器観察表……95～100
第10表　Ⅴ類土器観察表 ……101
第11表　Ⅵ類土器観察表 ……103
第12表　土製品観察表 ……105
第13表　包含層出土石器計測分類表 ……132～138
第14表　弥生土器・土師器観察表 ……168・169
第15表　弥生・古墳時代遺構内出土石器計測分類表 …169
第16表　集石遺構使用時期予想図 ……178
(坂元遺跡・山田第1遺跡)

図　版　目　次

巻頭カラー①　山田第1遺跡遠景（西から）
巻頭カラー②　SC-12出土土器
図版1　基本土層（南から）……6
図版2　A･G区出土旧石器及び細石器　……22
図版3　G区出土接合資料……23
図版4　G区出土旧石器（流紋岩･砂岩･頁岩）…24
図版5　G区出土旧石器（ホルンフェルス）…25
図版6　集石遺構検出状況①（南から）……26
図版7　集石遺構検出状況②（南西から）……26
図版8　SI-65（東から）……32
図版9　SI-73断面（西から）……32
図版10　SI-28（東から）……37
図版11　SI-28底石（北から）……37
図版12　SI-8（南から）……37
図版13　SI-8断面（西から）……37
図版14　SI-57（東から）……37
図版15　SI-45（東から）……37
図版16　SI-39（東から）……37
図版17　SI-21（北から）……37
図版18　SI-18（西から）……55
図版19　SI-7（西から）……55
図版20　SI-15（南から）……55
図版21　SI-30（東から）……55
図版22　SI-36（北東から）……55
図版23　SI-49（南から）……55
図版24　SI-2（西から）……55
図版25　SI-4（北から）……55
図版26　SC-13（南から）……56
図版27　SC-11（東から）……56
図版28　SC-14（南から）……56
図版29　SC-12（東から）……56
図版30　SC-2（北から）……56
図版31　SC-4（東から）……56
図版32　遺構内出土土器　……61
図版33　遺構内出土石器（表面）……62
図版34　遺構内出土石器（裏面）……62
図版35　縄文時代早期遺物包含層出土土器①　…139
図版36　縄文時代早期遺物包含層出土土器②　…140
図版37　縄文時代早期遺物包含層出土土器③　…141
図版38　縄文時代早期遺物包含層出土土器④　…142
図版39　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑤　…143
図版40　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑥　…144
図版41　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑦　…145
図版42　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑧　…146
図版43　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑨　…147
図版44　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑩　…148
図版45　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑪　…149
図版46　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑫　…150
図版47　縄文時代早期遺物包含層出土土製品　…151
図版48　縄文時代早期遺物包含層出土石器①　…152
図版49　縄文時代早期遺物包含層出土石器②　…153
図版50　縄文時代早期遺物包含層出土石器③　…154
図版51　縄文時代早期遺物包含層出土石器④　…155
図版52　縄文時代早期遺物包含層出土石器⑤　…156
図版53　縄文時代早期遺物包含層出土石器⑥　…157
図版54　縄文時代早期遺物包含層出土石器⑦　…158
図版55　A区竪穴式住居跡群（南西から）……170
図版56　A区竪穴式住居跡群（東から）……170
図版57　SA-1完掘状況（西から）……171
図版58　SA-2･6検出状況（南から）……171
図版59　SA-2完掘状況（南から）……171
図版60　SA-3完掘状況（西から）……171
図版61　SA-5完掘状況（東から）……171
図版62　SA-6完掘状況（南から）……171
図版63　SC-10遺物出土状況（南から）……171
図版64　SC-10完掘状況（南から）……171
図版65　SA-1・SA-2・SA-3・SA-5出土遺物…172
図版66　SA-5・SA-6・SC-10出土遺物……173
図版67　SA-2出土遺物　……174
図版68　SC-10出土遺物……174



第１図　遺跡位置図（Ｓ＝1/25,000）

0　0.5　1.0km

第Ⅰ章　はじめに

第１節　調査に至る経緯と調査組織

１．調査に至る経緯

平成７年度より実施されている県営農地保全整備事業（船引工区）に伴い、事業区に山田第１遺跡の一部が含まれることが明らかになった。遺跡の取扱いについて、宮崎県教育委員会、宮崎県中部農林振興局、船引地区土地改良区、清武町教育委員会等関係各局で協議したところ、やむを得ず削平などにより遺跡の現状保存が困難な事業区について、宮崎県中部農林振興局の委託を受け、清武町教育委員会が発掘調査を実施することとなった。調査期間は、平成11年４月28日～平成12年３月30日と平成12年７月10日～平成12年８月４日で、調査面積は約7,700㎡である。

２．調査組織

調査主体　　清武町教育委員会

調　　査　（平成11年度）

事　務　局

教育長		湯地　敏郎
教育次長		清　　俊郎
社会教育課長		谷口　紘一
〃	文化係長	川越　　健
〃	主任	伊東　　但

調　査　員

社会教育課主事	井田　　篤
社会教育課嘱託	松原　一哉

整理作業　（平成17年度）

事　務　局

教育長（～H17.10）	神川　孝志
（H17,10～）	水元　三千夫
教育次長	古城　員久
生涯学習課長	落合　兼雄
〃　補佐	長友　眞一
〃　係長	伊東　　但

調　査　員

生涯学習課主任	井田　　篤
生涯学習課主事	秋成　雅博
生涯学習課嘱託	若杉　知和
生涯学習課嘱託	今村　結記

第２節　遺跡の環境

１．地理的環境

清武町は、県内最大の宮崎平野の南端に位置し、県都宮崎市の南西に隣接している。町内ほぼ中央には清武川が東流し、河川周辺には沖積地や河岸段丘がみられ、その上位には台地が発達している。

山田第1遺跡は、町内西方の標高約80m～85mの台地上に位置している。この台地は、大淀

川南岸丘陵とよばれる四万十層群からなる標高200m～400m丘陵が、高岡方面から東に向かってしだいに低くなり平坦な台地地形へと変化したもので、地質は宮崎平野の基盤である宮崎層群の上位にシラスや火山灰等が堆積して形成されたものである。尚、このシラス台地上及び崖面には、湧水点が数多く点在しており、遺跡が立地するうえでの好条件の一つであった考えられる。

2．歴史的環境

山田第1遺跡は、清武町内船引地区に所在する。船引の名が歴史上に登場するのは古代末から中世にかけてである。建久八（1197）年鎌倉幕府が各国の現地役人に命じて作成させた『建久の図田帳』には、「船曳五十町、右宮崎郡内　弁済使法印、不知實名、」とあることから、平安末には宇佐八幡宮と強い結びつきをもった荘園がこの地に存在したことが明らかである。

室町・戦国期においては、この地は主に伊東氏の所領であったが、豊臣秀吉の九州征伐後高橋元種の所領となり、江戸時代初期には幕府領（天領）となっている。加納・木原・今泉といった清武町内の他の地区は、秀吉により伊東祐兵に与えられ江戸時代を通して飫肥藩領であったため、現在の清武町においては船引地区だけが異なる支配体制のもと近世という時を刻んだこととなる。

明治維新後は、船引村として清武郡治所の管轄下となり、明治24（1891）年には清武村、昭和25（1950）年には清武町の一地区として、現在も発展を続けている。

又、江戸時代の中期には定着していた“船引神楽”は、主に稲作豊穣と子孫繁栄を祈願して春（春分の日）に奉納される作祈祷神楽であるが、数多くの番数が今も尚伝承されていることから、県の無形民俗文化財に指定されている。

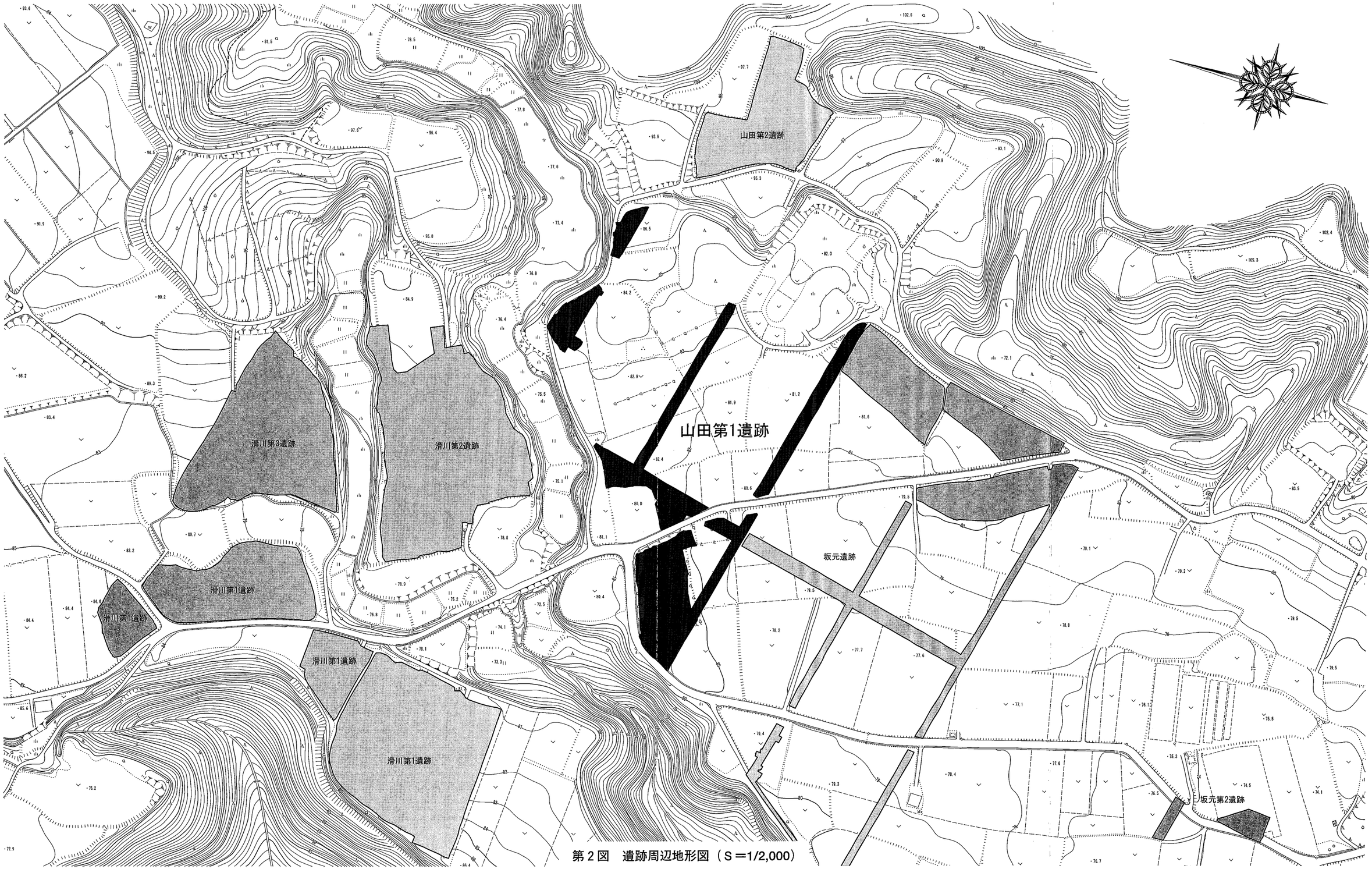
3．周辺遺跡

山田第1遺跡が立地する台地上では、平成３年頃から県営農地保全整備事業（時屋工区）、東九州自動車建設、県営農地保全整備事業（船引工区）などの大型公共工事が相次いでいる。それに伴い発掘調査が実施された遺跡は20遺跡を数え（平成17年度現在）、旧石器から近世まで貴重な資料が多数確認されている。特に、台地上という地形からか、狩猟・採集を主な生業としていた縄文時代早期の遺構・遺物がすべての遺跡で確認されている。

第３節　調査の経過と方法

1．調査の経過

調査は工事の進捗状況に合わせ、Ａ・Ｂ区⇒Ｃ・Ｄ区⇒Ｅ・Ｆ区⇒Ｇ区⇒Ｈ区の順で実施した。各区においては、重機による表土剥ぎ取り後まず耕作による削平状況を確認した。その後、縄文時代早期以降の時期の文化層を調査し、終了後アカホヤ火山灰層を重機により剥ぎ取った。アカホヤ火山灰除去後は、アカホヤ降下軽石直下での等高線の確認作業を行い、縄文時代早期の旧地形復元を試みた。その後、縄文時代早期・草創期の文化層を掘り下げ遺物の取上げ作業を行ったが、その途中で集石遺構が検出されたため集石遺構の記録作業も併せて行った。次に縄文時代早期及び草創期の遺構の検出作業を霧島・小林火山灰層上面で行ったところ、炉穴・土坑が検出さ



第２図　遺跡周辺地形図（Ｓ＝1/2,000）

れたため両遺構の記録作業を行った。旧石器時代の文化層については、A・B区はトレンチでの確認調査、G区では旧石器時代の文化層が表土剥ぎ取り時に既に露出していた範囲のみでの調査に止まる結果となった。

2．調査の方法

表土等の剥ぎ取り：調査員の指示のもと重機を使用して実施した。

基準杭等の設定：前年度のデータを参考にし、光波測量器を用いて調査員が実施した。

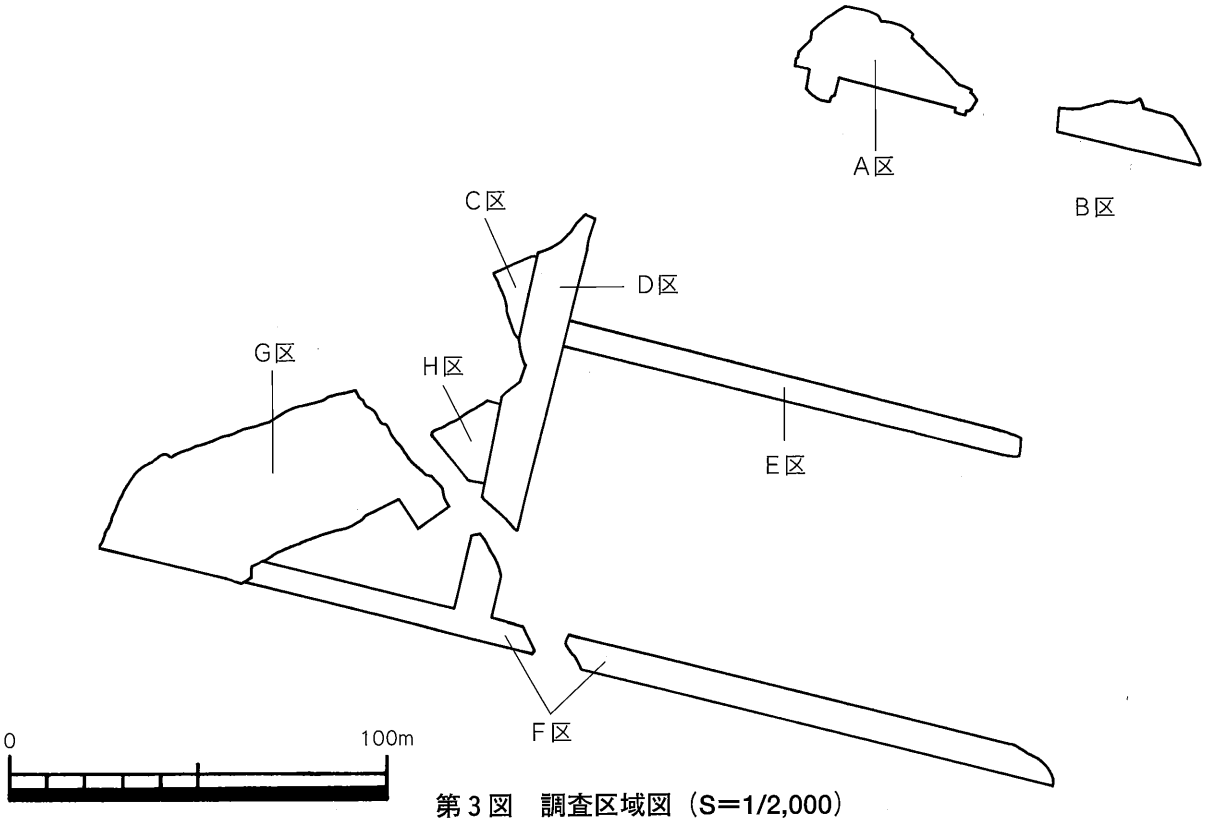
検出面での精査：アカホヤ火山灰層上面において縄文時代前期以降の遺構検出作業を行い、次に小林軽石火山灰層上面で縄文時代早期・草創期の遺構検出作業を行なった。ただし集石遺構については、遺物包含層の掘り下げ作業の最中に検出している。

遺物包含層の掘り下げ作業：主にジョレン・ねじり鎌で行なった。包含層中に存在する遺構の検出作業も兼ねているので、一枚一枚包含層を剥ぐ意識を作業員に徹底させ丁寧に行なった。

遺　構　実　測：遺構のサイズに応じて1/10又は1/20で作図した。

測　量　関　係：光波測量器及びデータコレクタを使用し、現場でデータを収集した後、清武町文化財管理事務所（現清武町埋蔵文化財センター）において、AUTO-CADを利用してデジタルデータとして管理した。

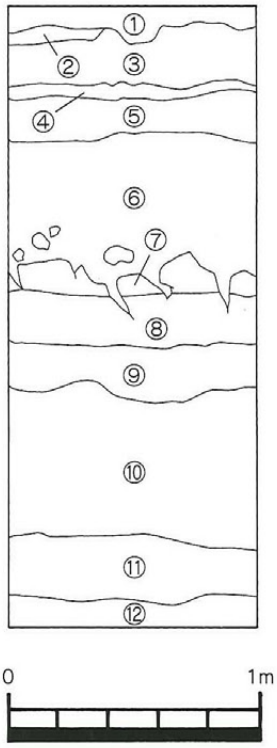
写　真　撮　影：6×6・6×9版モノクロ・リバーサル、35mmモノクロ・リバーサル写真を併用し空中写真については業者に委託した。



第３図　調査区域図（S=1/2,000）

図版１　基本土層（南から）

① 耕作土
② 2次アカホヤ層
③ 鬼界アカホヤ火山灰層
　7.5YR5/6（明褐色）
④ アカホヤ降下軽石層
⑤ 黒褐色シルト質ローム層
　10YR3/2（黒褐色）：やや硬質
⑥ 褐色シルト質ローム層
　10YR4/4（褐色）
⑦ 霧島・小林火山灰風化層
　2.5Y3/2（黒褐色）
　：クラックに⑥層が入り込む
⑧ 霧島・小林火山灰層
　2.5Y4/2（明灰黄色）：かなり硬質
⑨ 褐色シルト質ローム層
　10YR4/3（にぶい黄色）
　：⑧の小ブッロクをわずかに含む
⑩ 褐色シルト質ローム層
　10YR4/6（褐色）：軟質
⑪ 褐色シルト質ローム層
　2.5Y4/4（オリーブ褐色）
　：⑫がわずかに混じり込む
⑫ シラス



第４図　基本土層図（Ｓ＝1/30）

第４節　基本土層

②２次アカホヤ層：極わずかではあるが弥生時代及び古墳時代の遺物が出土した。

③鬼界アカホヤ火山灰層：縄文時代前期以降の遺構検出面。

⑤黒褐色シルト質ローム：縄文時代早期の遺物包含層（遺物及び焼礫が多数出土）。又、当層上位から中位にかけて、集石遺構が検出された。

⑥褐色シルト質ローム：縄文時代早期の遺物包含層（遺物及び焼礫が極めて多数出土）。又、当層上位から中位にかけて、集石遺構・炉穴・土坑が検出された。

⑧霧島・小林火山灰層：縄文時代早期及び草創期の遺構最終検出面。

⑨　～　⑪：旧石器時代の遺物包含層。

Ａ区からＨ区までほぼ同様の堆積状況であったが、Ｆ区のやや谷地形になっている範囲においては耕作土の下位に黒色シルト質ローム層が確認された。これは隣接する坂元遺跡の谷部でも確認された堆積状況である。

尚、本報告書で使用されている層位については、第４図　基本土層図参照。

第II章　旧石器時代の調査

第１節　ナイフ形石器文化後半期の調査

概　要

山田第一遺跡ではＡ区とＧ区にトレンチを設定して旧石器時代の遺物包含層と考えられる９～12層の掘り下げをおこなった。その結果、両区のトレンチにから一箇所ずつナイフ形石器文化期の遺物の集中箇所を検出することができた。今回の調査は残念ながらトレンチ調査であり、本遺跡におけるナイフ形石器文化期の様相をすべて把握することはできなかった。

また本遺跡ではナイフ形石器文化期の遺物のほかに細石器文化期の遺物も確認されている。しかし、これらは縄文早期の遺物包含層である６層からナイフ形石器文化期の遺物包含層である９層にかけて出土しており、また調査区西側に散在するという状況であった。

Ａ区の調査

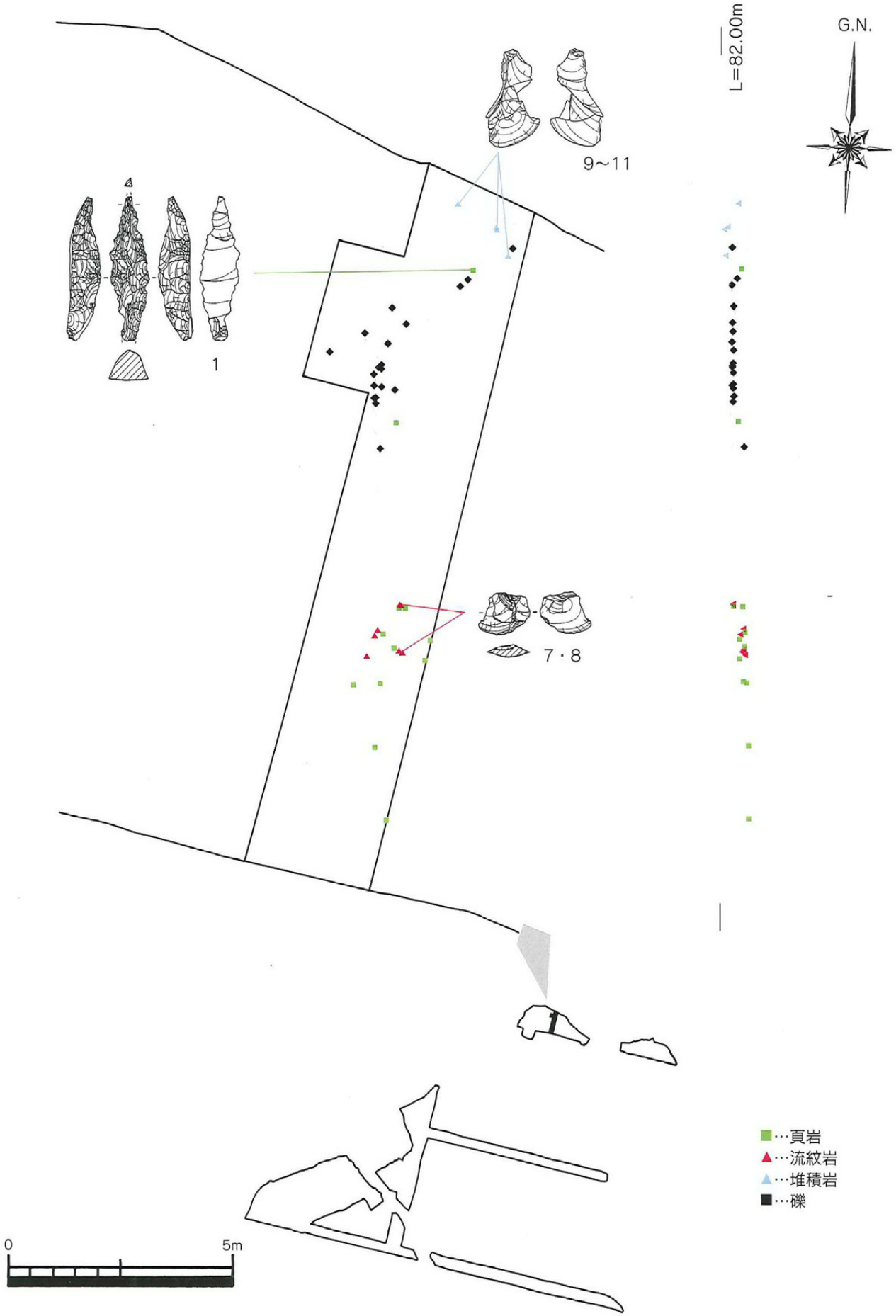
Ａ区の中央付近に2.7ｍ×16ｍの長方形のトレンチを設定して掘り下げをおこなったところ10～11層中より、角錐状石器１点、剥片・砕片21点（うち接合資料２組）が出土した。またトレンチの北東側で礫の密集が確認されたため、一部トレンチを拡張してその検出を行った。その結果16点の礫の密集がほぼ同一レベルで検出され、礫群の存在を伺うことができた。またＡ区における石器と礫群との出土レベルはほとんど同じであり、これらの一括性は高いと考えられる。

１は角錐状石器である。縦長剥片を素材とし両端部を欠損しているが、打面部を先端と考えると、基部の主要剥離面側には平坦剥離を施していたと考えられる。また稜上調整も確認される。２はスクレイパーである。寸詰まり剥片を素材とする。背面左側縁に両面からの刃部調整が行われている。３は２次加工ある剥片である。下端部に２次加工が確認される。４～11は剥片である。４～６は頁岩製で自然面をもつ。７･８は剥片二点の接合資料である。９～11は剥片３点の接合資料である。

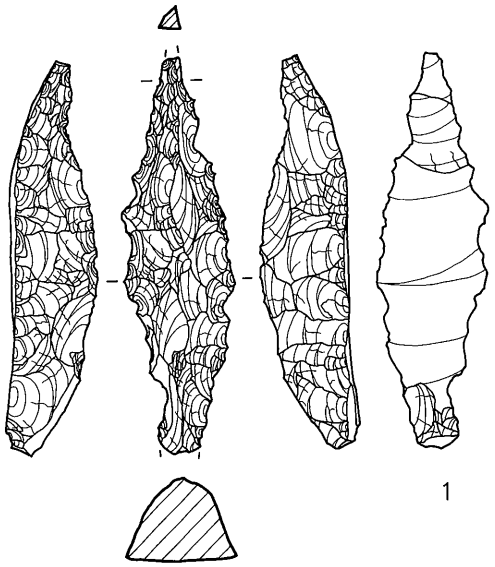
Ｇ区の調査

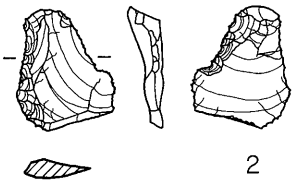
Ｇ区は凸形の約124㎡のトレンチを設定し、掘り下げをおこなったところ９～10層中より、ナイフ形石器１点、剥片・砕片106点（うち接合資料18組）、石核11点、敲石３点、礫26点が出土した。本調査区より出土したホルンフェルスと考えられる黄褐色を呈する石材の資料（51～83）は、非常に特徴的である。石器と礫の出土レベルはほぼ同一であり、一括性は高いと考えられる。

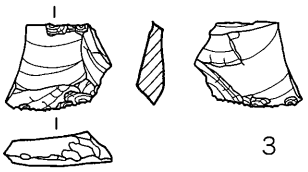
12はナイフ形石器である。流紋岩製の小型で細身の斜め剥ぎ剥片を使用し、片縁と基部に刃潰し加工を施す。13・14は流紋岩製の細身の斜め剥ぎ剥片である。15は砂岩製の剥片である。16～18は砂岩製の敲石である。いずれも細長の礫の端部に使用痕が著しく観察される。19～

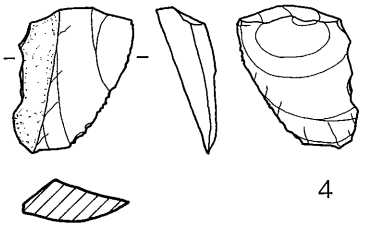


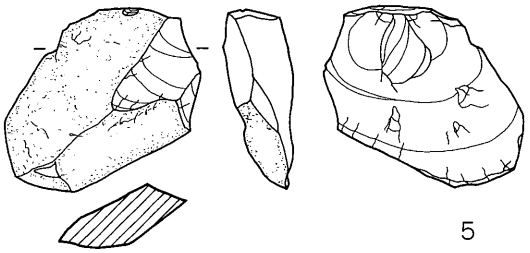
第５図　Ａ区ナイフ形石器文化期遺物分布図（石材別）（Ｓ＝1/120）

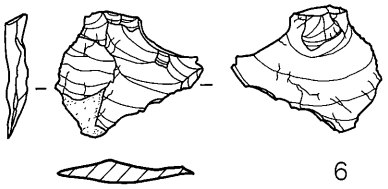


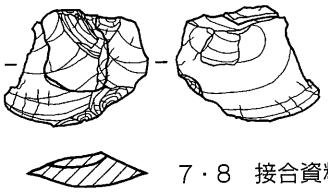




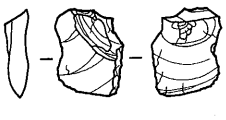


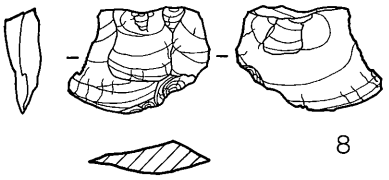


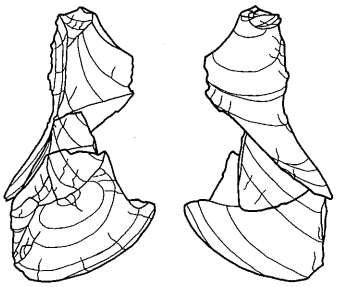




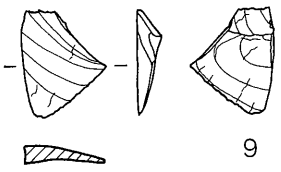
7・8　接合資料①

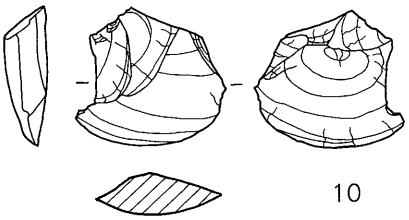


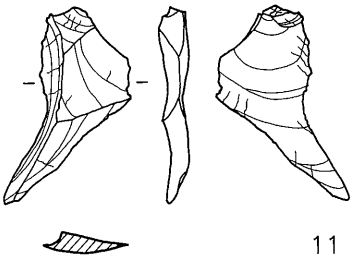


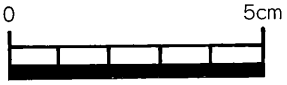


9～11　接合資料②

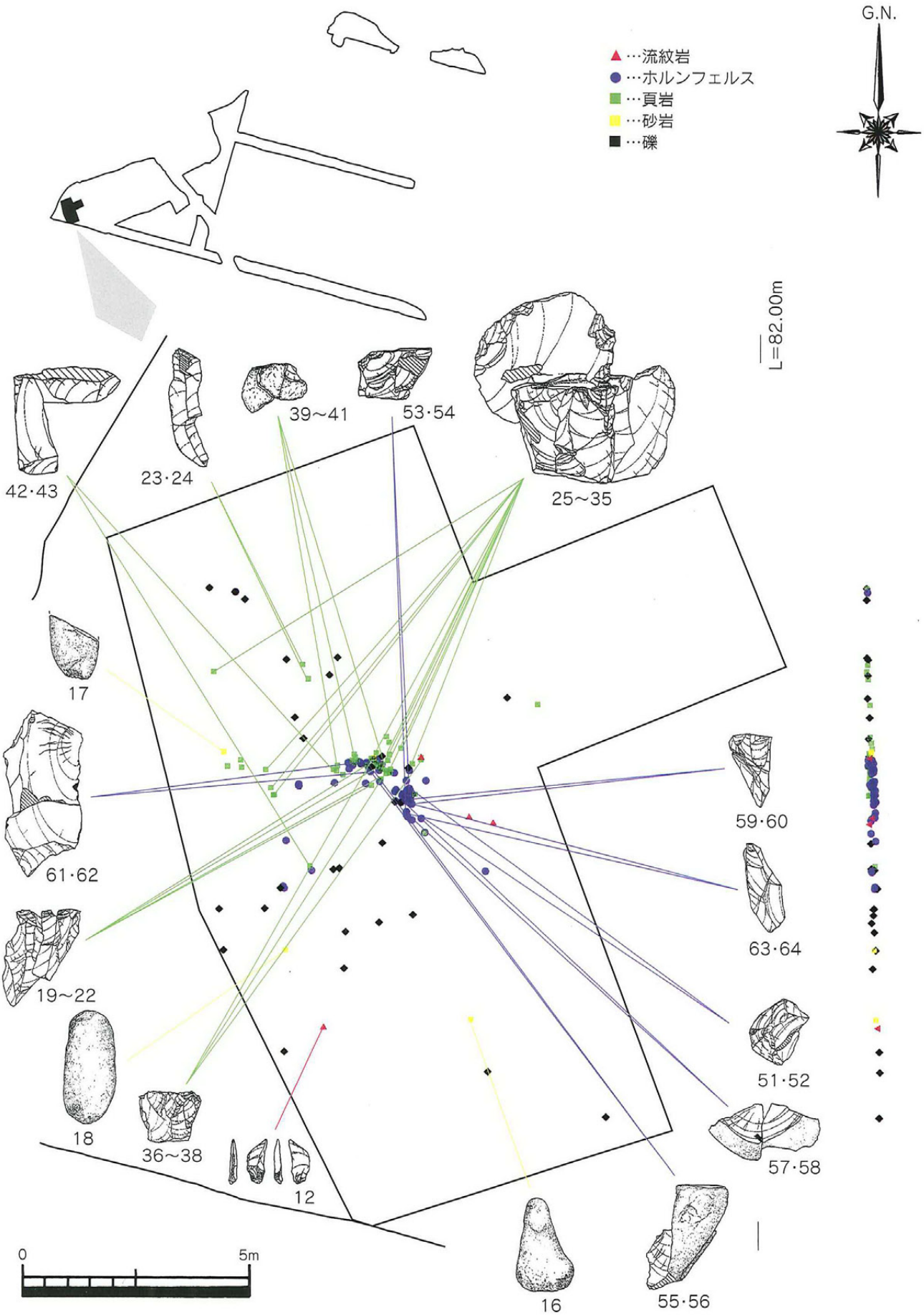




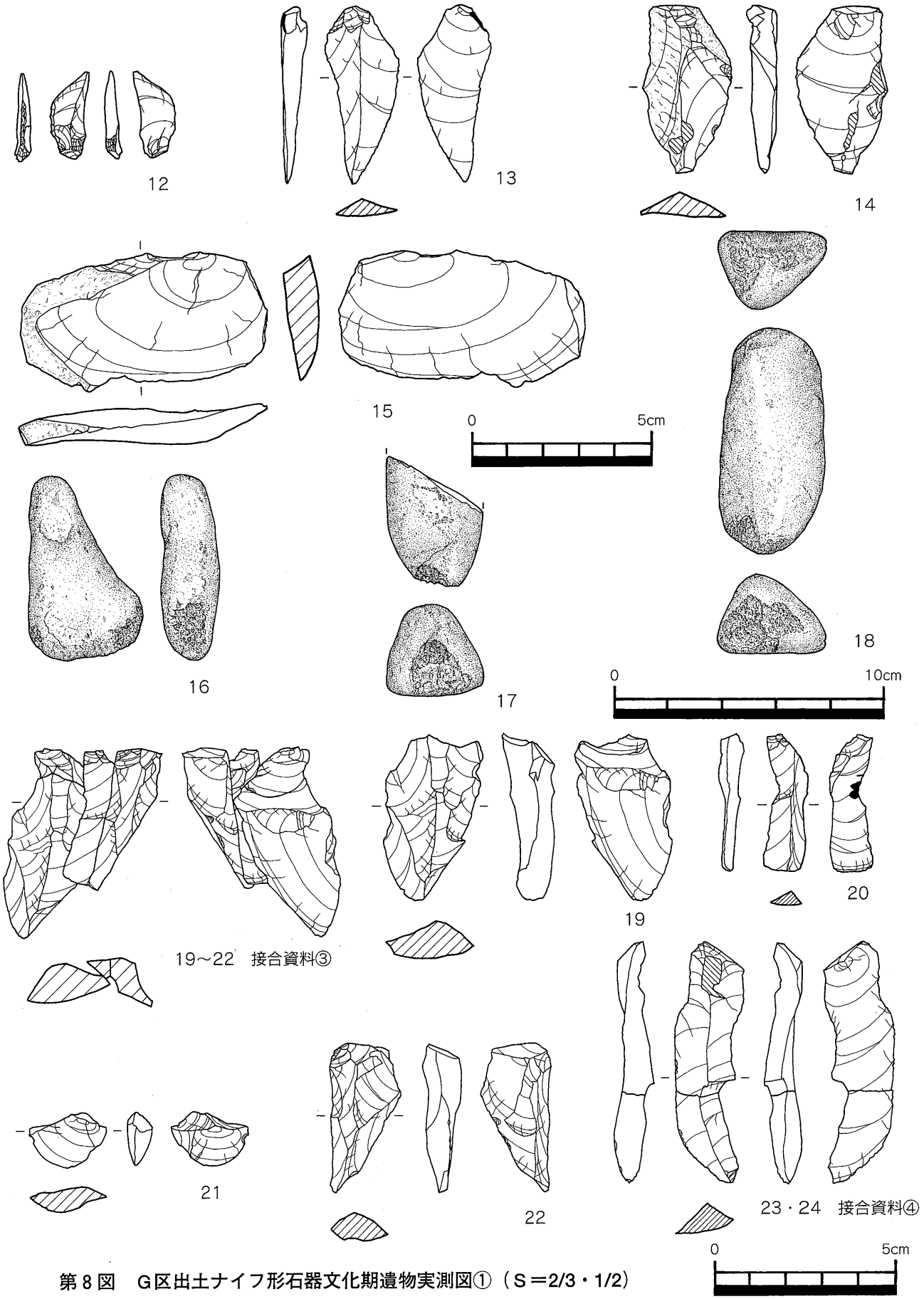




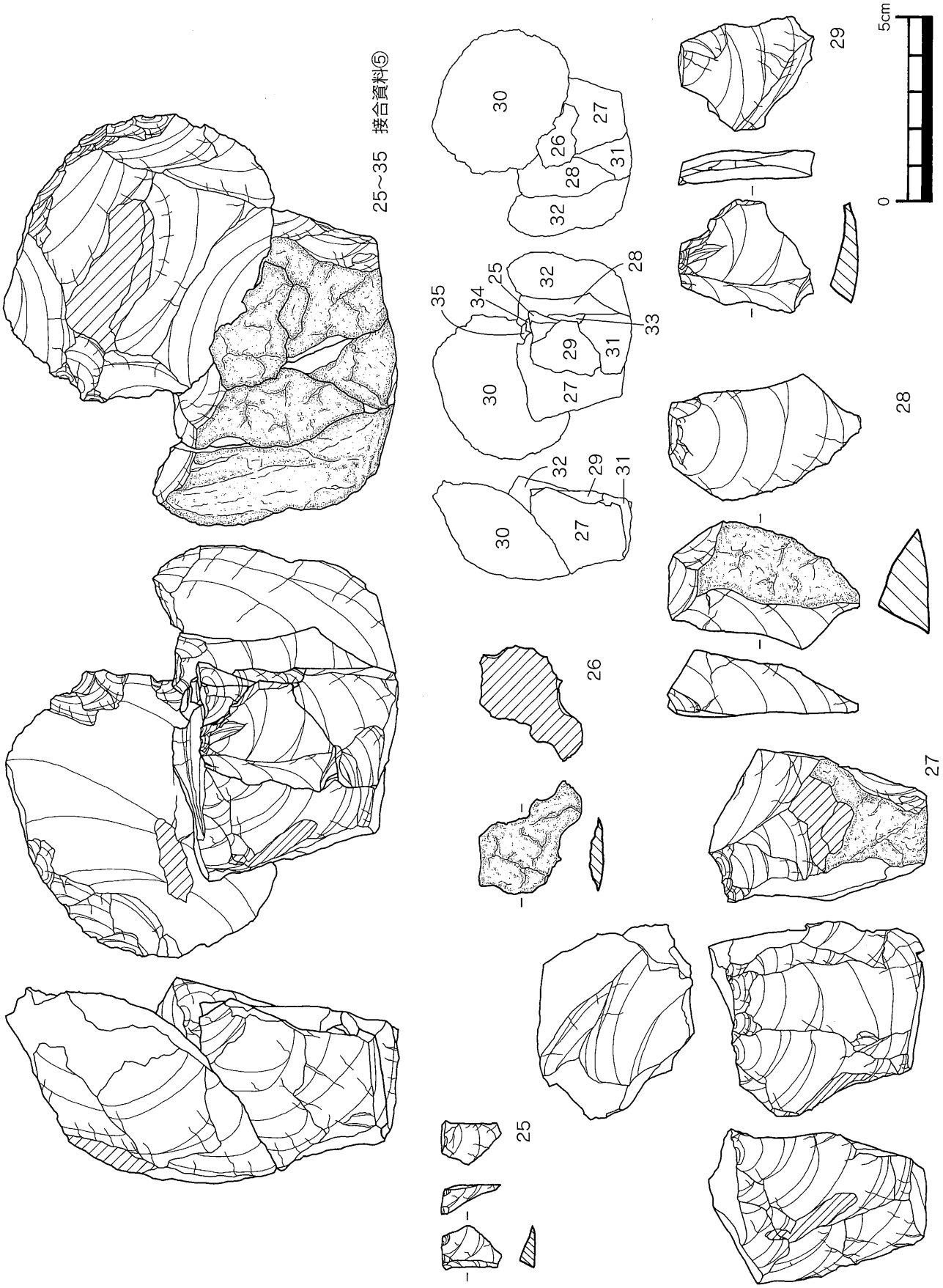
第６図　Ａ区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図（Ｓ＝2/3）



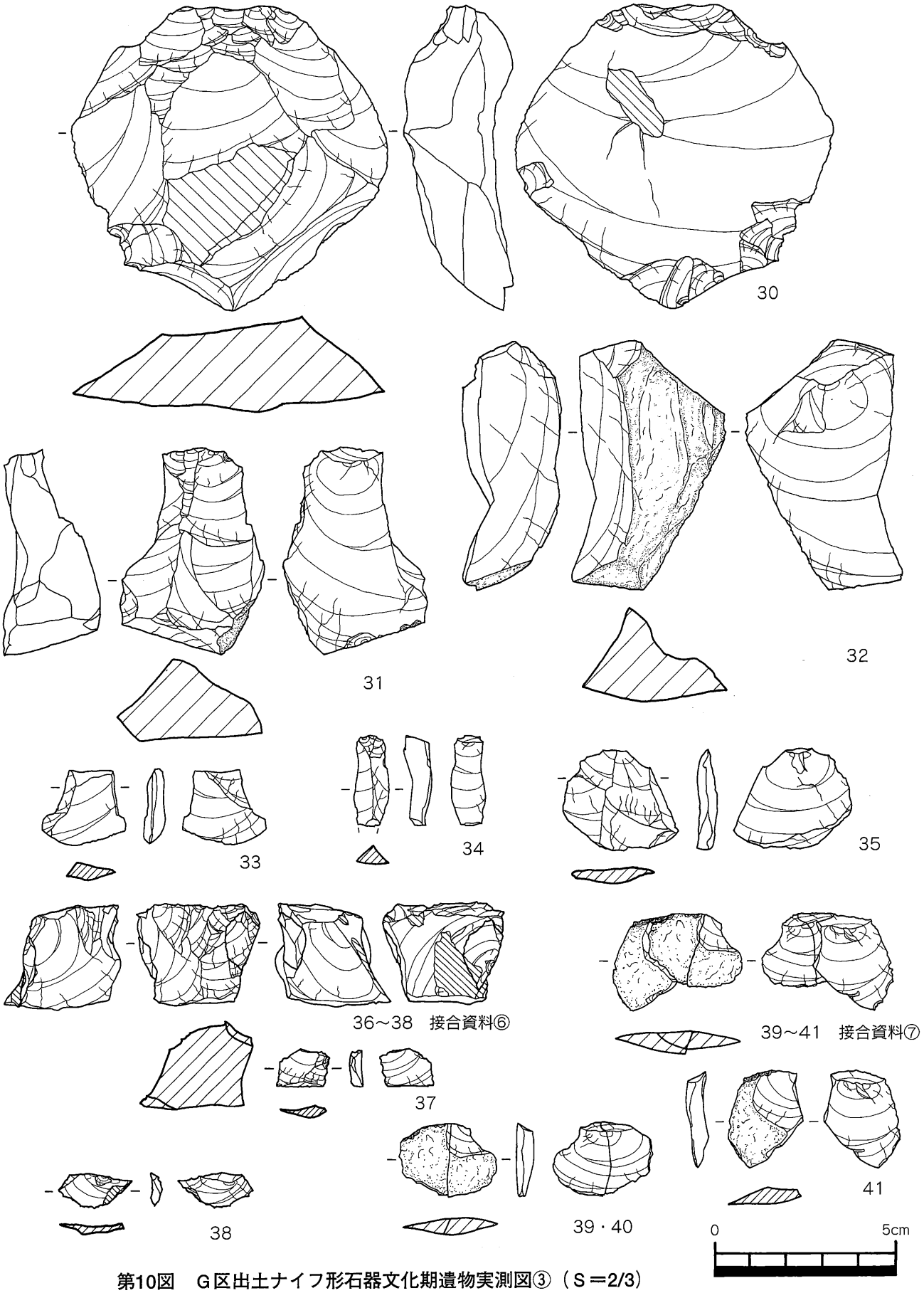
第７図　Ｇ区ナイフ形石器文化期遺物分布図（石材別）（Ｓ＝1/120）



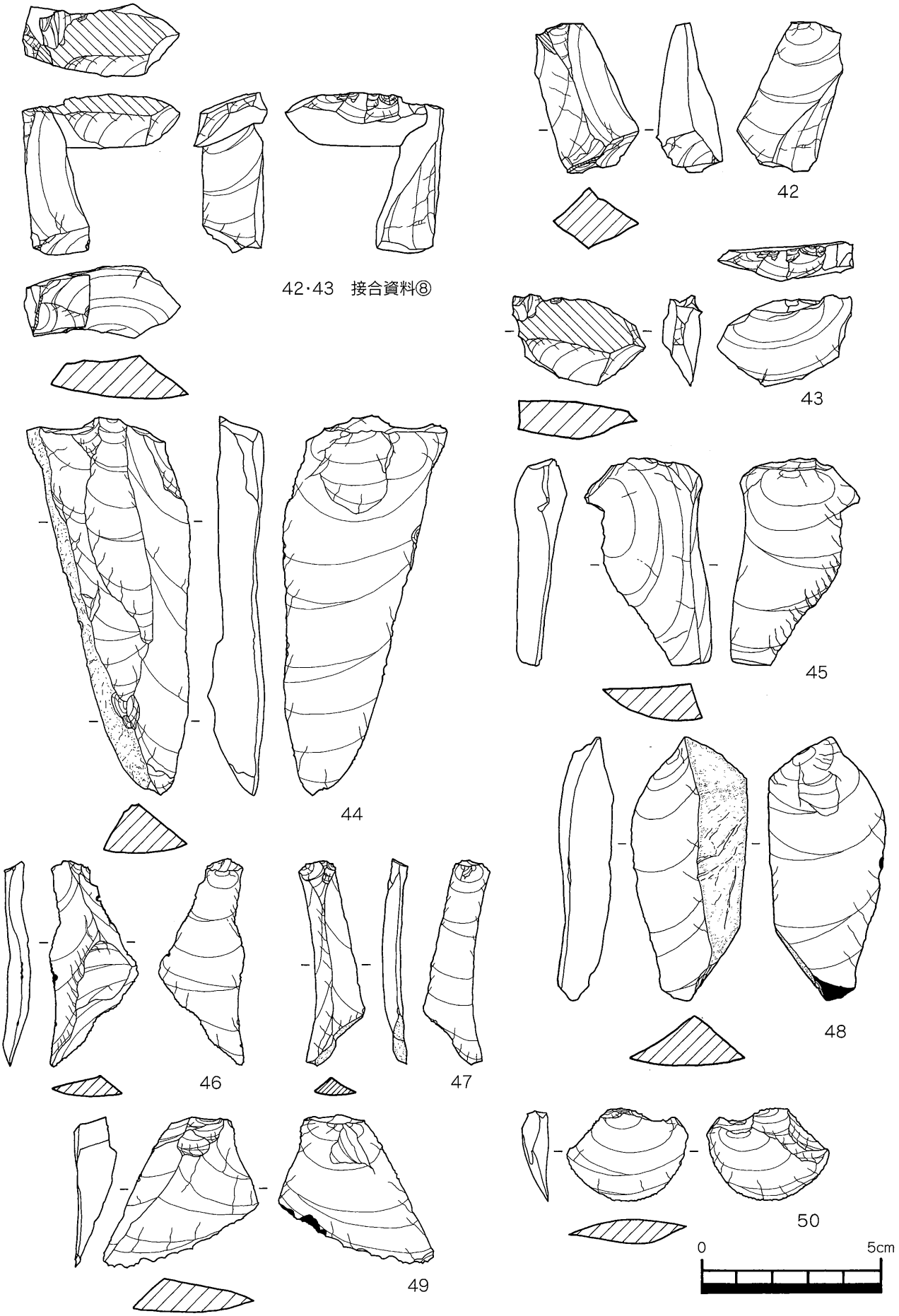
第８図　Ｇ区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図①（Ｓ＝2/3・1/2）



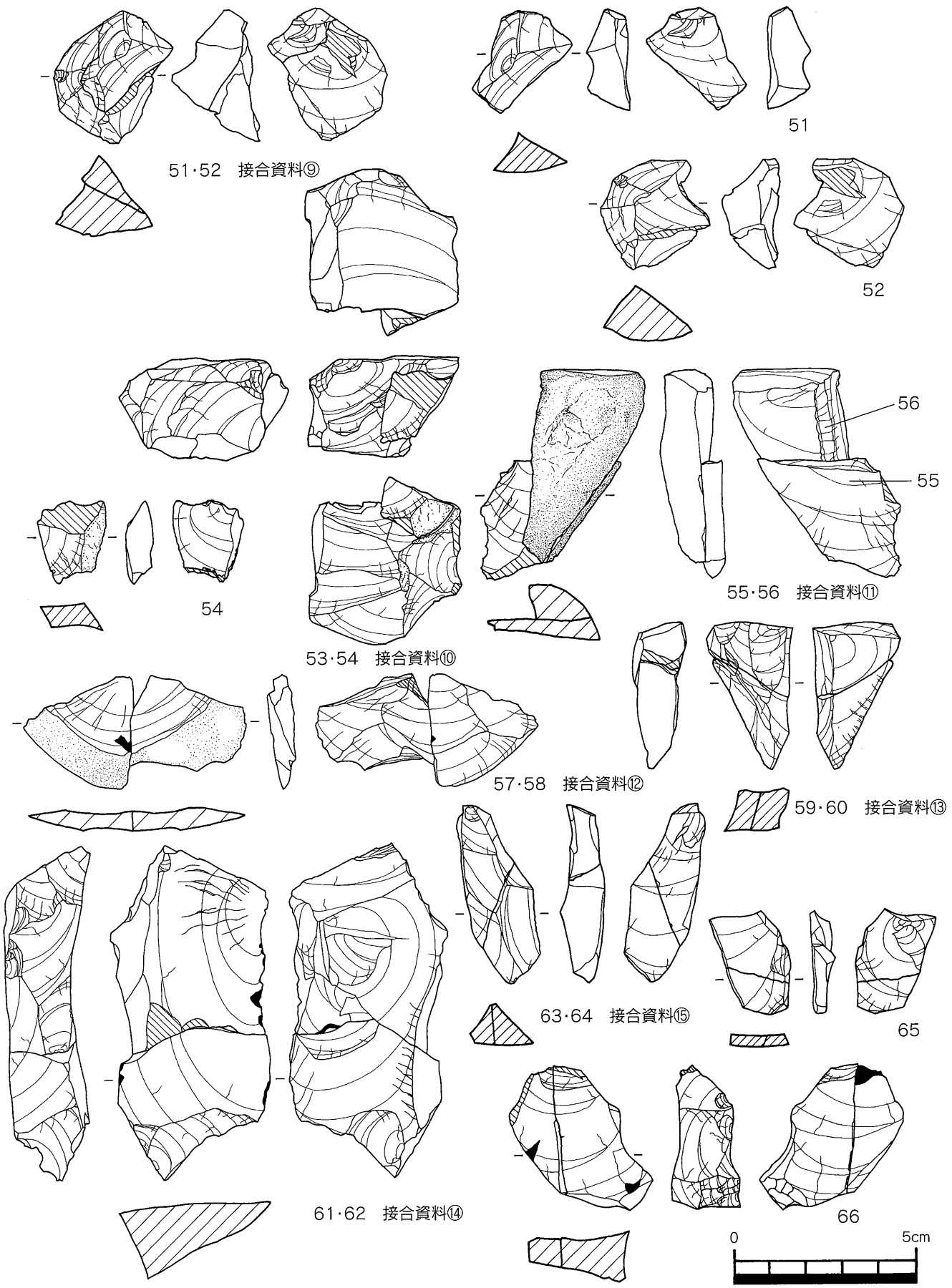
第９図　Ｇ区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図②（Ｓ＝2/3）



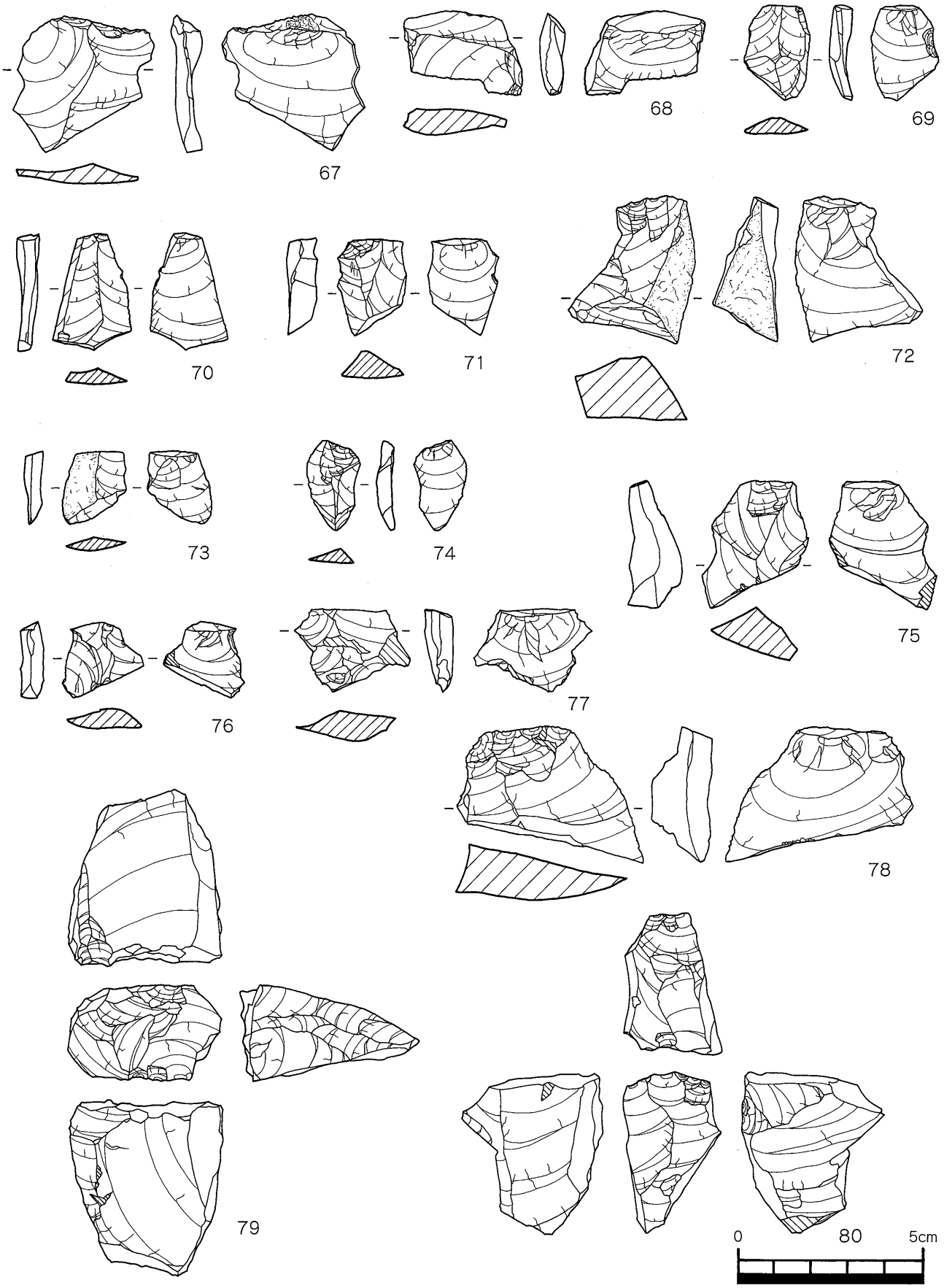
第10図　G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図③（S＝2/3）



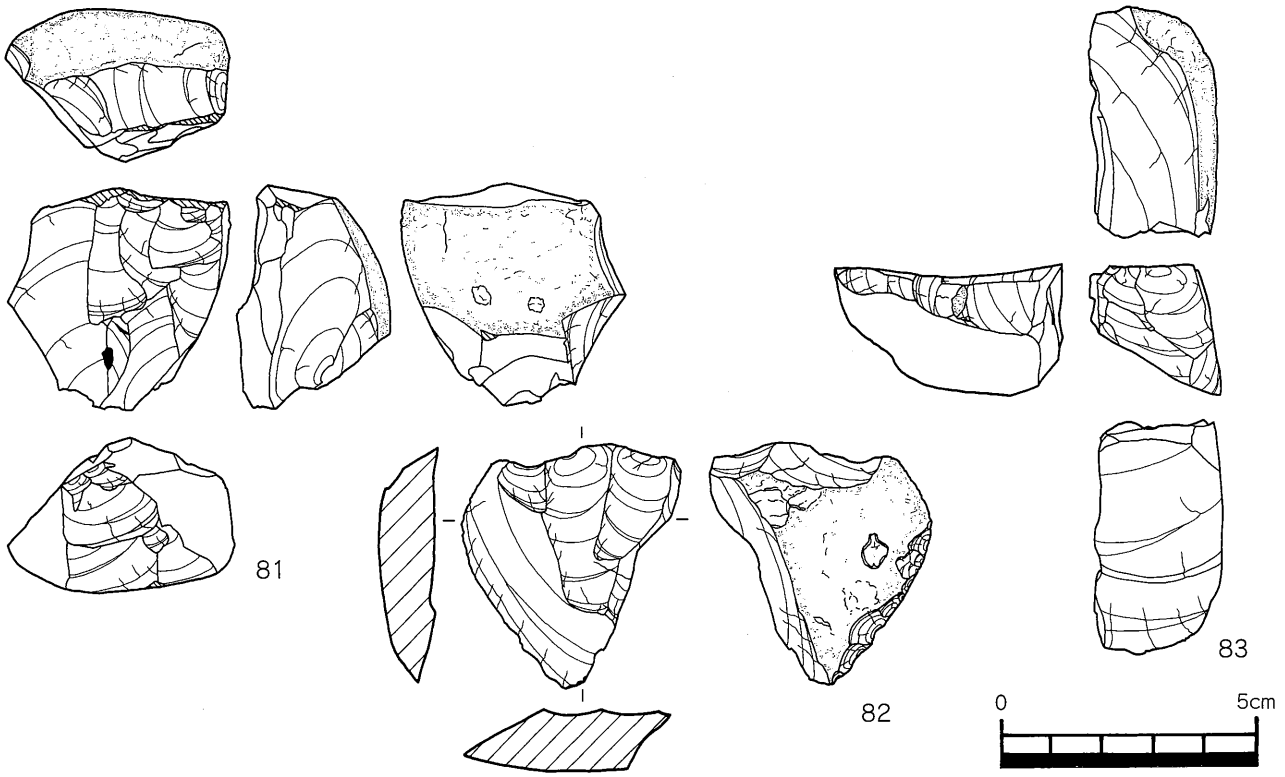
第11図　G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図④（S＝2/3）



第12図　G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図⑤（S＝2/3）



第13図　G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図⑥（S＝2/3）



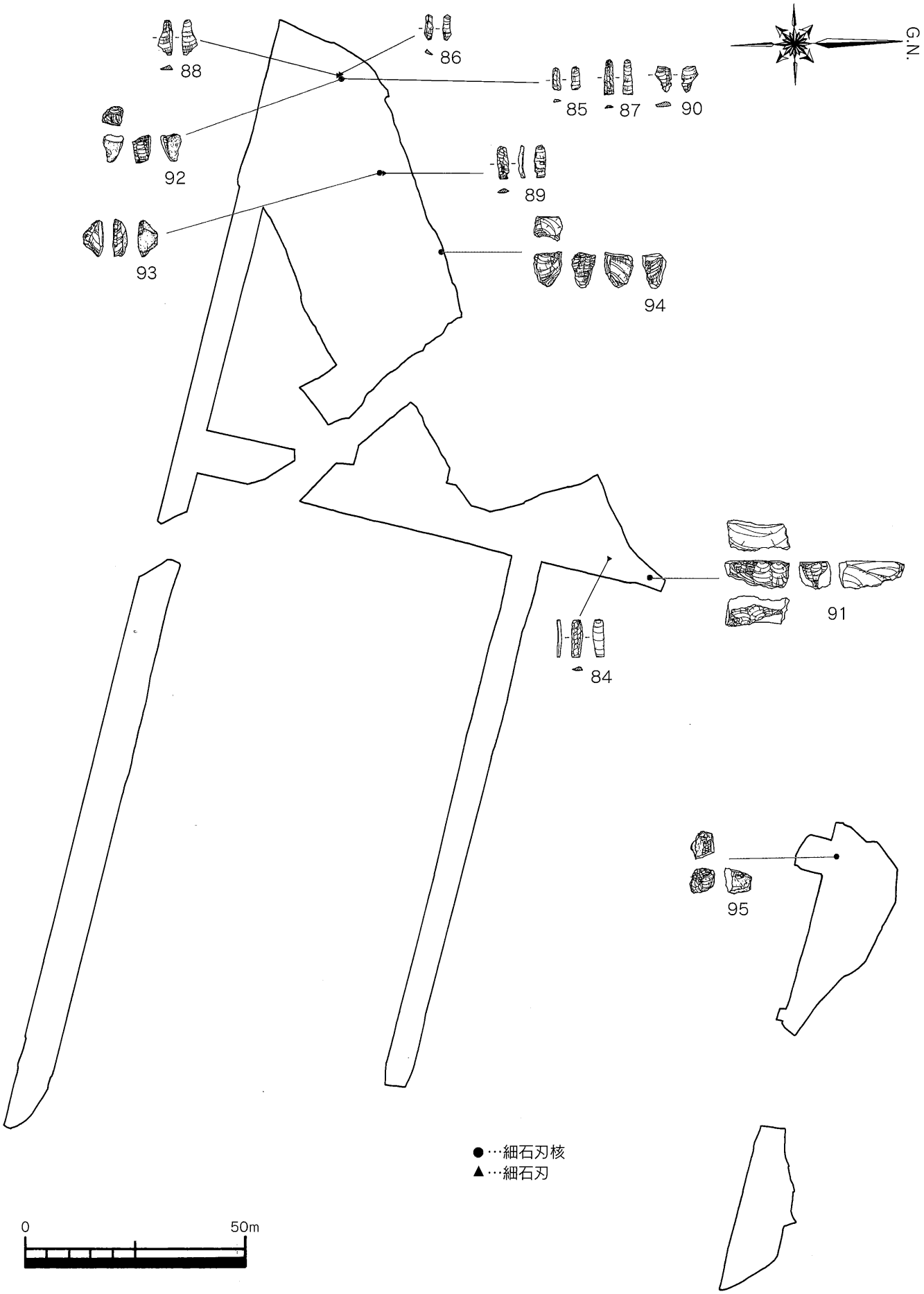
第14図　G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図⑦（S＝2/3）

50は頁岩製の石器である。19～22は不定形な剥片４点の接合資料である。25～35は石核１点と剥片10点の接合資料である。自然面を除去し、打面を作り出し、一方向より不定形な縦長剥片を作出している。36～38は石核1点と剥片２点の接合資料である。39～41と42・43は剥片２点の接合資料である。44～49は不定形な縦長剥片である。50は打面再生剥片である。51～82は前述した黄褐色を呈するホルンフェルス製の石器群である。頁岩製の石器群に比べると縦裂け現象による割れが非常に多く見られ、完存する剥片は少ない。また石核については作業面を転回しながら剥片を作出するものが多いという特徴が見られる。

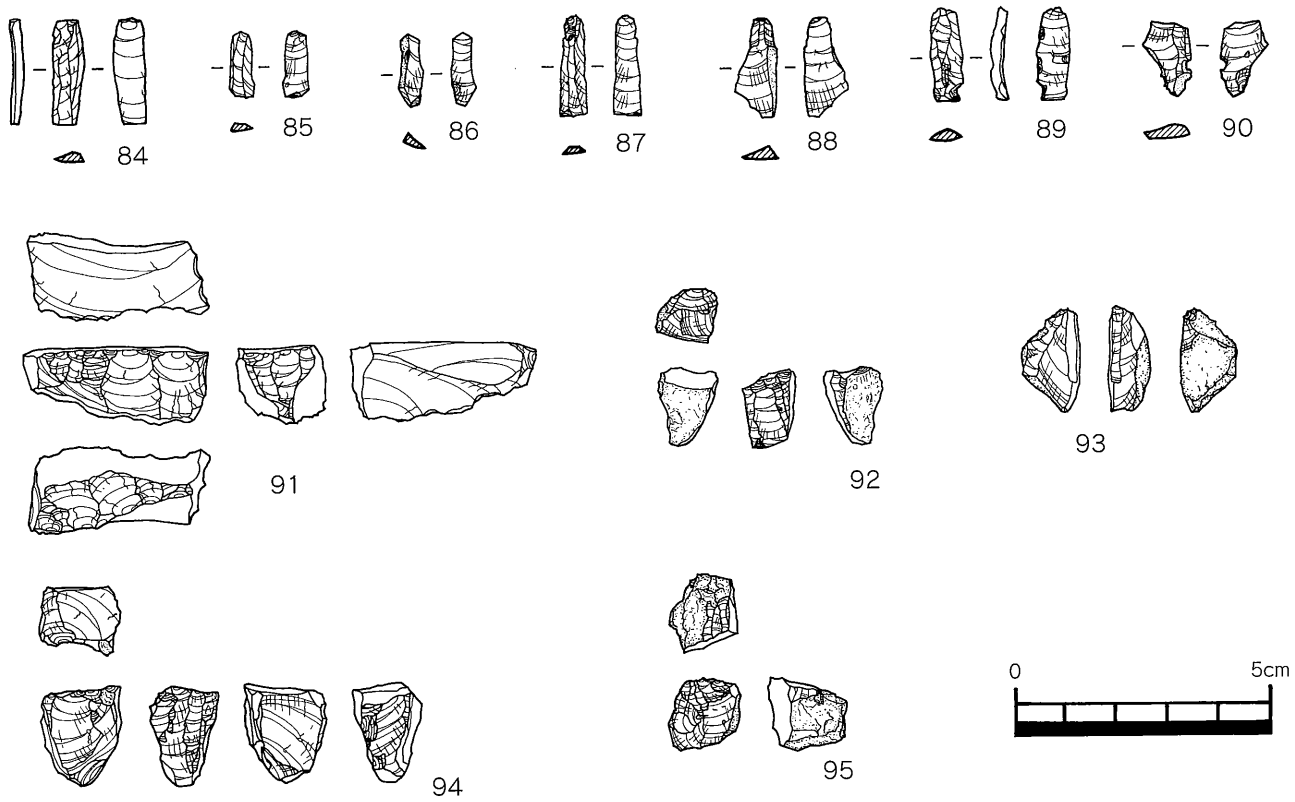
第２節　細石器文化期の遺物について

細石器文化期の遺物は前述のとおり、基本土層の６層～９層にかけて出土しており、層位によって細石器文化期の文化層を抽出することはできなかった。近年、宮崎平野部の遺跡においては縄文早期の遺物包含層中に細石器文化期の遺物が混入する場合があることが明らかになっており、本遺跡も同じ様相を呈していたことが判明した。この節にて報告を行う遺物の他にも細石器文化期の遺物が混入していた可能性は考えられるが、多量に出土する縄文早期の遺物の中から細石器文化期の遺物を明確に区別することは困難であり、明らかに細石器文化期の遺物と判断できる細石刃５点、細石刃核５点を報告する。

一応、これらの出土状況については調査区の西側に分布が偏る状況がうかがえる。また流紋岩製のものと黒曜石製のものが確認されており、石材ごとに分布が明確に分かれている。84～90



第15図　細石器文化期遺物分布図（S＝1/1,200）



第16図　細石器文化期遺物実測図（S＝2/3）

は細石刃である。流紋岩と桑ノ木津留産黒曜石を使用するものとが見られる。91～95は細石刃核である。91は流紋岩製で剥片を素材とするもので、打面調整をおこなわず細石刃を剥離しており、片縁と下縁には調整が施されている。作業面は一面にのみ見られる。92～94は黒曜石製で複数の産地のものが見られる。小礫または分割礫を素材とし、打面調整や側縁調整をおこなわず細石刃を剥離している。作業面は一面だけのものと複数のものとがある。

第３節　小結

本遺跡ではＡ区とＧ区にてナイフ形石器文化期の遺物が出土した。両区ともトレンチ調査であり、詳細な検討を行うことは難しい。しかし遺物の出土状況や出土層位を検討すると、Ａ区では10～11層、Ｇ区では９層～10層にて遺物が出土し、また垂直分布から各区の遺物の一括性は高いと考えられるので、本遺跡では２時期のナイフ形石器文化期の資料が存在したと考えられる。

Ａ区の資料は同台地上に立地する坂元遺跡の石器群とほぼ同じ層から出土しており、時期的に近いものと考えられる。Ｇ区の資料は出土層位からＡ区の資料より後出するものと考えられよう。また本遺跡の細石器文化期の遺物については、近年の宮崎平野部の調査と同じ出土状況が確認された。このような状況はこれからの宮崎平野部の縄文早期の調査及び整理作業における課題のひとつであり、今後は縄文早期の包含層の中には細石器文化期の遺物が混在している可能性があるということを念頭において調査すすめていく必要があるだろう。

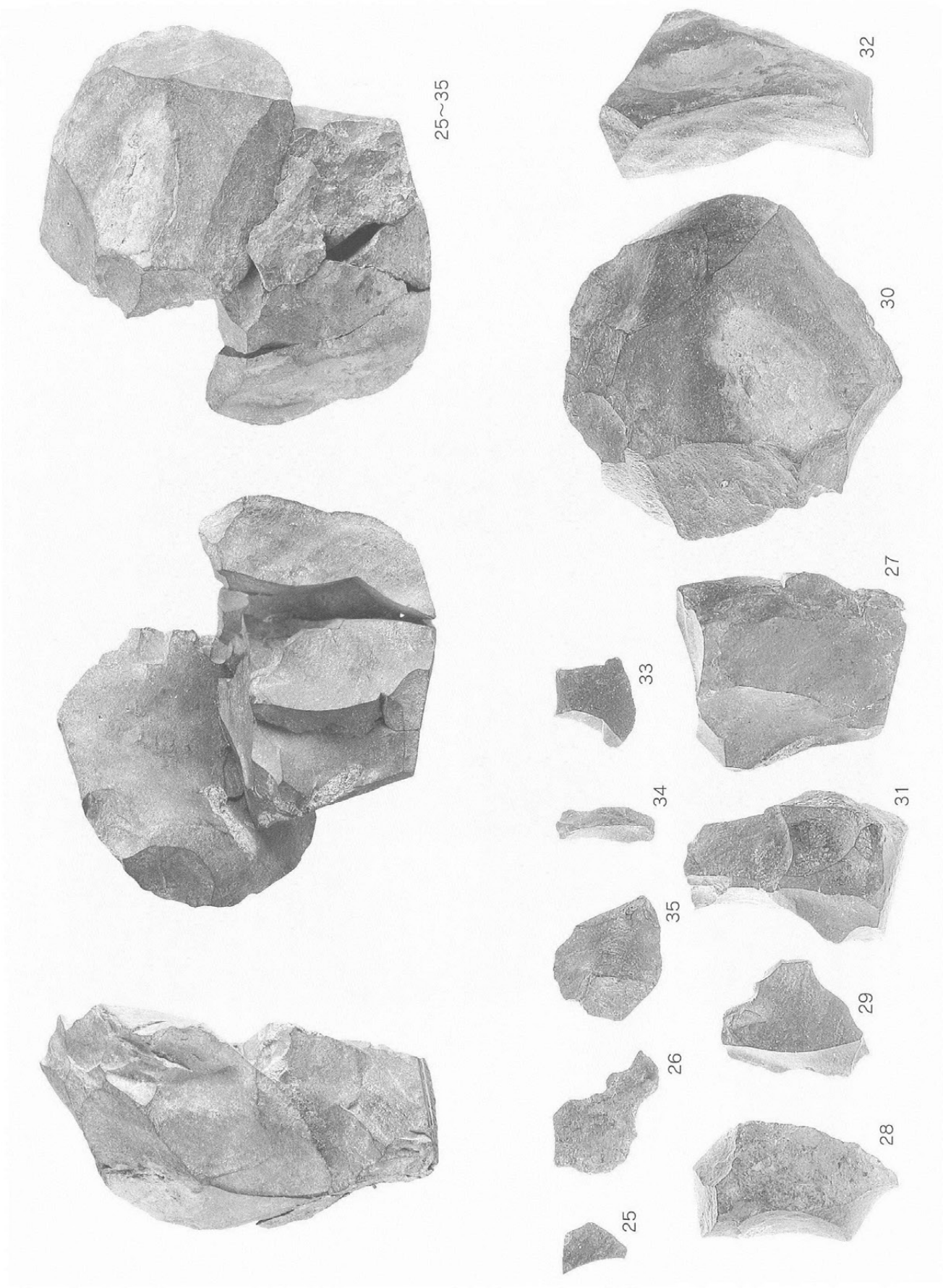
第１表　山田第一遺跡出土旧石器計測分類表

遺物No.	整理No.	器　種	出土グリッド	層位	石　材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備　考
1	276	角錐状石器	A	10～11	頁岩	(7.9)	2.2	1.9	22.5	基部、先端部欠する。付着物有
2	408	スクレイパー	A	10～11	頁岩	2.95	2	0.7	2.1	
3	401	２次加工ある剥片	A	10～11	頁岩	1.75	2.1	0.7	2.4	
4	400	剥片	A	10～11	頁岩	2.9	2.45	0.85	5.2	
5	402	剥片	A	10～11	頁岩	3.65	4	1.35	16.3	
6	404	剥片	A	10～11	頁岩	2.5	3	0.5	2.3	
7	781	剥片	A	10～11	流紋岩	1.8	1.4	0.45	0.6	接合資料①
8	780	剥片	A	10～11	流紋岩	2.1	2.85	0.7	2.5	接合資料①
9	810	剥片	A	10～11	緑色珪質岩	2.15	1.7	0.5	1.2	接合資料②
10	808	剥片	A	10～11	緑色珪質岩	3.95	2.6	0.6	2.6	接合資料②
11	809	剥片	A	10～11	緑色珪質岩	2.75	3	0.9	6	接合資料②
12	764	ナイフ形石器	G12	9～10	流紋岩	2.4	1.2	0.4	0.8	
13	409	剥片	G12	9～10	流紋岩	4.95	2.1	0.7	3.1	
14	420	剥片	G12	9～10	流紋岩	4.7	2.5	0.7	7.4	
15	419	剥片	G12	9～10	砂岩	3.9	6.9	1.1	29	
16	675	敲石	G12	9～10	砂岩	6.95	4.25	2.2	80.1	
17	700	敲石	G12	9～10	砂岩	4.9	3.6	3.4	57.4	
18	674	敲石	G12	9～10	砂岩	8.4	4	2.9	122.4	
19	788	剥片	G12	9～10	頁岩	4.65	2.8	1.45	13.9	接合資料③
20	787	剥片	G12	9～10	頁岩	3.9	1.2	0.7	1.7	接合資料③
21	786	剥片	G12	9～10	頁岩	1.5	2.15	0.7	1.5	接合資料③
22	785	剥片	G12	9～10	頁岩	4.15	2	1.1	5.7	接合資料③
23･24	699	剥片	G12	9～10	頁岩	6.75	1.9	1.1	6.7	接合資料④
25	900	剥片	G12	9～10	頁岩	1.65	1.2	0.8	0.7	接合資料⑤
26	901	剥片	G12	9～10	頁岩	2.9	3.1	0.4	2.5	接合資料⑤
27	902	石核	G12	9～10	頁岩	5.8	5.3	4.3	131.8	接合資料⑤
28	903	剥片	G12	9～10	頁岩	5.2	3.5	1.8	24.5	接合資料⑤
29	904	剥片	G12	9～10	頁岩	3.65	3.1	0.95	7.4	接合資料⑤
30	905	剥片	G12	9～10	頁岩	8.5	8.8	3.1	192.7	接合資料⑤
31	906	剥片	G12	9～10	頁岩	5.8	4.1	2.7	46.6	接合資料⑤
32	907	剥片	G12	9～10	頁岩	6.95	4.3	2.8	59.8	接合資料⑤
33	908	剥片	G12	9～10	頁岩	2.1	2.3	0.6	1.8	接合資料⑤
34	909	剥片	G12	9～10	頁岩	2.5	1	0.75	1.3	接合資料⑤
35	910	剥片	G12	9～10	頁岩	2.8	3.3	0.45	4.5	接合資料⑤
36	892	石核	G12	9～10	頁岩	2.9	3.35	3.25	29	接合資料⑥
37	893	剥片	G12	9～10	頁岩	1.05	1.5	0.4	0.5	接合資料⑥
38	891	剥片	G12	9～10	頁岩	0.95	2.1	0.3	0.4	接合資料⑥
39･40	793	剥片	G12	9～10	頁岩	2.05	2.8	0.5	2.3	接合資料⑦
41	794	剥片	G12	9～10	頁岩	2.7	2.1	0.6	2.4	接合資料⑦
42	889	剥片	G12	9～10	頁岩	4.2	2.9	1.9	13.5	接合資料⑧
43	888	剥片	G12	9～10	頁岩	2.55	3.75	1.1	8.9	接合資料⑧
44	556	剥片	G12	9～10	頁岩	10.7	4.6	1.5	62.9	
45	410	剥片	G12	9～10	頁岩	5.8	3.6	1.5	21.1	
46	412	剥片	G12	9～10	頁岩	5.8	2.5	0.75	6	

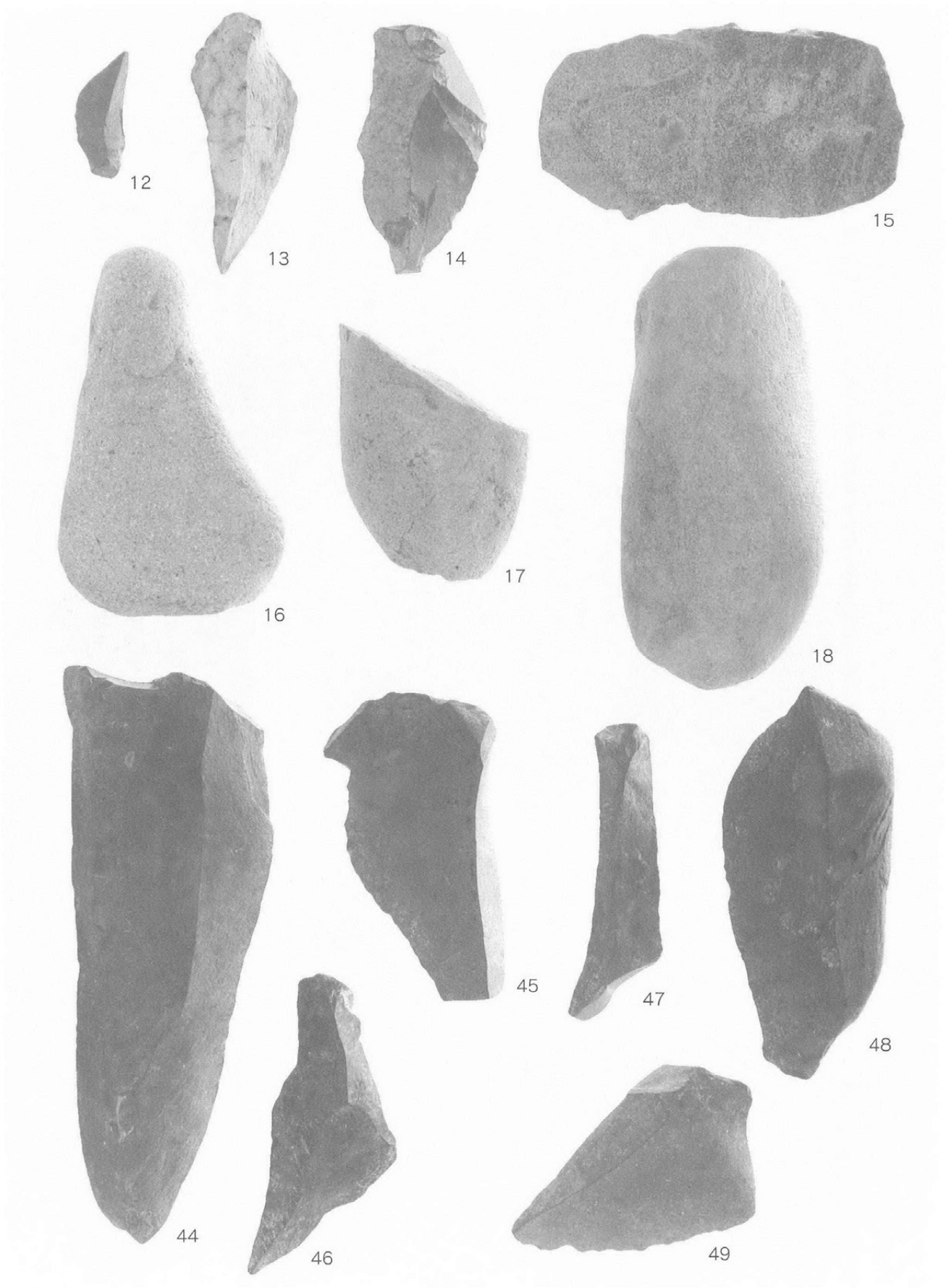
（　）内の数値は残存値を示す

遺物No.	整理No.	器　種	出土グリッド	層位	石　材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備　考
47	399	剥片	G12	9～10	頁岩	5.8	1.9	0.7	3.7	
48	403	剥片	G12	9～10	頁岩	7.5	3.3	1.5	31.4	
49	407	剥片	G12	9～10	頁岩	4.2	4.4	1.2	13.2	
50	411	剥片	G12	9～10	頁岩	2.6	3.5	0.8	5.2	
51	897	剥片	G12	9～10	ホルンフェルス	2.85	2.8	1.2	3.3	接合資料⑨
52	896	剥片	G12	9～10	ホルンフェルス	3.05	3.05	1.55	6.7	接合資料⑨
53	813	石核	G12	9～10	ホルンフェルス	4.25	4.2	2.85	43.3	接合資料⑩
54	812	剥片	G12	9～10	ホルンフェルス	2.3	1.95	0.75	1.9	接合資料⑩
55	895	剥片	G12	9～10	ホルンフェルス	3.35	3.95	0.9	5.8	接合資料⑪
56	894	剥片	G12	9～10	ホルンフェルス	5.35	3.45	1.5	22.1	接合資料⑪
57･58	783	剥片	G12	9～10	ホルンフェルス	3.15	6.2	0.8	8.1	接合資料⑫
59･60	802	剥片	G12	9～10	ホルンフェルス	4.1	2.4	1.5	8.2	接合資料⑬
61･62	803	剥片	G12	9～10	ホルンフェルス	9.3	4.5	2.35	61.4	接合資料⑭
63･64	804	剥片	G12	9～10	ホルンフェルス	4.95	2.3	1.25	6.5	接合資料⑮
65	805	剥片	G12	9～10	ホルンフェルス	2.95	2.25	0.75	2.5	
66	806	剥片	G12	9～10	ホルンフェルス	4	4.1	1.9	15.3	
67	550	剥片	G12	9～10	ホルンフェルス	3.8	3.85	0.85	5.2	
68	587	剥片	G12	9～10	ホルンフェルス	2.3	3.3	0.75	3.2	
69	547	剥片	G12	9～10	ホルンフェルス	2.6	1.8	0.6	1.7	
70	558	剥片	G12	9～10	ホルンフェルス	3.2	2.1	0.6	2.2	
71	584	剥片	G12	9～10	ホルンフェルス	2.7	1.9	0.75	2.8	
72	549	剥片	G12	9～10	ホルンフェルス	4	3.4	1.8	14.3	
73	548	剥片	G12	9～10	ホルンフェルス	2	1.8	0.5	1.1	
74	557	剥片	G12	9～10	ホルンフェルス	2.45	1.45	0.5	0.8	
75	582	剥片	G12	9～10	ホルンフェルス	3.5	2.9	1.45	6.5	
76	583	剥片	G12	9～10	ホルンフェルス	2.1	2.25	0.65	1.8	
77	586	剥片	G12	9～10	ホルンフェルス	2.25	3.2	0.8	3.4	
78	585	剥片	G12	9～10	ホルンフェルス	3.8	5.1	1.65	15.5	
79	795	石核	G12	9～10	ホルンフェルス	4.85	4.2	2.65	37.1	
80	779	石核	G12	9～10	ホルンフェルス	4.4	3.85	2.7	27.8	
81	789	石核	G12	9～10	ホルンフェルス	4.5	4.5	3.1	48.7	
82	760	石核	G12	9～10	ホルンフェルス	4.9	4.4	1.2	19.1	
83	796	石核	G12	9～10	ホルンフェルス	2.6	2.55	4.6	26.2	
84	672	細石刃	D2	Ⅵ	流紋岩	2.1	0.65	0.25	0.1	下端部折断
85	9	細石刃	G12	9～10	黒曜石(桑ノ木津留)	1.3	0.55	0.2	0.1	
86	6	細石刃	G12	9～10	黒曜石(桑ノ木津留)	1.45	0.5	0.35	0.1	
87	7	細石刃	G12	9～10	黒曜石(桑ノ木津留)	2	0.6	0.2	0.1	
88	5	細石刃	G12	9～10	黒曜石(桑ノ木津留)	2	0.9	0.3	0.1	
89	701	細石刃	G7	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.85	0.65	0.35	0.1	
90	8	細石刃	G7	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.5	1	0.3	0.1	
91	815	細石刃核	D1	Ⅵ	流紋岩	1.6	1.75	3.65	11.5	
92	10	細石刃核	G12	9～10	黒曜石(桑ノ木津留)	1.6	1.1	1.2	1.7	
93	778	細石刃核	G7	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	2.1	0.8	1.1	1.9	
94	766	細石刃核	G6	Ⅵ	黒曜石(腰岳？)	2	1.4	1.6	4.4	
95	799	細石刃核	A	Ⅵ	黒曜石(？)	1.45	1.4	1.6	3.2	

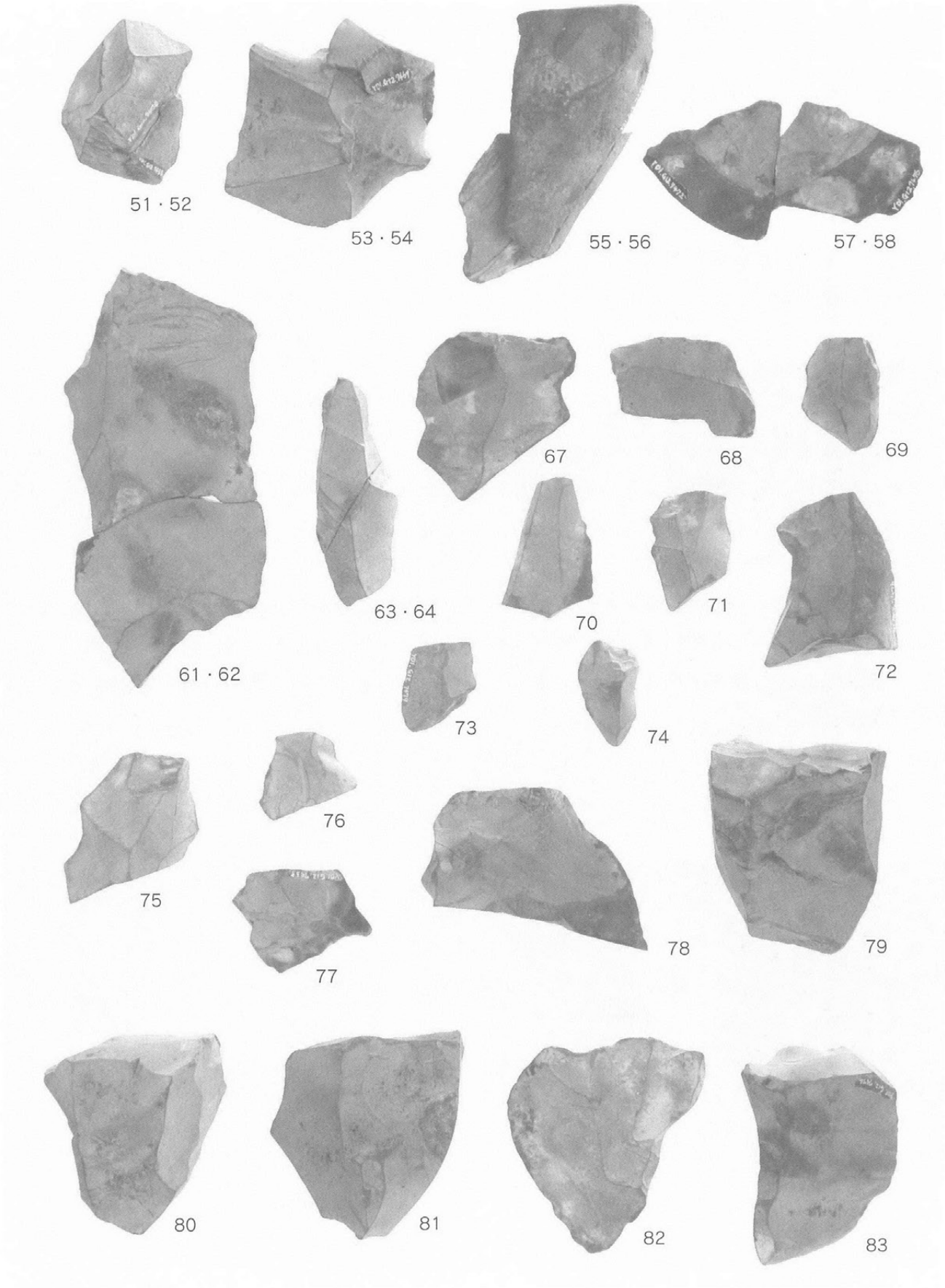
図版２　Ａ・Ｇ区出土旧石器及び細石器



図版 3　G区出土接合資料⑤



図版４　Ｇ区出土旧石器（流紋岩・砂岩・頁岩）



図版５　Ｇ区出土旧石器（ホルンフェルス）

第Ⅲ章　縄文時代早期についての調査

第１節　焼礫の出土状況と遺構の検出状況

１．焼礫の出土状況

各区において５･６層の掘り下げ作業を行ったところ、計26,545個の焼礫が出土した。５層上位から中位にかけてはややまばらな出土で、出土のピークは５層下位から６層中位にかけてであった。６層下位は縄文時代草創期の遺物包含層ではないかと推測され、焼礫の出土もかなり疎らな状況であった。

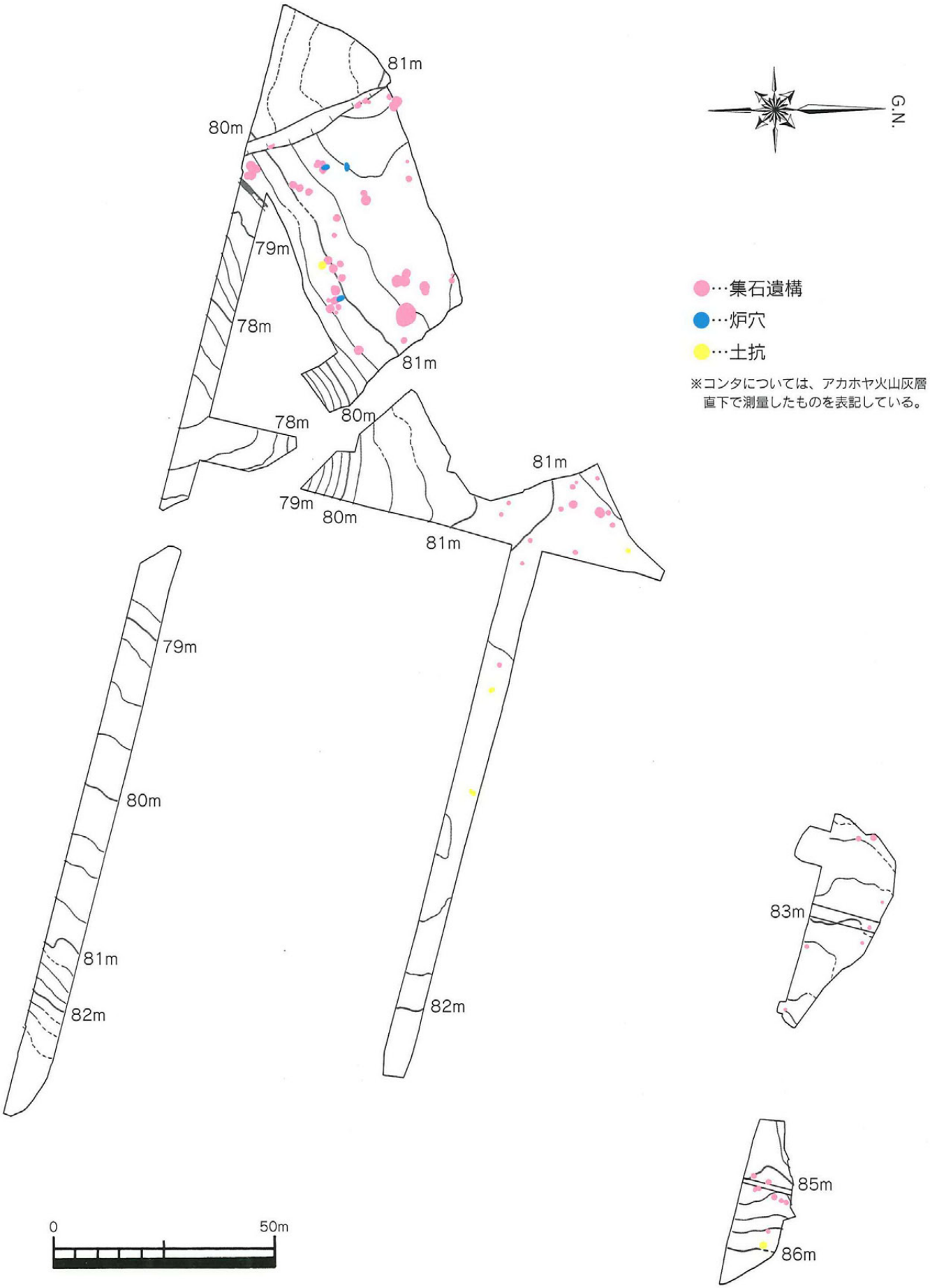
２．遺構の検出状況

集石遺構については、まず５層上位から中位にかけて４基検出されたが、掘り込みは無く焼礫が一面にやや密集しているタイプのものであった。その後５層･６層と掘り下げていくと、６層上位から中位にかけて散在する焼礫の間に黒いシミが見え始めたので、その黒い部分を調査すると集石遺構が検出されるという状況であった。この層位で検出された集石遺構は計71基であった。

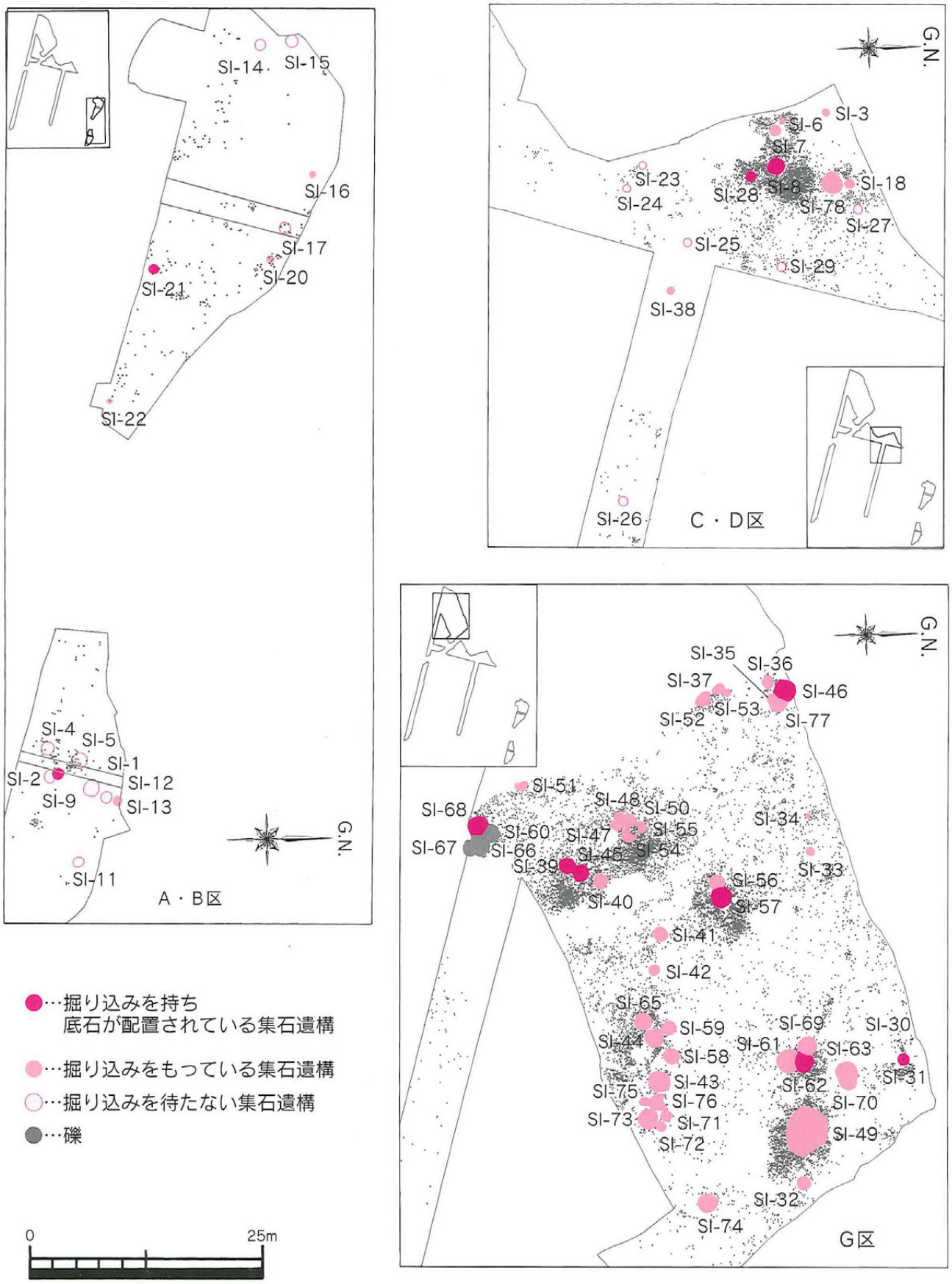
炉穴及び土坑については、焼礫が多数出土している際にはなかなか検出しにくかったため、焼礫の出土がやや疎らになる６層下位で検出するケースがほとんどであった。但し、プランが確認しにくい場合には、８層上面まで検出面を下げ遺構の調査を行った。検出された炉穴は３基、土坑は５基であった。

図版６　集石検出状況①（南から）

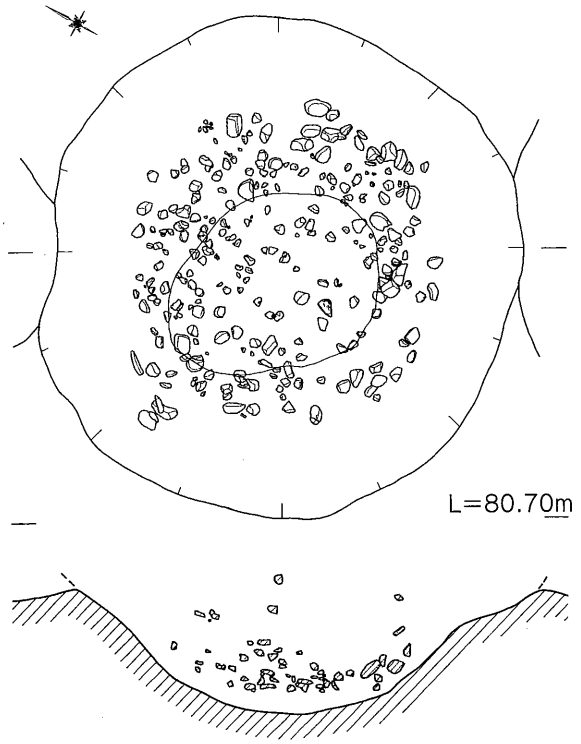
図版７　集石検出状況②（南西から）



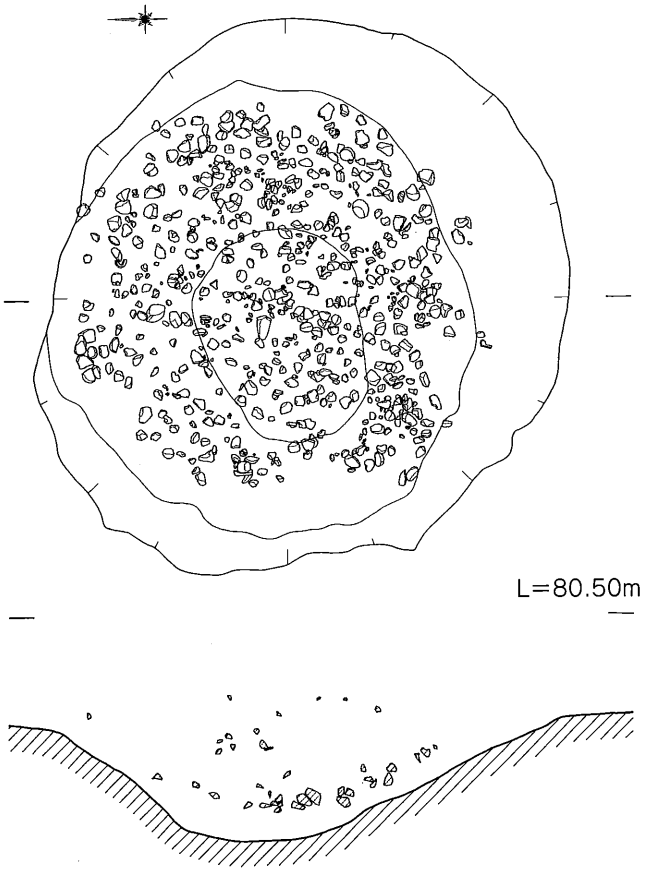
第17図　縄文時代早期遺構配置図及びコンタ図（S=1/1,200）



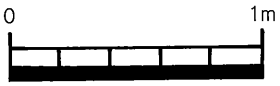
第18図　集石遺構配置図及び礫分布図（S=1/600）



第19図　SI-65実測図（S=1/30）



第20図　SI-73実測図（S=1/30）



第２節　遺構

１．集石遺構

１）SI-65・73・43・71・58・44・59・74・76

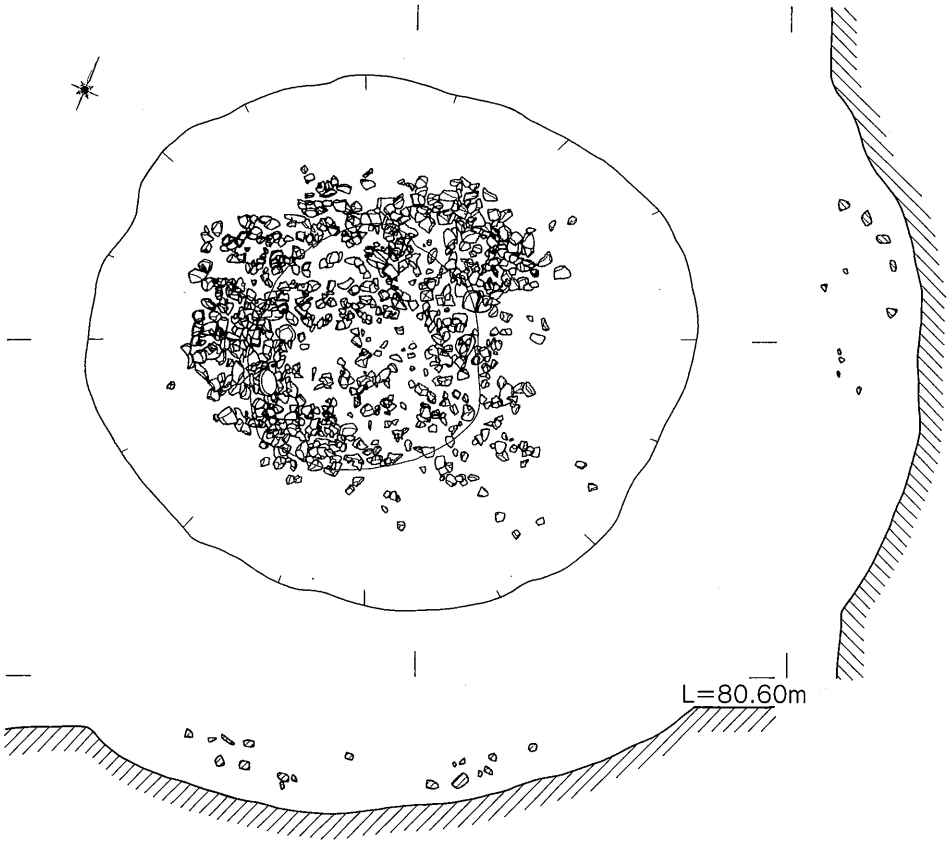
この９基については、検出状況、埋土の状況、使用されている礫、礫の密度、掘り込みのプラン等かなり似かよった特徴が見受けられる。

検出状況

まず検出された調査区については、９基全てがＥ区で検出されている。又検出面については、６層上位から中位にかけてである。埋土が他の集石遺構よりもひときわ黒くややベタッ（やや粘性有り）とした質感であったため、検出の段階で他の集石遺構と区別できる状況であった。

使用されている焼礫

最も多くの焼礫が使用されているのはSI-73で1236個、最も少ないのはSI-76で231個である。又、総焼礫重量については、SI-65が75kgで最大でSI-76が8kgで最小である。焼礫１個あたりの平均質量を見てみると、80ｇ（SI-59）、76ｇ（SI-58）、67ｇ（SI-65）、66ｇ（SI-74）、50ｇ（SI-73）、48ｇ（SI-43）、45ｇ（SI-44）、40ｇ（SI-71）、33ｇ（SI-76）で、９基全ての平均は56ｇとなる。当台地で検出される集石遺構のなかでは小ぶりな焼礫が使用されている集石遺構であるといえる。又、個々の焼礫に注目するとかなり磨耗しているため、この９基の集石遺構がかなりの回数使用されたのではないかと推測される。尚、焼礫はほぼ砂岩である。



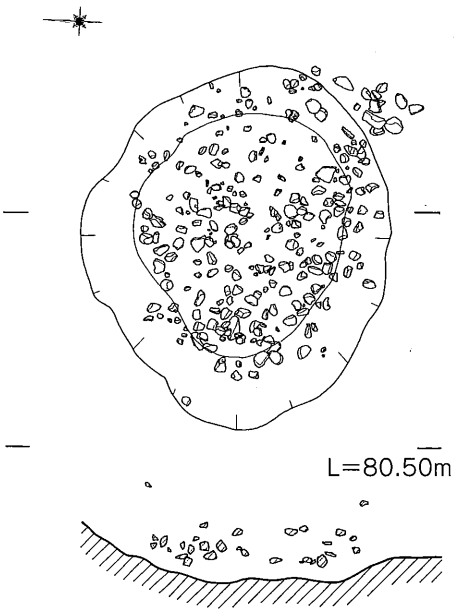
第21図　SI-43実測図（S=1/30）

礫の充填状況

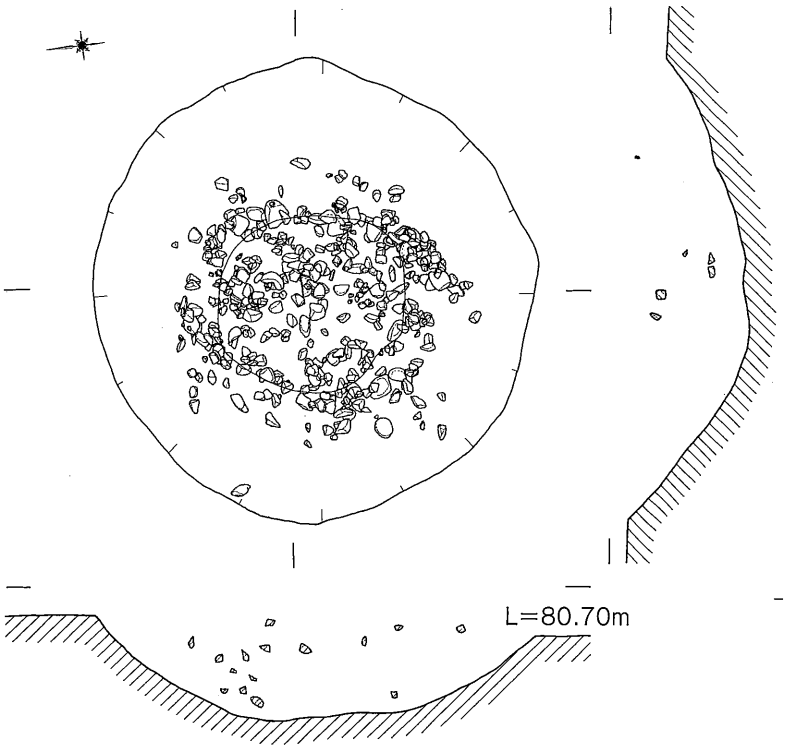
図版8･9（P32）で確認できるように、掘り込みの中央部分に礫が集中する傾向がみられる。

掘り込みの形状

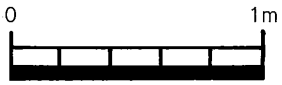
掘り込みの形状については、平面プランは９基全てが円形である（他の遺構と切り合っているものもあるが）。直径についてはSI-43が最大で2.5m、SI-71・59が最小で1.5m、９基の平均は約1.9mである。断面形状については、SI-65・73・58・74がボウル状で、SI-43・71・44・59・76が浅皿状であるが、それぞれの遺構検出面が若干異なるため、９基の断面形状に大きな違いはないのではないかと推測される。又、検出面か

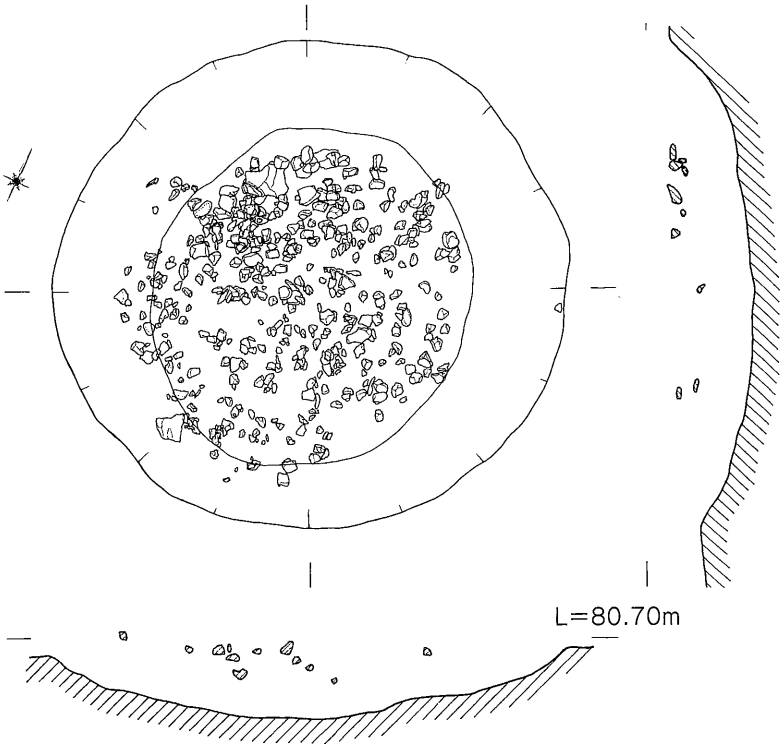


第22図　SI-71実測図（S=1/30）

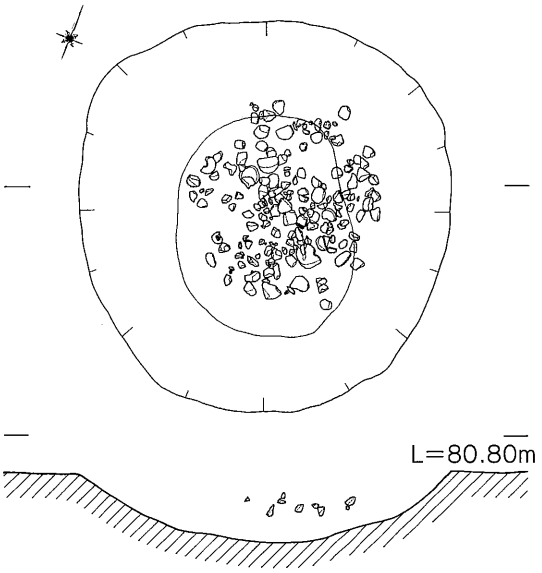


第23図　SI-58実測図（S=1/30）

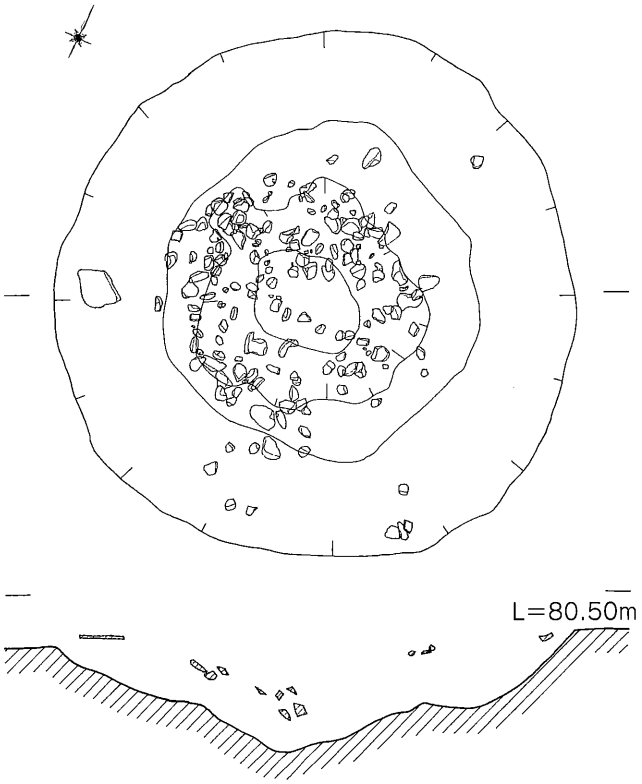




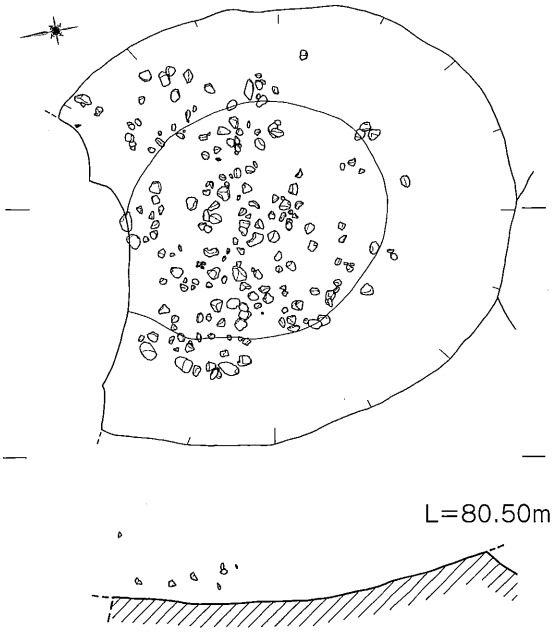
第24図　SI-44実測図（S=1/30）



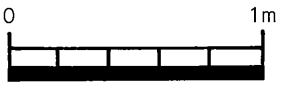
第25図　SI-59実測図（S=1/30）



第26図　SI-74実測図（S=1/30）



第27図　SI-76実測図（S=1/30）



らの深さについては、最も深いSI-65が0.6mで、最も浅いSI-76が0.2mであるが、先述のとおり検出面が一様ではないので、この数値で形状判断するのは適切ではないと思われる。

放射性炭素年代測定

９基のうち比較的良好な状態で炭化材が採取できた３基について、放射性炭素年代測定を実施した。その結果、SI-65が9520±40年BP、SI-73が9580±40年BP、SI-71が9520±50年BPという推定使用時期が明らかになった。

樹種同定

放射性炭素年代測定同様３基の集石遺構で樹種同定を実施した。その結果、SI-65で採取された炭化材はブナ科（クリ、シイ属、コナラ属コナラ節のいずれか）、SI-73で採取された炭化材もブナ科（クリ、シイ属、コナラ属コナラ節のいずれか）、SI-71で採取された炭化材はコナラ属コナラ節であることが判明した。

共伴遺物

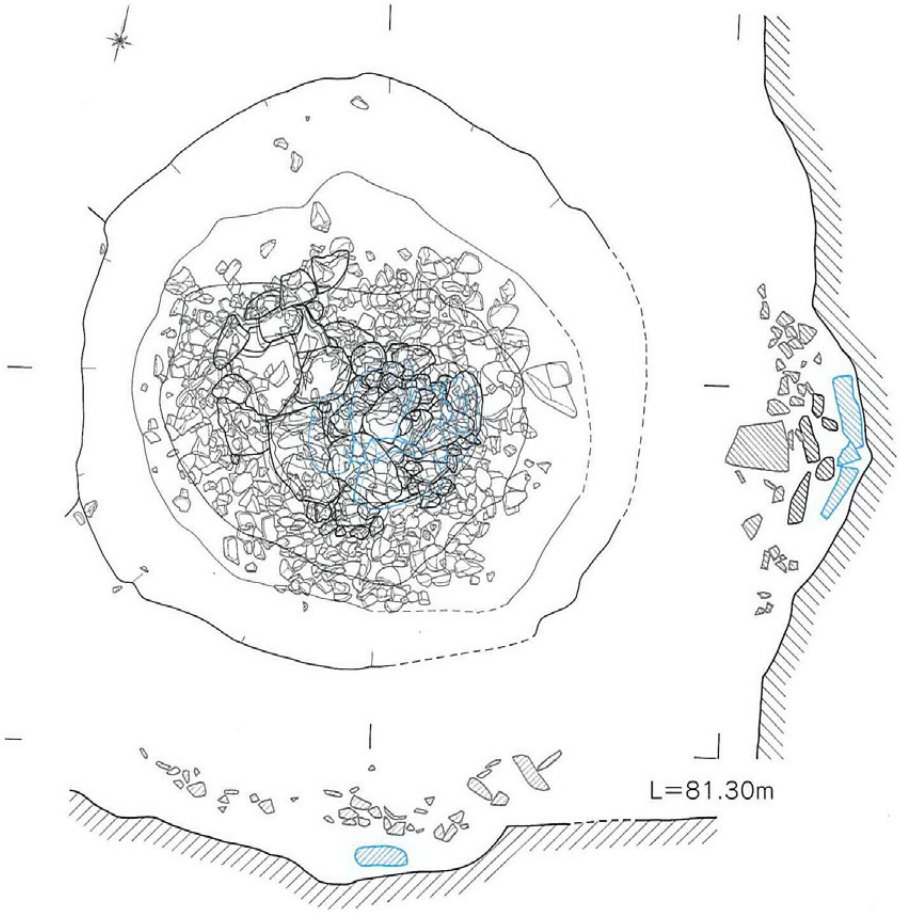
９基のうち埋土中より遺物が出土したものは３基であった。形式不明な土器が５点と塞ノ神式土器が６点出土したが、いずれも後世の入り込みだと推測される。

坂元遺跡との比較

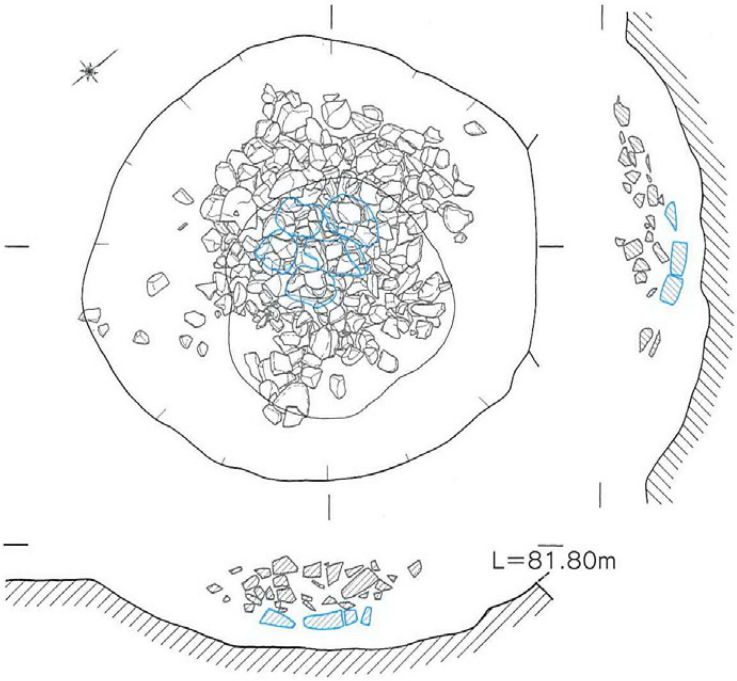
小さな礫が掘り込みの中央に集中し、埋土はやや粘性のある黒色土、又掘り込みのプランは平面が円形（直径約２ｍ）で断面がボウル状。このような特徴を持つ集石遺構は隣接する坂元遺跡でも１基確認されている。その集石遺構（坂元遺跡　E区　SI-62）についても、放射性炭素年代測定を実施しており、9650±40年BPという推定使用時期が明らかになっている。

図版８　SI-65（東から）

図版９　SI-73断面（西から）



第28図　SI-57実測図（S=1/30）



第29図　SI-39実測図（S=1/30）

2）SI-57・39・8・45・21・28・62・46・31・19・68

＊掘り込み底部に底石を配置している集石遺構

底石

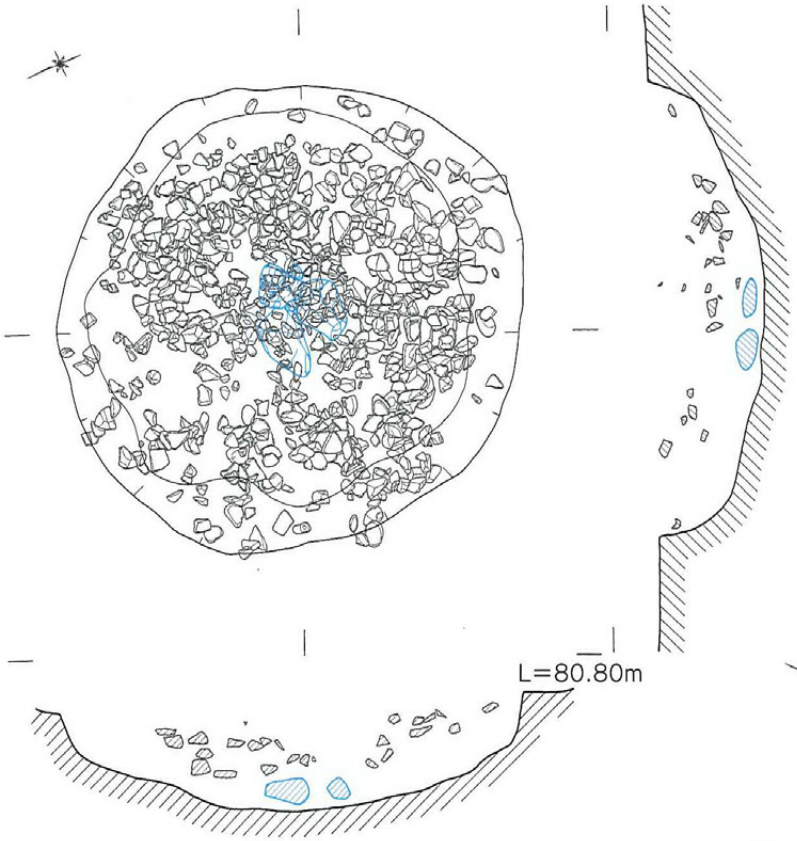
当遺跡で検出された集石遺構75基のうち、掘り込み底部に人頭大の平らな石を、１個ないし数個配置している集石遺構が11基確認されている（可能性が高いものも含めて）。

検出面及び調査区

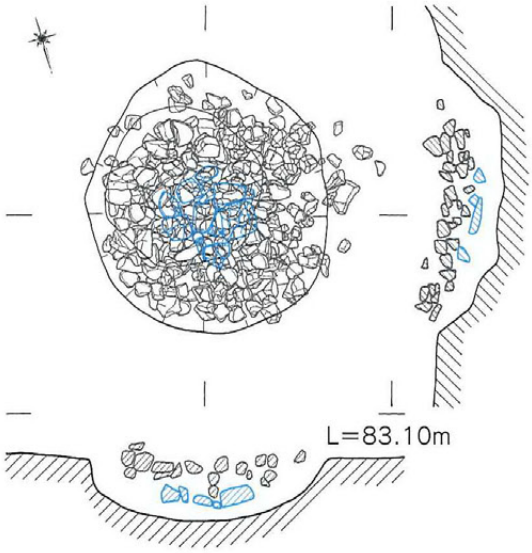
11基はいずれも６層上位から中位にかけて検出され、調査区ごとにみてみるとＧ区が７基、Ｃ・Ｄ区が２基、Ａ・Ｂ区が２基である。

使用されている焼礫

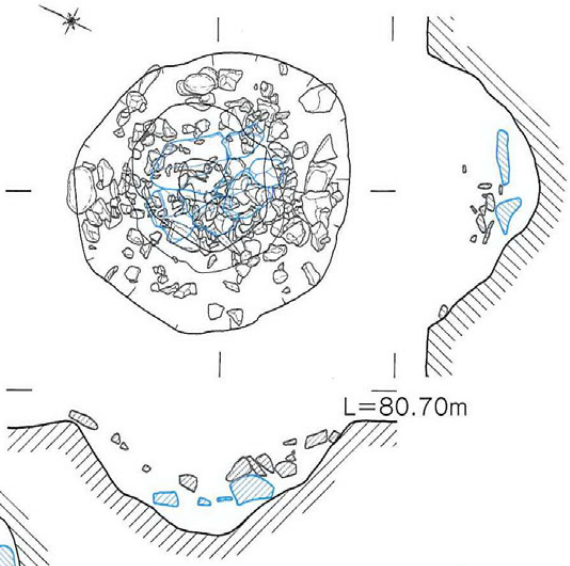
300個以上の焼礫が使用されている集石遺構は当遺跡で検出された75基中15基で、うち７基は底石を配している集石遺構である。又、使用礫の総重量についても、50kgを超えるものが75基中11基、うち８基が底石を配している集石遺構であるため、底石を配置していない集石遺構と比較すると多くの礫が使用され



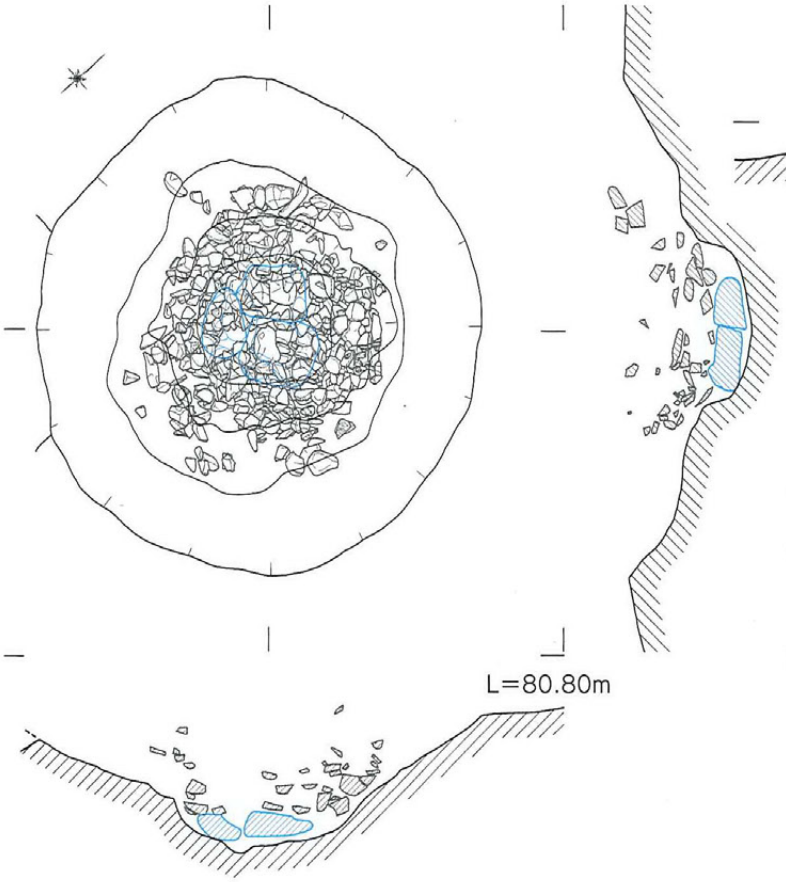
第30図　SI- 8 実測図（S=1/30）



第31図　SI-21実測図（S=1/30）



第32図　SI-28実測図（S=1/30）

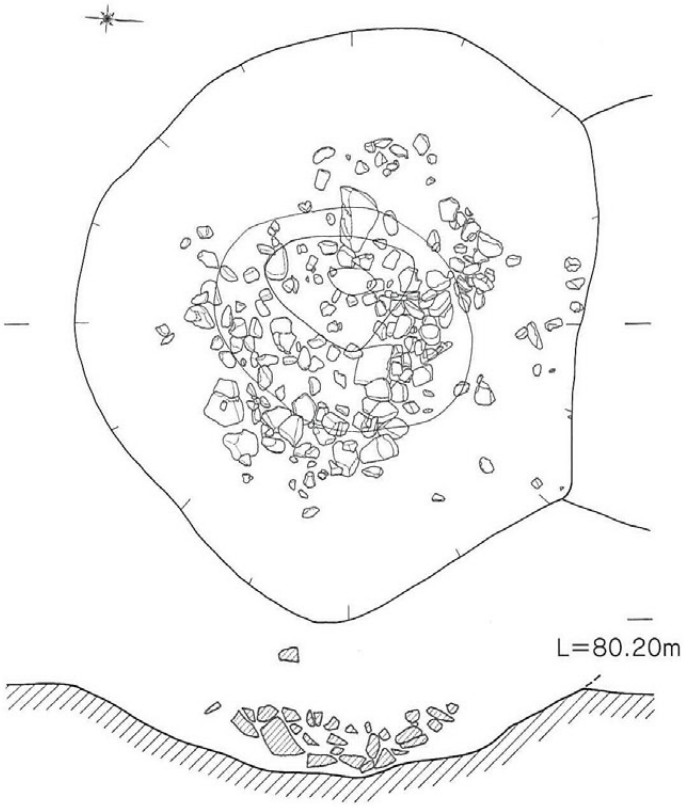


第33図　SI-45実測図（S=1/30）

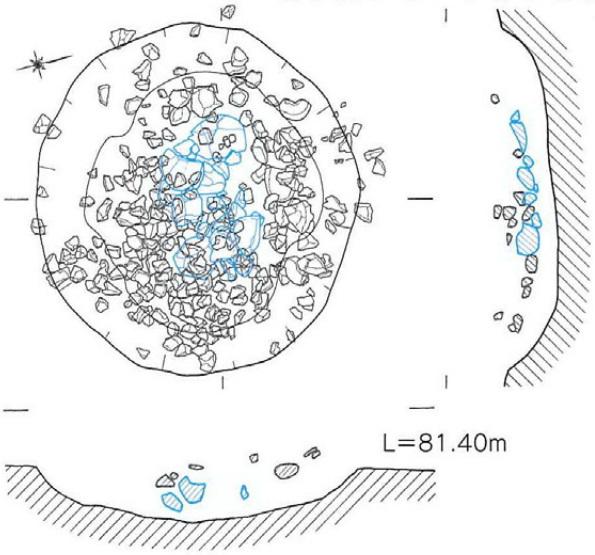
ているということになる。又、焼礫1個あたりの平均質量を見てみると、

300ｇ（SI-39）、280ｇ（SI-28）、250ｇ（SI-57）、200ｇ（SI-46）、190ｇ（SI-45）、170ｇ（SI-31）、140ｇ（SI-62）、130ｇ（SI-21）、120ｇ（SI-8）で、平均では約180ｇとなる。尚、焼礫はほぼ砂岩である。

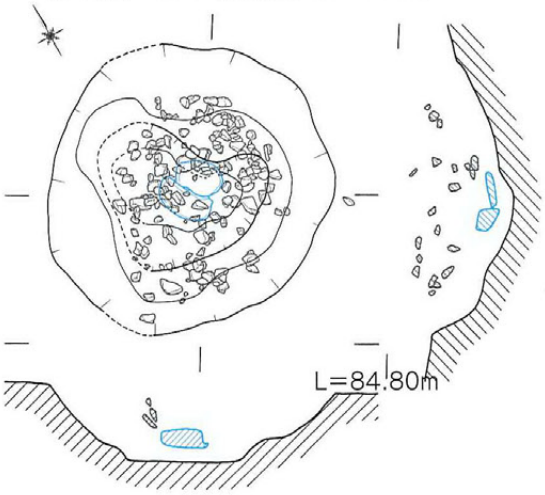
第34図　SI-62実測図（S=1/30）



第35図　SI-68実測図（S=1/30）



第36図　SI-31実測図（S=1/30）



第37図　SI-19実測図（S=1/30）

0　1m

礫の充填状況

底石を配置していない集石遺構と比較すると、密に詰まっているものが多い。＊図版13参照（P37）

掘り込みの形状

掘り込みの形状については、平面プランは11基全てが円形もしくは楕円形である（他の遺構と切り合っているものもあ

るが)。直径については、SI-46が最大で2.5m、SI-21・28が最小で1.1m、平均では約1.8mである。断面形状については、SI-８・21・19・28がボウル状で（SI-28はややV字形ではあるが)、SI-39・62・68・31が浅皿状である。又、SI-57・45については、掘り込み上部と下部が２段掘りになっていて、その最下部に底石がはめ込まれているような状況が確認されている。尚、掘り込みの深さについては0.5m～0.3mであるが、検出面は１基ごとに多少異なっている。

放射性炭素年代測定

11基のうち比較的良好な状態で炭化材が採取できた７基について放射性炭素年代測定を行った。その結果、D区で検出されたSI-28が8770±50年BPで、C区で検出されたSI-８が8700±40年BP、又、G区で検出された５基については、SI-62が8380±40年BP、SI-57が8340±40年BP、SI-68が8320±40年BP、SI-45が8300±40年BP、SI-39が8250±40年BP、という結果が得られた。

樹種同定

11基のうち比較的良好な状態で炭化材が採取できた５基について樹種同定を行った。その結果、SI-57で採取された炭化材はブナ科（クリ、シイ属、コナラ属コナラ節のいずれか)、SI-39で採取された炭化材は広葉樹（可能性あり)、SI-８で採取された炭化材はコナラ属コナラ節、SI-28で採取された炭化材はコナラ属コナラ節、SI-62で採取された炭化材はブナ科（クリ、シイ属、コナラ属コナラ節のいずれか)、という結果が得られた。

共伴遺物

11基中８基で埋土中より遺物が出土したが、うち６基からは押型文土器が出土した。集石遺構という遺構の性格上、埋土中から出土する土器をそのまま推定使用時期の根拠にするのはかなり厳しいと思われるが、全75基中12基で押型文土器が出土し、その半数が底石を配置しているタイプの集石遺構から出土しているという状況は、集石遺構の形態変遷を考察するうえで興味深い資料となるのではないだろうか。

図版10　SI-28（東から）

図版11　SI-28底石（北から）

図版12　SI-8（南から）

図版13　SI-8断面（西から）

図版14　SI-57（東から）

図版15　SI-45（東から）

図版16　SI-39（東から）

図版17　SI-21（北から）

3） 6層上位から中位にかけて検出されたその他の集石遺構

9500年BP頃に使用された可能性の高い集石遺構（SI-65･73･43･71･58･44･59･74･76）及び掘り込み底部に平らな石を配置している集石遺構（SI-57･39･8･45･21･28･62･46･31･19･68）以外で、６層上位から中位にかけて検出された集石遺構は計51基であったが、１基ごとの諸データについては図面及び観察表で紹介することとし、ここでは幾つかのテーマごとに総括して紹介していくこととする。

検出面及び調査区

検出面については先述のとおり６層上位から中位にかけてであったが、掘り込みを持つ集石遺構については「６層上位から見え始め、中位で確実にプラン等が確認できる。」というケースが多かった。又、調査区ごとの検出数については、A･B区が９基、C･D区が10基、E･F区が２基、G区が30基という状況であったが、これは焼礫集中区域がG区に最も多く存在していることと何らかの関わりがあるのではないかと推測される（もちろん各区の調査面積も考慮すべきではあるが）。

掘り込みの有・無

掘り込みの有･無については、51基のうち掘り込みを持つものが37基、持たないものが14基であった。掘り込みを持たない14基のうちSI-49･SI-13･SI-33などは、掘り込みの有無についての判断が極めて困難であったが、トレンチによる確認調査の結果掘り込みを持たない集石遺構として判断した。

掘り込みの形状

掘り込みの形状については、37基全てが円形もしくは楕円形であった（他の遺構と切り合っているものもあるが）。直径については、２ｍを超えるものがSI-61（2.7m）･SI-66（2.3m）･SI-63（2.3m）･SI-60（2.0m）の４基で、１ｍ未満のものの多く、平均では約1.4mであった。断面形状については、浅皿状のものとボウル状のものがあり、検出面からの深さについては0.5m～0.1mであった。但し、検出面については１基ごとで多少違っているので、実際の掘り込みの深さは把握しにくい状況であった。

使用されている礫

SI-49については、2,656個、412kgの礫が使用されていたが、この集石遺構については検出時より掘り込みの有無等の確認が非常に難しい集石遺構であった。礫の記録作業終了後、トレンチによる確認調査を実施した結果、掘り込みを持たない１基の集石遺構と判断したが、他の集石遺構と比較すると礫分布範囲の規模などがあまりに違うので、今回他の集石遺構のデータとは切り離して考察することとする。その他の集石遺構については、データを収集することの出来た

43基のうち、最も多くの焼礫が使用されていたのはSI-18の320個で、200個を超える焼礫が使用されていたのは43基中わずか３基であった（43基の平均使用個数は66個）。使用焼礫の総重量については、最も重いものがSI-36の33kgで、20kg以上が２基、20kg～10kgが11基、10kg未満が28基であった（平均質量は約９kg）。又、礫１個の平均質量では、SI-23（458ｇ）・SI-13（261ｇ）・SI-24（250ｇ）・SI-27（218ｇ）の４基が200ｇ以上で、200ｇ～100ｇが21基、100ｇ未満が17基であった。（焼礫１個あたりの平均質量は122ｇ）。尚、使用されている焼礫についてはほとんどが砂岩である。

礫の充填状況

（掘り込みを持つタイプの集石遺構の場合）

「掘り込みの規模に対しての礫の量」いわゆる焼礫の密度については、底石を配置しているタイプの集石遺構と比較するとかなり疎らな状況であった。SI-60やSI-18、SI-７等についてはやや密な充填状況が確認できたが、その他は掘り込み全体からかなり疎らに礫が出土するという状況であった。

放射性炭素年代測定

比較的良好な状態で炭化材が採取できた７基について放射性炭素年代測定を行った。その結果、Ａ区で検出されたSI-15が8730±40年BP、Ｃ区で検出された２基についてはSI-18が8730±40年BPでSI-7が8720±50年BP、又Ｇ区で検出された４基については、SI-67が8630±40年BP、SI-54が8420±40年BP、SI-61が8360±50年BP、SI-47が8290±40年BP、という結果が得られた。

樹種同定

比較的良好な状態で炭化材が採取できた５基について樹種同定を行った。その結果、SI-18で採取された炭化材はコナラ属コナラ節、SI-７で採取された炭化材はブナ科（クリ、シイ属、コナラ属コナラ節のいずれか）、SI-67で採取された炭化材はコナラ属クヌギ節、SI-54で採取された炭化材はブナ科（クリ、シイ属、コナラ属コナラ節のいずれか）、SI-61で採取された炭化材はコナラ属コナラ節、という結果が得られた。

共伴土器

51基のうち18基で埋土中から遺物が出土したが、そのうち土器形式が判別可能な土器が出土したものは9基であった。その内訳は、貝殻円筒系土器が出土したものが３基、押型文土器が出土したものが６基であったが、これは底石を配置するタイプの集石遺構と似かよった傾向といえる。

4）５層上位から中位で検出された集石遺構

５層上位から中位にかけて、４基の集石遺構が検出された（SI-５・４・１・２）。いずれもＢ区で検出されていて、掘り込みを持たない集石遺構であった。

検出状況については、アカホヤ火山灰除去後縄文時代早期の包含層である５層を掘り下げたところ、パラパラと礫が出土し始め、その中でやや礫の密集する範囲が４ヶ所確認されたという状況であった。

又、使用されている礫については、４基の集石遺構いずれも１個あたり40ｇほどのかなり破砕した礫で、かなりの回数被熱したことが推測される。

5）小括

本報告書では、75基の集石遺構を以下の４つのグループに分けて考察を進めてきたが、最後に再度整理してまとめていきたい。

1）9500年BP頃に使用された可能性の高い集石遺構。以後１）のタイプとする。

2）掘り込み底部に平らな石を配置している集石遺構。以後２）のタイプとする。

3）６層上位から中位で検出された集石遺構のなかで１）・２）以外のもの。以後３）のタイプとする。

4）５層上位から中位で検出された集石遺構。以後4）のタイプとする。

検出面と使用面

１）～３）のタイプの集石遺構71基については、６層上位から６層中位で検出されているが、放射性炭素年代測定の結果などからみると、使用面については更に細分化できるものと思われる。但し、６層上位で集石遺構が存在することは確認できるものの、掘り込みの有無又はプラン等が不明瞭なため、やむを得ず６層中位まで検出面を下げて調査することが多く、異なる使用時期の集石遺構を20cm～30cmの幅（厚み）のなかで検出せざるを得ない状況であった。

又、４）のタイプの集石遺構については、掘り込みも無く平面的に礫が集積しているタイプの集石遺構であったため、検出面と使用面はほぼ一致するのではないかと推測される。

調査区ごとでの使用時期

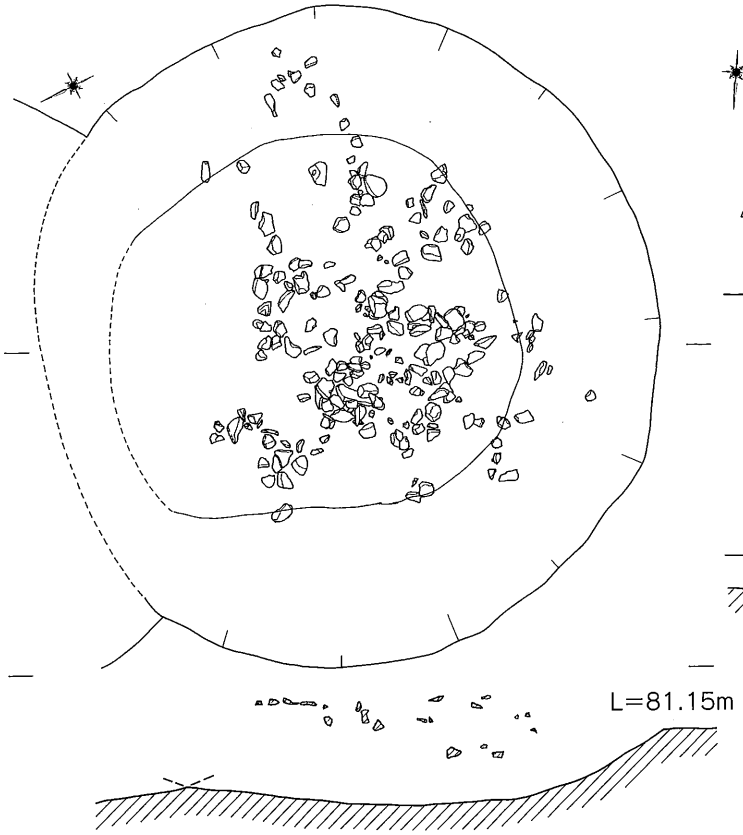
放射性炭素年代測定の結果を参考に各調査区での使用時期をみてみると、最も古い１）のタイプの集石遺構11基は全てＧ区で検出されている。又、２）のタイプについては、Ａ・Ｂ区で２基、Ｃ・Ｄ区で２基、そしてＧ区で７基検出されているが、使用時期についてはA・B・C・D区が8700年BP頃でG区が8300年BP頃という分析結果が得られている。これは底石を配置するタイプの集石遺構が営まれる時期にある程度の幅があり、なおかつ使用空間も多少移動していること物語っているのではないかと推測される。3）のタイプについては、Ａ・Ｂ区が９基、Ｃ・Ｄ区が10基、そしてＧ区が30基検出されているが、使用時期についてはA・B・C・D区が8700

年BP頃でG区が8700年BP～8300年BP頃という分析結果が得られており、これは２）のタイプの分析結果とほぼ同じである。又、４）のタイプの集石遺構については、４基全てＢ区で検出され他の調査区では確認されていない。

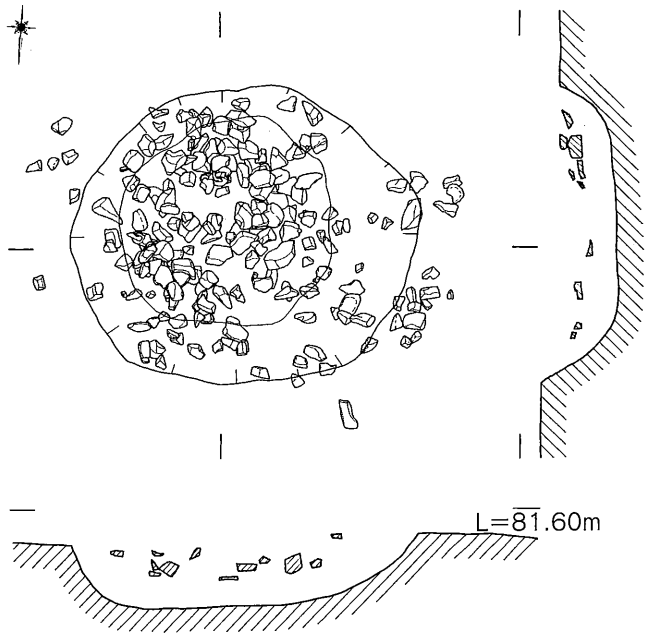
集石遺構の変遷

当遺跡での縄文時代早期における集石遺構の変遷を考えてみる。まず9500年BP頃に集石遺構が営まれはじめ、その主な使用空間はG区であった。その後、しばらく当遺跡付近では集石遺構が積極的に営まれることはなく、8700年BP頃になると再びA・B区及びC・D区を中心に集石遺構が営まれはじめる。その際、掘り込みの底部に平らな石を配置するタイプの集石遺構も現れはじめるが、主な使用空間は次第にA・B・C・D区からG区へと移動していく。この8700年BP頃から8300年BP頃が当遺跡で集石遺構が営まれるピークであり、その後当遺跡での集石遺構の使用はほとんど見られなくなる。そしてアカホヤ降下時頃になると、極小規模な集石遺構がわずかに営まれるだけとなっていった。

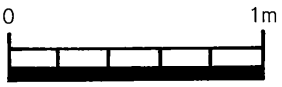
以上が諸要素を鑑みたうえでの当遺跡での集石遺構の変遷であるが、全ての集石遺構を対象に自然科学分析を実施したわけではなく、又、調査区も工事が実施される区域のみであったため、この変遷が推測の域を完全には脱しきれないことはどうしても否めない。

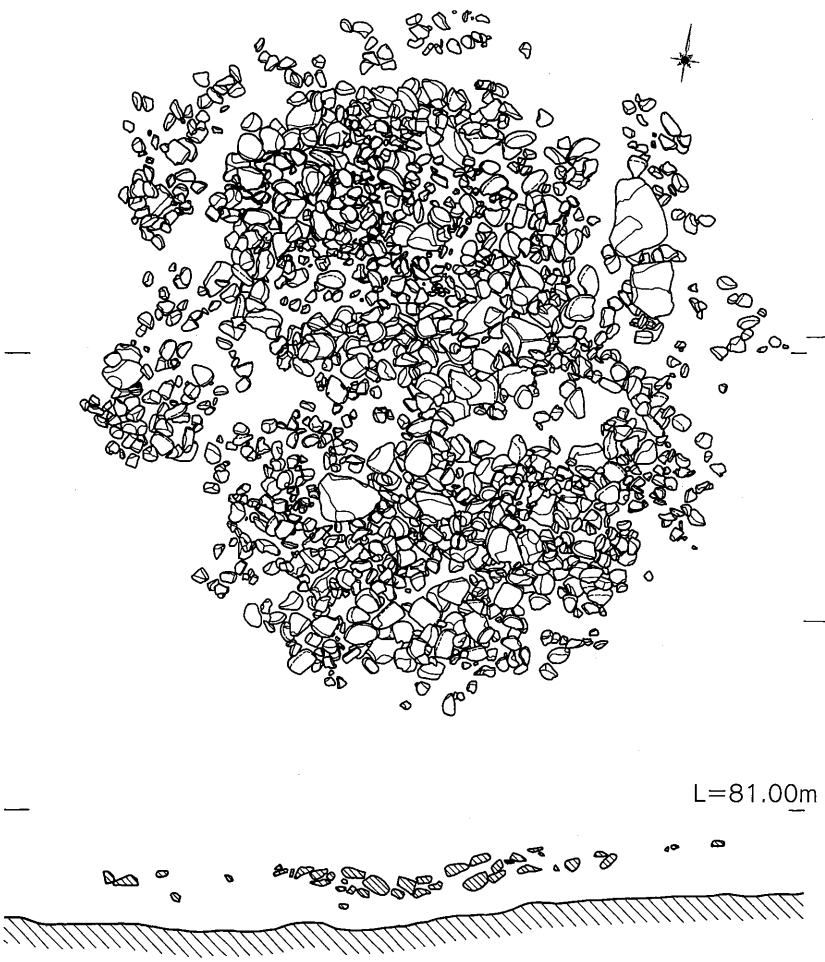


第38図　SI-61実測図（S=1/30）

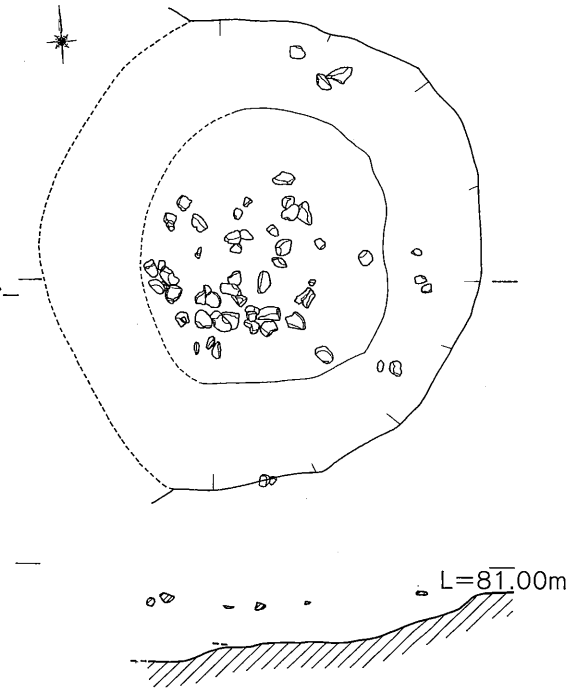


第39図　SI-36実測図（S=1/30）

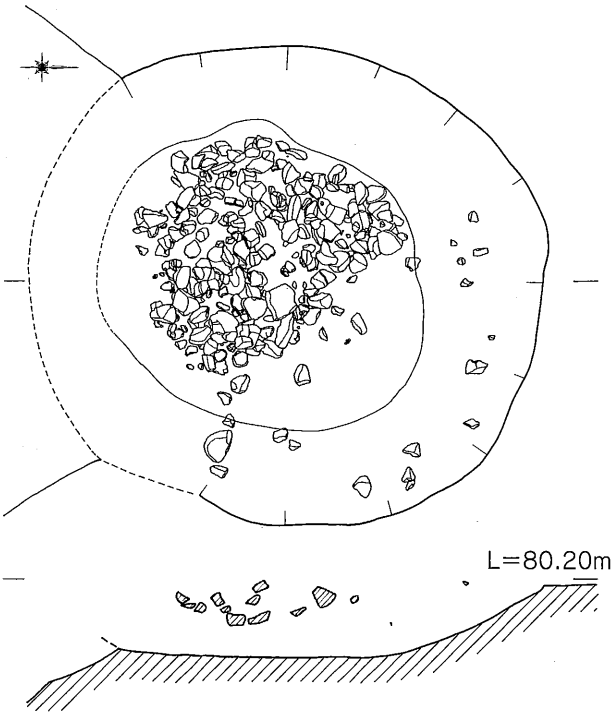




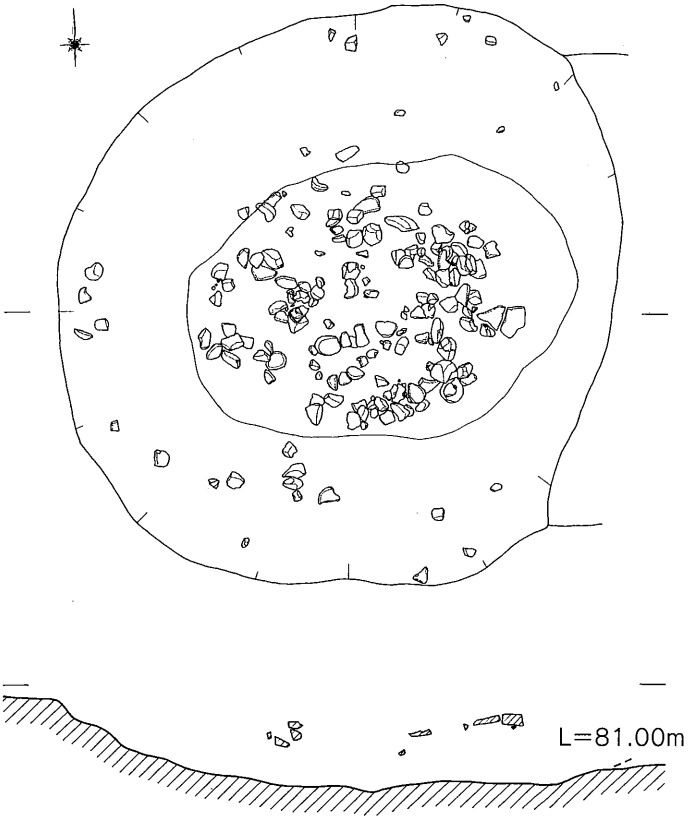
第40図　SI-49実測図（S=1/30）



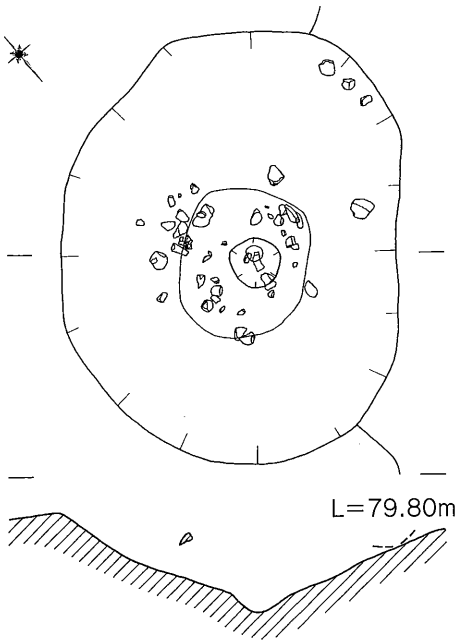
第41図　SI-70実測図（S=1/30）



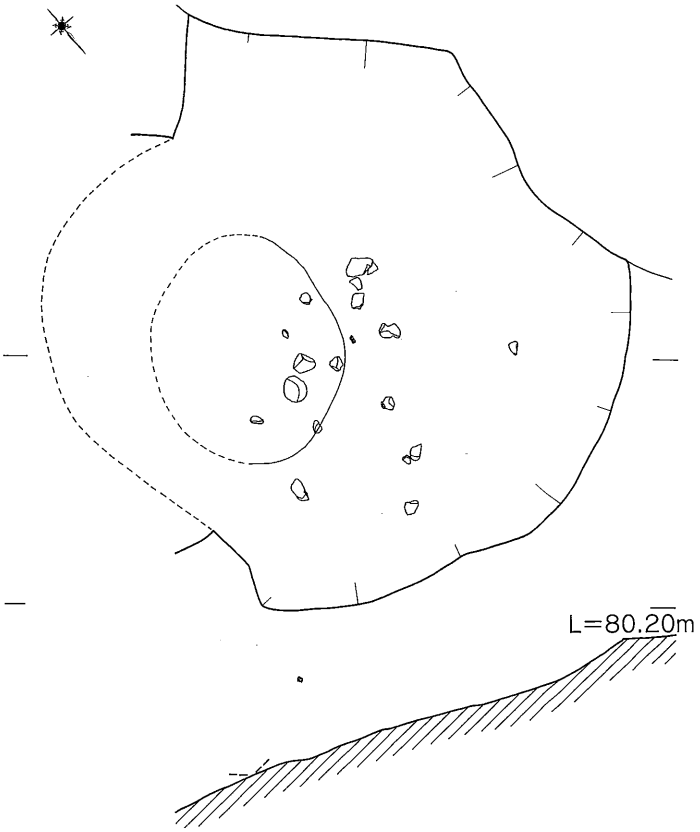
第42図　SI-60実測図（S=1/30）



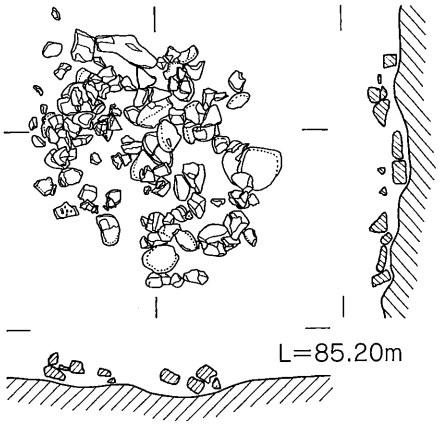
第43図　SI-63実測図（S=1/30）



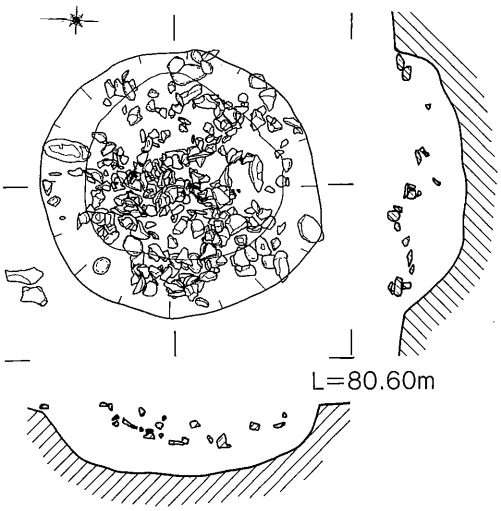
第44図　SI-67実測図（S=1/30）



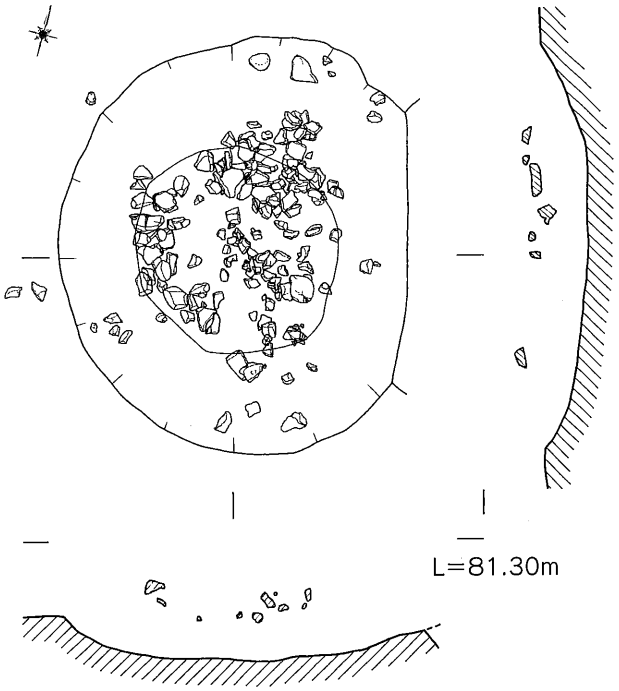
第45図　SI-66実測図（S=1/30）



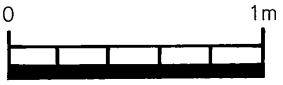
第46図　SI-13実測図（S=1/30）

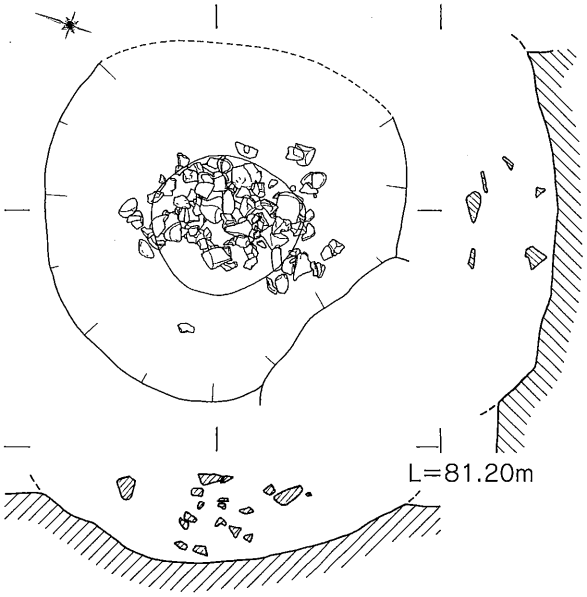


第47図　SI-18実測図（S=1/30）

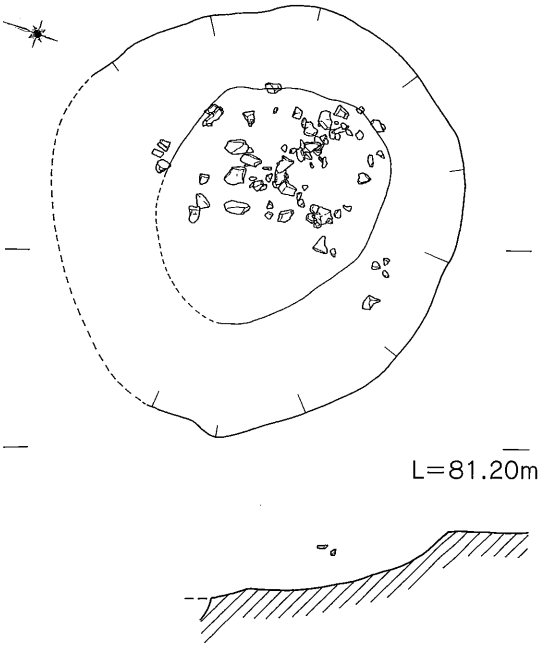


第48図　SI-56実測図（S=1/30）

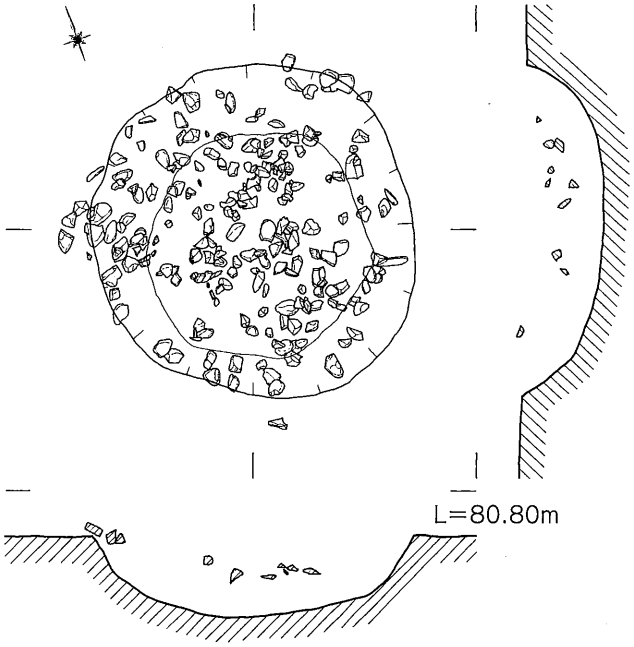




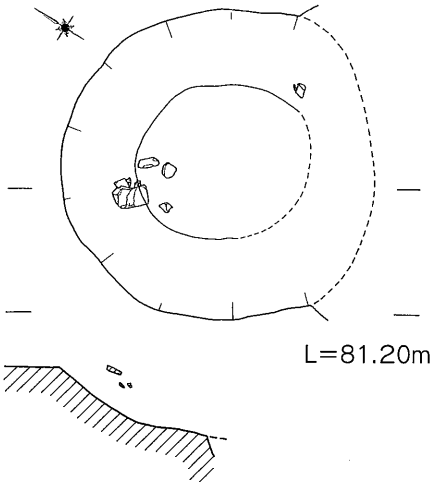
第49図　SI-50実測図（S=1/30）



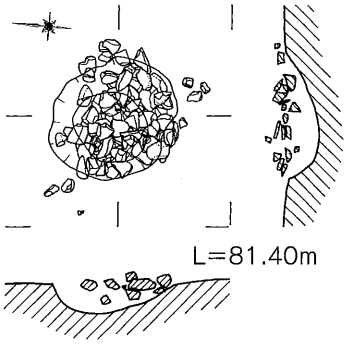
第50図　SI-54実測図（S=1/30）



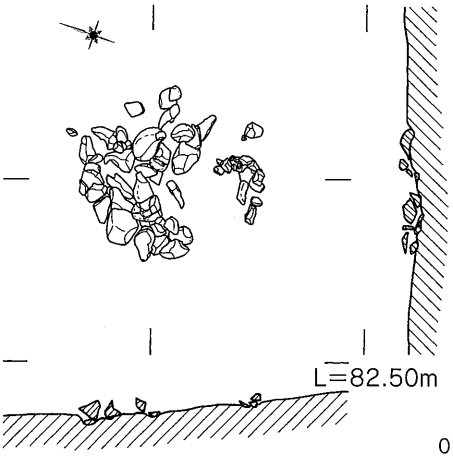
第51図　SI-7実測図（S=1/30）



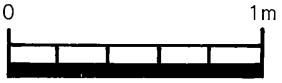
第52図　SI-55実測図（S=1/30）

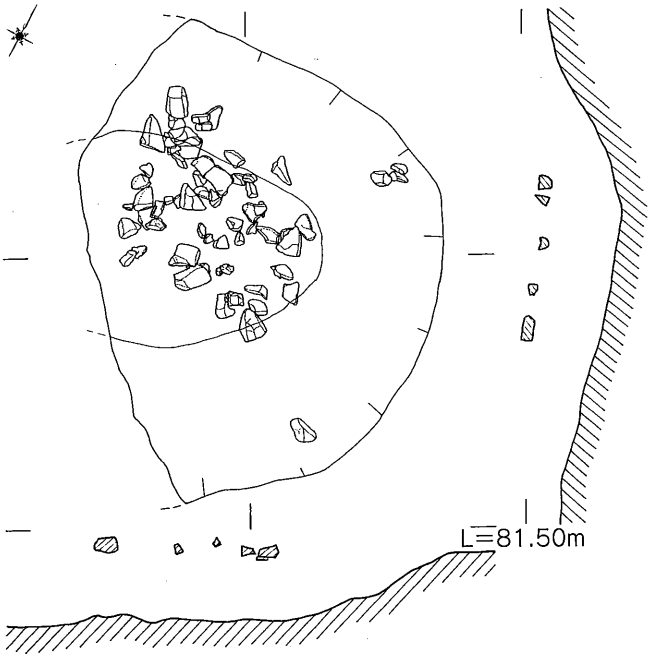


第53図　SI-34実測図（S=1/30）

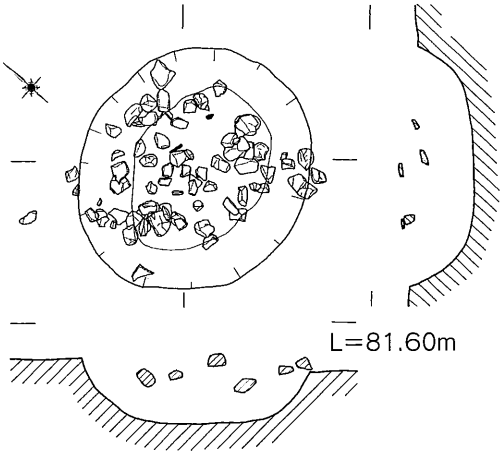


第54図　SI-15実測図（S=1/30）

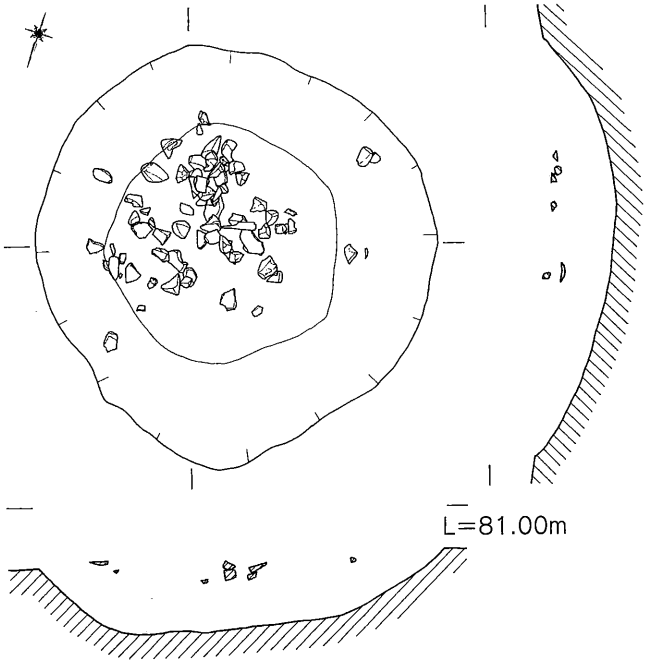




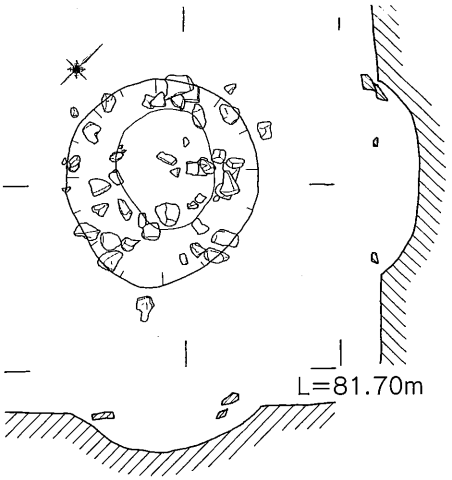
第55図　SI-52実測図（S=1/30）



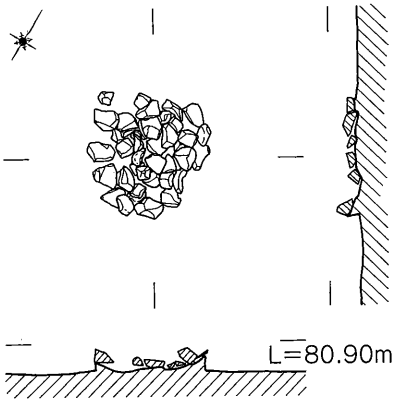
第56図　SI-35実測図（S=1/30）



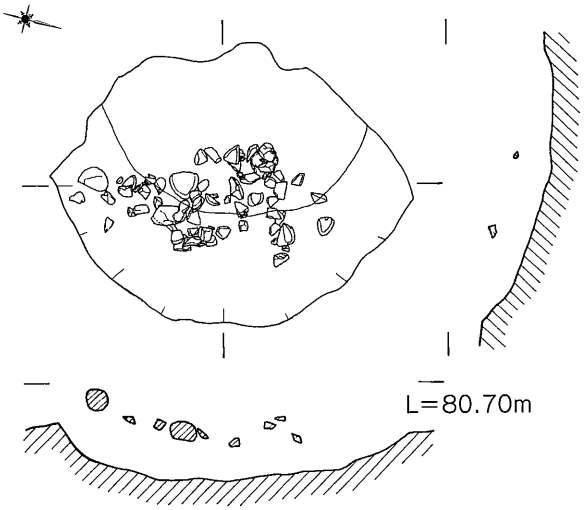
第57図　SI-40実測図（S=1/30）



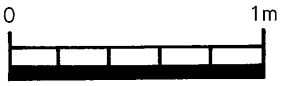
第58図　SI-37実測図（S=1/30）

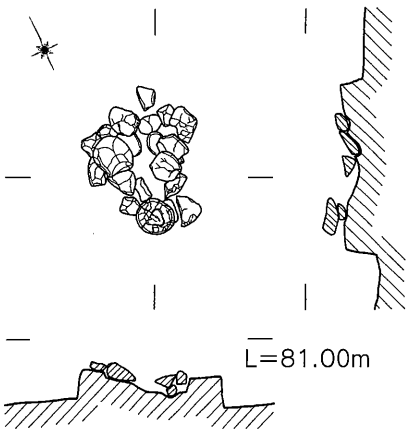


第59図　SI-24実測図（S=1/30）

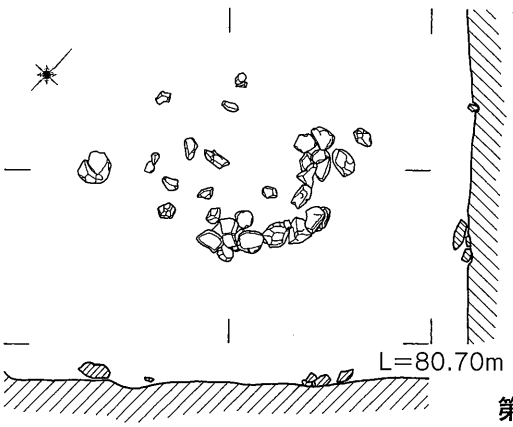


第60図　SI-51実測図（S=1/30）

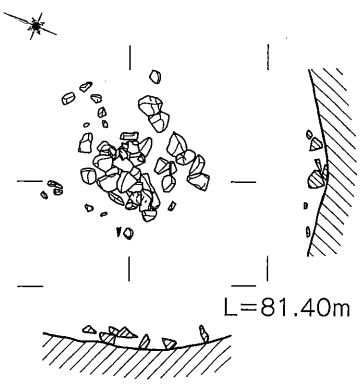




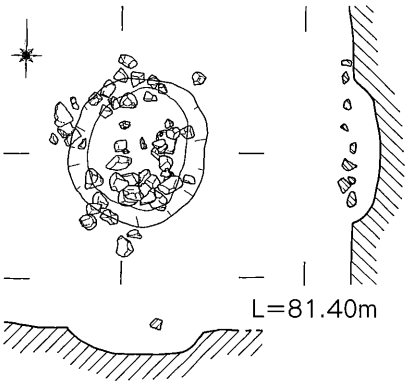
第61図　SI-23実測図（S=1/30）



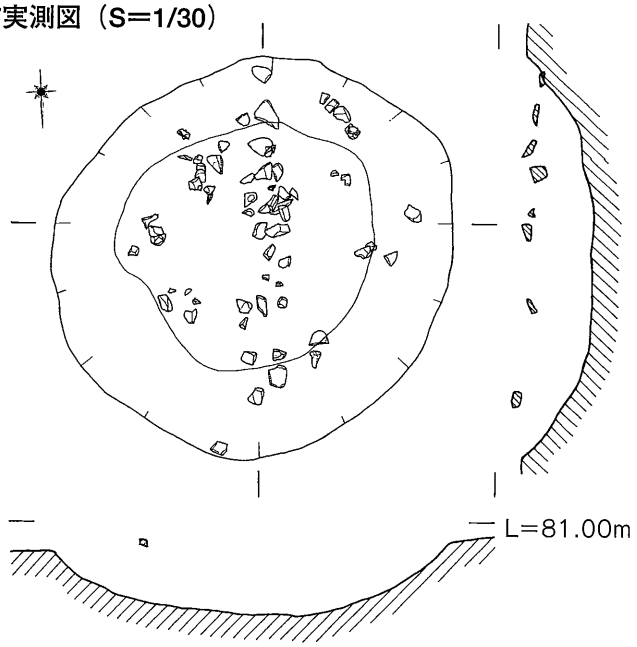
第62図　SI-27実測図（S=1/30）



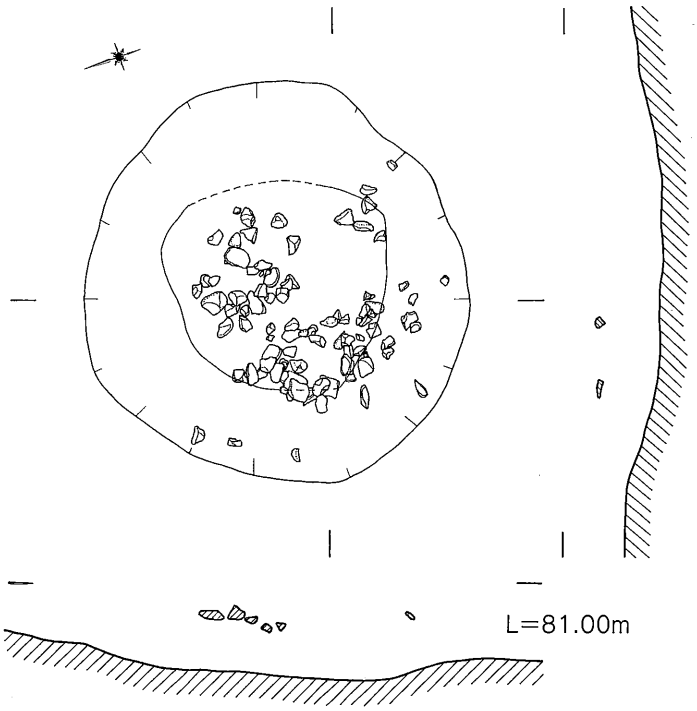
第63図　SI-33実測図（S=1/30）



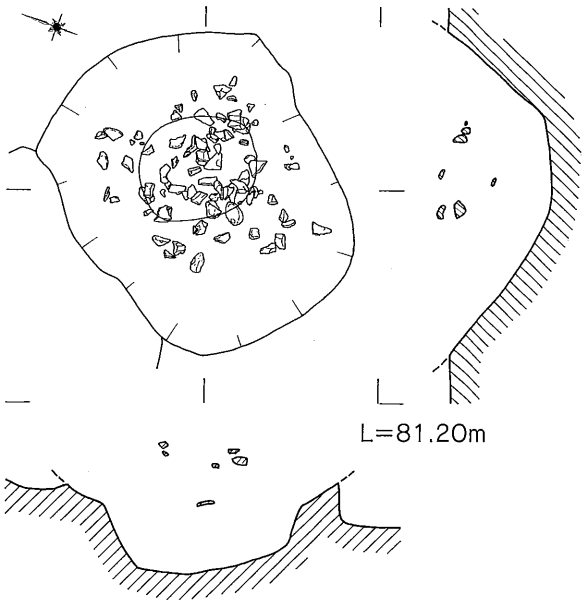
第64図　SI-30実測図（S=1/30）



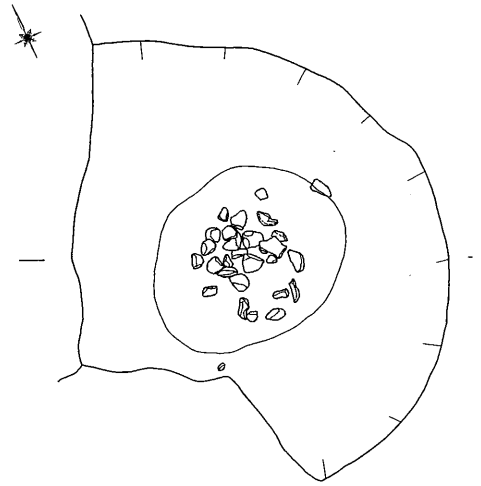
第65図　SI-41実測図（S=1/30）

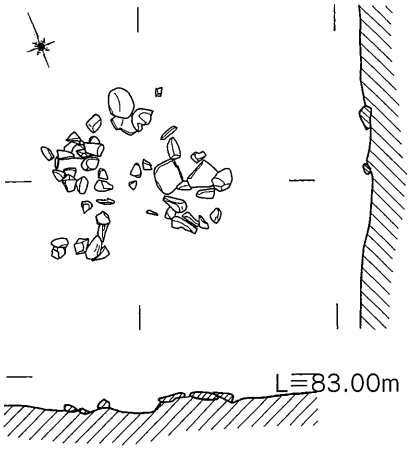


第66図　SI-32実測図（S=1/30）

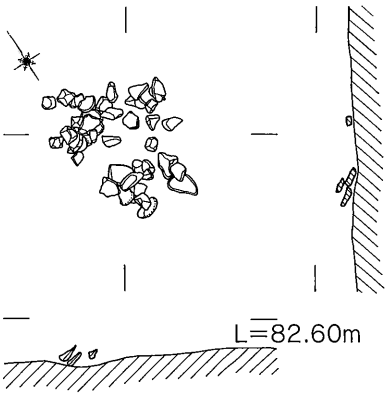


第67図　SI-47実測図（S=1/30）



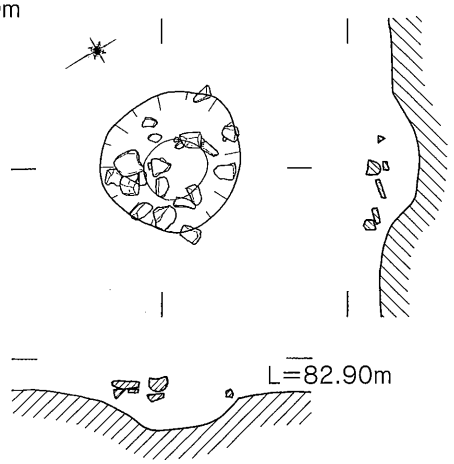


第69図　SI-17実測図（S=1/30）

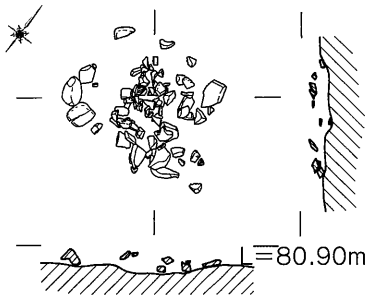


第70図　SI-14実測図（S=1/30）

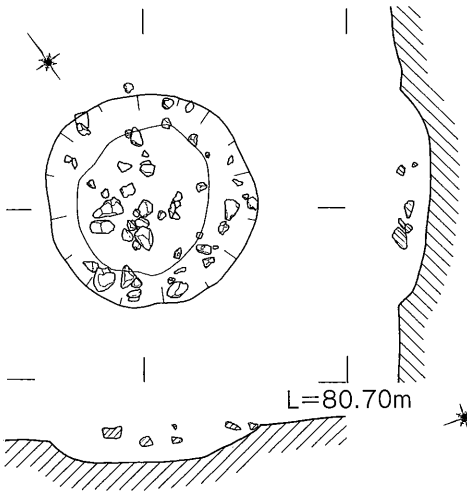
第68図　SI-77実測図（S=1/30）



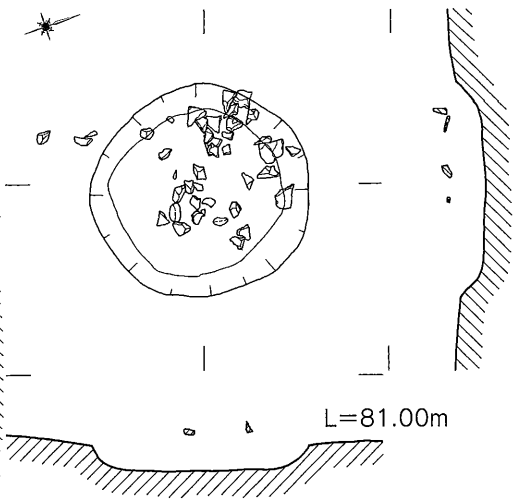
第72図　SI-16実測図（S=1/30）



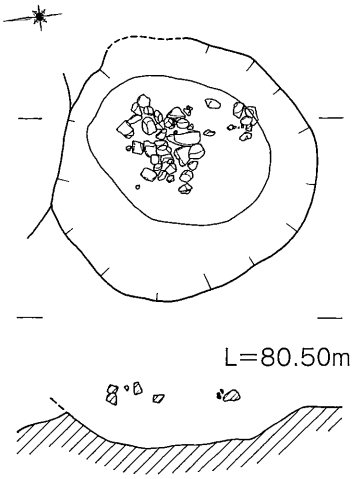
第73図　SI-42実測図（S=1/30）



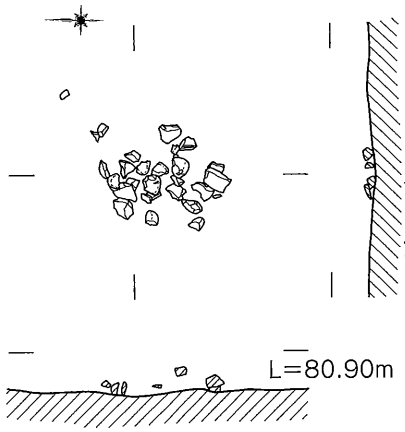
第71図　SI-3実測図（S=1/30）



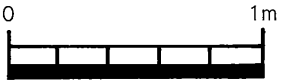
第75図　SI-38実測図（S=1/30）

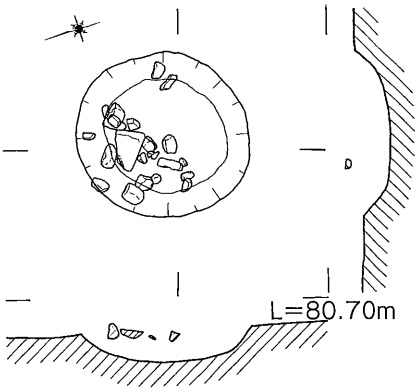


第76図　SI-75実測図（S=1/30）

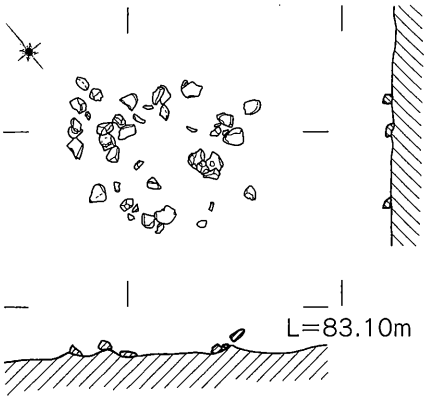


第74図　SI-25実測図（S=1/30）

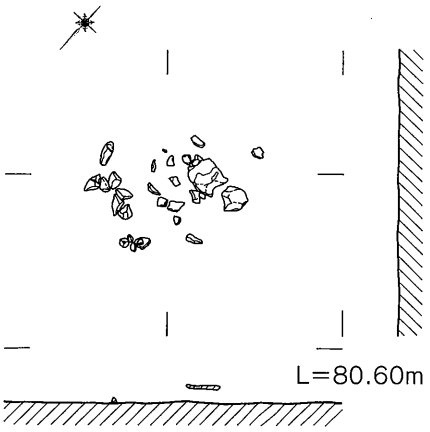




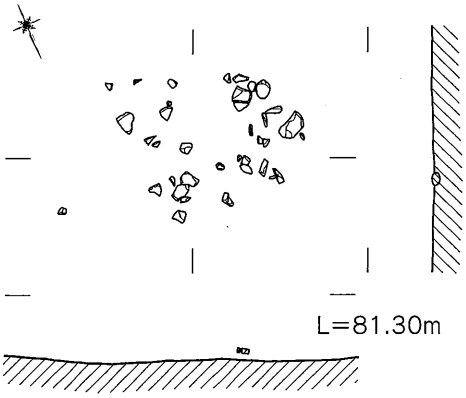
第77図　SI- 6 実測図（S=1/30）



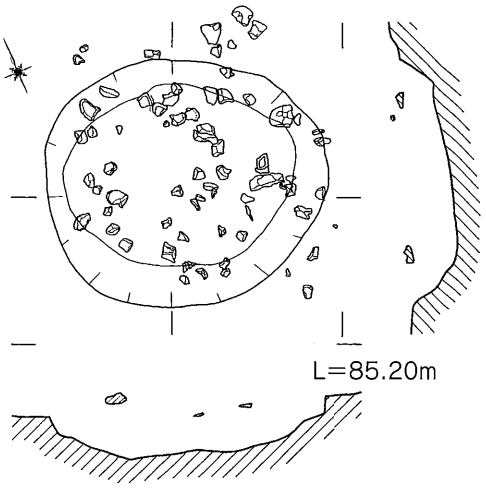
第78図　SI-20実測図（S=1/30）



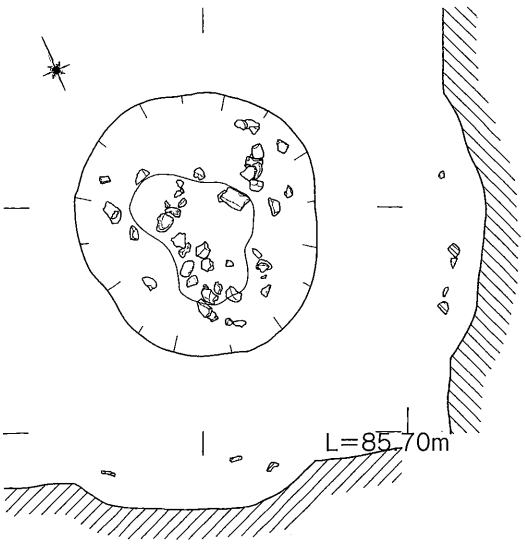
第79図　SI-29実測図（S=1/30）



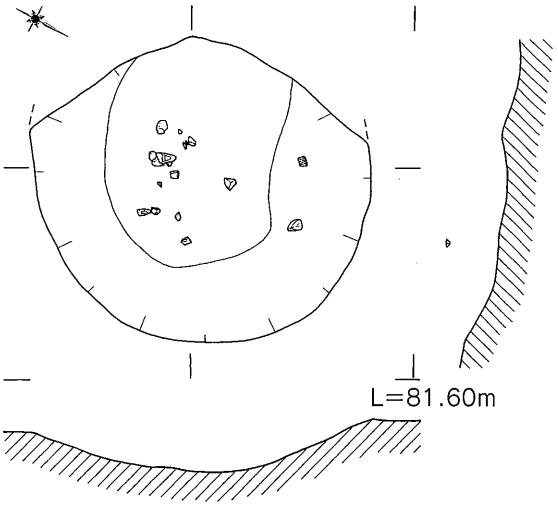
第80図　SI-26実測図（S=1/30）



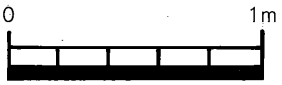
第81図　SI-12実測図（S=1/30）

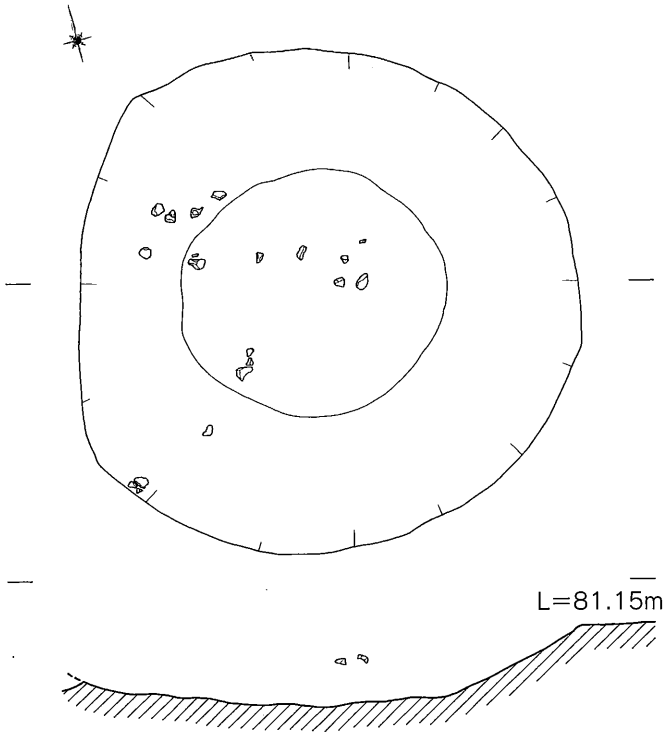


第82図　SI-11実測図（S=1/30）

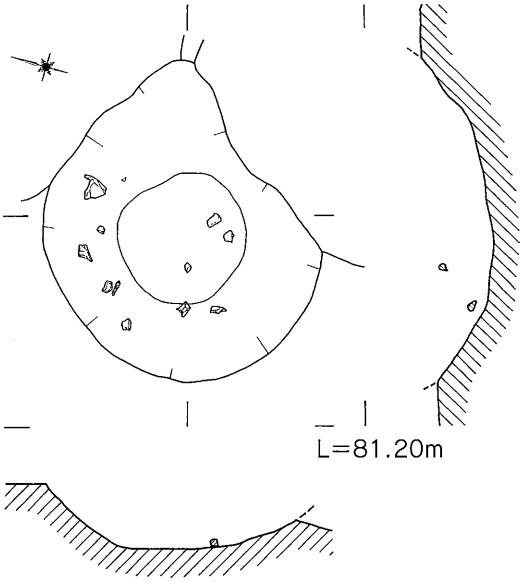


第83図　SI-53実測図（S=1/30）

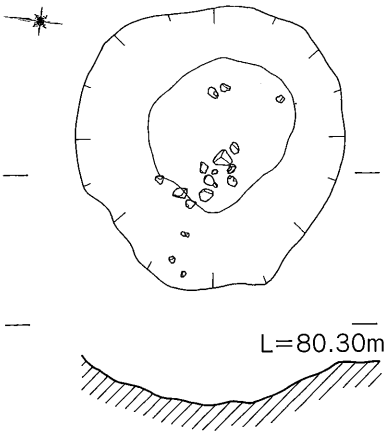




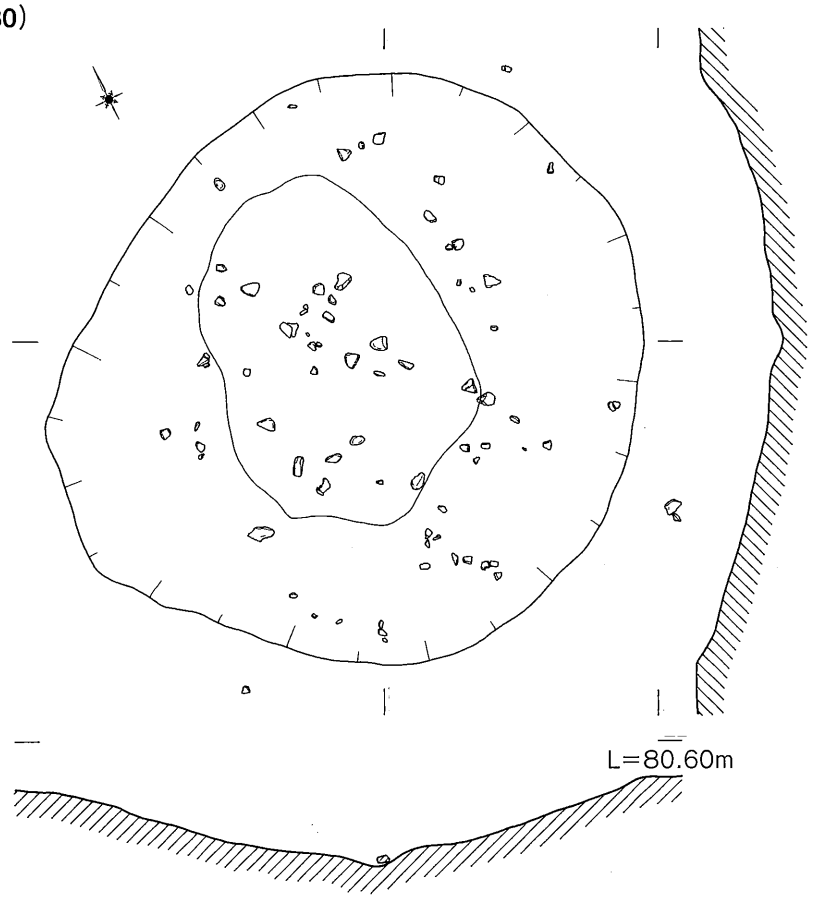
第84図　SI-69実測図（S=1/30）



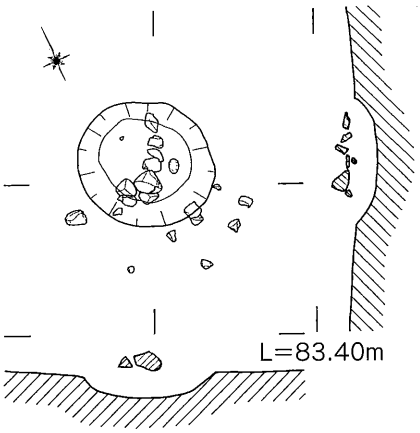
第85図　SI-48実測図（S=1/30）



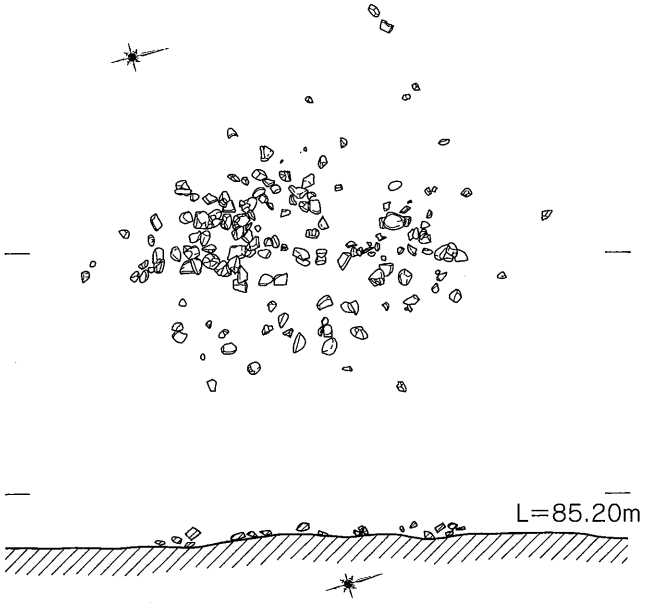
第86図　SI-72実測図（S=1/30）



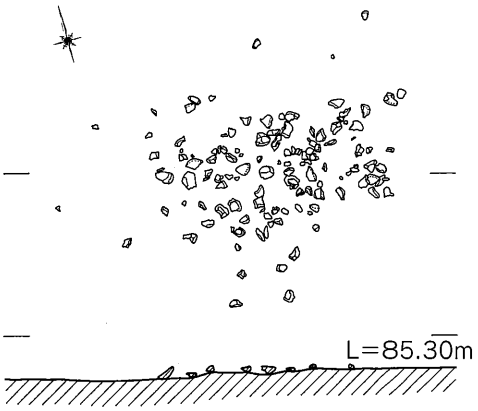
第88図　SI-78実測図（S=1/30）



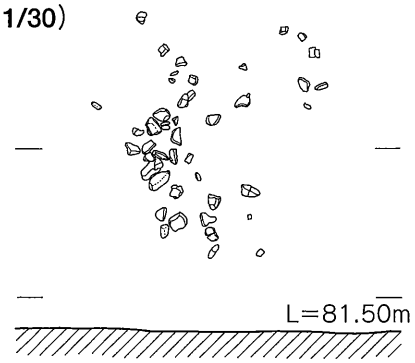
第87図　SI-22実測図（S=1/30）

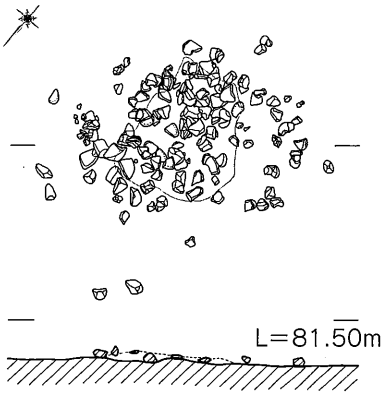


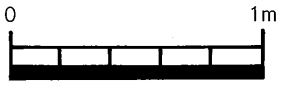
第89図　SI-5 実測図（S=1/30）



第90図　SI-1 実測図（S=1/30）







第91図　SI-2 実測図（S=1/30）

第92図　SI-4 実測図（S=1/30）

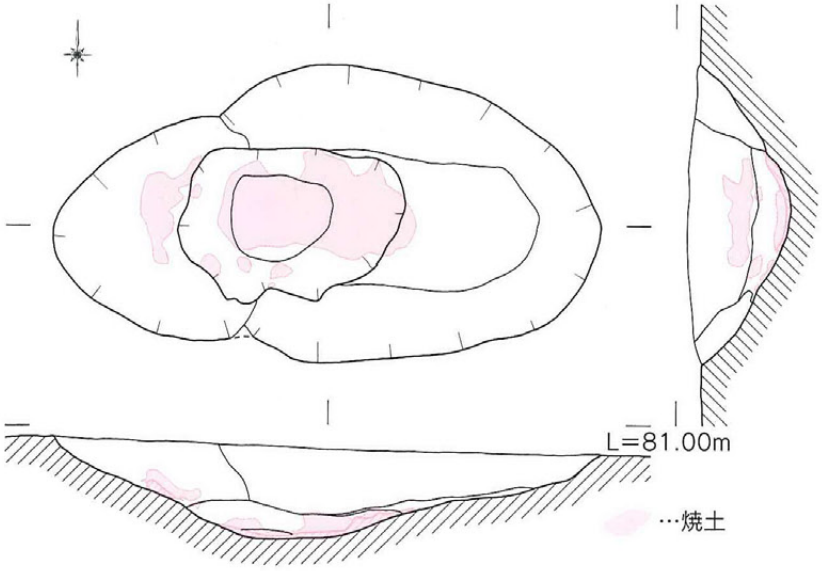
第2表　集石遺構観察表

番号	検出層	グリッド	C14年代 (年BP)	礫分布 (直径)	総礫数 (個)	総重量 (kg)	掘込み (有・無)	掘込み上場の直径 (m)	掘込み深さ (m)	底石 (有・無)	炭化物 (有・無)	共伴土器 (有・無)	共伴石器 (有・無)
SI-65	Ⅵ	G	9520±40	1.3	1127	75	○	2.0	0.6	×	○	×	×
SI-73	Ⅵ	G	9580±40	1.6	1236	62	○	2.2	0.5	×	○	○	×
SI-43	Ⅵ	G		1.4	854	41	○	2.5	0.5	×	△	○	○
SI-71	Ⅵ	G	9520±50	1.3	645	26	○	1.5	0.4	×	○	○	×
SI-58	Ⅵ	G		1.2	315	24	○	1.8	0.5	×	△	×	×
SI-44	Ⅵ	G		1.3	413	19	○	2.0	0.4	×	△	×	×
SI-59	Ⅵ	G		0.8	208	17	○	1.5	0.3	×	△	×	×
SI-74	Ⅵ	G		1.2	228	15	○	2.1	0.5	×	△	×	×
SI-76	Ⅵ	G		1.3	231	8	○	2.0	0.2	×	△	×	×
SI-57	Ⅵ	G	8340±40	1.7	931	236	○	2.4	0.5	○	○	○	○
SI-39	Ⅵ	G	8250±40	1.2	365	108	○	1.8	0.3	○	○	○	×
SI-8	Ⅵ	C	8700±40	1.8	899	107	○	1.9	0.5	○	○	×	×
SI-45	Ⅵ	G	8300±40	1.0	504	96	○	2.0	0.5	○	○	○	×
SI-21	Ⅵ	A		1.0	514	68	○	1.1	0.3	○	△	×	×
SI-28	Ⅵ	D	8770±50	1.1	210	58	○	1.1	0.5	○	○	×	×
SI-62	Ⅵ	G	8380±40	2.4	381	53	○	2.4	0.4	○	○	○	×
SI-61	Ⅵ	G	8360±50	1.5	−	−	○	2.7	0.5	×	○	×	×
SI-46	Ⅵ	G		1.5	497	97	○	2.5	0.5	△	△	○	○
SI-31	Ⅵ	G		1.5	288	48	○	1.3	0.3	△	△	○	×
SI-19	Ⅵ	B		0.8	142	9	○	1.2	0.3	△	△	○	×
SI-68	Ⅵ	G	8320±40	1.3	−	−	○	2.2	0.5	△	○	○	○
SI-60	Ⅵ	G		1.0	−	−	○	2.0	0.3	×	△	○	×
SI-66	Ⅵ	G		1.0	−	−	○	2.3	0.5	×	△	×	×

番号	検出層	グリッド	C14年代	礫分布(直径)	総礫数(個)	総重量(kg)	掘込み(有・無)	掘込み上場の直径(m)	掘込み深さ(m)	底石(有・無)	炭化物(有・無)	共伴土器(有・無)	共伴石器(有・無)
SI-67	Ⅵ	G	8630±40	0.8	−	−	○	1.7	0.5	×	○	○	×
SI-49	Ⅵ	G		2.7	2656	412	△	−	−	×	△	○	×
SI-36	Ⅵ	G		1.2	193	33	○	1.4	0.3	×	△	○	×
SI-63	Ⅵ	G		1.1	243	29	○	2.3	0.5	×	△	×	×
SI-70	Ⅵ	G		0.7	−	−	○	1.9	0.3	×	△	×	×
SI-13	Ⅵ	B		1.1	105	27	△	1.1	0.1	×	△	○	×
SI-50	Ⅵ	G		0.8	152	19	○	1.4	0.3	×	△	×	×
SI-18	Ⅵ	C	8730±40	1.1	320	19	○	1.1	0.3	×	○	○	×
SI-56	Ⅵ	G		1.0	168	19	○	1.6	0.3	×	△	×	×
SI-54	Ⅵ	G	8420±40	0.8	100	18	○	1.7	0.3	×	○	○	○
SI-7	Ⅵ	C	8720±50	1.4	232	17	○	1.3	0.3	×	○	×	×
SI-55	Ⅵ	G		−	−	−	○	1.3	0.3	×	△	×	×
SI-15	Ⅵ	A	8730±40	0.8	71	14	×	−	−	×	○	×	×
SI-34	Ⅵ	G		0.5	135	14	○	0.6	0.2	×	△	○	×
SI-52	Ⅵ	G		1.0	75	13	○	1.8	0.4	×	△	×	×
SI-35	Ⅵ	G		0.9	82	12	○	1.0	0.3	×	△	×	×
SI-23	Ⅵ	D		0.6	24	11	×	−	−	×	×	×	×
SI-24	Ⅵ	D		0.5	42	11	×	−	−	×	×	×	×
SI-40	Ⅵ	G		1.1	80	9	○	1.6	0.4	×	△	○	×
SI-37	Ⅵ	G		0.8	45	8	○	1.0	0.2	×	△	○	×
SI-51	Ⅵ	G		1.0	76	8	○	1.5	0.3	×	△	×	×
SI-27	Ⅵ	D		1.1	33	7	×	−	−	×	×	○	×
SI-30	Ⅵ	G		0.7	53	6	○	0.8	0.2	×	△	×	×
SI-32	Ⅵ	G		0.9	89	7	○	1.6	0.3	×	△	○	×
SI-33	Ⅵ	G		0.6	58	7	△	0.8	0.2	×	△	○	×
SI-47	Ⅵ	G	8290±40	0.8	87	6	○	1.3	0.5	×	○	×	×
SI-41	Ⅵ	G		1.4	66	6	○	1.6	0.3	×	△	×	×
SI-17	Ⅵ	A		0.8	49	5	×	−	−	×	×	×	×
SI-14	Ⅵ	A		0.6	41	5	×	−	−	×	×	×	×
SI-3	Ⅵ	C		0.8	54	5	○	0.9	0.1	×	△	×	×
SI-77	Ⅵ	G		0.5	31	4	○	1.5	0.4	×	△	×	×
SI-16	Ⅵ	A		0.5	24	4	○	0.6	0.1	×	△	×	×
SI-25	Ⅵ	D		0.5	31	4	×	−	−	×	×	×	×
SI-38	Ⅵ	E		0.7	42	4	○	0.9	0.1	×	△	×	×
SI-42	Ⅵ	G		0.7	79	4	×	0.7	0.2	×	△	○	×
SI-20	Ⅵ	A		0.7	42	4	×	−	−	×	×	○	×
SI-6	Ⅵ	C		0.6	27	3	○	0.7	0.1	×	△	×	×
SI-12	Ⅵ	B		1.1	53	3	○	1.1	0.2	×	△	×	×
SI-29	Ⅵ	D		0.7	30	3	×	−	−	×	×	×	×
SI-75	Ⅵ	G		0.6	51	3	○	1.1	0.2	×	△	×	×
SI-72	Ⅵ	G		0.6	−	−	○	1.1	0.2	×	△	×	×
SI-69	Ⅵ	G		0.9	53	2	○	2.0	0.3	×	△	×	×
SI-22	Ⅵ	A		0.5	18	2	○	0.5	0.1	×	△	○	×
SI-11	Ⅵ	B		0.8	46	2	○	1.1	0.2	×	△	○	×
SI-26	Ⅵ	E		0.8	37	2	×	−	−	×	×	×	×
SI-48	Ⅵ	G		0.6	11	1	○	1.3	0.3	×	△	×	×
SI-53	Ⅵ	G		0.5	14	1	○	1.4	0.3	×	△	○	○
SI-78	Ⅵ	D		2.3	76	−	○	2.4	0.3	×	△	×	×
SI-5	Ⅴ	B		1.4	161	8	×	−	−	×	×	×	×
SI-4	Ⅴ	B		0.9	158	7	×	−	−	×	×	×	×
SI-1	Ⅴ	B		1.1	137	3	×	−	−	×	×	×	×
SI-2	Ⅴ	B		1.0	51	3	×	−	−	×	×	×	×

2．炉穴

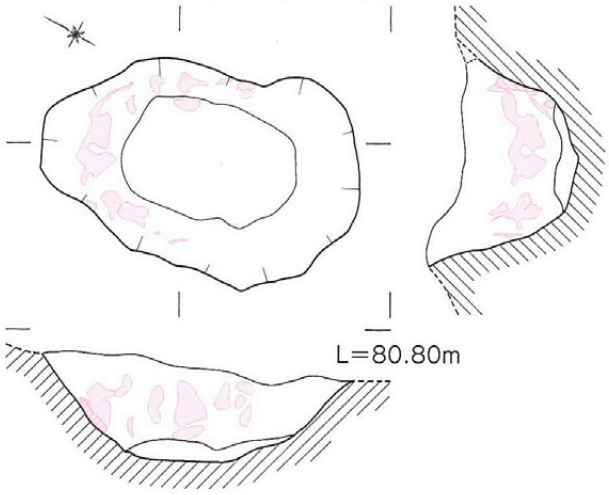
G区において３基の炉穴が検出されている。検出面はいずれも６層中位であったが、プランが不明瞭であったため６層下位まで検出面を下げ、遺構の記録作業を行った。



第93図　SC-11実測図（S=1/30）

SC-11

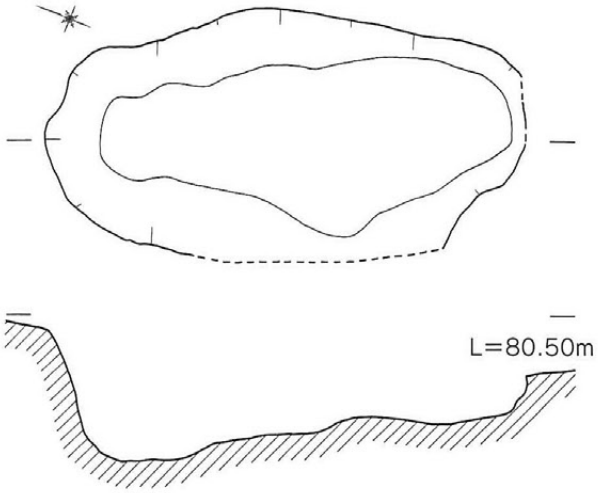
平面プランは長軸2.2m・短軸1.2mの舟形で、長軸にはブリッジが存在したと推測されるくびれ部が確認できた（検出面からの深さについては0.35m）。壁面の傾斜については、足場から燃焼部にかけて緩やかに下っていて、燃焼部から煙道部にかけては緩やかに立ち上がっていた。又、焼土については燃焼部床面から煙道部にかけて残存していたが、炭化材等は検出されなかった（炭化粒は全体に含んでいたが）。尚、埋土については、暗褐色（10YR3/3）シルト質ローム土に褐色（10YR4/4）シルト質ロームの小ブロック（5mm～1cm）及び霧島・小林火山灰の小ブロック（5mm～1cm）を10%程含んだかなり硬質なものであった。



第94図　SC-14実測図（S=1/30）

SC-14

平面プランは長軸1.3m・短軸0.9mの楕円形であるが、４基の集石遺構と切り合った状態で検出されたためプランの全容は確認できなかった（検出面からの深さについては0.4m）。壁面の傾斜については、足場から燃焼部にかけてやや緩やかに下っていて、燃焼部から煙道部にかけては足場に比べるとやや急に立ち上がっていた。又、焼土については、燃焼部床面から煙道部にかけて残存しており、炭化材について



第95図　SC-13実測図（S=1/30）

も極小破片ながらわずかに検出された。尚、その炭化材について放射性炭素年代測定を行ったところ8270±40年BPという結果が得られ、又、同炭化材について樹種同定を行ったところ、この炭化材はコナラ属コナラ節であることが判明した。

SC-13

平面プランは長軸1.9m・短軸1.0mの楕円形で、足場がSI-76によって一部削平されていた（検出面からの深さについては0.55m）。又、長軸にはブリッジが存在したと推測されるくびれ部が確認され、壁面の傾斜については長軸方向・短軸方向共にほぼ垂直に立ち上がっていた。

尚、焼土については検出されなかったが、炭化材については極小破片ながらわずかに検出されたため、その炭化材について放射性炭素年代測定を行ったところ9660±40年BPという結果が得られた。

3．土坑

6層下位において、５基の土坑が検出された。

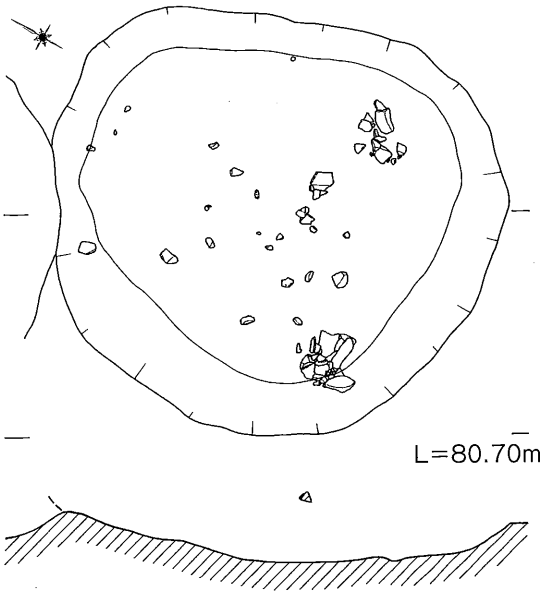
SC-12

平面プランは直径1.8mの円形で、検出面からの深さは0.3mであった。

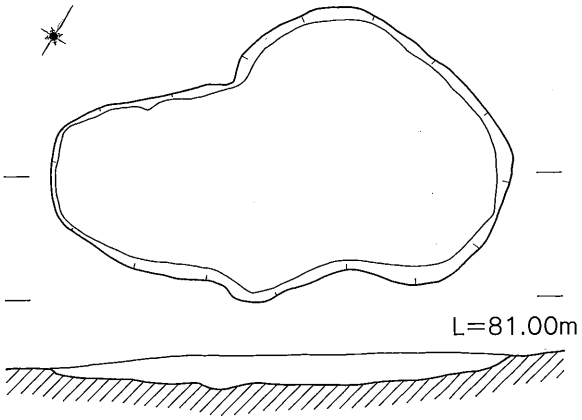
遺構の埋土からは撚糸文系の塞ノ神式土器及び同形式の壺等が出土した。（70ページ第103図参照）又、炭化材もわずかに検出されたため、放射性炭素年代測定を行ったところ7830±40年BPという結果が得られた。

SC-3

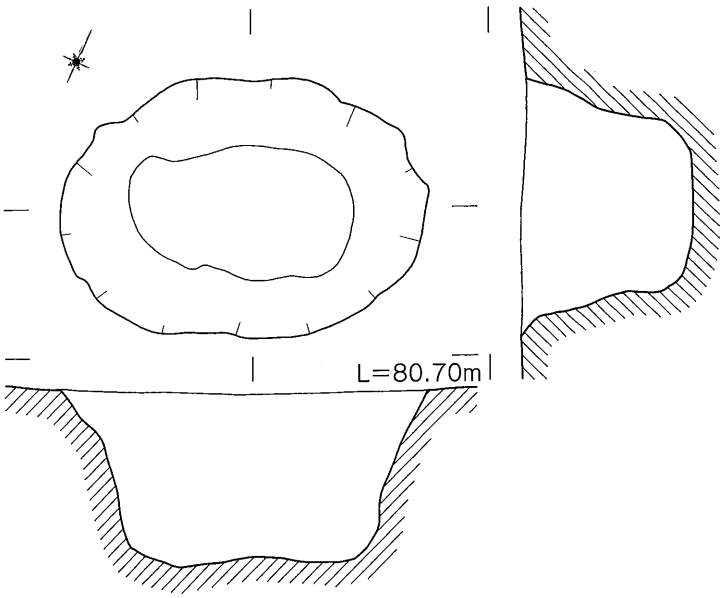
平面プランは長軸1.85m・短軸1.1mの不整形な長楕円形を呈する。又、検出面からの深さについては0.1mであっ



第96図　SC-12実測図（S=1/30）



第97図　SC-3実測図（S=1/30）



第98図　SC-4実測図（S=1/30）

た。用途等は不明である。

SC-4

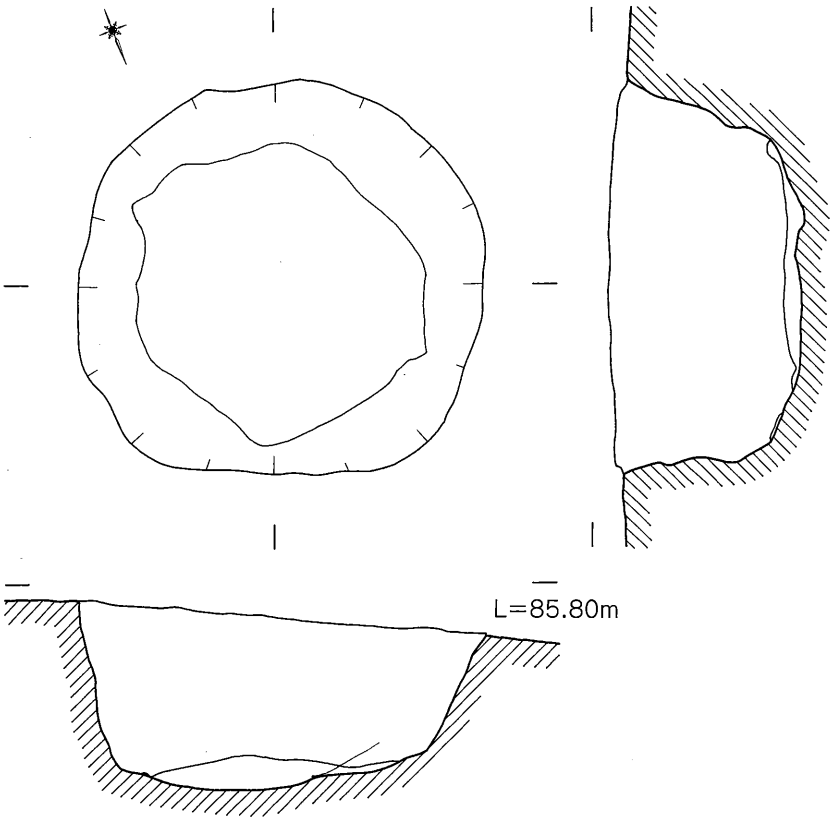
平面プランは長軸1.5m・短軸1mの楕円形で、検出面からの深さについては0.8mであった。用途については、その形状から推測すると陥し穴ではないかとも思われるが、逆茂木痕が確認されていないので断定はできない。

SC-2

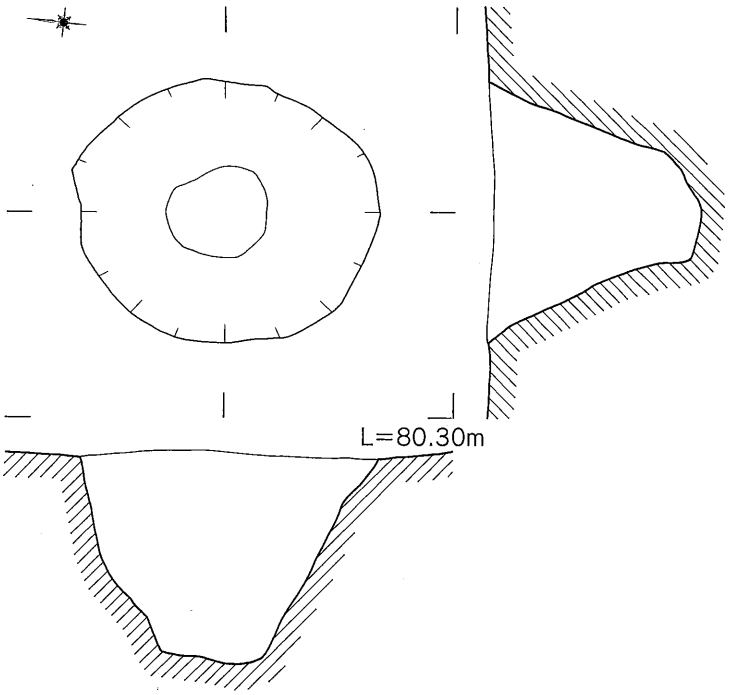
平面プランは直径1.6mの円形で、検出面からの深さについては0.7mであった。埋土中からは塞ノ神式土器の小破片が出土しているが、用途については不明である。

SC-6

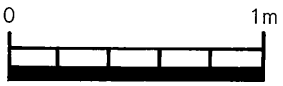
平面プランは長軸1.2m・短軸1.05mの楕円形で、検出面からの深さは0.9mであった。用途については、SC-4同様陥し穴ではないかと推測されるが、逆茂木痕が確認されていないので断定はできない。

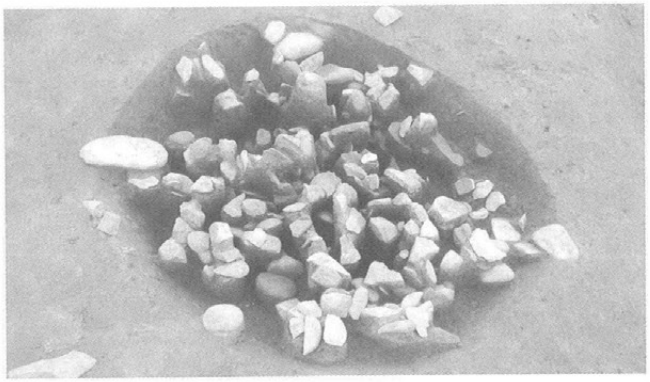


第99図　SC-2実測図（S=1/30）

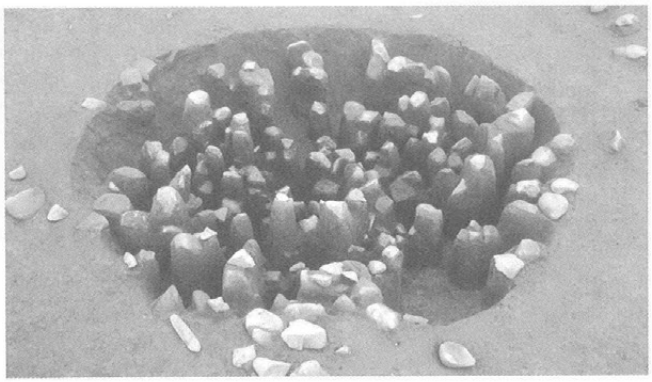


第100図　SC-6実測図（S=1/30）





図版18　SI-18（西から）

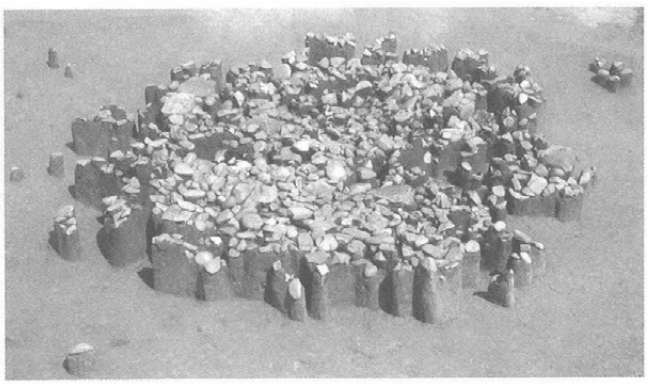


図版19　SI-7（西から）

図版20　SI-15（南から）

図版21　SI-30（東から）

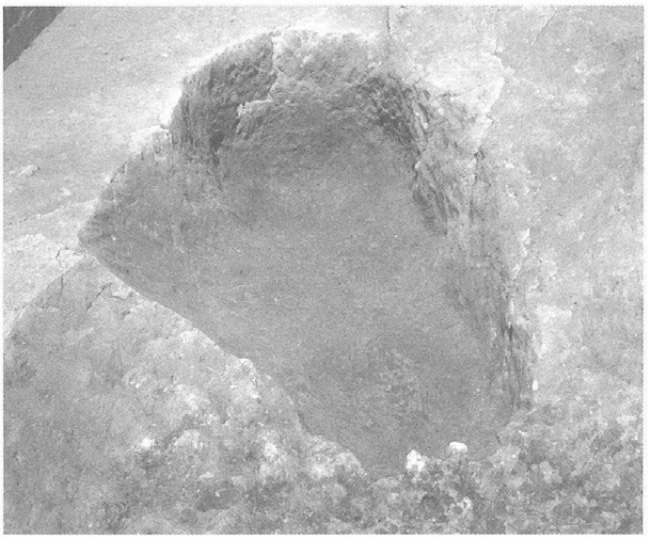
図版22　SI-36（北東から）



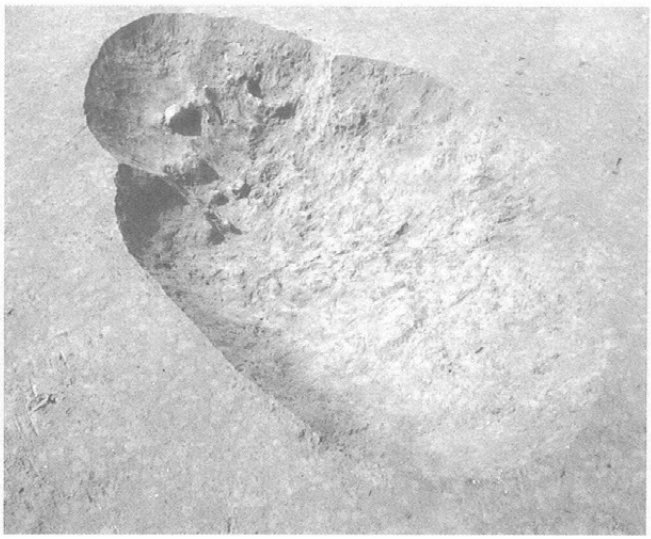
図版23　SI-49（南から）

図版24　SI-2（西から）

図版25　SI-4（北から）

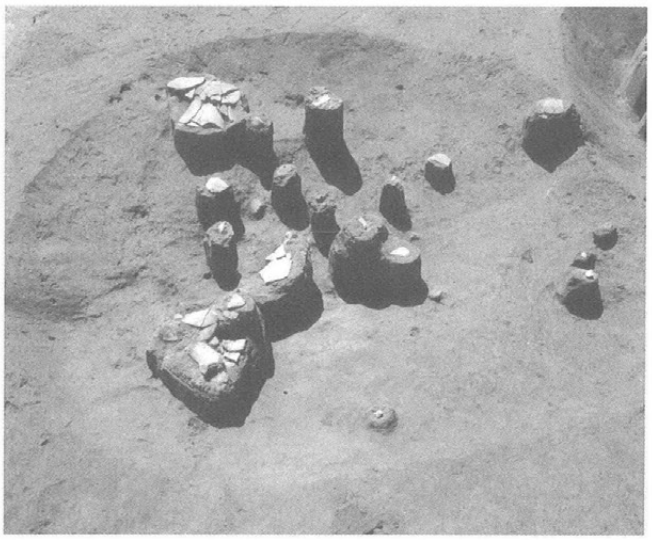


図版26　SC-13（南から）

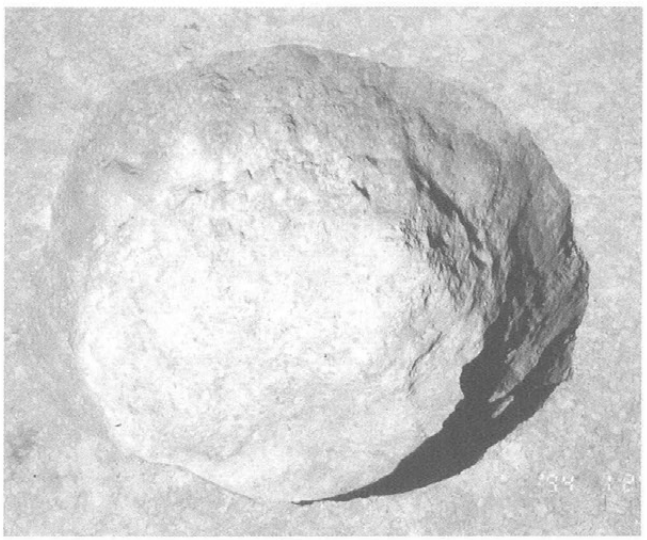


図版27　SC-11（東から）

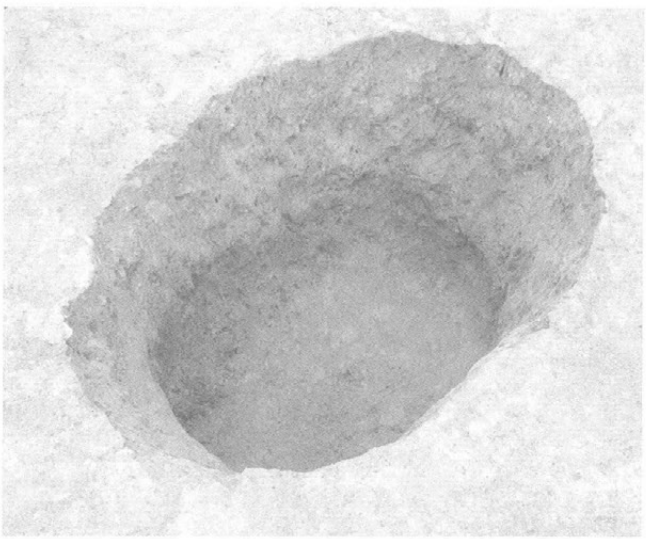
図版28　SC-14（南から）



図版29　SC-12（東から）



図版30　SC-2（北から）



図版31　SC-4（東から）

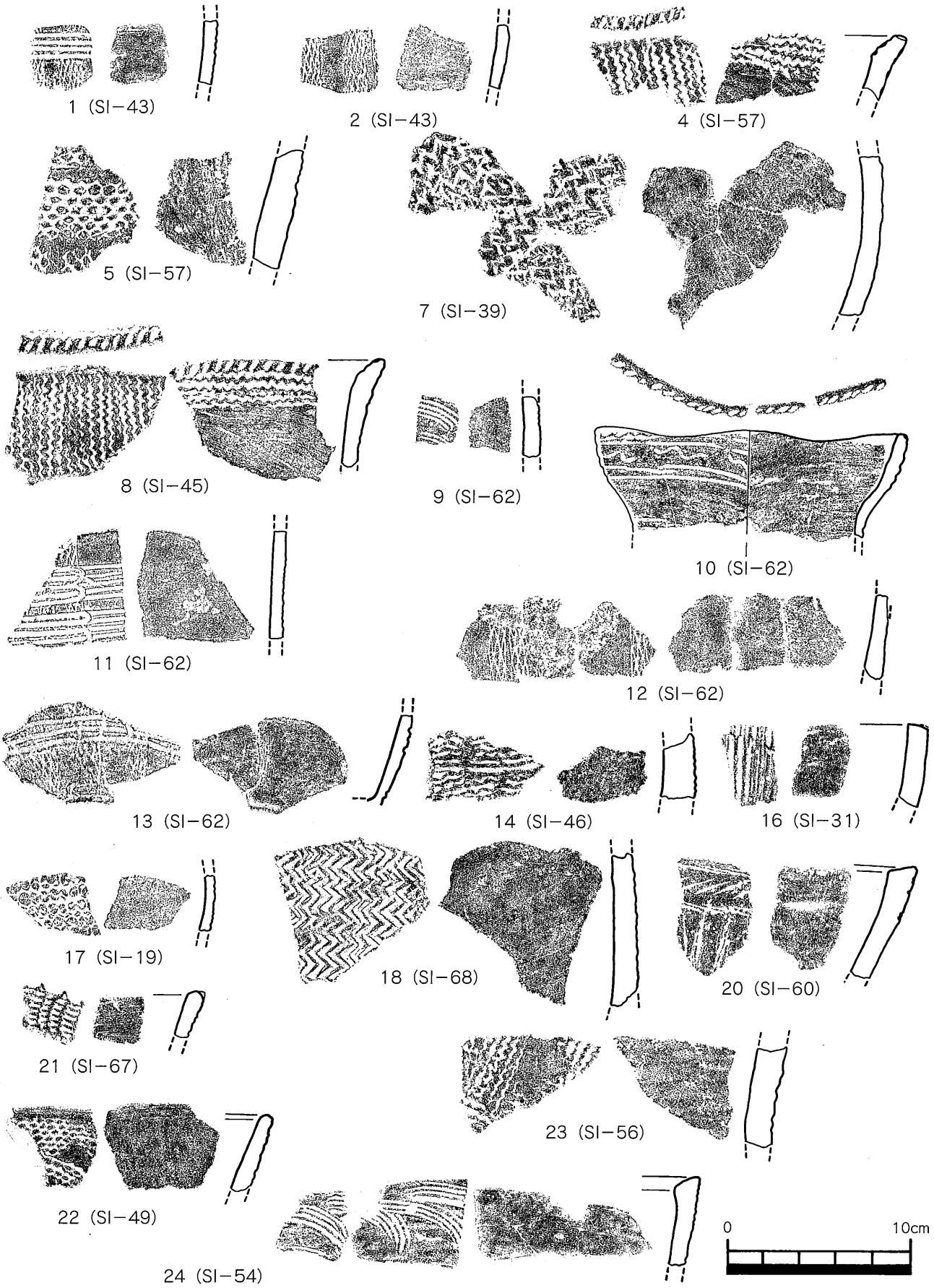
4．遺構内遺物

集石遺構（32基）から108点、炉穴（1基）から3点、土坑（3基）から13点、計124点の遺物が出土した。

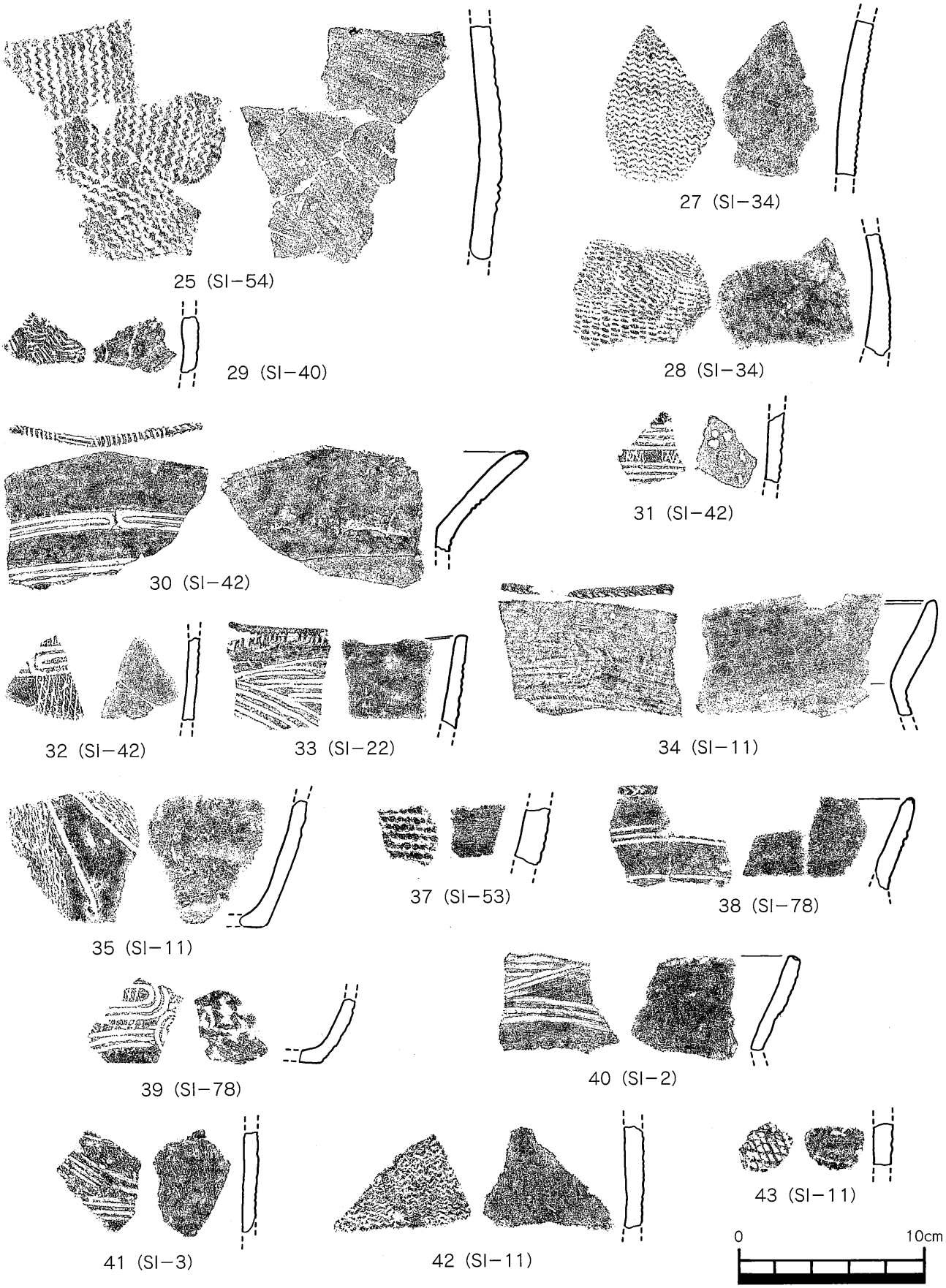
土器については、貝殻円筒系土器、押型文系土器、塞ノ神式系土器が出土しているが、遺構の使用時期を裏付けるようなものはほとんど出土していない。但し、SC-12については、撚糸文系の塞ノ神式土器片と同形式の壺が出土しており、埋土中より採取された炭化材の自然科学分析結果（7830±40年BP）とあわせて考えると興味深い資料である。

第3表　遺構内出土遺物一覧表

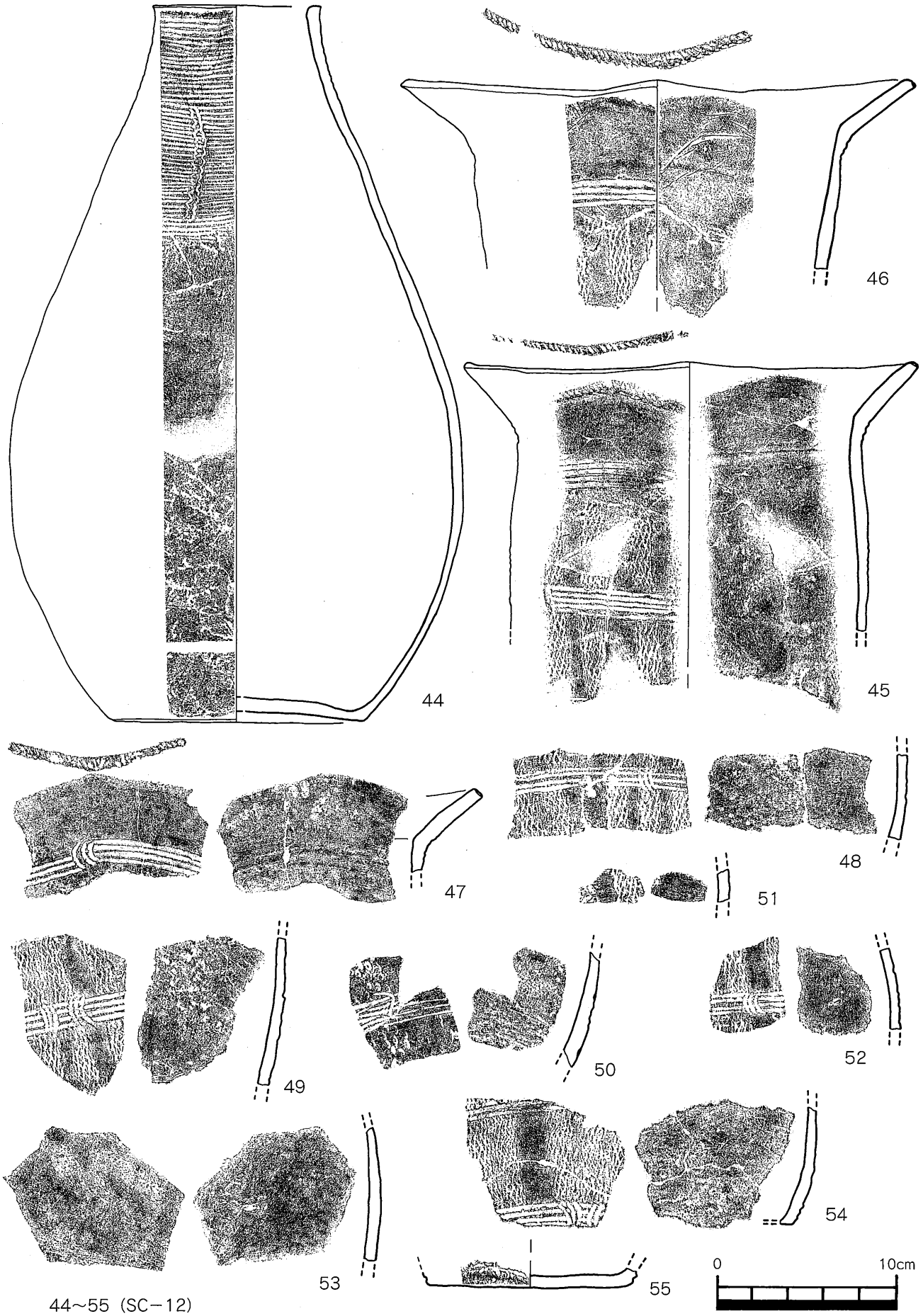
遺構番号	出土遺物 ＊（　）内は出土点数	遺物番号		備考	放射性炭素年代(年BP)
		土器	石器		
SI-73	形式不明土器（1）				9580±40
SI-43	塞ノ神式土器（3）・形式不明土器（3）	1·2			
	石鏃（1）		3	石材は砂岩	
SI-71	塞ノ神式土器（3）・形式不明土器（1）				9520±50
SI-57	押型文土器（3）	4·5			8340±40
	剥片（1）		6	石材はチャート	
SI-39	押型文土器（1）	7			
SI-45	押型文土器（1）	8			8300±40
SI-62	貝殻円筒系土器（1）・塞ノ神式土器（5）・形式不明土器（1）	9～13			8380±40
SI-46	押型文土器（1）	14			
	石核（1）・砕片（1）		15	石核の石材は流紋岩	
SI-31	貝殻円筒系土器（1）	16			
SI-19	押型文土器（1）	17			
SI-68	押型文土器（1）・塞ノ神式土器（1）・形式不明土器（1）	18			
	石鏃（1）		19	石材は黒曜石（腰岳産）	
SI-60	貝殻円筒系土器（1）	20			
SI-67	貝殻円筒系土器（1）・形式不明土器（3）	21			
SI-49	押型文土器（3）・形式不明土器（2）	22			
SI-13	形式不明土器（13）				
SI-50	砕片（1）			石材は黒曜石（桑ノ木津留産）	
SI-18	形式不明土器（1）				
SI-56	押型文土器（1）	23			
SI-54	貝殻円筒系土器（1）・押型文土器（1）	24·25			
	剥片（1）・砕片（3）		26	剥片の石材は黒曜石（桑ノ木津留産）	
SI-34	押型文土器（3）・形式不明土器（1）	27·28			
SI-40	貝殻円筒系土器（1）	29			
SI-37	形式不明土器（7）				
SI-27	形式不明土器（1）				
SI-32	形式不明土器（2）				
SI-33	形式不明土器（3）				
SI-42	塞ノ神式土器（14）	30～32			
SI-20	形式不明土器（1）				
SI-22	形式不明土器（1）	33			
SI-11	塞ノ神式土器（2）	34·35			
SI-48	石鏃（1）		36	石材は流紋岩	
SI-53	押型文土器（2）	37			
	砕片（1）			石材はチャート	
SI-78	塞ノ神式土器（2）	38·39			
SC-2	塞ノ神式土器（1）	40			
SC-3	貝殻条痕文土器（1）	41			
SC-11	押型文土器（2）	42·43			
	砕片（1）			石材はチャート	
SC-12	塞ノ神式土器《撚糸文》（11）・☆塞ノ神式土器壺	44～55			



第101図　遺構内遺物実測図①（S=1/3）

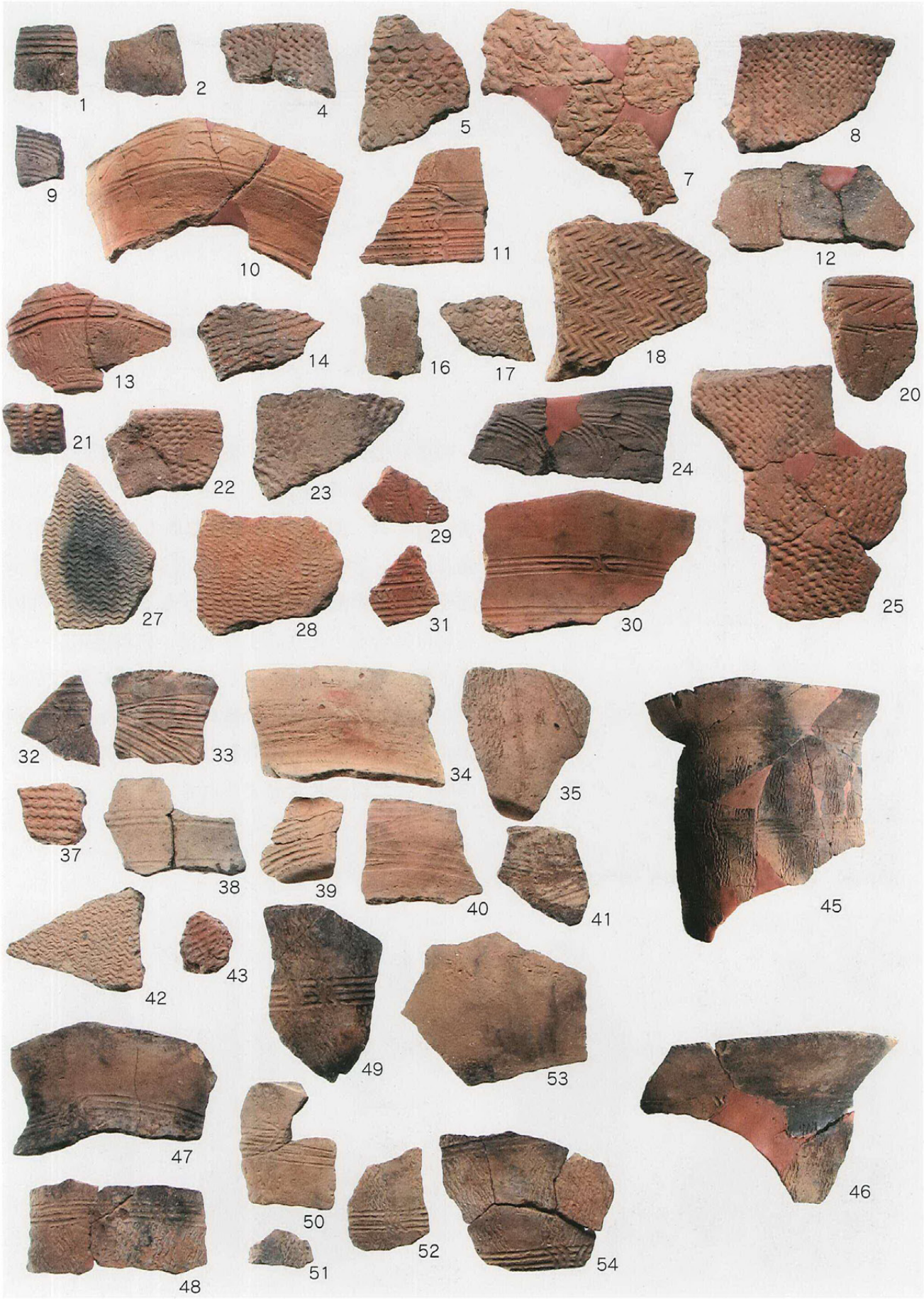


第102図　遺構内遺物実測図②（S=1/3）

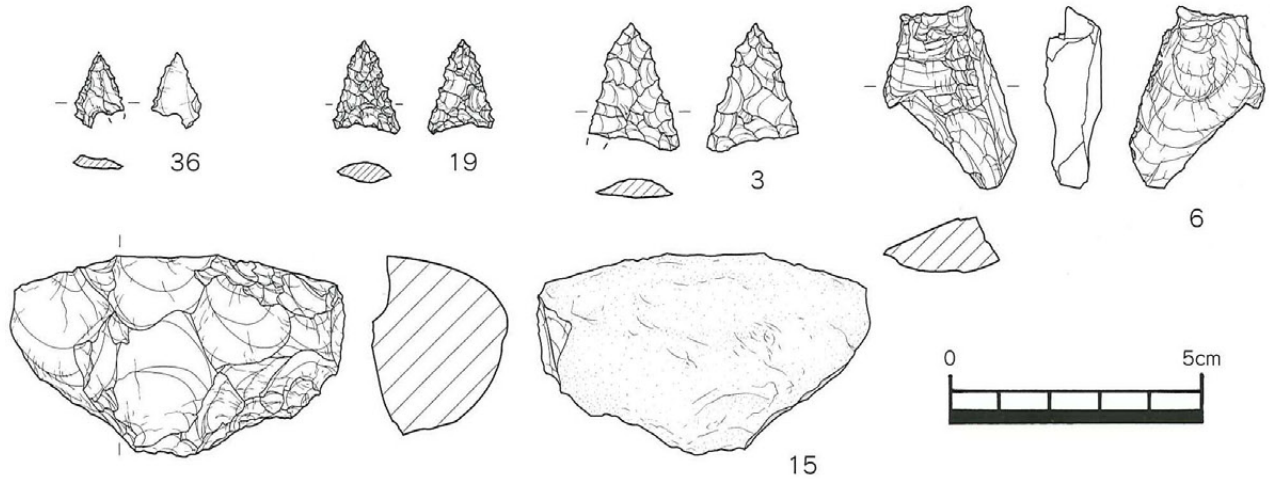


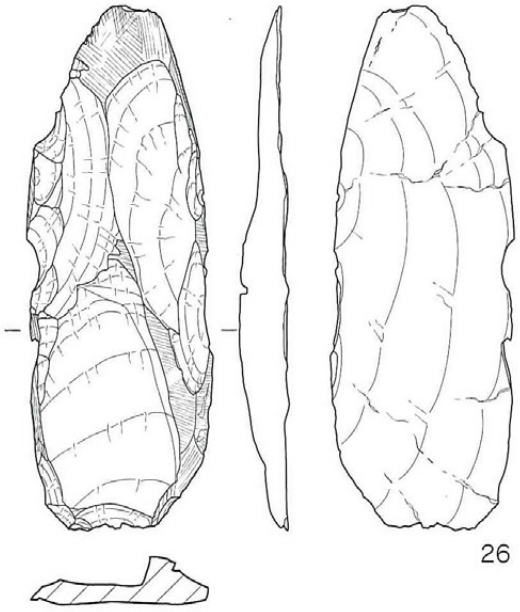
44～55（SC－12）

第103図　遺構内遺物実測図③（S＝1/3）



図版32　遺構内出土土器





石器については石鏃・剥片・砕片・石核などが集石遺構内から出土している。そのうち6点を図示した。3・19・36は石鏃である。15は石核である。6・26は剥片である。26は珪質岩製でネガ面側に研磨痕が顕著に確認される。この剥片の石材は同台地上に立地する上猪ノ原遺跡第2・3地区や国富町塚原遺跡などで磨製石斧に使用されている石材である。この資料についても研磨痕が確認されることから磨製石斧の一部または再加工の際に生じた剥片と考えられるだろう。

第104図　遺構内遺物実測図④（S=2/3）

図版33　遺構内出土石器（表面）

図版34　遺構内出土石器（裏面）

第４表　遺構内出土土器観察表

遺構No	遺物No	部位	文様及び調整		色調		胎土						胎土	遺物整理No
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	砂粒		
SI-43	1	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	○			○		○ 1mm以下		842
	2	胴部	撚糸文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/2 灰黄褐	○	○				○ 2mm以下		836
SI-57	4	口縁部	山形押型文	山形押型文	7.5YR5/3 灰オリーブ	10YR5/2 灰黄褐	○	○				○ 1mm以下	口唇部に連続キザミ	827
	5	胴部	楕円押型文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○				○ 2mm以下		826
SI-39	7	胴部	山形押型文	ナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	5YR5/2 灰褐	○	○			○	○ 2mm以下		820
SI-45	8	口縁部	山形押型文	山形押型文 ナデ(一部ケズリ)	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○		○		○ 2mm以下		823
SI-62	9	胴部	貝殻押引	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	○	○		○		○ 1mm以下		860
	10	口縁部	沈線文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○		○		○ 1mm以下	口唇部に連続キザミ	858
	11	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○		○		○ 2mm以下		837
	12	胴部	撚糸文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○				○ 3mm以下		844
	13	胴部～底部	撚糸文 沈線文	ナデ	5YR5/3 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	○	○			○	○ 2mm以下		839
SI-46	14	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR7/1 明褐灰	○	○	○			○ 4mm以下		821
SI-31	16	口縁部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐	○	○	○		○	○ 1mm以下		840
SI-19	17	胴部	楕円押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○				○ 3mm以下		841
SI-68	18	胴部	山形押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○		○		○ 5mm以下		818
SI-60	20	口縁部	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○		○ 2mm以下		824
SI-67	21	口縁部	貝殻押引文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○			○	○ 5mm以下		829
SI-49	22	口縁部	楕円押型文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐		○		○		○ 2mm以下		828
SI-56	23	胴部	山形押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○		○ 3mm以下		819
SI-54	24	口縁部	貝殻押引文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○		○ 2mm以下		843
	25	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/2 灰黄褐	○	○		○		○ 2mm以下		845
SI-34	27	胴部	山形押型文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○	○	○	○	○ 3mm以下		838
	28	胴部	楕円押型文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○		○ 3mm以下		830
SI-40	29	胴部	山形押型文	ナデ	2.5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○				○ 2mm以下		825
SI-42	30	口縁部	沈線文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	○	○				○ 2mm以下	波状口縁	268
	31	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	○	○				○ 2mm以下		834
	32	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	2.5Y4/2 暗灰黄	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○		○ 2mm以下		833
SI-22	33	口縁部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	5YR5/4 にぶい赤褐	○	○			○	○ 2mm以下		832
SI-11	34	口縁部	微隆帯(キザミ) ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○		○		○ 2mm以下		822
	35	胴部～底部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3 灰オリーブ	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○	○ 2mm以下		831
SI-53	37	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/2 灰褐	○	○		○	○	○ 2mm以下		835
SI-78	38	口縁部	沈線文 ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○		○		○ 2mm以下		856
	39	胴部～底部	沈線文 ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○				○ 2mm以下		846
SC-2	40	口縁部	沈線文 ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○		○		○ 1mm以下		855
SC-3	41	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	2.5Y5/2 暗灰黄	○	○				○ 2mm以下		851
SC-11	42	胴部	山形押型文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	2.5Y6/3 にぶい黄	○	○		○	○	○ 4mm以下		853
	43	胴部	格子目押型文	ナデ	5YR4/3 にぶい赤褐	7.5YR4/3 褐	○	○			○	○ 2mm以下		862

遺構 No	遺物 No	部位	文様及び調整 外面	文様及び調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 キンウンモ	胎土 クロウンモ	胎土 角閃石	胎土 砂粒	胎土	遺物整理 No
SC-12	44	口縁部～底部	沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○				○ 2mm以下	塞ノ神式土器の壺（残存率30%）：口縁径9.1cm 器高40.2cm 底部径13.5cm 胴部最大径25cm	308
	45	口縁部～胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○		○ 2mm以下	塞ノ神式土器の深鉢（残存率30%）：口縁径24.5cm	864
	46	口縁部～胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/2 灰褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○				○ 4mm以下	塞ノ神式土器の深鉢（残存率30%）：口縁径26.4cm 口縁部に連続キザミ目	863
	47	口縁部～頸部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○		○	○	○ 2mm以下	スス付着。波状口縁。口唇部にキザミ目。	861
	48	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○				○ 2mm以下	スス付着。	854
	49	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR4/2 灰褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○			○	○ 2mm以下	スス付着。	847
	50	胴部	沈線文 半竹管状刺突文	ケズリ	7.5YR6/3 オリーブ黄	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○	○ 2mm以下		848
	51	胴部	撚糸文	ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	10YR4/2 灰黄褐	○	○				○ 2mm以下		849
	52	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR7/1 明褐灰	2.5Y5/2 暗灰黄	○	○				○ 2mm以下		857
	53	胴部	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○	○		○ 2mm以下	スス付着。	850
	54	胴部～底部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○				○ 2mm以下	スス付着。	852
	55	底部	沈線文 ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○		○		○ 1mm以下	底部径10.4cm	859

第５表　遺構内出土遺物石器計測分類表

遺構番号	遺物 No.	整理 No.	器　種	石　材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備　考
SI-43	3	43	打製石鏃	砂岩	2.6	(1.8)	0.4	(1.3)	脚部欠損
SI-57	6	142	剥片	チャート	3.7	2.7	1.1	8.5	
SI-46	15	147	石核	流紋岩	4	6.7	2.7	73	
SI-68	19	45	打製石鏃	黒曜石(腰岳)	1.9	1.3	0.4	0.5	
SI-54	26	877	剥片	頁岩	10.55	3.65	0.9	29.4	
SI-48	36	44	打製石鏃	頁岩	1.5	(1.0)	0.3	(0.1)	脚部欠損

第３節　包含層出土遺物

１．土　器

出土土器については、以下の５類に分類し述べていくこととする。

Ⅰ類‥貝殻文系土器（ａ．貝殻円筒系土器　ｂ．下剥峯式土器　ｃ．桑ノ丸式土器）

Ⅱ類‥押型文土器（ａ．山形文　ｂ．楕円文　ｃ．格子目文　ｄ．手向山式土器）

Ⅲ類‥平栫式土器

Ⅳ類‥塞ノ神式土器（ａ．壺　ｂ．撚糸文　ｃ．貝殻文　ｄ．その他）

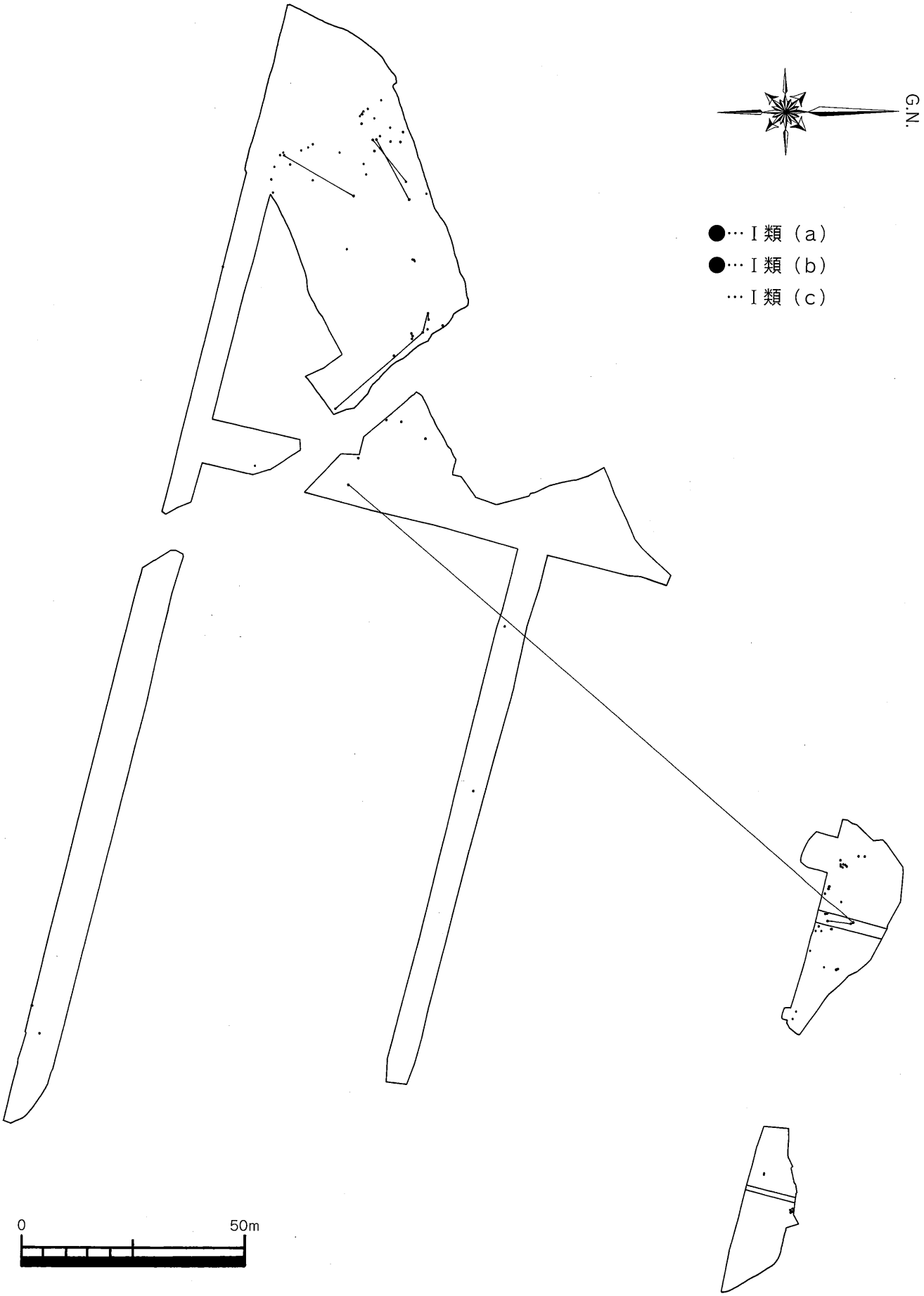
Ⅴ類‥貝殻条痕文土器

Ⅰ類（貝殻文系土器）

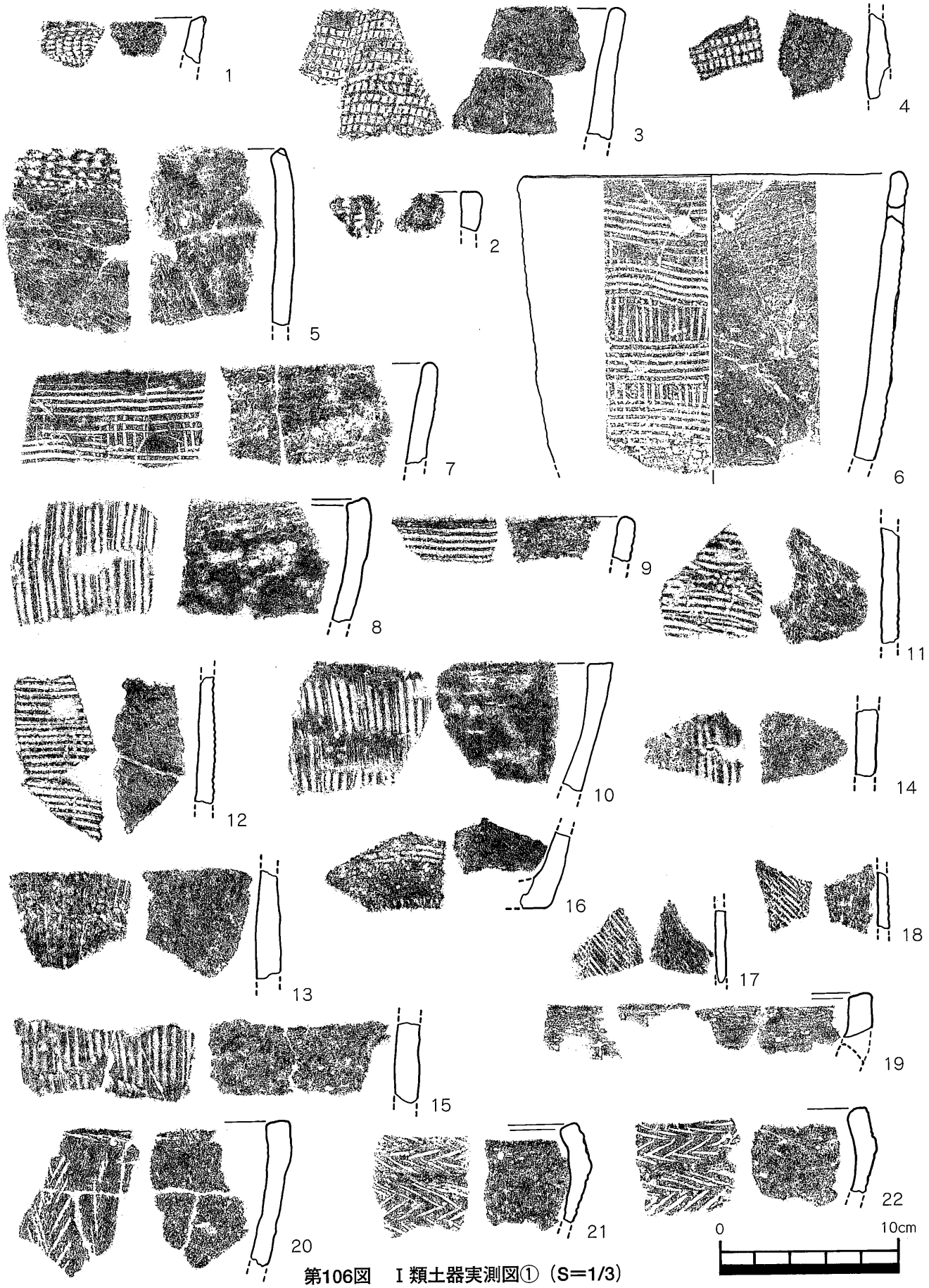
当遺跡では146点の貝殻文系土器が出土したが、今回はそのうち35点を資料化している。１は口唇部に平坦面を作りその外面に指圧によるキザミ目を施し、口縁部外面には貝殻押引文を施す。２は口唇部に平坦面を作りその外面にはキザミ目を施し、口縁部外面には貝殻腹縁押引文を施す。３・４はいずれも胴部の小破片で、胴部外面に横位の貝殻押引文を施す。５については口唇部に内面にやや斜行する平坦面を作り出し、その外面にはキザミ目を施す。又、やや内湾する口縁部外面には貝殻刺突文を施し、胴部外面については横位の貝殻条痕文を施した後ナデ調整によって仕上げている。６～16については、口縁部外面から胴部外面にかけて横位もしくは縦位又は両位の貝殻条痕文を施す土器群で、６～10は口縁部、11～15は胴部、16は底部である。口唇部についてはいずれも平坦面を作り出していて、器形については６以外は小破片のため断定はしにくいが、そのほとんどは底部からほぼ直立する円筒形であると思われる。17・18については、斜位に貝殻条痕文を施した後、縦位の貝殻刺突文を施した胴部の小破片で、器形については円筒形である。（以上をⅠ類ａとする。）

19～25については、貝殻刺突文をＶ字状に施した土器群である。１９は口唇部にやや内面に斜行する平坦面をつくり、口縁部外面に横位の貝殻刺突文を施している。20は口唇部に平坦面をつくり、口縁部外面には縦位の貝殻刺突文を施している。21・22については、いずれも口唇部に平坦面を作り、口縁部外面に貝殻刺突文を施しており、又、口縁部外面には三角形状の瘤状突起が貼り付けられている。23・24についてはいずれも胴部の小破片であるが、23は胴部外面に横位の貝殻刺突文、24は胴部外面に縦位の貝殻刺突文が施されている。25は胴部外面に横位の貝殻刺突文のほか、縦位のハの字状短沈線文が施されている。（以上をⅠ類ｂとする。）

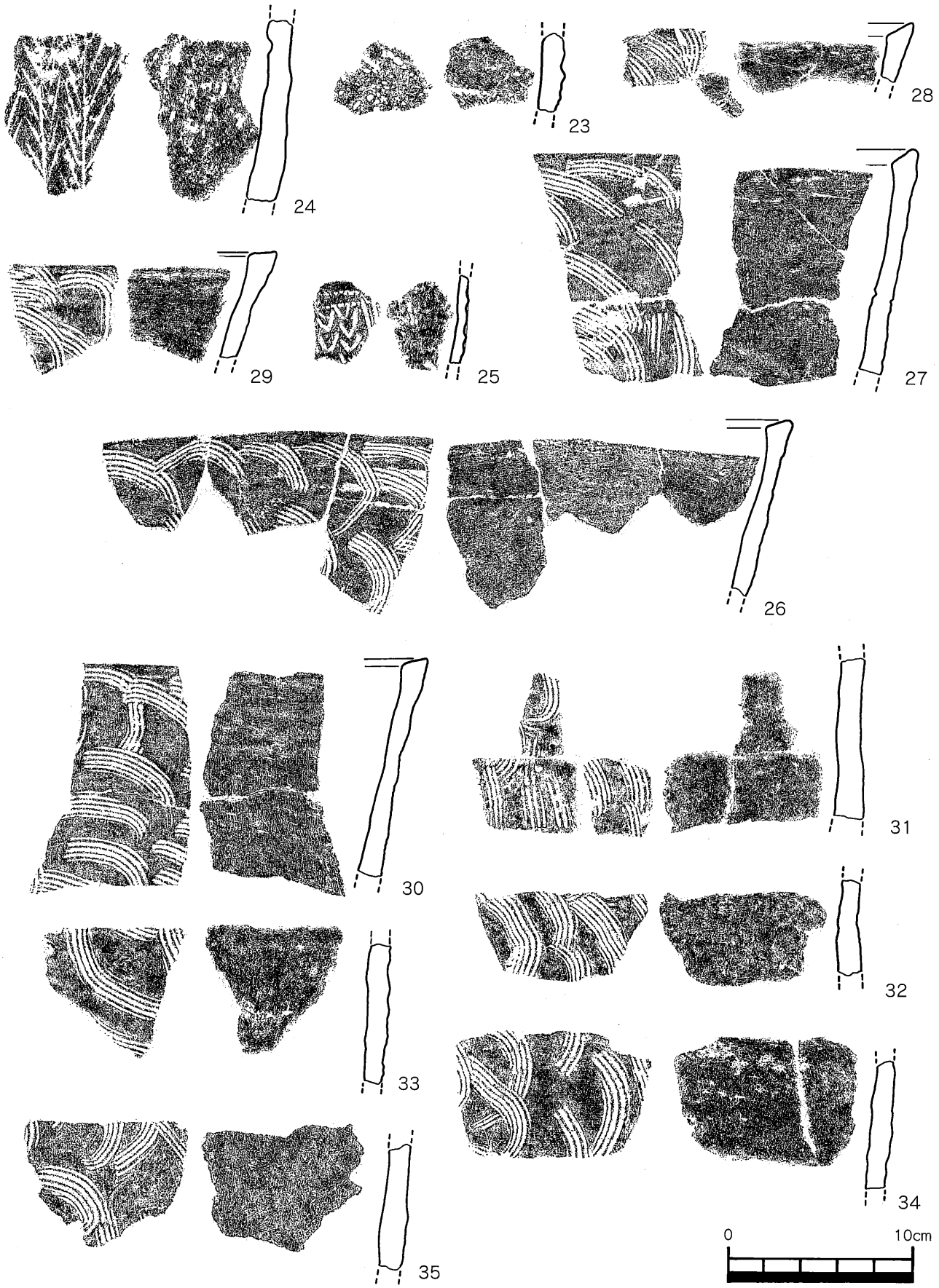
26～35については貝殻条痕による羽状文が施された土器群である。26～30についてはいずれも口唇部へ内面にやや斜行する平坦面を作りだしており、口縁部外面には貝殻条痕による羽状文が施されている。31～35については胴部の小破片で、いずれも26～30同様貝殻条痕による羽状文が施されている。（以上をⅠ類ｃとする。）



第105図　縄文時代早期遺物包含層出土土器（Ⅰ類）分布図（S=1/1,200）



第106図　Ⅰ類土器実測図①（S=1/3）



第107図　Ⅰ類土器実測図②（S=1/3）

第6表　Ⅰ類土器観察表

遺構No	出土層位	部位	文様及び調整		色調		胎土					備考	遺物整理No
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	砂粒		
1	Ⅵ層	口縁	貝殻押引文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 1mm以下	口縁部に連続キザミ	593
2	Ⅵ層	口縁	貝殻押引文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 2.5mm以下		594
3	Ⅵ層	口縁	貝殻押引文	ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	10YR5/2 灰黄褐	○	○		○	○ 5mm以下		655
4	Ⅵ層	胴部	貝殻押引文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○		○	○ 5mm以下		659
5	Ⅵ層	口縁	貝殻刺突文	ナデ	2.5Y4/2 暗灰黄	10YR5/2 灰黄褐			○		○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	601
6	Ⅵ層	口縁～胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR6/2 灰褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○		○	○ 4mm以下	穿孔あり	265
7	Ⅵ層	口縁	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○		○	○ 5mm以下		602
8	Ⅵ層	口縁	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○		○ 3mm以下		600
9	Ⅵ層	口縁	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい赤褐	○	○		○	○ 2mm以下		599
10	Ⅴ層	口縁	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/2灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐			○	○	○ 4mm以下		588
11	Ⅵ層	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○			○ 2mm以下		590
12	Ⅴ・Ⅵ層	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○		○	○ 3mm以下		589
13	Ⅵ層	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○	○		○ 3mm以下		597
14	Ⅵ層	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y5/3 黄褐	○	○	○		○ 3mm以下		596
15	Ⅵ層	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y5/3 黄褐	○	○	○		○ 2mm以下		595
16	Ⅵ層	胴部～底部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR4/2 灰褐	○	○			○ 2mm以下		598
17	Ⅵ層	胴部	貝殻条痕文 貝殻刺突文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 1mm以下		592
18	Ⅵ層	胴部	貝殻条痕文 貝殻刺突文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 1mm以下		591
19	Ⅵ層	口縁	貝殻刺突文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/3 にぶい褐		○	○		○ 3mm以下	穿孔あり	378
20	Ⅵ層	口縁	貝殻刺突文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	5YR5/3 にぶい赤褐					○ 3mm以下		380
21	Ⅴ層	口縁	貝殻刺突文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR4/6 褐	○	○		○	○ 2mm以下		375
22	Ⅵ層	口縁	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR4/3 褐	○				○ 6mm以下		262
23	Ⅵ層	胴部	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/2 灰黄褐	○	○	○		○ 3mm以下		377
24	Ⅵ層	胴部	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○	○		○ 3mm以下		381
25	Ⅵ層	胴部	貝殻刺突文 短沈線文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐		○	○		○ 3mm以下		379
26	Ⅵ層	口縁～胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○	○ 6mm以下		374
27	Ⅵ層	口縁～胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR7/2 明褐灰	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 3mm以下		367
28	Ⅵ層	口縁	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 3mm以下		365
29	Ⅵ層	口縁	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下		370
30	Ⅵ層	口縁	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 1cm以下		264
31	Ⅵ層	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐					○ 2mm以下		366
32	Ⅵ層	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下		368
33	Ⅵ層	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 3mm以下		369
34	Ⅵ層	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR4/2 灰褐	○	○			○ 3mm以下		372
35	Ⅵ層	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/2 灰黄褐	○	○			○ 2mm以下		373

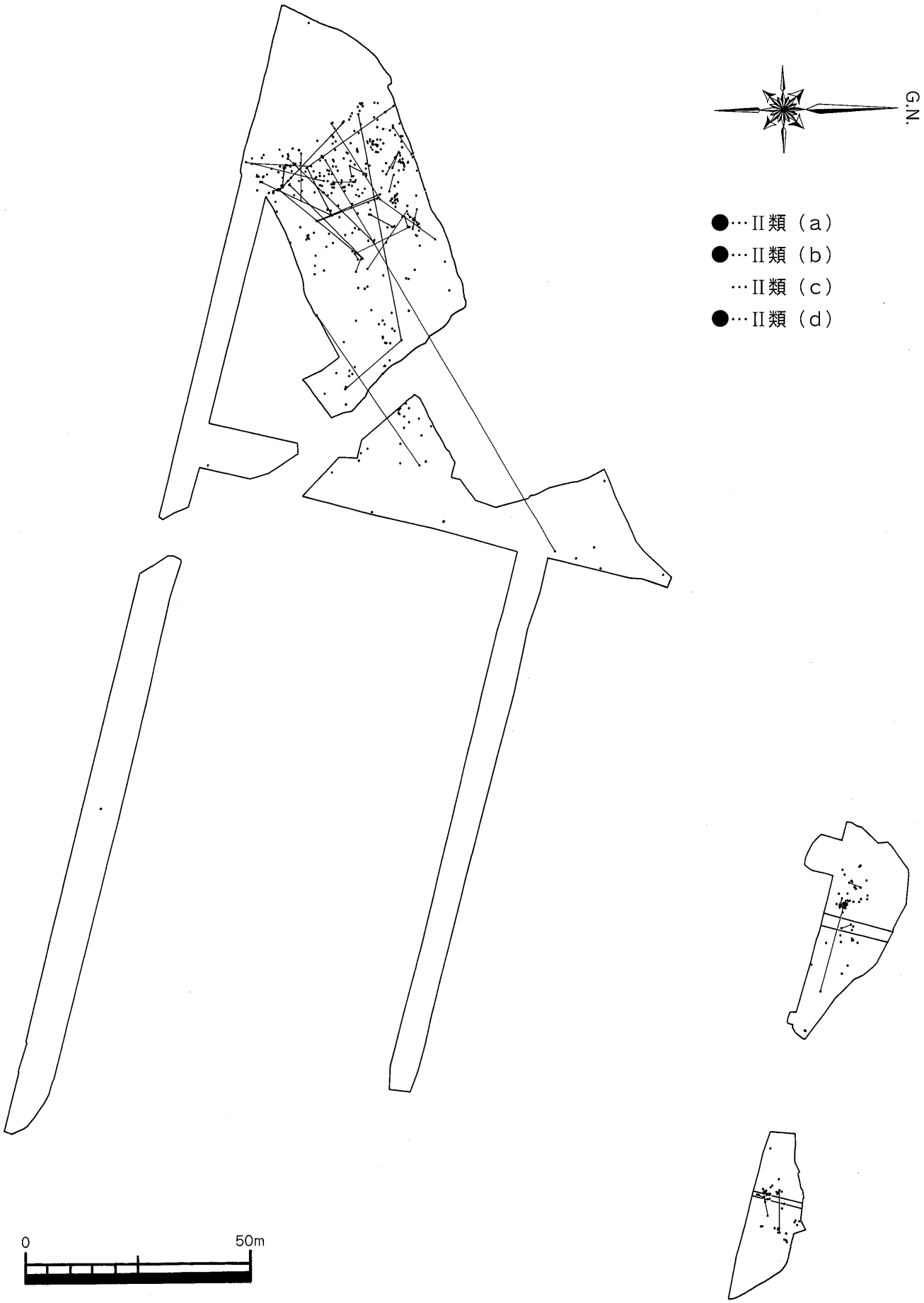
II類（押型文土器）

当遺跡では607点の押型文土器が出土したが、今回はそのうち65点を資料化している。36～57については山形押型文土器である。36～45については施文に類似した傾向がみられ、36～42が口縁部で43～45が胴部である。36～38については口唇部を丸くおさめ、口縁部外面に横位の山形押型文を施している。39～41は口唇部に内面へやや斜行する平坦面を作り出し、その平坦面に山形押型文を施し、又、口縁部外面には縦位の山形押型文を施している。42は口唇部を丸めにおさめ、口縁部外面に斜位の山形押型文を施している。43は胴部外面に横位、44･45は胴部外面に縦位の山形押型文を施している。46～48については、他の山形押型文土器と比較して大きめの施文が特徴である。いずれも口縁部がラッパ状に開き、ラッパ状に開いた口縁部内面には横位の山形押型文を施している。又、口唇部は丸くおさめており、口縁部外面は46･47が縦位、48が横位の山形押型文を施している。49･50は口唇部に平坦面を作り出し、口縁部外面には横位の山形押型文を施している。51･52は口縁部がやや外反し、その外反した部分の口縁部内面に横位の山形押型文を施している。又、いずれも口唇部に平坦面を作り出した後、その平坦面にキザミ目を施している。口縁部外面についてはいずれも縦位の山形押型文を施しているが、施文はやや丸みを帯びている。53は胴部外面に斜位の山形押型文を施している。54～57はやや外反する口縁部内面に横位の山形押型文が施してあり、54･55は平らに作り出された口唇部に横位の山形押型文を施している。（以上をII類ａとする。）

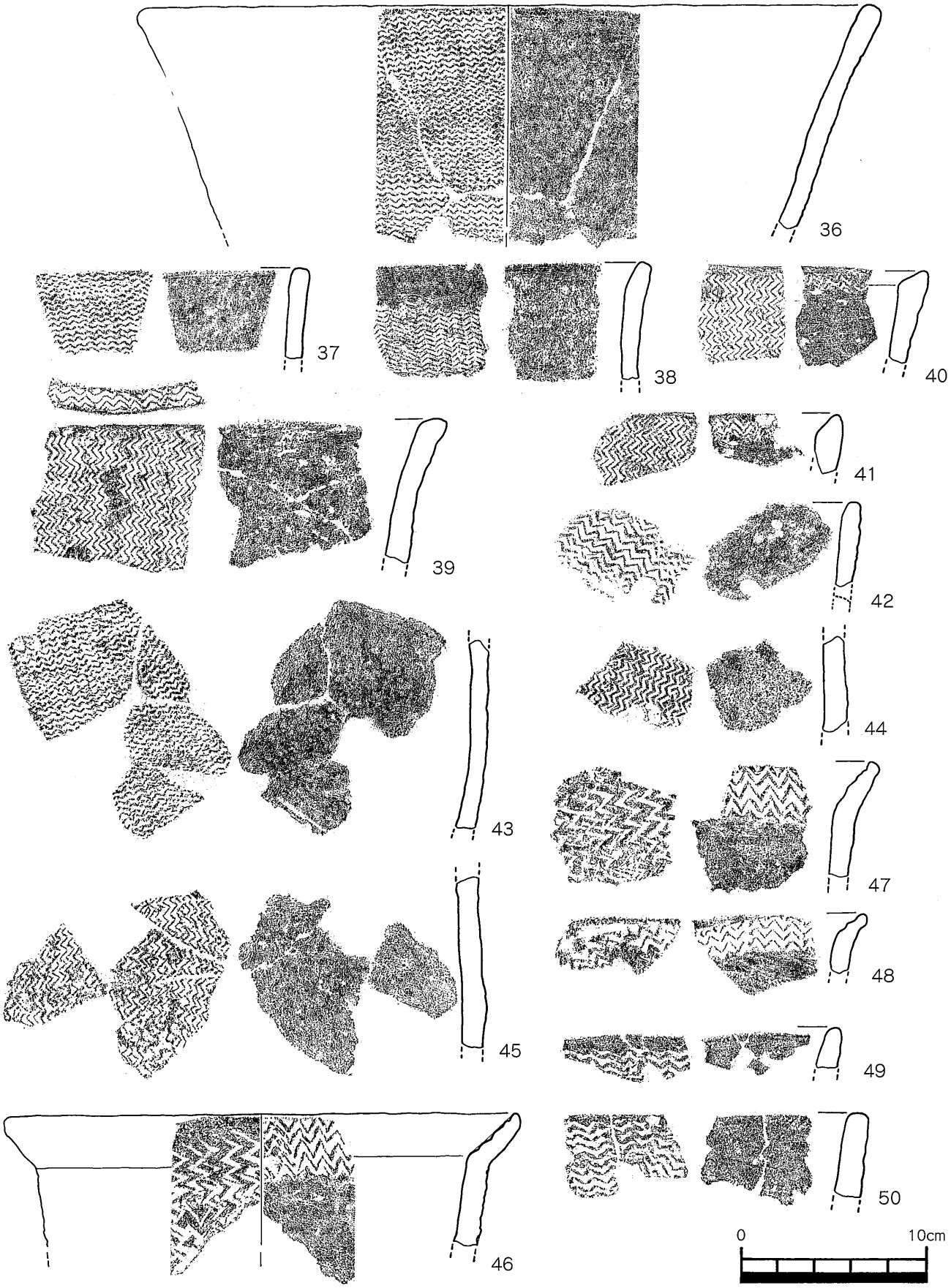
58～80については楕円押型文土器である。58～65は口縁部であるが、58のみがやや外反ししている。口唇部については、58～61は平坦面を作り出しており、62～65は丸くおさめている。尚、58･61については、口唇部平坦面にキザミ目を施している。施文については、口縁部外面及び内面いずれにも斜位と横位の施文がみられるが、62の口縁部内面については、横位の楕円押型文施文後、縦位の貝殻条痕文を施している。66～78は胴部であるが、胴部外面の施文については斜位･横位･縦位いずれもみられる。なかでも78については、口縁部に向けてやや外反しはじめる部位で、縦位と横位の楕円押型文がいずれも施文されている。尚、75については、内面に横位の楕円押型文が施してあるため、口縁部付近であることが推定される。79･80は底部で、80については平底である。又、79は外面に横位と縦位、80は横位の楕円押型文を施している。（以上をII類ｂとする。）

81～83については格子目押型文の胴部である。いずれも胴部外面に格子目押型文を施しているが、82･83については楕円押型文もあわせて施している。（以上をII類ｃとする。）

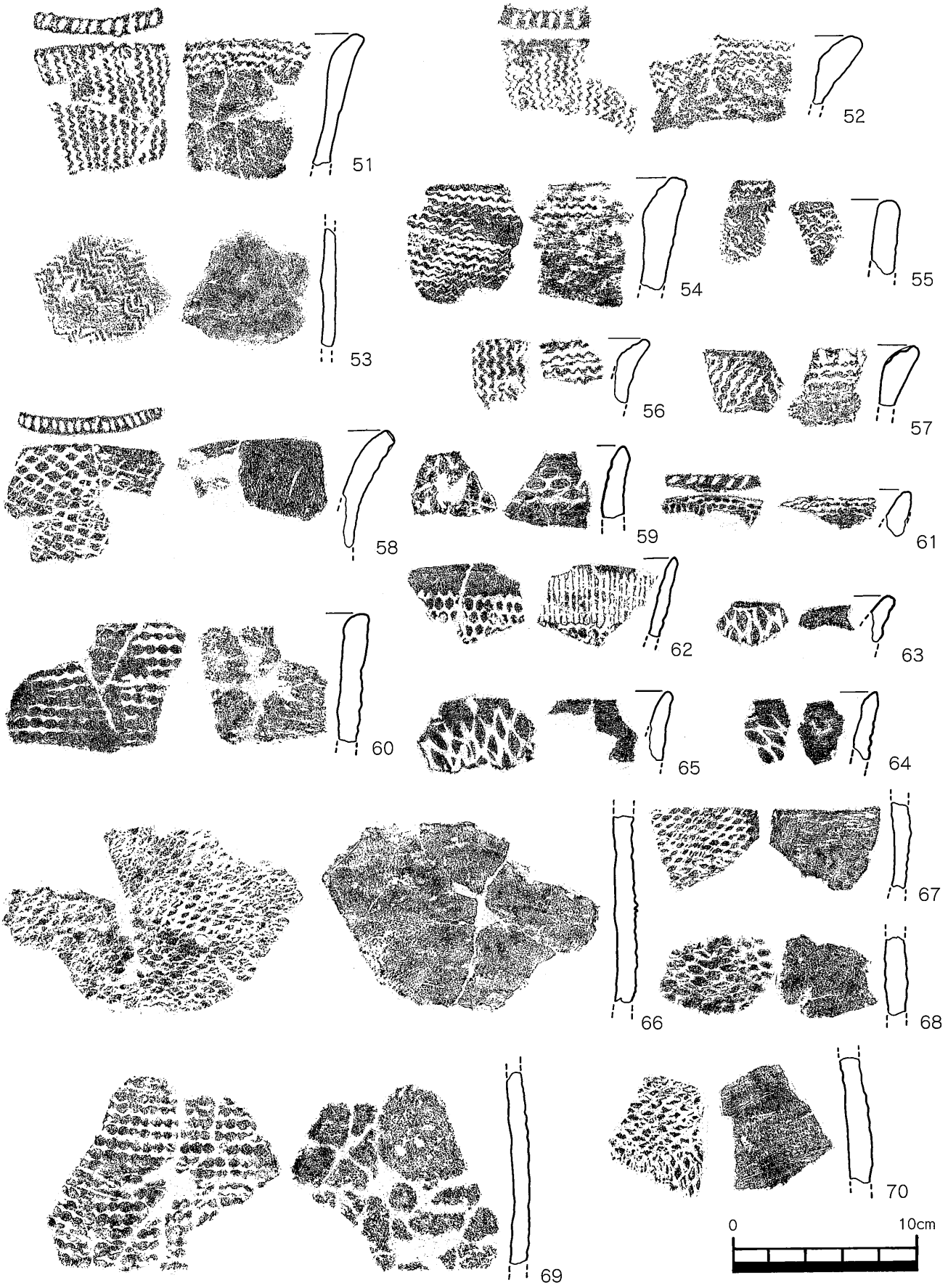
84～86については、胴部外面に菱形押型文を施している。又、87～100は山形押型文の地文の上に沈線文を施しているが、屈曲した胴部から推測すると、84～86同様手向山式土器であると考えられる。（以上をII類ｄとする。）



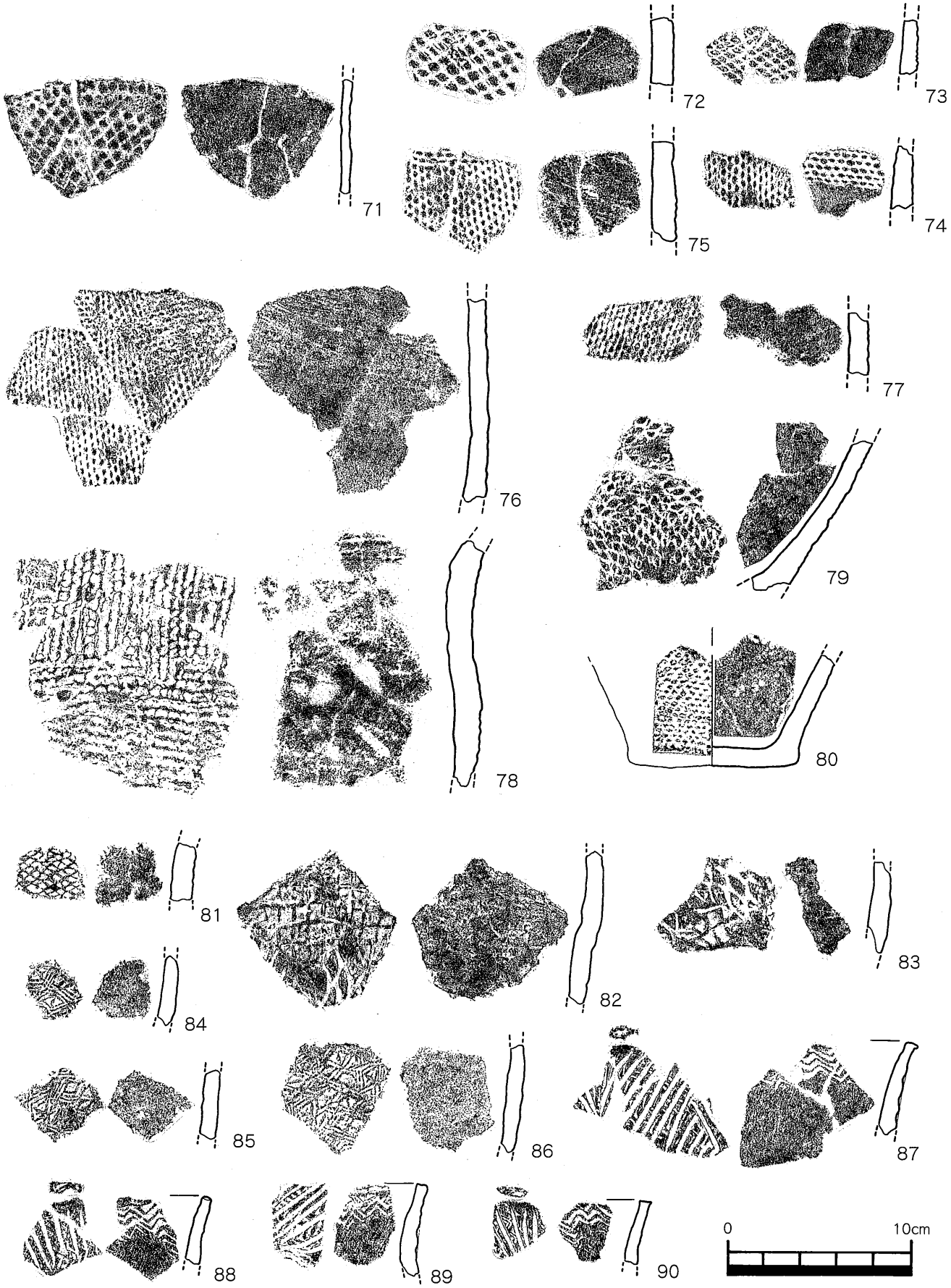
第108図　縄文時代早期遺物包含層出土土器（Ⅱ類）分布図（S=1/1,200）



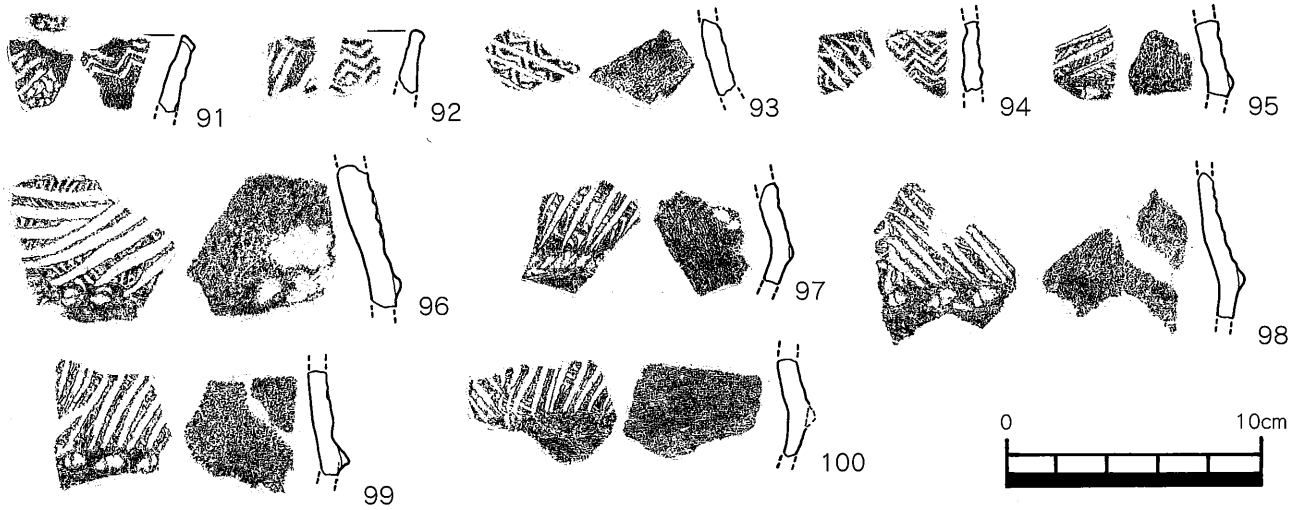
第109図　Ⅱ類土器実測図①（S＝1/3）



第110図　Ⅱ類土器実測図②（S=1/3）



第111図　Ⅱ類土器実測図③（S=1/3）



第112図　Ⅱ類土器実測図④（S＝1/3）

第７表　Ⅱ類土器観察表

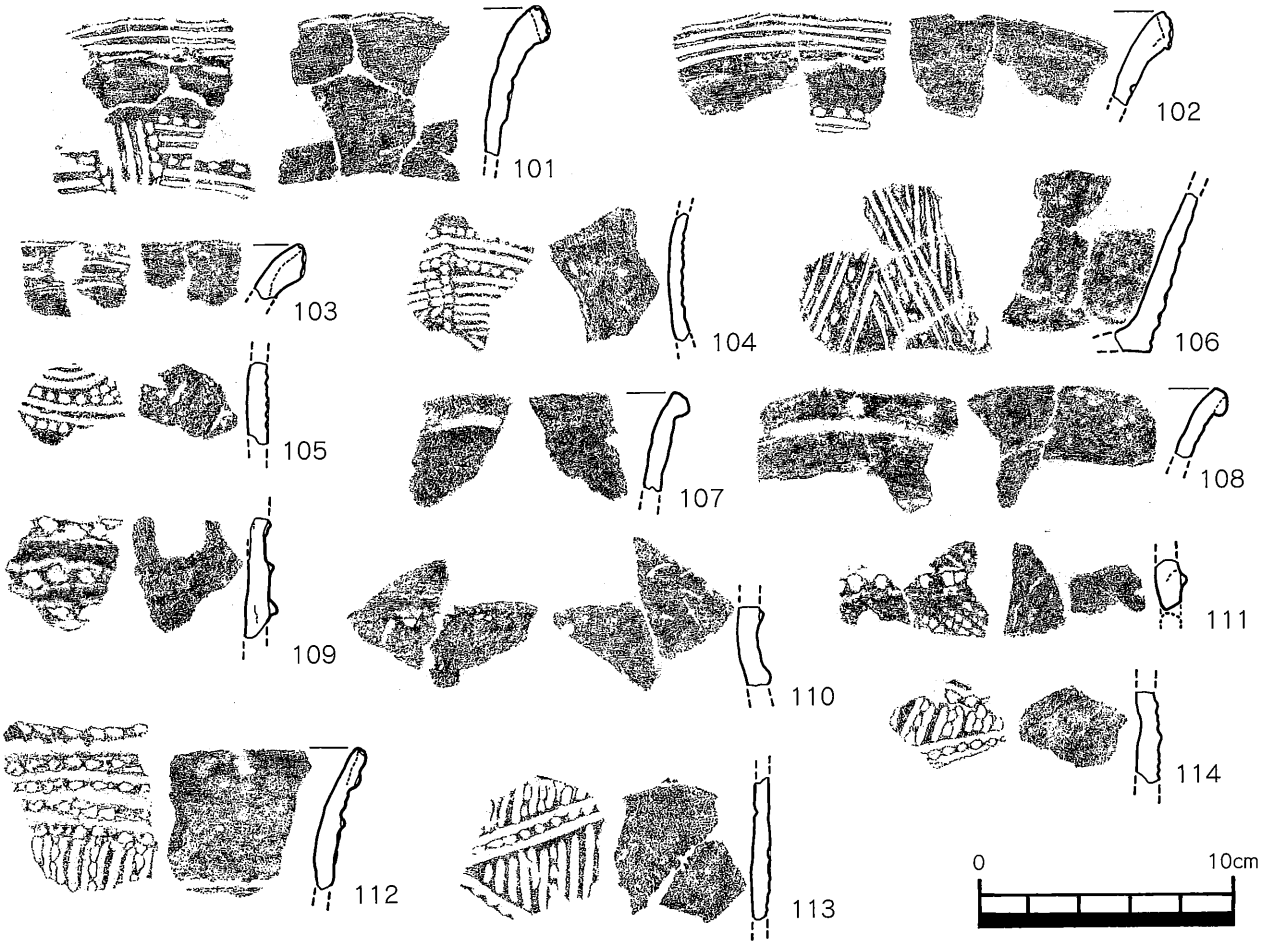
遺構No	出土層位	部位	文様及び調整 外面	文様及び調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 キンウンモ	胎土 クロウンモ	胎土 砂粒	備考	遺物整理No
36	Ⅵ層	口縁	山形押型文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○	○ 5mm以下		759
37	Ⅵ層	口縁	山形押型文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙				○	○ 5mm以下		755
38	Ⅵ層	口縁	山形押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○	○ 3mm以下		754
39	Ⅵ層	口縁	山形押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○				○ 4mm以下	口唇部に山形押型文	261
40	Ⅵ層	口縁	山形押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR4/3 褐	○	○			○ 3mm以下	口唇部に山形押型文	748
41	Ⅵ層	口縁	山形押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙				○	○ 4mm以下	口唇部に山形押型文	747
42	Ⅵ層	口縁	山形押型文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○		○	○ 3mm以下	穿孔あり	742
43	Ⅴ･Ⅵ層	胴部	山形押型文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y5/2 灰黄褐	○			○	○ 5mm以下		757
44	Ⅵ層	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/2 灰黄褐	○	○			○ 3mm以下		753
45	Ⅴ･Ⅵ層	胴部	山形押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐	○	○			○ 3mm以下		756
46	Ⅵ層	口縁～頸部	山形押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○	○ 3mm以下	口唇部に山形押型文	758
47	Ⅵ層	口縁	山形押型文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○	○ 3mm以下	口唇部に山形押型文	749
48	Ⅵ層	口縁	山形押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 4mm以下	口唇部に山形押型文	741
49	Ⅵ層	口縁	山形押型文	ナデ	7.5YR6/2 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙		○		○	○ 1mm以下		750
50	Ⅵ層	口縁	山形押型文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/4 にぶい黄橙		○		○	○ 3mm以下		751
51	Ⅵ層	口縁	山形押型文	山形押型文 ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙				○	○ 3mm以下	口唇部にキザミ	739
52	Ⅵ層	口縁	山形押型文	山形押型文 ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/3 にぶい黄褐			○		○ 2mm以下	口唇部にキザミ	745
53	Ⅴ層	胴部	山形押型文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	2.5YR5/2 灰赤	○	○			○ 3mm以下		752
54	Ⅵ層	口縁	山形押型文	山形押型文 ナデ	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR4/3 褐			○		○ 2mm以下		743
55	Ⅵ層	口縁	山形押型文	(楕円押型文)	5YR5/3 にぶい赤褐	5YR4/3 にぶい赤褐			○		○ 2mm以下	口唇部に山形押型文	740
56	Ⅵ層	口縁	山形押型文	山形押型文 ナデ	5YR4/3 にぶい赤褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○			○ 2mm以下		746
57	Ⅵ層	口縁	山形押型文	山形押型文 ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○	○ 2mm以下	口唇部にキザミ	744
58	Ⅵ層	口縁～胴部	楕円押型文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐		○			○ 3mm以下	口唇部にキザミ	346
59	Ⅵ層	口縁	楕円押型文	楕円押型文	2.5Y4/1 黄灰	10YR5/2 灰黄褐	○				○ 4mm以下		342
60	Ⅴ層	口縁	楕円押型文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○		○	○ 5mm以下		357

遺構No	出土層位	部位	文様及び調整 外面	文様及び調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 キンウンモ	胎土 クロウンモ	胎土 砂粒	備考	遺物整理No
61	Ⅴ層	口縁	楕円押型文	楕円押型文	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○		○ 4mm以下	口唇部にキザミ	354
62	Ⅵ層	口縁	楕円押型文	楕円押型文 沈線文	10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y5/2 暗灰黄	○	○			○ 3mm以下		349
63	Ⅵ層	口縁	楕円押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐		○			○ 4mm以下		344
64	Ⅴ層	口縁	楕円押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y4/1 黄灰					○ 4mm以下		345
65	Ⅴ層	口縁	楕円押型文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR4/2 灰黄褐					○ 4mm以下		355
66	Ⅴ・Ⅵ層	胴部	楕円押型文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○	○ 8mm以下		364
67	Ⅵ層	胴部	楕円押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y5/2 暗灰黄	○	○		○	○ 2mm以下		352
68	Ⅵ層	胴部	楕円押型文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR4/3 褐	○	○		○	○ 4mm以下		351
69	Ⅴ層	胴部	楕円押型文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR4/2 灰褐	○	○		○	○ 4mm以下		359
70	Ⅴ層	胴部	楕円押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○		○	○ 5mm以下		348
71	Ⅵ層	胴部	楕円押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙		○			○ 5mm以下		356
72	Ⅵ層	胴部	楕円押型文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR4/2 灰黄褐	○	○			○ 2mm以下		358
73	Ⅵ層	胴部	楕円押型文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐		○		○	○ 3mm以下		343
74	Ⅵ層	胴部	楕円押型文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○			○ 3mm以下		350
75	Ⅵ層	胴部	楕円押型文	楕円押型文	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○	○ 3mm以下		353
76	Ⅵ層	胴部	楕円押型文	ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR7/1 明褐灰	○	○		○	○ 3mm以下		362
77	Ⅴ層	胴部	楕円押型文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR4/3 褐	○	○		○	○ 4mm以下		347
78	Ⅵ層	胴部	楕円押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y5/2 暗灰黄	○	○			○ 4mm以下		363
79	Ⅵ層	胴部	楕円押型文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○			○ 3mm以下		361
80	Ⅵ層	底部	楕円押型文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○		○	○ 6mm以下		360
81	Ⅴ層	胴部	格子目押型文	ナデ	5YR4/4 にぶい赤褐	5YR4/4 にぶい赤褐	○				○ 5mm以下		657
82	Ⅴ層	胴部	格子目押型文 楕円押型文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR4/2 灰黄褐		○			○ 5mm以下		656
83	Ⅴ層	胴部	格子目押型文 楕円押型文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR4/2 灰黄褐		○			○ 3mm以下		658
84	Ⅵ層	胴部	菱形押型文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐		○	○		○ 2mm以下		652
85	Ⅴ層	胴部	菱形押型文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐		○	○		○ 2mm以下		653
86	Ⅵ層	胴部	菱形押型文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐		○	○		○ 3mm以下		654
87	Ⅴ・Ⅵ層	口縁	山形押型文 沈線文	山形押型文	10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y5/2 暗灰黄	○	○			○ 2mm以下	口唇部に山形押型文	705
88	Ⅴ層	口縁	山形押型文 沈線文	山形押型文	10YR5/2 灰黄褐	2.5Y5/2 暗灰黄	○	○			○ 2.5mm以下	口唇部に山形押型文	706
89	Ⅴ層	口縁	山形押型文 沈線文	山形押型文	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	○				○ 3mm以下		702
90	Ⅴ層	口縁	山形押型文 沈線文	山形押型文	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	○				○ 2mm以下	口唇部に山形押型文	704
91	Ⅴ層	口縁	山形押型文 沈線文	山形押型文	2.5Y5/2 暗灰黄	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○			○ 3.5mm以下	口唇部に山形押型文	707
92	Ⅴ層	口縁	山形押型文 沈線文	山形押型文	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐	○				○ 2mm以下	口唇部に山形押型文	703
93	Ⅴ層	胴部	山形押型文 沈線文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	22.5Y5/2 暗灰黄		○			○ 5mm以下		713
94	Ⅵ層	胴部	山形押型文 沈線文	山形押型文	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙					○ 2mm以下		714
95	Ⅵ層	胴部屈曲部	山形押型文 沈線文	ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄	○				○ 2mm以下	貼付突帯に山形の押さえ	708
96	Ⅴ層	胴部屈曲部	山形押型文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○			○ 5mm以下	貼付突帯に山形の押さえ	709
97	Ⅴ層	胴部屈曲部	山形押型文 沈線文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y4/2 暗灰黄	○	○			○ 1.5mm以下	貼付突帯に山形の押さえ	710
98	Ⅴ層	胴部屈曲部	山形押型文 沈線文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	○	○			○ 1mm以下	貼付突帯に山形の押さえ	711
99	Ⅴ層	胴部屈曲部	山形押型文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y5/2 暗灰黄	○	○			○ 1.5mm以下	貼付突帯に山形の押さえ	712
100	Ⅴ層	胴部屈曲部	山形押型文 沈線文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	○				○ 2mm以下	貼付突帯（剥離著しい）	715

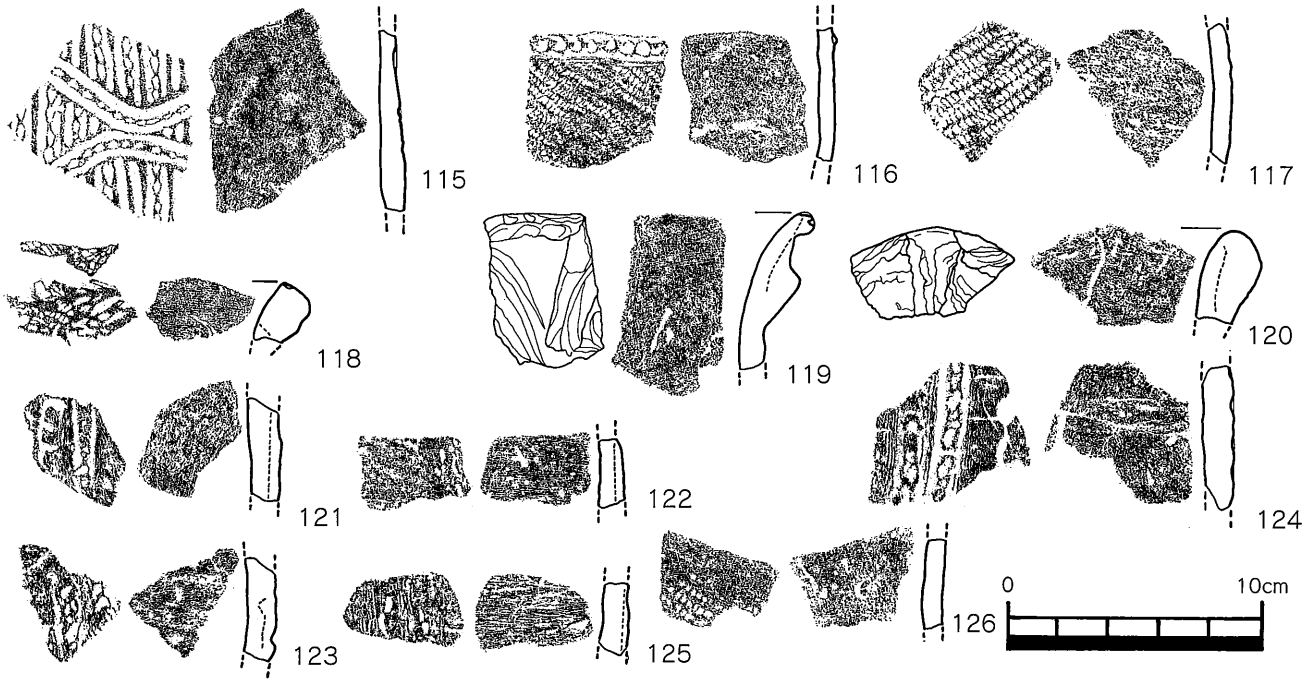
Ⅲ類（平栫式土器）

当遺跡では194点の平栫式土器が出土したが、今回はそのうち26点を資料化している。

101～103はいずれも口縁部で、口唇部付近に断面三角形状の突帯を貼り付けており、その突帯に横位の沈線文を施している。又、101～106については、口縁部及び胴部外面に棒状工具による沈線文と刺突文が施され、口縁部（101～103）はややラッパ状に開き、底部（106）は平底である。107･108は口唇部、109～111は胴部に、断面三角形状の突帯を貼り付けており、109～111についてはその突帯にキザミ目を施している。112～117については、口縁部及び胴部外面に棒状工具による沈線文･刺突文･縄文を施していて、112と116については断面三角形状の小型の突帯を貼り付けている（突帯にはキザミ目あり）。又、112は口唇部に平坦面を作り出し、その平坦面にキザミ目を施している。117～125については、瘤状突起及び断面三角形状の突帯を貼り付けている一群で、突帯にはキザミ目を施している。尚126については、117～125と胎土が酷似していたためこの一群として判断した。（以上をⅢ類とする。）



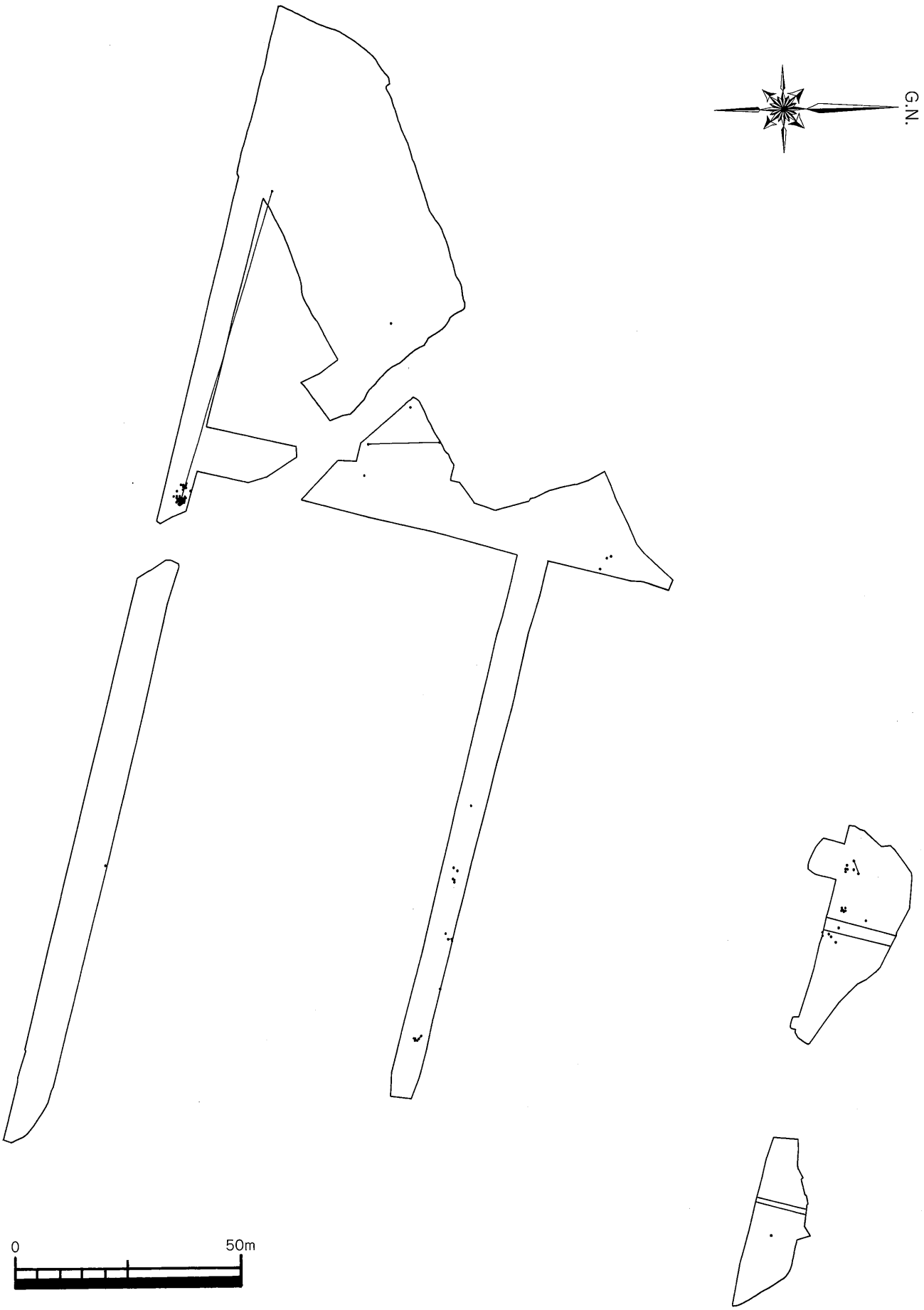
第113図　Ⅲ類土器実測図①（S＝1/3）



第114図　Ⅲ類土器実測図②（S＝1/3）

第８表　Ⅲ類土器観察表

遺構 No	出土 層位	部位	文様及び調整 外面	文様及び調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 キンウンモ	胎土 クロウンモ	胎土 砂粒	備考	遺物整理 No
101	Ⅴ層	口縁～胴部	沈線文 連点文	ナデ	5YR4/4 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 4mm以下	口縁部に貼付突帯（沈線文）	521
102	Ⅴ層	口縁	沈線文 連点文	ナデ	5YR4/3 にぶい赤褐	5YR5/3 にぶい赤褐	○	○		○	○ 3mm以下	口縁部に貼付突帯（沈線文）	522
103	Ⅴ層	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下	口縁部に貼付突帯	541
104	Ⅵ層	胴部	沈線文 連点文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○		○	○ 3mm以下		529
105	Ⅵ層	胴部	沈線文 連点文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○			○ 4mm以下		524
106	Ⅴ･Ⅵ層	胴部～底部	沈線文 連点文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	○	○			○ 3mm以下		523
107	Ⅴ層	口縁	ナデ	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	2.5Y5/2 暗灰黄	○	○			○ 3mm以下	口縁部に貼付突帯	542
108	Ⅴ層	口縁	ナデ	ナデ	7.5YR4/3 褐	5YR5/4 にぶい赤褐	○	○			○ 1mm以下	口縁部に貼付突帯	543
109	Ⅵ層	胴部	貼付突帯 （刺突文）	ナデ	7.5YR4/3 褐	5YR5/4 にぶい赤褐	○	○			○ 2mm以下		530
110	Ⅴ層	胴部	貼付突帯 （キザミ）	ナデ	5YR4/2 灰褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○			○ 4mm以下		532
111	Ⅵ層	胴部	縄文 貼付突帯 （キザミ）	ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○			○ 3mm以下		536
112	Ⅴ層	口縁	沈線文 連点文	ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○	○		○ 3mm以下	口唇部に連続キザミ	525
113	Ⅴ･Ⅵ層	胴部	貼付突帯 沈線文 連点文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○		○ 3mm以下		526
114	Ⅵ層	胴部	沈線文 連点文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○		○ 5mm以下		527
115	Ⅵ層	胴部	沈線文 連点文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○		○ 3mm以下		528
116	Ⅴ層	胴部	縄文 連点文	ナデ	2.5Y5/2 黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐		○	○		○ 3mm以下		539
117	Ⅴ層	胴部	刺突文 縄文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○	○		○ 4mm以下		538
118	Ⅵ層	口縁	貼付突帯 （縄文）	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	544
119	Ⅵ層	口縁	沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○		○	○ 2mm以下	瘤状突起･貼付突帯（キザミ）	519
120	Ⅵ層	口縁	沈線文	ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	10YR8/1 灰白	○	○		○	○ 3mm以下	口縁部に貼付突帯	520
121	Ⅵ層	胴部	貼付突帯 （キザミ）	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○			○ 2mm以下		531
122	Ⅵ層	胴部	貼付突帯 縄文？	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙		○		○	○ 5mm以下		533
123	Ⅵ層	胴部	貼付突帯	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙		○			○ 2mm以下		534
124	Ⅵ層	胴部	貼付突帯 刺突文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○		○	○ 3mm以下		535
125	Ⅵ層	胴部	貼付突帯 刺突文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙		○		○	○ 4mm以下		546
126	Ⅵ層	胴部	縄文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙		○		○	○ 2mm以下		540



第115図　縄文時代早期遺物包含層出土土器（Ⅲ類）分布図（S=1/1,200）

Ⅳ類（塞ノ神式土器）

当遺跡では2496点の塞ノ神式土器が出土したが、今回はそのうち213点を資料化している。

127～165については壺の口縁部及び胴部上半部である。器形については小破片が多く有頸・無頸判断しにくいものが多いが、そのなかでは127・130・133・152が無頸、134・136・137が有頸ではないかと思われる。又、口唇部については、127・130・136・138・139・147・148・149は丸くおさめてあり、133・134・135・137・140・150・151・152は平坦部を作り出している。施文については、口縁部及び胴部上半部を一周する沈線文を施すもの（127・128・129・133・135・136・138）、その沈線文に加え弧状沈線文を施すもの（134・139・140・141・142・143・144・145・146・）、又、口縁部及び胴部上半部に微隆帯を巡らし（152～165）、その微隆帯にキザミ目を施しているもの（152～162）、等が見られる。（以上をⅣ類ａとする。）

166～268については、撚糸文系の一群である。

166～185は口縁部（－屈曲部－胴部）である。いずれも塞ノ神式土器の特徴である胴部からラッパ状に開く口縁部であるが、屈曲部からきつく外反するもの（168・172・180・185等）や、胴部からゆるやかに外反するもの（170・175・177・181等）が見られる。口縁形態については、平口縁（167・169・173・184等）、ゆるやかな波状口縁（168・170・176等）、波状口縁（178・179・183）いずれも見られ、又、内面には胴部と口縁部に明瞭な稜線が確認できる。口唇部については、平らにおさめるものも平坦面を作り出すもののいずれも見られるが、そのほとんどにキザミ目が施されている。施文については、口縁部にも撚糸文を施し屈曲部から胴部にかけて沈線文や撚糸文を施すもの（166・167）や、口縁部は無文もしくは沈線文のみが施してあり、屈曲部を一周する沈線文から撚糸文が縦位に施されているもの（169・170等）が見られる。

186～198は屈曲部（－胴部）である。口縁部同様屈曲部から口縁部にかけてきつく外反するもの（194・198等）と、胴部からゆるやかに外反するもの（195）が見られる。又、内面の胴部と口縁部の稜線についても明瞭なものがほとんどである。

199～255は胴部である。残存状況が良好なものについて見てみると、やや胴部中央が外湾しているもの（199・200・204・205・207・212・223・225・226・239・240・244・251等）と、ほぼ直立するもの（201・202・203・206・208・211・210・213・218等）が見られる。施文については、主に撚糸文と沈線文の組み合わせで構成されている。

256～268は底部（－胴部）である。256・264はやや上げ底気味の平底で、その他も平底であると思われる。又、256などに見られるように、そのほとんどが胴部に向けてやや外に開きながら立ち上がっているのに対し、266や268は直立に近い角度で立ち上がっている。施文については、底部ぎりぎりまで撚糸文と沈線文が施されているが、底部内面には施文されていない。（以上をⅣ類ｂとする。）

269～311については、貝殻文系の一群である。

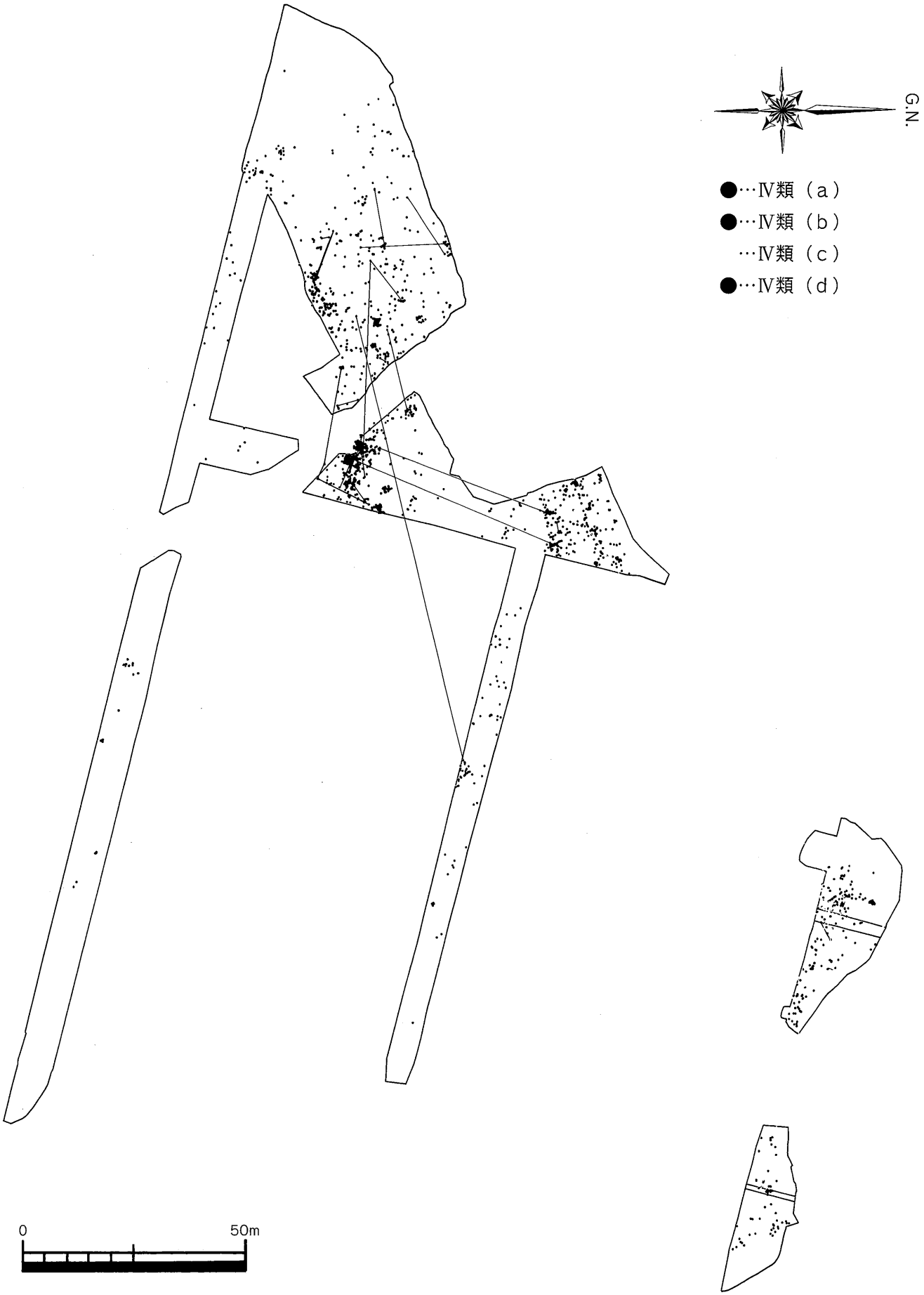
269～279は口縁部（－屈曲部－胴部）である。いずれも胴部からラッパ状に開いた口縁部で、269・270・271・273については屈曲部内面に胴部と口縁部の明瞭な稜線が確認できる。口縁形態についてはほとんどが平口縁で、口唇部については丸くおさめているものと狭い平坦面を作り出しているものいずれも見られる。狭い平坦面を作り出しているものについては、その平坦面に貝殻によるキザミ目を施しているもの（270・274・277等）がある。施文については、いずれも貝殻による刺突文が施されているが、270・279についてはそれに加え、細い棒状工具によって沈線文を描きその枠内に縄文を施している。

280～284は屈曲部（－胴部）である。いずれも胴部から口縁部にラッパ状に開く屈曲部であるが、280・282～284については屈曲部内面に胴部と口縁部の明瞭な稜線が確認できる。

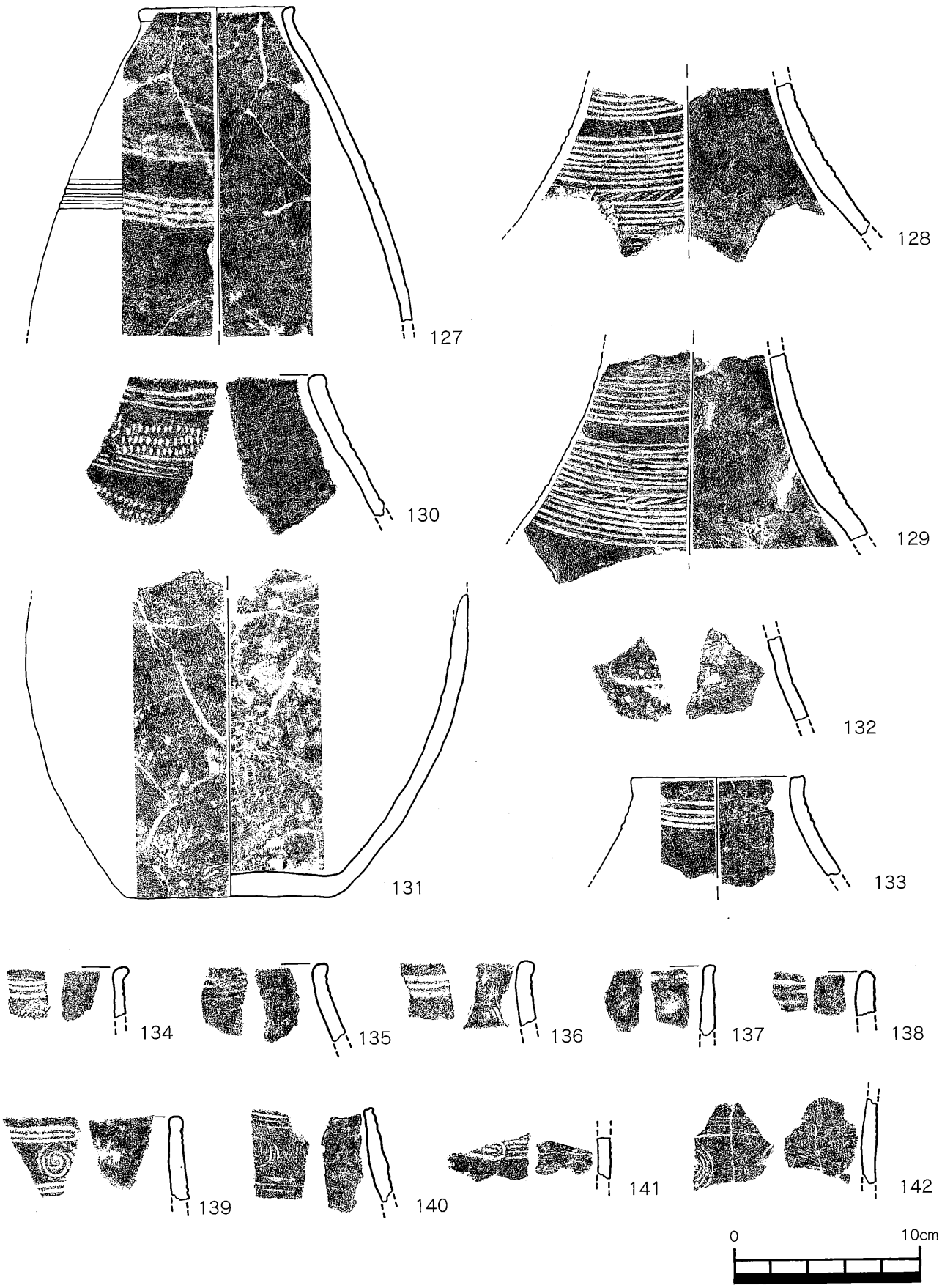
285～309は胴部である。器形については、胴部中央が外湾しているもの（285・288・291・294・296・297・300・303・304等）と、ほぼ直立するもの（286・289・290・295・298・299・302・307～309等）が見られる。施文については、285～306は貝殻刺突文と細い棒状工具によって沈線文を描きその枠内に施された縄文との組み合わせで、307～309は細い棒状工具によって斜位もしくは横位の条線を描いている。310・311は胴部最下部（底部から立ち上がりはじめる部位）であるが、底部からやや外に向けて立ち上がっている。尚、施文については胴部と同じ特徴を持っている。（以上をⅣ類ｃとする。）

312～339については、塞ノ神式土器であるが先述の３区分に入らないものの一群である。但し、なかにはⅣ類ｂに属するが撚糸文が施されていない部位であったり、同じようにⅣ類ｃに属するが貝殻文・縄文などが施されていない部位であったりする場合も十分に考えられるので、一つの区分というより先述の３区分に断定しにくいものとして取り扱っている。

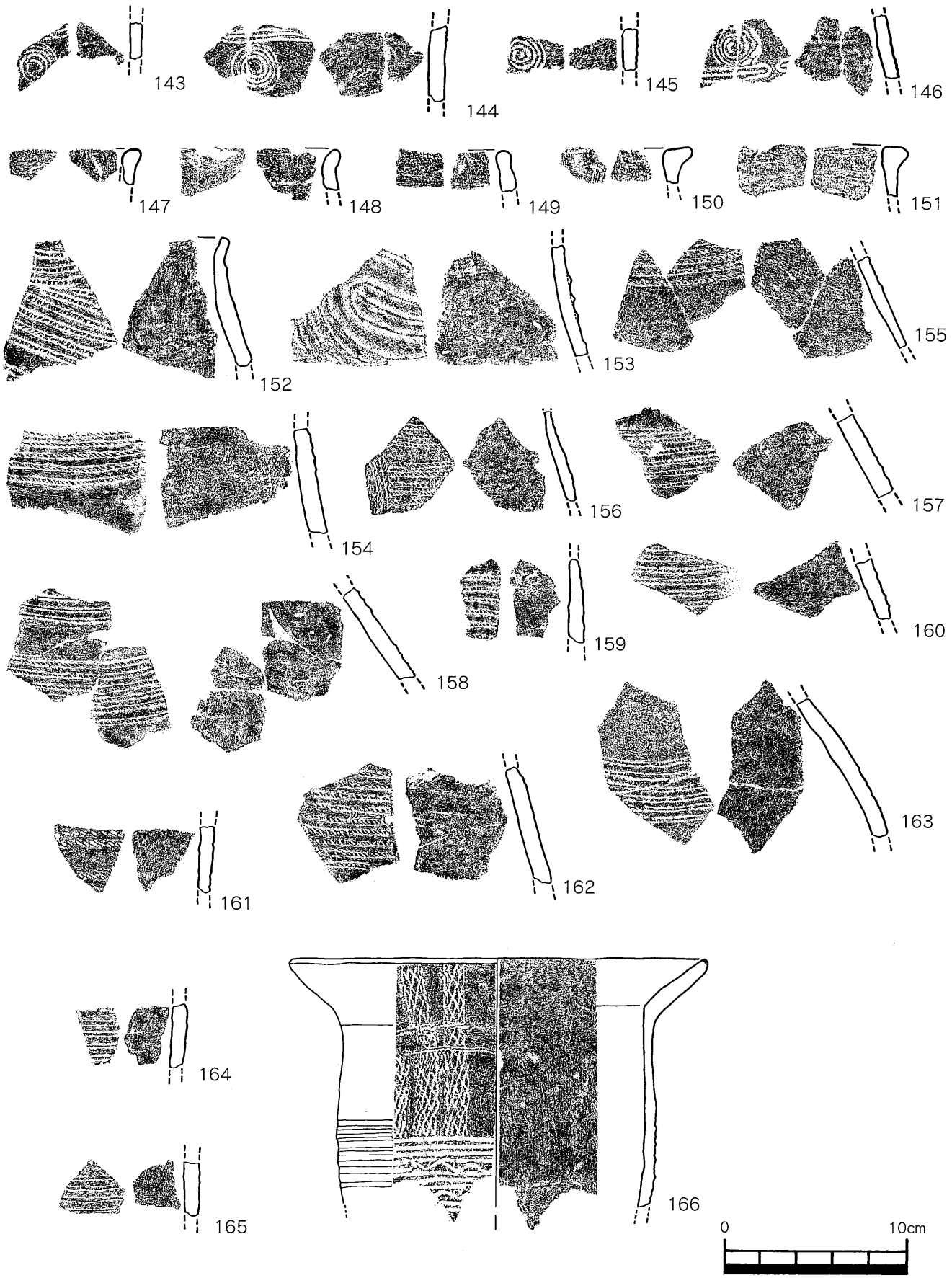
312～334は口縁部である。胴部からラッパ状に開いた口縁部であるが、屈曲部からほぼ直線的に開くもの（312・314・315・324・330・331～334等）や、やや内湾しながら開くもの（313・316～318・321～323・325・327・329等）が見られる。口縁部はほぼ平口縁であるが、323・324は波状口縁である。又、口唇部については、丸くおさめるものと狭い平坦面を作り出すものと見られるが、いずれの場合にも口唇部にキザミ目を施しているものが見られる。施文については、312～319は横位や斜位の沈線文と連点文に加え、微隆帯をめぐらしてそれにキザミ目が施され、320～334には沈線文が施されている（無文もあり）。施文の雰囲気や屈曲部から口縁部への開き具合から見ると、327・330・332等はⅣ類ｂの区分に入る可能性が高いと思われるが、先述のとおり撚糸文が施されていない部位であるため、今回はⅣ類ｂには含めていない。335～339は屈曲部である。屈曲部についても口縁部同様先述の２区分（Ⅳ類ｂ、Ⅳ類ｃ）のいずれかに属するものがあると推測されるが、今回はいずれにも含んでいない。尚、施文については、横位、斜位、山形の沈線文が施されている。（以上をⅣ類ｄとする。）



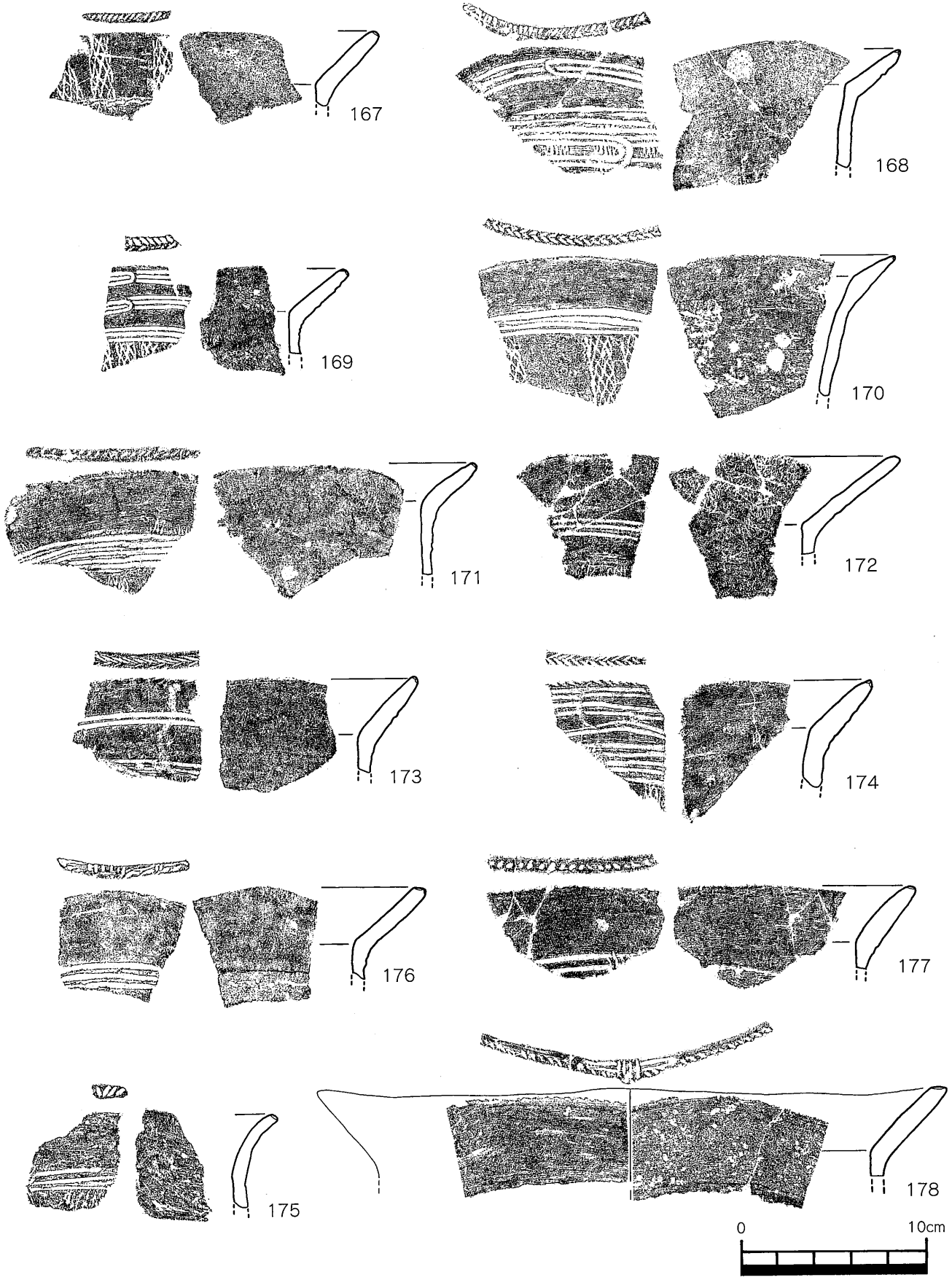
第116図　縄文時代早期遺物包含層出土土器（Ⅳ類）分布図（S=1/1,200）



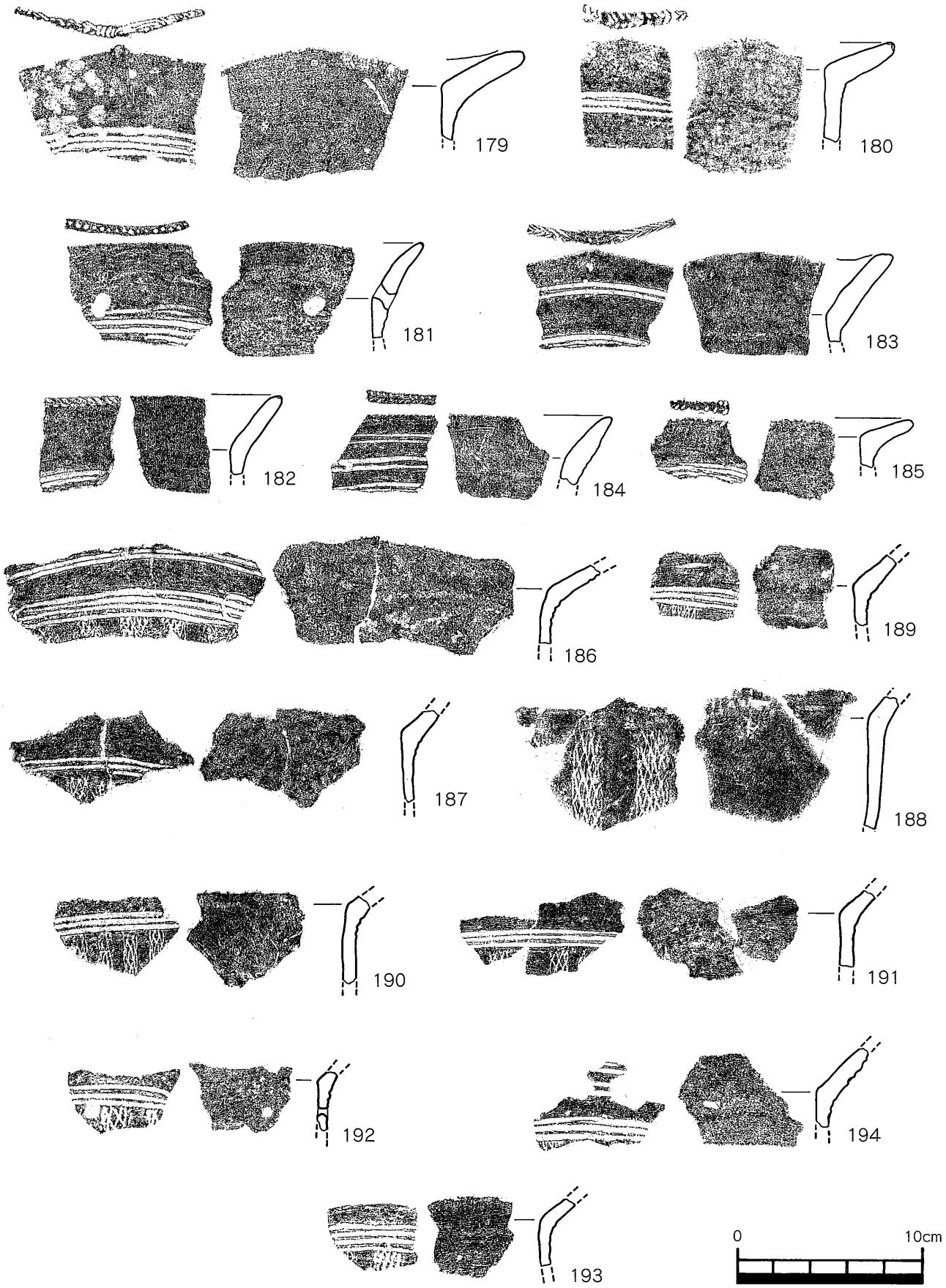
第117図　Ⅳ類土器実測図①（S=1/3）



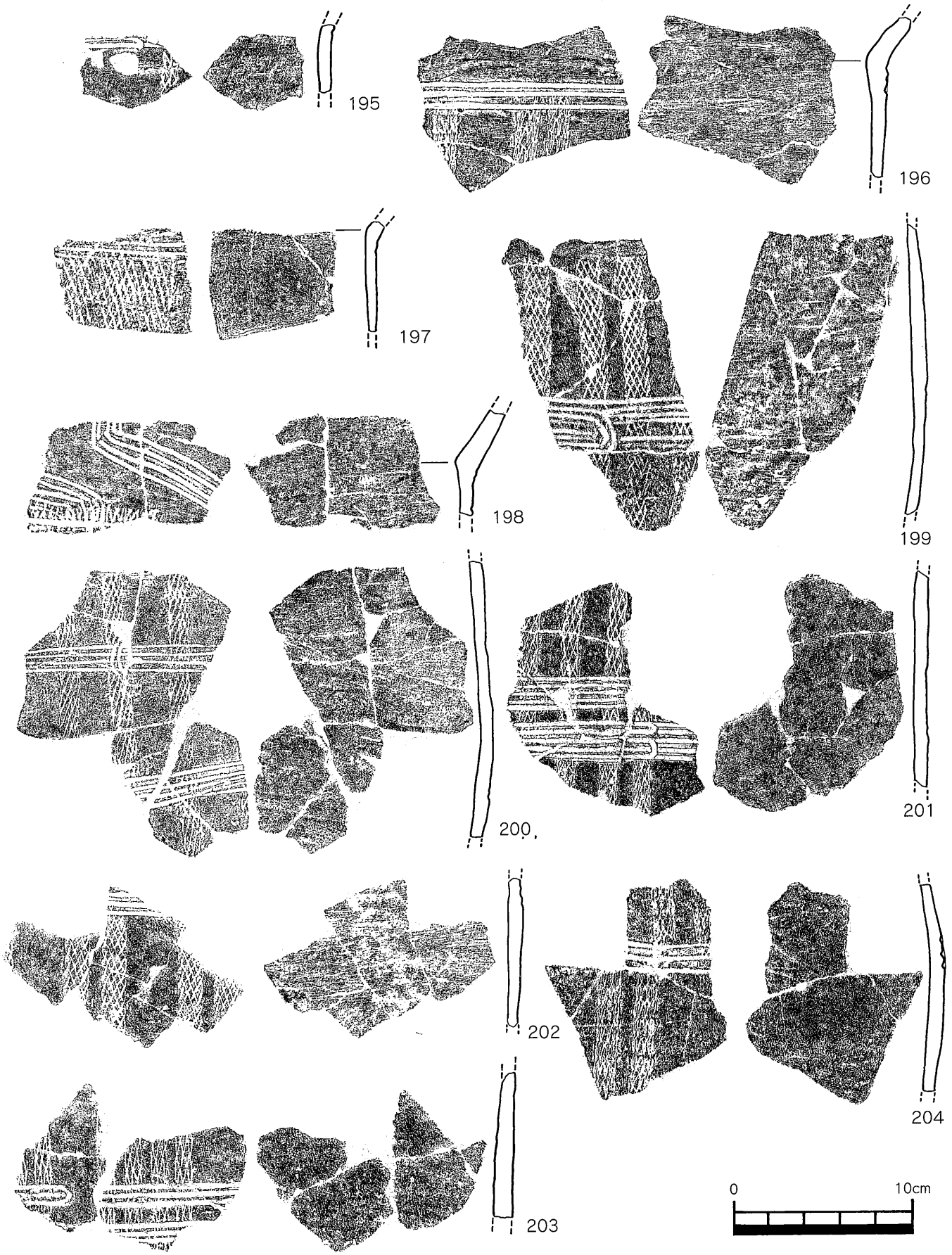
第118図　Ⅳ類土器実測図②（S＝1/3）



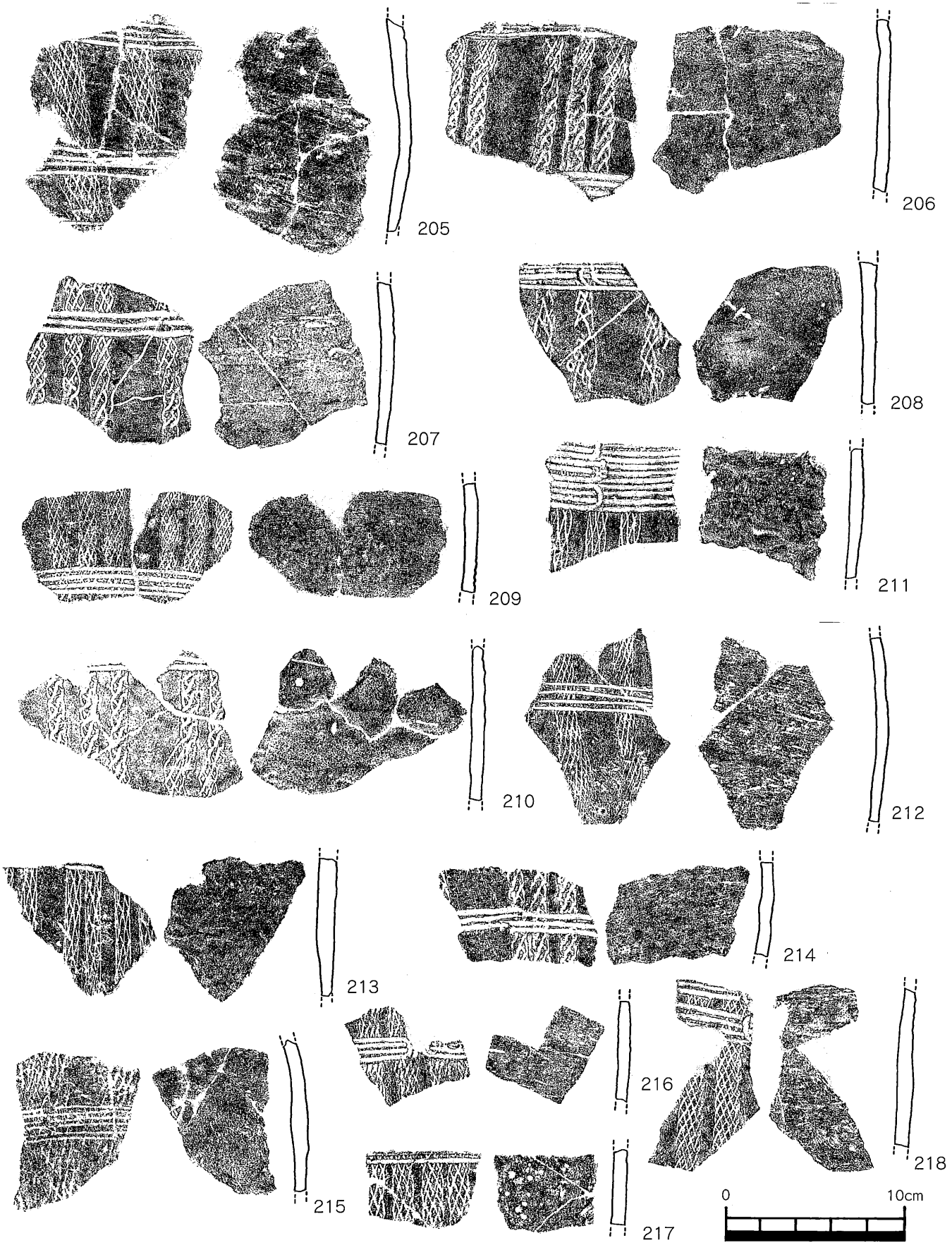
第119図　Ⅳ類土器実測図③（S＝1/3）



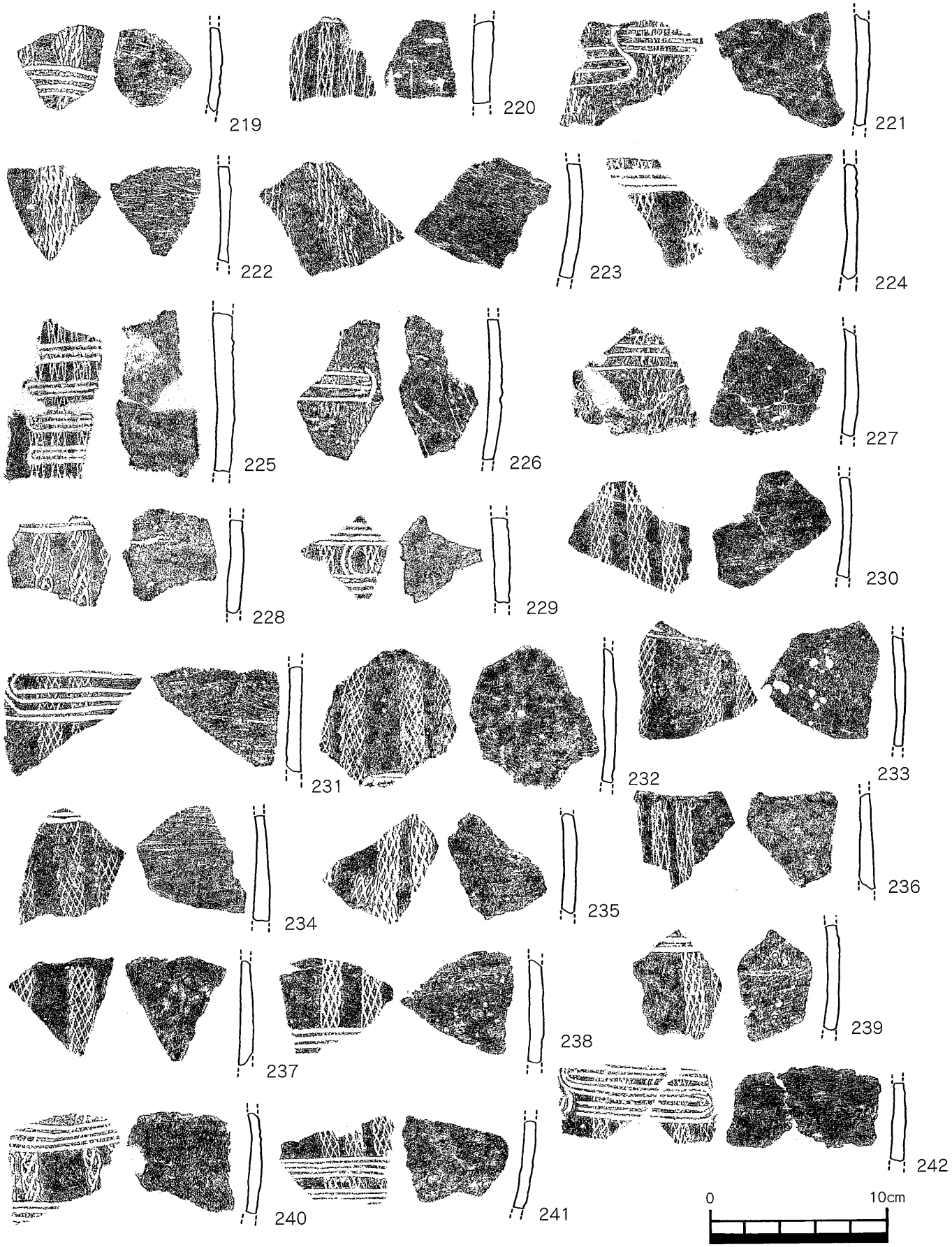
第120図　Ⅳ類土器実測図④（S＝1/3）



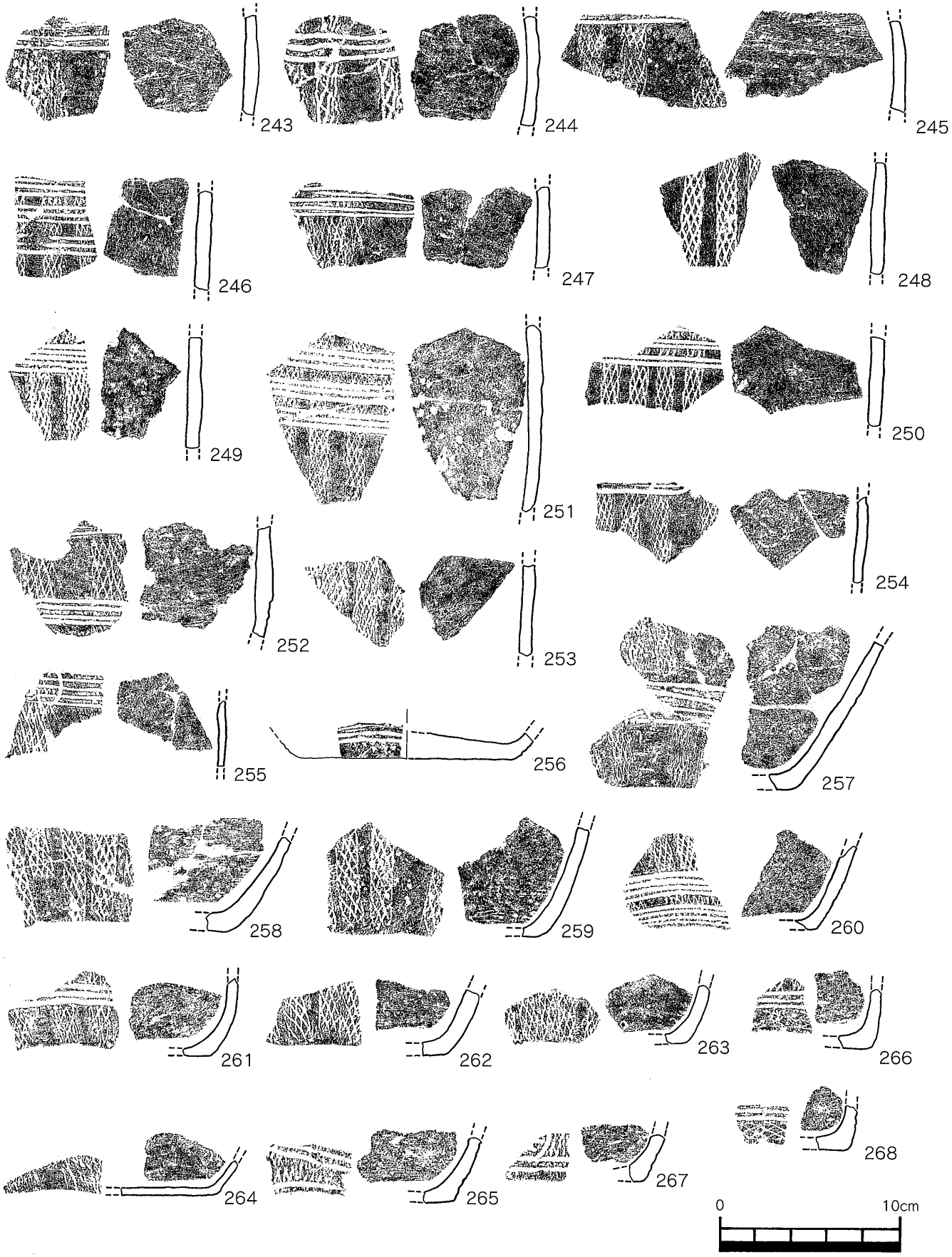
第121図　Ⅳ類土器実測図⑤（S=1/3）



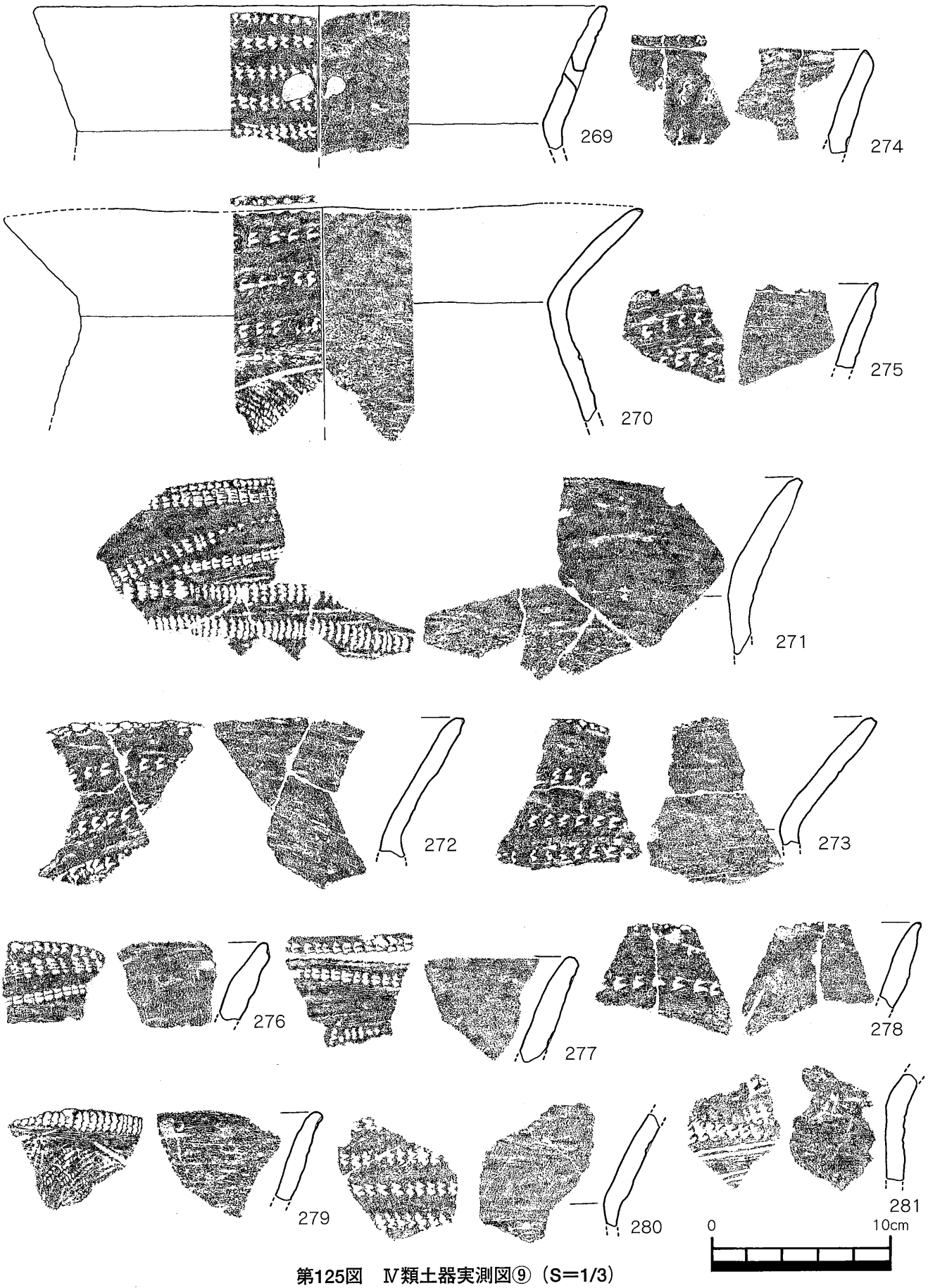
第122図　Ⅳ類土器実測図⑥（S=1/3）



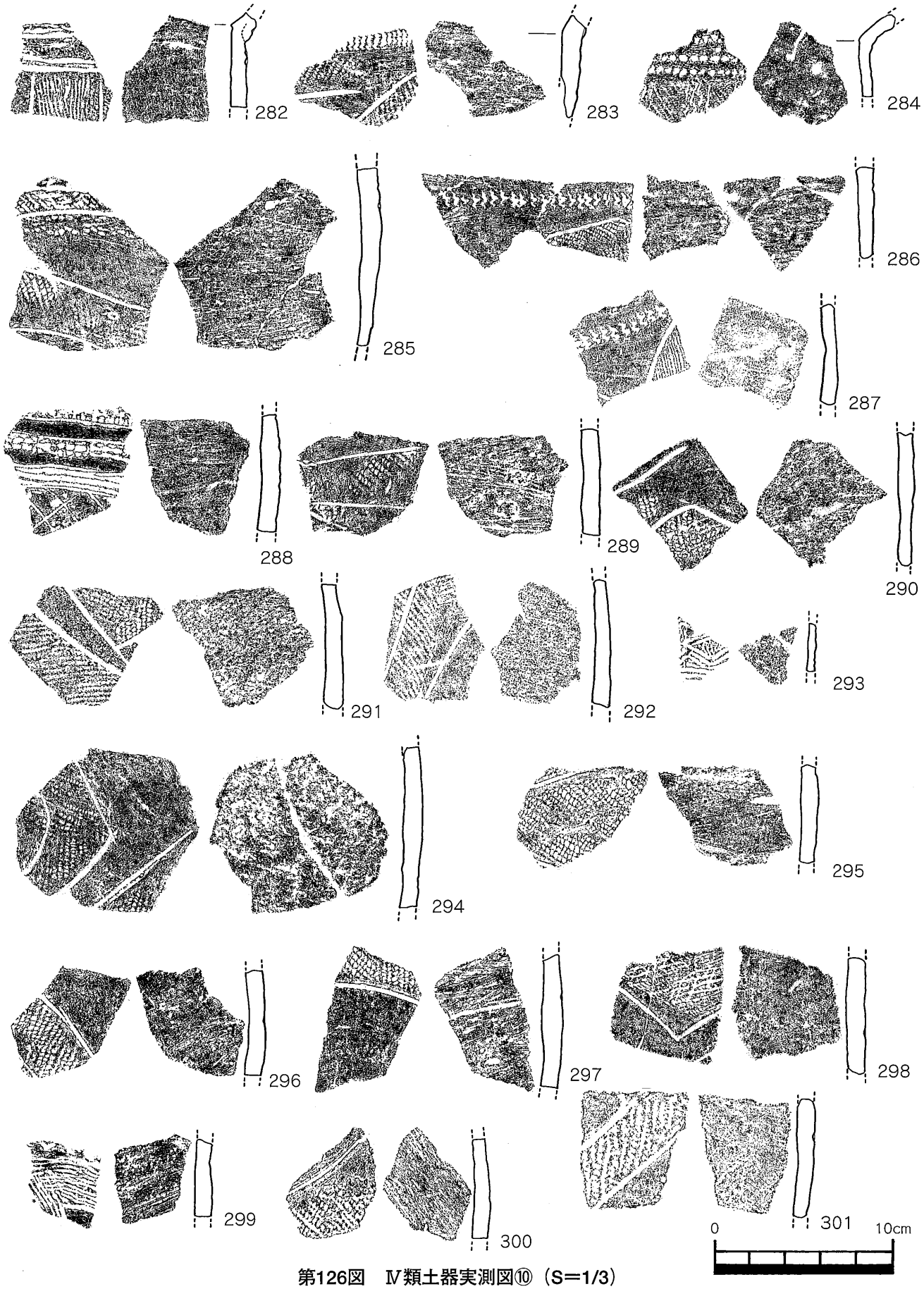
第123図　Ⅳ類土器実測図⑦（S=1/3）



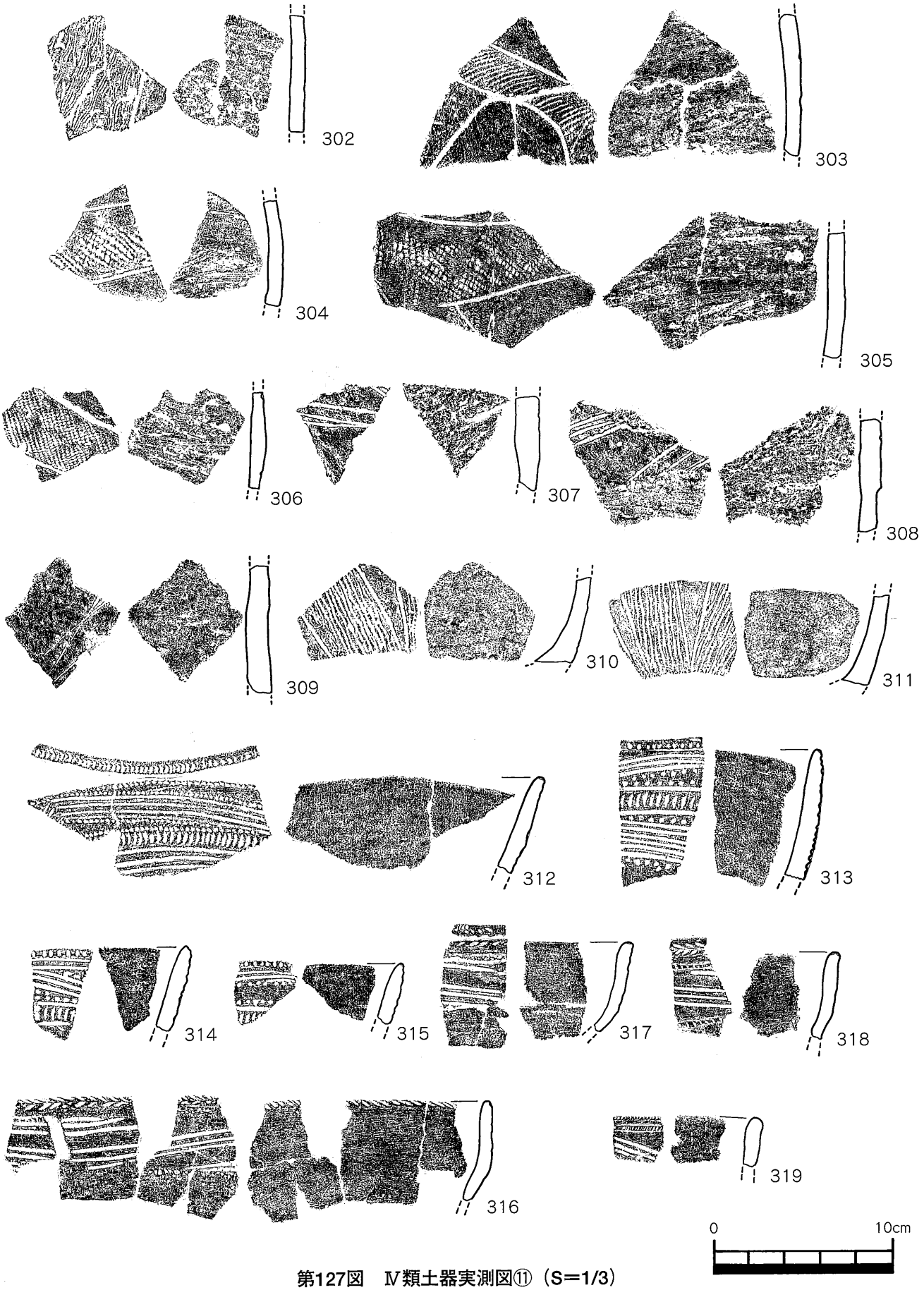
第124図　Ⅳ類土器実測図⑧（S=1/3）



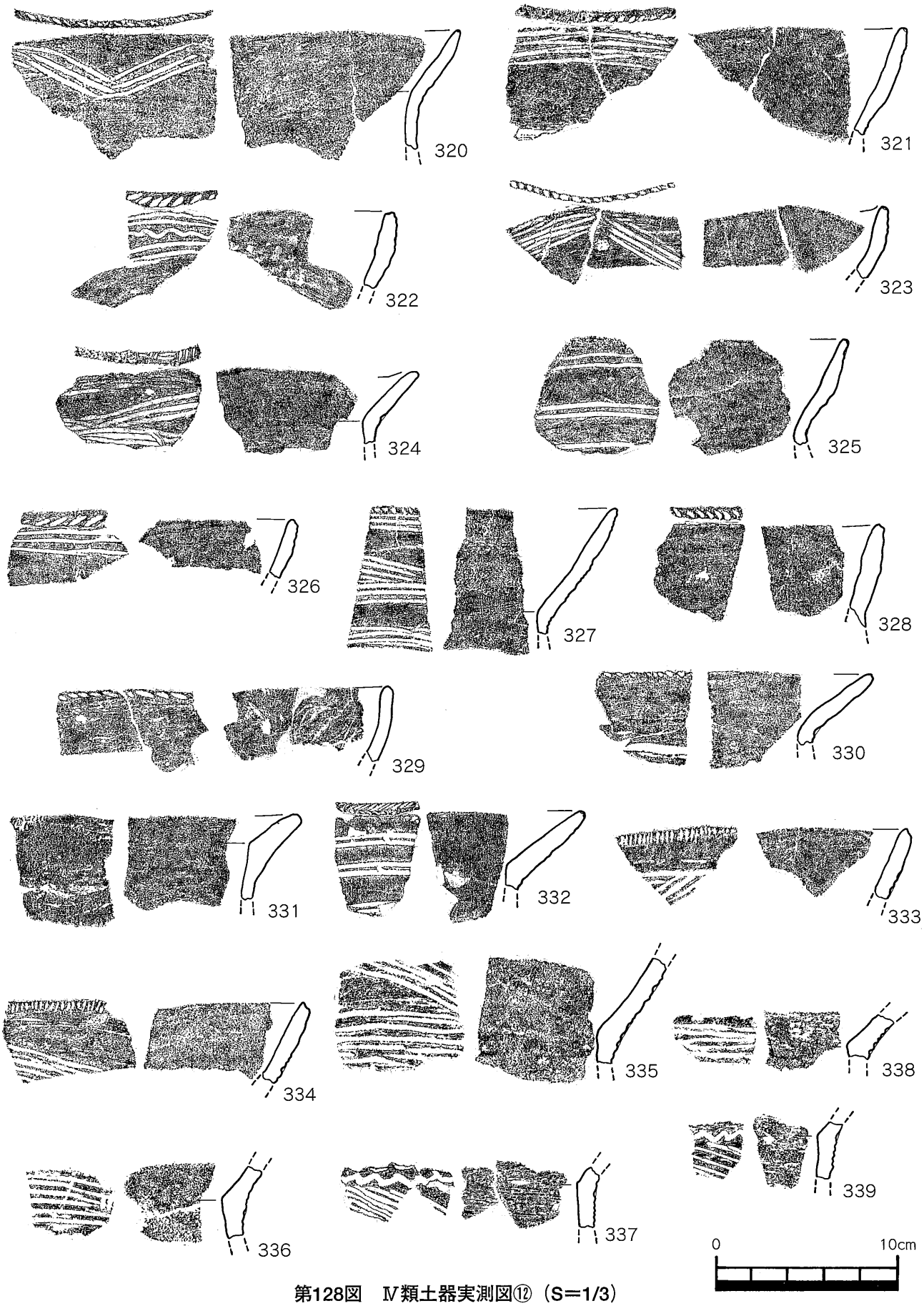
第125図　Ⅳ類土器実測図⑨（S＝1/3）



第126図　Ⅳ類土器実測図⑩（S＝1/3）



第127図　Ⅳ類土器実測図⑪（S＝1/3）



第128図　Ⅳ類土器実測図⑫（S＝1/3）

第９表　Ⅳ類土器観察表

遺構 No	出土 層位	部位	文様及び調整 外面	文様及び調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 キンウンモ	胎土 クロウンモ	胎土 砂粒	備考	遺物整理 No
127	Ⅴ層	口縁~胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○			○ 5mm以下		324
128	Ⅵ層	頸部~胴部	沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR7/2 明褐灰	○	○			○ 2mm以下		322
129	Ⅵ層	頸部~胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 3mm以下		323
130	Ⅵ層	口縁	沈線文 刺突文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 1mm以下		267
131	Ⅵ層	胴部~底部	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下		325
132	Ⅵ層	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○			○ 3mm以下		326
133	Ⅵ層	口縁	沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○		○		○ 1.5mm以下		321
134	Ⅵ層	口縁	沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐			○		○ 2mm以下		338
135	Ⅴ層	口縁	沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○			○ 3mm以下		314
136	Ⅴ層	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○			○ 2mm以下		336
137	Ⅴ層	口縁	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○		○		○ 2mm以下		310
138	Ⅵ層	口縁	沈線文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○			○ 1mm以下		405
139	Ⅵ層	口縁	沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐		○	○		○ 2.5mm以下		311
140	Ⅵ層	口縁	沈線文	ナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐	○	○	○		○ 2mm以下		371
141	Ⅴ層	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○		○		○ 2mm以下		313
142	Ⅴ層	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	2.5Y4/1 黄灰	○	○	○		○ 2mm以下		315
143	Ⅵ層	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐		○	○		○ 1.5mm以下		316
144	Ⅵ層	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐			○		○ 3mm以下		317
145	Ⅵ層	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐			○		○ 3mm以下		319
146	Ⅵ層	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○		○ 1.5mm以下		320
147	Ⅵ層	口縁	ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 1.5mm以下		309
148	－	口縁	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐			○		○ 4mm以下		312
149	Ⅵ層	口縁	ナデ	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	5YR4/4 にぶい赤褐	○	○			○ 1.5mm以下		318
150	Ⅴ層	口縁	ナデ	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 1mm以下		339
151	Ⅵ層	口縁	ナデ	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 1mm以下		341
152	Ⅵ層	口縁	微隆帯 (キザミ)	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 1mm以下		395
153	Ⅵ層	胴部	微隆帯 (キザミ)	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○		○		○ 3mm以下		406
154	Ⅵ層	胴部	微隆帯 (キザミ)	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○		○	○ 1mm以下		383
155	Ⅵ層	胴部	微隆帯 (キザミ)	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○	○		○ 1mm以下		385
156	Ⅵ層	胴部	微隆帯 (キザミ)	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR4/2 灰褐	○	○	○		○ 1mm以下		387
157	Ⅵ層	胴部	微隆帯 (キザミ)	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 1mm以下		388
158	Ⅵ層	胴部	微隆帯 (キザミ)	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐		○			○ 1mm以下		396
159	Ⅵ層	胴部	微隆帯 (キザミ)	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 1mm以下		386

遺構No	出土層位	部位	文様及び調整 外面	文様及び調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 キンウンモ	胎土 クロウンモ	胎土 砂粒	備考	遺物整理No
160	Ⅵ層	胴部	微隆帯(キザミ)	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下		382
161	Ⅴ層	胴部	微隆帯(キザミ)	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 1mm以下		384
162	Ⅵ層	胴部	微隆帯(キザミ)	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 1mm以下		393
163	Ⅵ層	胴部	微隆帯(キザミ)	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○			○ 2mm以下		392
164	Ⅵ層	胴部	微隆帯(キザミ)	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○			○ 1mm以下		390
165	Ⅵ層	胴部	微隆帯(キザミ)	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○			○ 2mm以下		391
166	Ⅴ層	口縁～胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○		○	○ 3mm以下	口唇部に連続キザミ	269
167	Ⅵ層	口縁	撚糸文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○	○ 4mm以下	口唇部に連続キザミ	426
168	Ⅵ層	口縁	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 5mm以下	口唇部に連続キザミ	495
169	Ⅵ層	口縁	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○		○	○ 1.5mm以下	口唇部に連続キザミ	431
170	Ⅴ層	口縁	撚糸文 沈線文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YT5/4 にぶい褐	○	○		○	○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	515
171	―	口縁	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	464
172	Ⅴ層	口縁～頚部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○	○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	449
173	Ⅵ層	口縁～頚部	撚糸文 沈線文	ナデ	2.5Y5/2 灰赤	10YR5/3 にぶい黄	○	○			○ 1.5mm以下	口唇部に連続キザミ	448
174	Ⅵ層	口縁	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	436
175	Ⅵ層	口縁	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	422
176	Ⅵ層	口縁	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○		○ 2mm以下	波状口縁 口唇部に連続キザミ	463
177	Ⅴ層	口縁	沈線文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR4/3 褐	○	○		○	○ 1mm以下	口唇部に連続キザミ	427
178	Ⅵ層	口縁	ナデ	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○		○ 3mm以下	波状口縁 口唇部に連続キザミ・沈線文	517
179	Ⅴ層	口縁～頚部	沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○		○	○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ・沈線文	491
180	Ⅴ層	口縁	ナデ	ナデ	7.5YR4/2 褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○	○	○	○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	493
181	Ⅵ層	口縁	沈線文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ穿孔有り	577
182	Ⅵ層	口縁	沈線文 刺突文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	561
183	Ⅴ層	口縁	沈線文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○	○		○ 2mm以下	波状口縁 口唇部に連続キザミ	564
184	Ⅴ層	口縁	沈線文	ナデ	2.5Y4/2 暗灰黄	10YR5/2 灰黄褐	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	572
185	Ⅴ層	口縁	沈線文	ナデ	10YR4/3 にぶい黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	575
186	Ⅴ・Ⅵ層	頚部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR4/3 褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○		○ 3mm以下		421
187	Ⅴ層	頚部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下		445
188	Ⅵ層	頚部～胴部	撚糸文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○		○	○ 2mm以下		455
189	Ⅴ層	頚部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○		○	○ 3mm以下		438
190	Ⅵ層	頚部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐					○ 2mm以下		447
191	Ⅴ層	頚部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR4/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐		○			○ 3mm以下		469
192	Ⅴ層	頚部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 1mm以下	穿孔有り	503
193	Ⅵ層	頚部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐		○			○ 2mm以下		467
194	Ⅵ層	頚部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下		468
195	Ⅴ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐		○	○		○ 1mm以下		511

遺構No	出土層位	部位	文様及び調整		色調		胎土					備考	遺物整理No
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	砂粒		
196	Ⅵ層	頸部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○		○	○ 2mm以下		514
197	Ⅴ層	頸部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 1mm以下		499
198	Ⅵ層	頸部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/4 にぶい黄褐	○	○		○	○ 2mm以下		492
199	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○		○ 3mm以下		458
200	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	5YR4/2 灰褐	5YR5/4 にぶい赤褐					○ 2mm以下		516
201	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR4/3 褐	○	○			○ 2mm以下		454
202	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○			○ 1mm以下		501
203	Ⅴ・Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○	○		○ 2mm以下		432
204	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下		457
205	Ⅴ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○		○	○ 4mm以下		456
206	―	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○		○ 2mm以下		459
207	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○		○ 3mm以下		466
208	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○		○	○ 2mm以下		465
209	Ⅴ・Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○	○		○ 3mm以下		429
210	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○	○		○ 3mm以下		462
211	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○	○ 4mm以下		446
212	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	5YR5/4 にぶい赤褐	○	○			○ 3mm以下		435
213	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 3mm以下		451
214	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○	○		○ 3mm以下		433
215	Ⅴ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	2.5Y5/2 暗灰黄	○	○			○ 2mm以下		434
216	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 4mm以下		424
217	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下		425
218	Ⅴ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○	○		○ 2mm以下		430
219	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR4/2 灰褐	○	○			○ 2mm以下		437
220	Ⅴ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 5mm以下		440
221	Ⅴ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 1.5mm以下		441
222	Ⅴ層	胴部	撚糸文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下		442
223	Ⅵ層	胴部	撚糸文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○			○ 4mm以下		444
224	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	5YR5/4 にぶい赤褐	○	○			○ 2mm以下		792
225	Ⅴ・Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 3mm以下		450
226	Ⅴ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	2.5Y5/3 黄褐	○	○			○ 1.5mm以下		452
227	Ⅴ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y4/2 暗灰黄	○	○			○ 1.5mm以下		453
228	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○	○		○ 3mm以下		460
229	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	2.5Y4/2 暗灰黄	2.5Y4/2 暗灰黄	○		○		○ 2mm以下		461
230	Ⅵ層	胴部	撚糸文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	2.5Y4/1 黄灰	○	○		○	○ 1mm以下		470
231	Ⅴ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐		○			○ 2mm以下		471

遺構No	出土層位	部位	文様及び調整		色調		胎土					備考	遺物整理No
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	砂粒		
232	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下		472
233	Ⅴ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐		○	○	○	○ 2mm以下		473
234	Ⅴ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下		474
235	Ⅴ層	胴部	撚糸文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/3 にぶい褐		○			○ 3mm以下		475
236	Ⅴ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR4/3 褐	10YR5/3 にぶい黄褐		○			○ 3mm以下		476
237	Ⅵ層	胴部	撚糸文	ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○	○		○ 3mm以下		477
238	Ⅴ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR4/2 灰黄褐		○		○	○ 3mm以下		478
239	Ⅴ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR4/3 褐	5YR5/4 にぶい赤褐	○	○		○	○ 1mm以下		479
240	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y4/1 黄灰	○	○		○	○ 2mm以下		480
241	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○		○	○ 2mm以下		481
242	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○		○ 3mm以下		482
243	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/2 灰黄褐		○			○ 1mm以下		483
244	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR4/3 褐		○			○ 2mm以下		484
245	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○	○		○ 2mm以下		485
246	Ⅴ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 1mm以下		486
247	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下		487
248	Ⅵ層	胴部	撚糸文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR4/3 褐	○	○			○ 1mm以下		488
249	Ⅴ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○			○ 3mm以下		489
250	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 1mm以下		490
251	Ⅴ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下		494
252	Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 2.5mm以下		498
253	Ⅵ層	胴部	撚糸文	ナデ	5YR4/3 にぶい赤褐	5YR4/4 にぶい赤褐	○	○			○ 1mm以下		504
254	Ⅴ・Ⅵ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR4/3 褐	○	○			○ 1mm以下		509
255	Ⅴ層	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 1mm以下		513
256	Ⅵ層	底部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○			○ 2mm以下		428
257	Ⅴ層	胴部～底部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○			○ 1.5mm以下		500
258	Ⅵ層	底部	撚糸文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 1mm以下		502
259	Ⅵ層	胴部～底部	撚糸文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下		423
260	Ⅵ層	胴部～底部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○		○ 2mm以下		443
261	Ⅵ層	底部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR4/3 褐	○	○			○ 1mm以下		497
262	Ⅵ層	胴部～底部	撚糸文	ナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	5Y3/1 オリーブ黒	○	○			○ 2mm以下		439
263	Ⅵ層	底部	撚糸文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○		○	○ 1mm以下		507
264	Ⅵ層	底部	撚糸文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR5/6 明赤褐	○	○			○ 2mm以下		512
265	Ⅴ層	底部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下		506
266	Ⅵ層	底部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄橙		○			○ 2mm以下		508
267	Ⅴ層	底部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR4/2 灰黄褐	○	○			○ 1mm以下		505

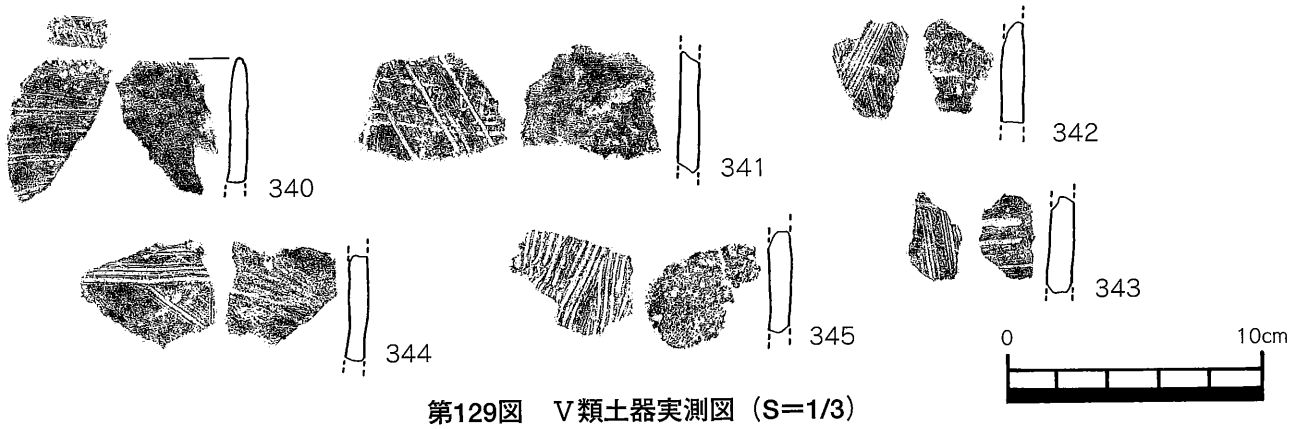
遺構No	出土層位	部位	文様及び調整		色調		胎土					備考	遺物整理No
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	砂粒		
268	Ⅵ層	底部	撚糸文 沈線文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○	○ 2mm以下		518
269	Ⅴ層	口縁～胴部～頸部	貝殻刺突文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○			○ 4mm以下	穿孔有り	670
270	Ⅴ・Ⅵ層	口縁～胴部	貝殻刺突文 沈線文 縄文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○			○ 6mm以下	口唇部に連続キザミ	327
271	Ⅴ層	口縁～胴部～頸部	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○			○ 4mm以下	口唇部に連続刺突文	671
272	Ⅴ・Ⅵ層	口縁～胴部～頸部	貝殻刺突文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○			○ 3mm以下	口唇部に連続キザミ	669
273	Ⅴ層	口縁～胴部～頸部	貝殻刺突文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○		○	○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	663
274	Ⅴ層	口縁	貝殻刺突文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	○	○		○	○ 2mm以下	口唇部に連続刺突文	664
275	Ⅴ層	口縁	貝殻刺突文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○			○ 3mm以下	口唇部に連続キザミ	660
276	Ⅴ層	口縁	貝殻刺突文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙		○			○ 3mm以下		661
277	Ⅴ層	口縁	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○			○ 3mm以下		667
278	Ⅴ層	口縁	貝殻刺突文	ナデ	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	668
279	Ⅴ層	口縁	貝殻刺突文 沈線文 縄文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○			○ 4mm以下		334
280	Ⅴ層	胴部～頸部	貝殻刺突文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○			○ 4mm以下		662
281	Ⅴ層	頸部	貝殻刺突文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○	○ 3mm以下		695
282	Ⅴ層	頸部～胴部	沈線文 縄文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 4mm以下	屈曲部に貼付突帯	329
283	Ⅴ層	頸部～胴部	貝殻刺突文 沈線文 縄文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下		330
284	Ⅵ層	頸部	貝殻刺突文 縄文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐		○		○	○ 2mm以下		328
285	Ⅴ層	胴部	沈線文 縄文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	2.5Y6/3 にぶい黄	○	○			○ 2mm以下		694
286	Ⅴ・Ⅵ層	胴部	貝殻刺突文 沈線文 縄文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙		○			○ 6mm以下		331
287	Ⅴ層	胴部	貝殻刺突文 沈線文 縄文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○			○ 2mm以下		665
288	Ⅵ層	胴部	貝殻刺突文 沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 3mm以下		678
289	Ⅵ層	胴部	沈線文 縄文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○			○ 1.5mm以下		332
290	Ⅵ層	胴部	沈線文 縄文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下		333
291	Ⅴ層	胴部	沈線文 縄文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y5/2 暗灰黄	○	○			○ 3mm以下		335
292	Ⅵ層	胴部	沈線文 縄文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙		○			○ 1mm以下		666
293	—	胴部	沈線文 縄文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○			○ 1.5mm以下		677
294	Ⅴ層	胴部	沈線文 縄文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○			○ 2mm以下		682
295	Ⅴ層	胴部	沈線文 縄文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y6/3 にぶい黄	○	○			○ 2mm以下		683
296	Ⅵ層	胴部	沈線文 縄文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 1.5mm以下		684
297	Ⅴ層	胴部	沈線文 縄文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下		685
298	Ⅴ層	胴部	沈線文 縄文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下		686
299	Ⅴ層	胴部	沈線文 縄文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下		687
300	Ⅵ層	胴部	沈線文 縄文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○			○ 2mm以下		689
301	Ⅴ層	胴部	沈線文 縄文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 3.5mm以下		691
302	Ⅴ層	胴部	沈線文 縄文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 3mm以下		692
303	Ⅴ層	胴部	沈線文 縄文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 3mm以下		693

遺構No	出土層位	部位	文様及び調整 外面	文様及び調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 キンウンモ	胎土 クロウンモ	胎土 砂粒	備考	遺物整理No
304	Ⅵ層	胴部	沈線文 縄文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 1.5mm以下		696
305	Ⅴ層	胴部	沈線文 縄文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下		697
306	Ⅴ層	胴部	沈線文 縄文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○			○ 3mm以下		698
307	Ⅴ層	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 3mm以下		679
308	Ⅵ層	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/2 灰褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○		○ 3mm以下		688
309	Ⅵ層	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下		690
310	Ⅴ層	胴部～底部	沈線文 縄文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○		○	○ 2mm以下		681
311	Ⅴ層	胴部～底部	沈線文 縄文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	2.5Y6/3 にぶい黄	○	○			○ 1.5mm以下		680
312	Ⅴ層	口縁	沈線文 刺突文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○		○	○ 4mm以下	口唇部に連続キザミ	559
313	Ⅴ層	口縁	沈線文 刺突文 連点文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○		○	○ 1mm以下	口唇部に連続キザミ	266
314	Ⅴ層	口縁	沈線文 刺突文 連点文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○		○	○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	567
315	Ⅴ層	口縁	沈線文 刺突文 連点文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	578
316	Ⅴ層	口縁	沈線文 微隆帯 (キザミ)	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	389
317	Ⅴ層	口縁	沈線文 微隆帯 (キザミ)	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 1mm以下	口唇部に連続キザミ	398
318	Ⅴ層	口縁	沈線文 微隆帯 (キザミ)	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR4/2 灰褐	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	394
319	Ⅴ層	口縁	沈線文 微隆帯 (キザミ)	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	397
320	Ⅵ層	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○		○	○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	563
321	Ⅴ層	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR6/6 橙	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	581
322	Ⅵ層	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙		○			○ 1mm以下	口唇部に連続キザミ	569
323	Ⅴ層	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 1mm以下	口唇部に連続キザミ 波状口縁	560
324	Ⅵ層	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 3mm以下	口唇部に連続キザミ	565
325	Ⅵ層	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○			○ 1mm以下	口唇部に連続キザミ	566
326	Ⅴ層	口縁	沈線文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○		○	○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	570
327	Ⅵ層	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/3 にぶい黄褐					○ 1mm以下	口唇部に連続キザミ	579
328	Ⅵ層	口縁	ナデ	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR4/2 灰褐					○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	573
329	Ⅵ層	口縁	ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○		○	○ 1mm以下	口唇部に連続キザミ	574
330	Ⅵ層	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/2 灰黄褐	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	571
331	Ⅵ層	口縁	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 5mm以下		576
332	Ⅵ層	口縁	沈線文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○			○ 1mm以下	口唇部に連続キザミ	580
333	Ⅴ層	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	562
334	Ⅴ層	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○			○ 5mm以下	口唇部に連続キザミ	568
335	Ⅴ層	胴部～頚部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○		○	○ 2mm以下		717
336	Ⅴ層	頚部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○	○ 2mm以下		718
337	Ⅴ層	頚部	沈線文 (山形文?)	ナデ	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR5/2 灰褐	○				○ 2mm以下		719
338	Ⅴ層	頚部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙		○		○	○ 4mm以下		720
339	Ⅴ層	頚部	沈線文 (山形文?)	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○		○	○ 2mm以下		721

Ⅴ類（貝殻条痕文系土器）

当遺跡では、41点の貝殻条痕文土器が出土したが、今回はそのうち６点を資料化している。

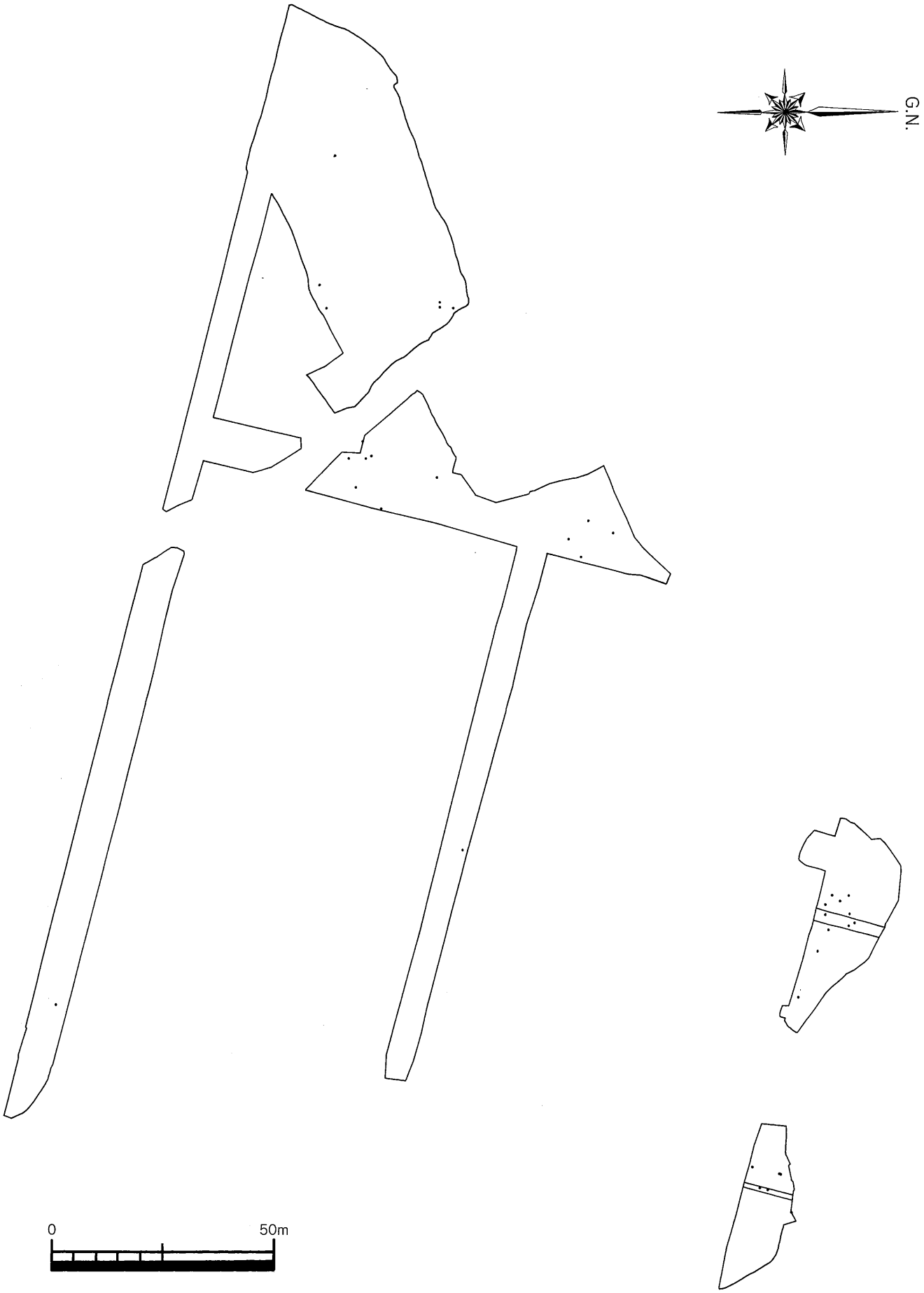
340は口縁部である。口唇部はやや尖り気味におさめ、その頂点にはキザミ目を施し、口縁部外面には横位の貝殻条痕文を施している。341～345は胴部である。いずれも胴部外面に横位・縦位・斜位の貝殻条痕文を施していて、器形については小破片のため不明である。以上が６点についての考察であるが、この分類の土器の出土層位については、他の縄文時代早期の土器よりも明らかに上位であった。（以上をⅤ類とする。）



第129図　Ⅴ類土器実測図（S=1/3）

第10表　Ⅴ類土器観察表

遺構No	出土層位	部位	文様及び調整		色調		胎土					備考	遺物整理No
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	砂粒		
340	Ⅵ層	口縁	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/2 灰褐色	2.5Y5/2 暗灰黄		○			○ 1mm以下	口唇部に連続キザミ	413
341	Ⅴ層	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/4 にぶい黄褐	○	○			○ 1mm以下		414
342	Ⅴ層	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下		415
343	Ⅴ層	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR4/1 褐灰	7.5YR5/2 灰褐					○ 2mm以下		416
344	Ⅴ層	胴部	貝殻条痕文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR4/3 褐	○	○			○ 2mm以下		417
345	－	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR4/3 褐	5YR4/2 灰褐	○	○			○ 2mm以下		418



第130図　縄文時代早期遺物包含層出土土器（Ⅴ類）分布図（S=1/1,200）

Ⅵ類（その他の土器）

当遺跡の縄文時代早期の包含層から出土した土器のなかで、先述のⅠ類～Ⅴ類の区分には入らないが、器形や施文などになんらかの特徴を持つ土器を、今回は12点資料化している。

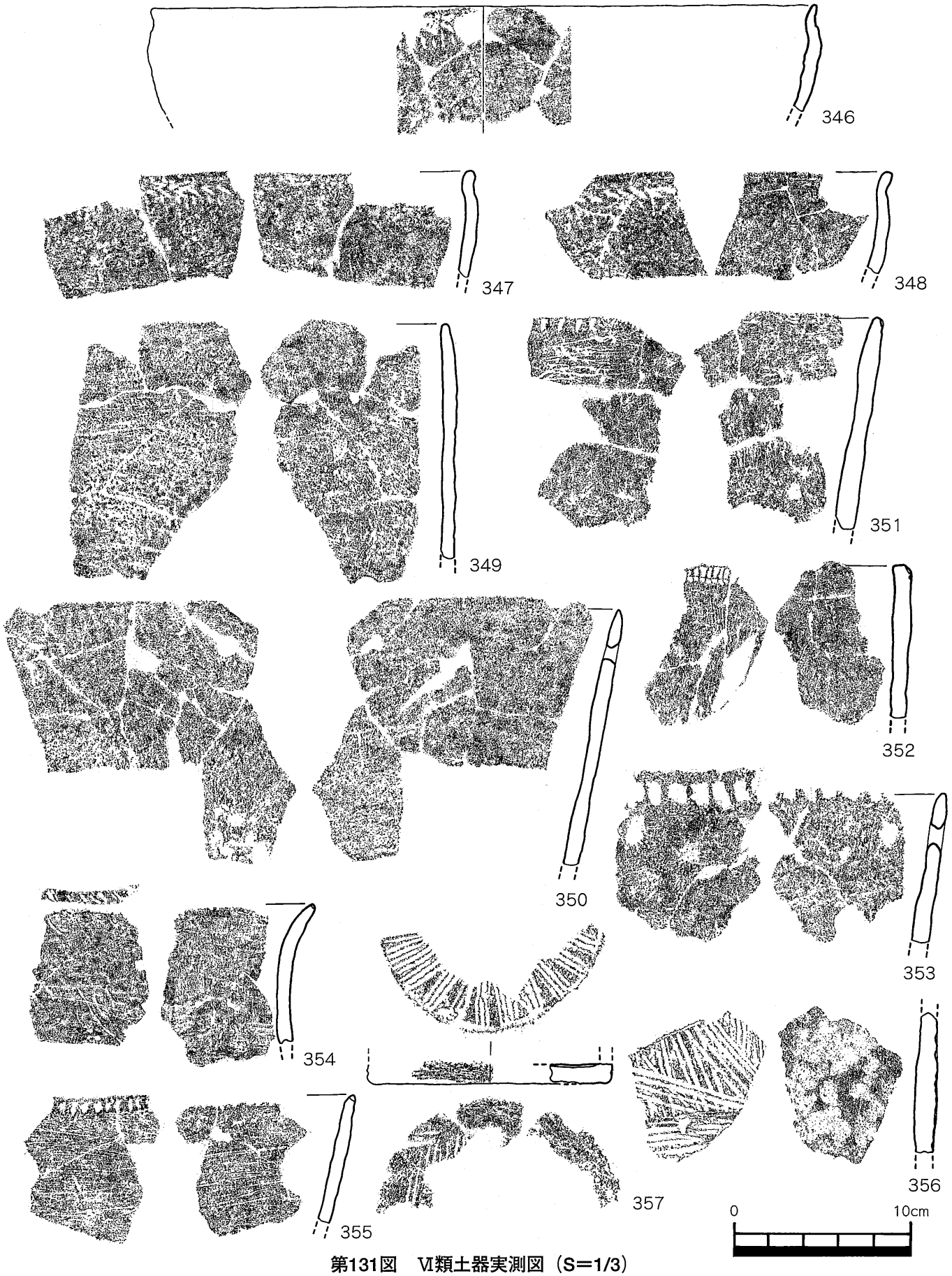
346～348は口縁部であるが、胴部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がり、口唇部下位1cm～1.5cmのところでくの字状に外反している。その屈曲部外面には爪形の文様があるが、これは口縁部を外反させる際に施されたものだと推測される。

349～355については、胴部から口縁部にかけて直立するもの（349・352）、やや開きながら立ち上がるもの（350・351・353・355）、口縁部が外反するもの（354）が見られる。口縁部については、丸くおさめているもの（349・351・355）、やや尖り気味におさめているもの（350・353）、そして平坦面を作り出しているもの（352・354）が見られるが、351～355については口唇部にキザミ目を施している。施文についてはほぼ無文であるが、355は口縁部外面に貝殻条痕文を施した後ナデ調整を行っているのではないかと推測される。

尚、356は外面に貝殻条痕文を施した胴部で、357は内面及び外面に貝殻条痕文を施した平底の底部である。（以上をⅥ類とする。）

第11表　Ⅵ類土器観察表

遺構No	出土層位	部位	文様及び調整		色調		胎土					備考	遺物整理No
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	砂粒		
346	Ⅵ層	口縁部	ナデ 刺突文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○			○ 4mm以下		738
347	Ⅵ層	口縁部	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○		○	○ 4mm以下		726
348	Ⅵ層	口縁部	ナデ	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○			○ 4mm以下		729
349	Ⅴ層	口縁部～胴部	刺突文 ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○			○ 5mm以下		736
350	Ⅵ層	口縁部～胴部	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y5/2 暗灰黄	○	○		○	○ 4mm以下	穿孔有り	737
351	Ⅵ層	口縁部	ナデ	ナデ	10YR7/1 灰白	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下		735
352	Ⅵ層	口縁部	刺突文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 3mm以下		733
353	Ⅵ層	口縁部	ナデ 刺突文 ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○		○	○ 3mm以下	穿孔有り	727
354	Ⅵ層	口縁部	ナデ	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○			○ 5mm以下	口唇部に連続キザミ	728
355	Ⅵ層	口縁部	ナデ	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR4/2 灰褐	○			○	○ 4mm以下		723
356	Ⅴ層	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR4/2 灰黄褐	○	○			○ 5mm以下		732
357	Ⅴ層	底部	沈線文	沈線文	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR5/4 にぶい赤褐	○	○		○	○ 4mm以下		734



第131図　Ⅵ類土器実測図（S＝1/3）

2．土製品

当遺跡では、縄文時代早期の包含層から12点の土製品が出土した。

異形土製品

358は分銅形（涙滴形）の土製品である。重量は30.2ｇで、長軸方向には穿孔が施されている。用途は不明である。

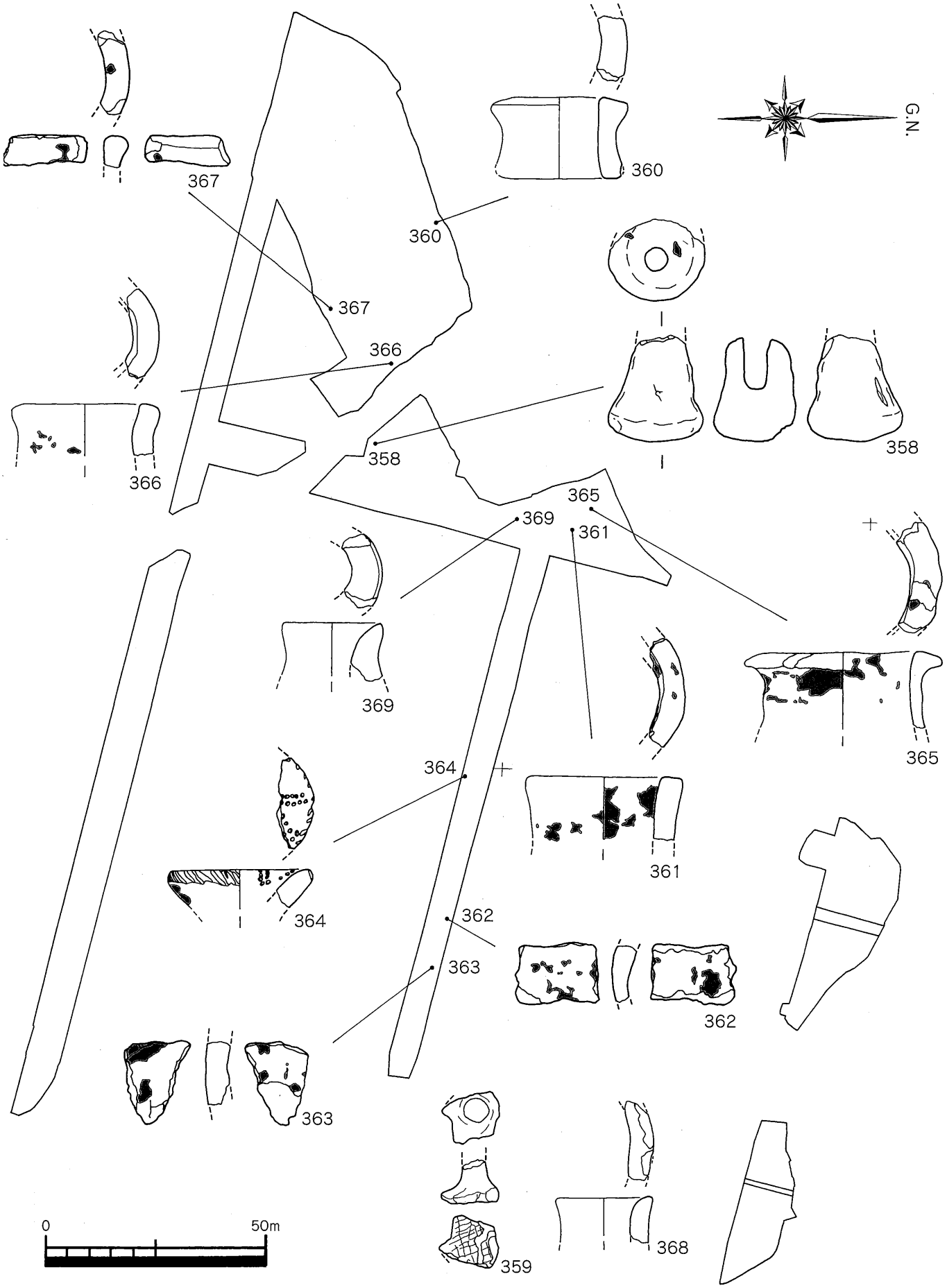
359は格子目文を施した土製品である。重量は3.6ｇで、その形状からは臼状耳栓の一部の可能性も考えられる。但し、今回は異形土製品として資料化している。

輪状耳栓

360～369は輪状耳栓である。360～368は外面に丹塗りと思われる赤色顔料が残っている。又、364には櫛状工具による連点文と連続キザミ目が施してあるが、その他はナデ調整が施されている。これら全ての輪状耳栓は完形で出土したものではないので、整理作業当初、壺の口縁部ではないかと判断を迷ったが、近隣遺跡からこれらとほぼ同じ胎土で似た形状の輪状耳栓が出土しているため、今回は輪状耳栓として資料化している。

第12表　土製品観察表

遺構No	出土層位	遺物名	サイズ	色調	備考
358	Ⅵ層	異形土製品(涙滴形土製品)	－	10YR6/4（にぶい黄橙）	重量30.2g
359	Ⅵ層	異形土製品	－	10YR5/2（オリーブ灰）	格子目有り。重量3.6g
360	Ⅵ層	輪状耳栓	上部径3.2cm×器高3.1cm	外面：10YR5/3（にぶい黄褐） 内面：7.5YR5/4（にぶい褐）	赤色顔料有り（丹塗り）
361	Ⅵ層	輪状耳栓	上部径5.4cm	外面：7.5YR5/4（にぶい褐） 内面：7.5YR4/3（褐）	赤色顔料有り（丹塗り）
362	Ⅵ層	輪状耳栓	－	外面：5YR5/4（にぶい赤褐） 内面：5YR5/4（にぶい赤褐）	赤色顔料有り（丹塗り）
363	Ⅵ層	輪状耳栓	－	外面：10YR5/2（灰黄褐） 内面：7.5YR4/2（灰褐）	赤色顔料有り（丹塗り）
364	Ⅵ層	輪状耳栓	上部径5.3cm	外面：10YR6/4（にぶい黄橙） 内面：10YR5/3（にぶい黄褐）	連続キザミ目、櫛状工具による連点文、赤色顔料有り（丹塗り）
365	Ⅵ層	輪状耳栓	上部径5.8cm	外面：7.5YR5/3（にぶい褐） 内面：10YR5/3（にぶい黄褐）	赤色顔料有り（丹塗り）
366	Ⅵ層	輪状耳栓	上部径4.6cm	外面：10YR5/3（にぶい黄褐） 内面：10YR5/3（にぶい黄褐）	赤色顔料有り（丹塗り）
367	Ⅵ層	輪状耳栓	－	外面：2.5Y6/3（にぶい黄） 内面：10YR5/3（にぶい黄褐）	赤色顔料有り（丹塗り）
368	Ⅵ層	輪状耳栓	上部径3.7cm	外面：2.5Y6/3（にぶい黄） 内面：10YR5/3（にぶい黄褐）	赤色顔料有り（丹塗り）
369	Ⅵ層	輪状耳栓	上部径3.8cm	外面：7.5Y4/2（灰褐） 内面：10YR4/2（灰黄褐）	



第132図　縄文時代早期遺物包含層出土土製品分布図及び実測図（S=1/1,200）※実測図については1/3

3．石器

縄文時代早期の石器は５層～６層を中心に、総数3000点以上が出土した。

縄文早期の遺物包含層から出土した石器の整理作業にあたっては、従来分類に使用されている器種について分類基準を設定し、器種分類を行った。なお石器の器種分類については山田第一遺跡の整理作業にあたっての分類であり、すべての石器資料に用いられるものではない。以下にその器種ごとの分類基準と特徴を述べる。

石鏃（370～564）

剥片を素材として両面調整又は半両面調整により鋭い先端部を作り出し、平面形がおおむね三角形又は五角形を想定させるものを石鏃として分類した。

本遺跡において石鏃は未製品・欠損品を含め総数318点出土した。使用石材としてはチャート、黒曜石（複数の産地のものが確認されている）、流紋岩、頁岩、安山岩（サヌカイトを含む）、玉髄、砂岩、ホルンフェルスなど多様な石材が使用されているが特にチャート及び黒曜石の使用が目立つ。石鏃の平面形態や製作状況を検討し、下記のⅠ～Ⅸ類に分類した。

Ⅰ類：長さ・幅が1.5cm以下の小型のもので長幅比がほぼ1：1のもの。黒曜石がよく使用されているが、なかでも桑ノ木津留産のものが目立つ。(370～394)

Ⅱ類：平面形が変則的な五角形を呈し、胴下半部に最大幅をもついわゆる帖地型石鏃と呼ばれるもの。チャート、玉髄の使用が目立つ。(395～410)

Ⅲ類：加工が周縁部にのみとどまり、素材剥片の形状を大きく残すもの。さまざまな石材が使用されているが流紋岩・頁岩が目立つ。(411～430)

Ⅳ類：平面形はⅡ類に似ているが、抉りが深く、脚部の先端が尖るもの。すべてチャートが使用されている。(431～433)

Ⅴ類：抉りが深く、平面形は将棋の駒のような五角形を呈するもの。脚部の先端はおおむね尖っている。チャートの使用が目立つ。(434～440)

Ⅵ類：特徴的な抉り・脚部を呈するもの、いわゆる鍬形鏃と呼ばれるもの。さまざまな石材が使用されているが特にチャートの使用が目立つ。(441～466)

Ⅶ類：体部と脚部の間に屈曲が見られ、その境目が明瞭なもの。姫島産黒曜石の使用が目立つ。(467～470)

Ⅷ類：研磨の痕跡が認められるもの。局部磨製石鏃。いずれも頁岩が使用されており、周縁部は鋸歯状を呈する。(471～472)

Ⅸ類：上記の分類に当てはまらないものである。Ⅰ～Ⅷ類の定義に該当するものかどうか判別の困難なものや欠損などの理由で判別できないものまですべてを含んでおり、数量的には一番多くなっている。いちおう抉りのないもの・浅いもの（473～507）と抉りの深いもの（508～564）とに細分できるが、さらに細分されることが予想される。

詳細は後述するが、縄文早期の土器の平面分布と上記の分類や使用石材による石鏃の分布状況

を重ねあわせた結果、早期中葉の土器の分布に重なるものや早期後葉の土器の分布に重なるものがあるという傾向が見受けられた。このような結果から大まかであるが、本遺跡における縄文早期の使用石材の傾向や石鏃の形態を把握できる可能性が伺えるだろう。

石鏃未製品（565～586）

石鏃とほぼ同規模であり三角形や楕円形などを呈するもので、先端部が尖っていないものや加工が未熟なものを石鏃の未製品として分類した。一部には石錐も含まれている可能性もある。

尖頭状石器（587～592）及びその未製品（593～605）

総数25点が出土している。剥片を素材として両面調整または半両面調整より鈍い尖端部を作り出し、基部は丸くおさめられているもので、石鏃に比べると調整が粗く、大ぶりなものを分類した。一部に石鏃の未製品が含まれている可能性が考えられる。使用石材は頁岩、流紋岩の使用が目立つが他に安山岩、ホルンフェルスも使用される。未製品については素材の周縁に粗い加工が及んでいるが、尖端部を作り出しておらず、製品よりも規模の大きいものを分類している。一部には石鏃の未製品や小型の石核などが含まれている可能性もある。

尖頭器（606～610）及びその未製品（611）

総数６点が出土している。剥片を素材として両面調整または半両面調整より尖端部を作り出すもので、平面形が木葉形や柳葉形を想定させるものを尖頭器として分類した。素材剥片の形状を大きく残すものと残さないものがある。流紋岩、頁岩、チャート、ホルンフェルスを使用する。平面分布は早期中葉の土器の分布とおおむね重なりそうである。611は頁岩製で、加工も粗く、素材の形状を大きく残しているため尖頭器の未製品と考えられる。

抉入石器？（612）

１点のみ出土している。黒色を呈するチャートを使用している。剥片を素材とし、その一部にのみ加工を施して抉りの部分を作り出す。二次加工は抉りの部分にのみ施される。石匙のつまみ部分の可能性もある。

異形石器（613）

１点のみ出土している。黒色を呈する頁岩を使用している。素材の周縁に加工を施し、先端の丸くなった石鏃のように形状を整えている。先端部付近には研磨の痕跡が見られ、稜線がつぶれている。トロトロ石器に分類されるであろうか。

石錐（614～623）

剥片を素材とし、その一部に両側縁からの調整を施し、尖端部を作り出したものを分類した。総数10点が出土している。一部には石鏃の未製品が含まれている可能性がある。石材は流紋岩、頁岩、チャート、安山岩、黒曜石、砂岩が使用されている。

石匙（624～629）

剥片を素材とし、その一部に両側縁からの調整によりつまみ部を作り出し、また周縁に加工を施して刃部を作り出すものを石匙として分類した。総数６点が出土している。石材は安山岩、チャートが使用されている。

スクレイパー（630～639）

剥片を素材とし、その縁辺に連続的な調整を施し、刃部を作り出したものを分類した。調整は周縁に限られている。総数14点が出土している。石材は頁岩・流紋岩を主体とし、他にチャート・砂岩が使用されている。

剥片（640～652）・砕片

総数2669点が出土している（主な内訳は流紋岩628点、チャート887点、頁岩179点、黒曜石624点、砂岩161点、その他190点）。チャート・黒曜石・玉髄・安山岩製のものは小型のものばかりで、砂岩・ホルンフェルス製は大型のものばかりである。頁岩・流紋岩については大型品も小型品も見受けられる。黒曜石については複数の産地（西北九州産・南九州産・姫島）のものが確認される。640・641は側縁や下縁に粗い二次加工が見られる。643・647・649・650は縁辺に微細剥離が確認される。651はP72の26と同じ珪質岩製の研磨痕が観察される剥片である。このような磨製石斧の再生剥片と考えられる剥片は包含層中から他に５点出土している。

礫器（652）

1点のみ出土している。砂岩の扁平な楕円形の礫を素材とする。円礫の一端に両面から数回の粗い加工を施し、刃部を作り出す。両側面の中央部付近には敲打痕が確認され、浅い抉りを意識している。

磨製石斧（653）

1点のみ出土している。砂岩の扁平な楕円形の礫を素材としている。一部に自然面を残し、両側縁には敲打の痕跡が確認される。全面に研磨を施しているようであるが、側縁部や基部についてはあまり入念に行っておらず、敲打の痕跡を残したままである。全体の形状は短冊形を呈する。刃部に見られる剥離面については研磨痕が確認されないことから、刃部再生のための加工である可能性が考えられる。

両面加工石器（654）

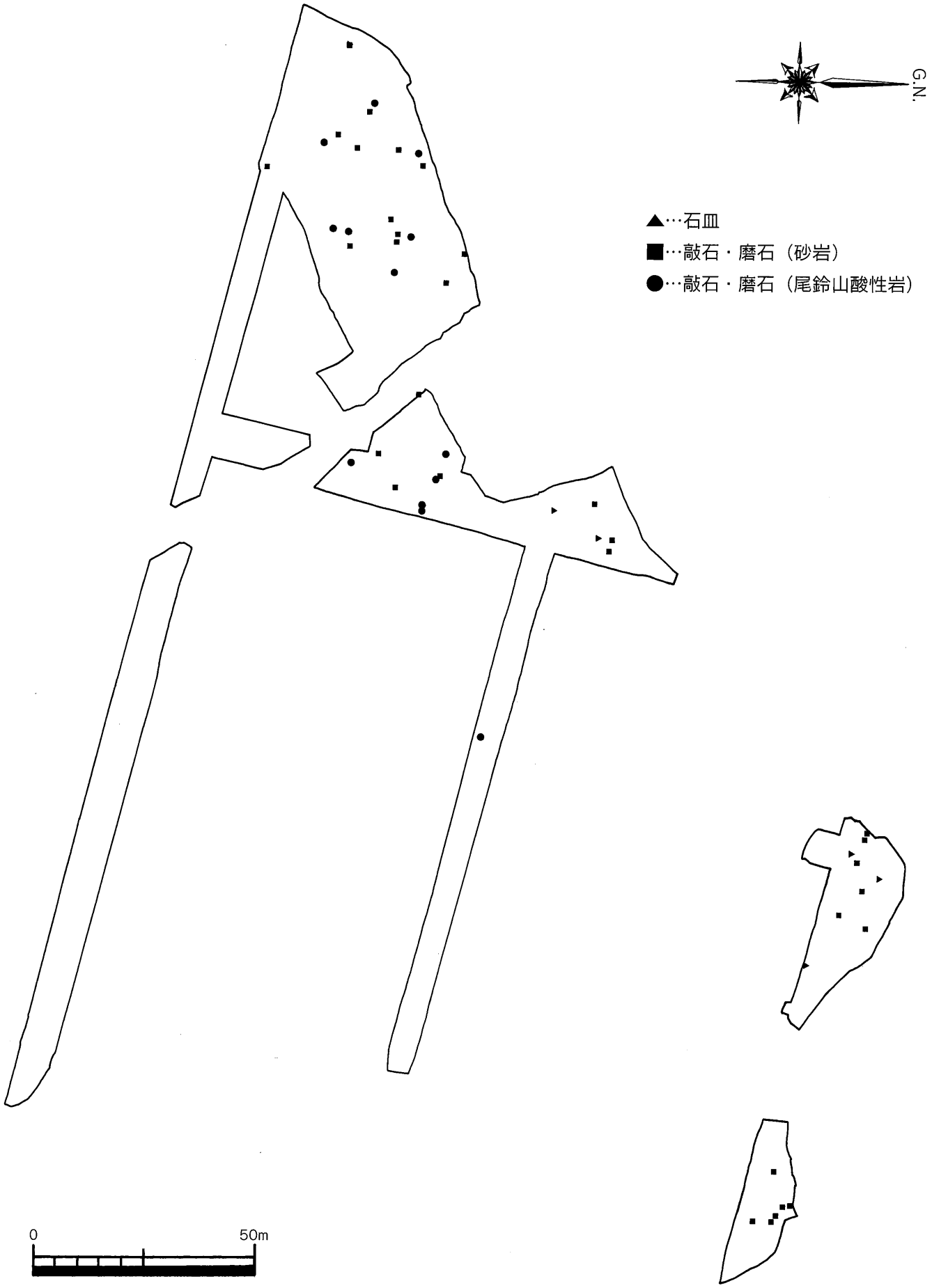
１点のみ出土している。黄褐色を呈するホルンフェルス製で両端部は鈍く尖る。厚手の剥片か礫を素材として、両面加工がおこなわれているものである。石核の可能性も考えられるが、この石材を使用する剥片は一点も出土していない。

石核（655～661）

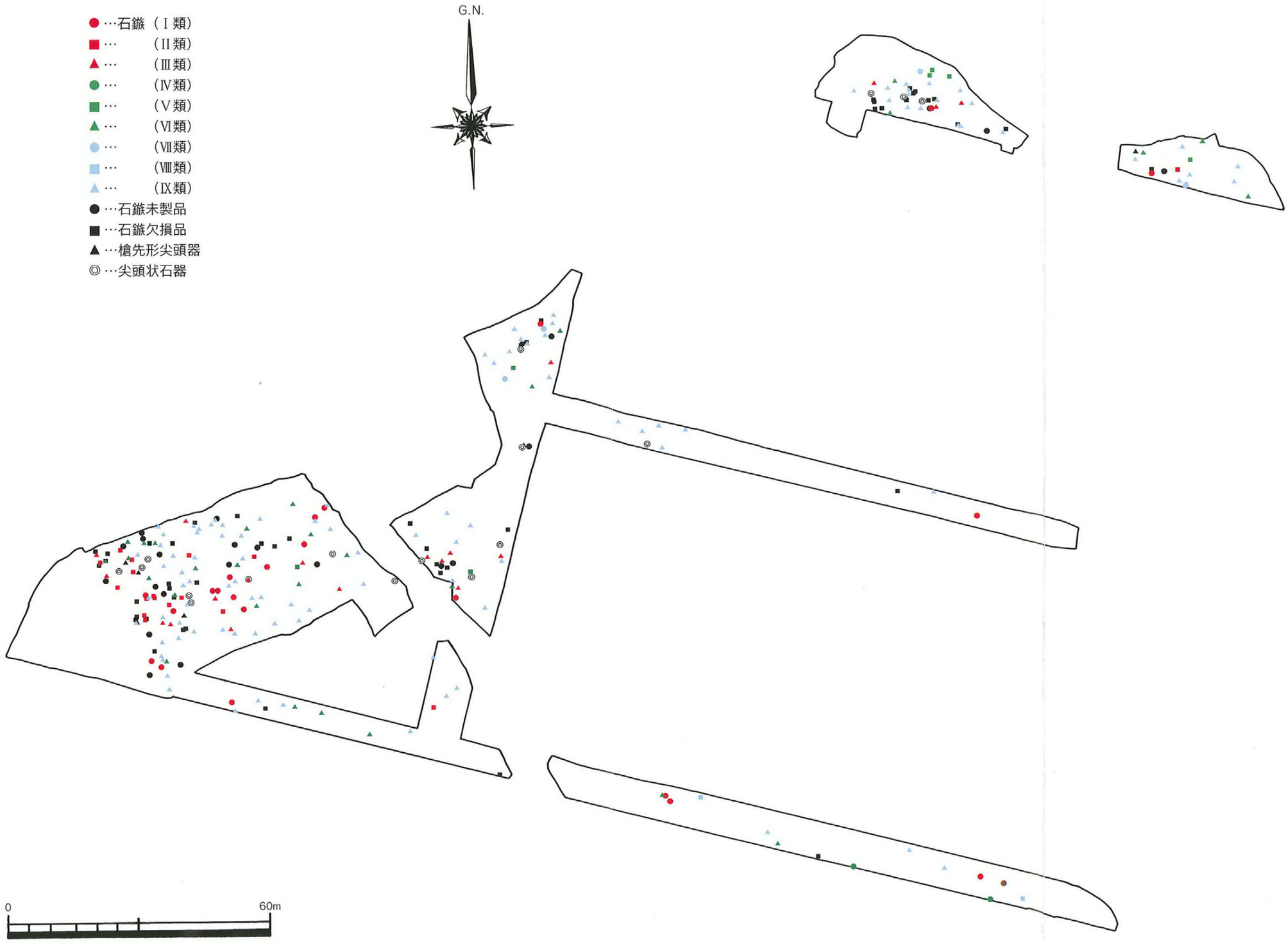
総数30点出土している（内訳は流紋岩12点、頁岩５点、黒曜石３点、砂岩10点）。石材ごとに規模を観察すると剥片と同様の状況が見受けられた。一部には楔形石器も含まれている可能性が考えられる。共通点としては打面調整をおこなうものがほとんどないということがあげられ、求心的に剥片剥離をおこなうもの（655・658・659・660）、自然面または大きな剥離面を打面とし、一方向からのみ剥片剥離をおこなうもの（657・661）、作業面を転回しながら剥片剥離をおこなうもの（656）、という主に３種類に分類が可能である。

有孔石製品（662）

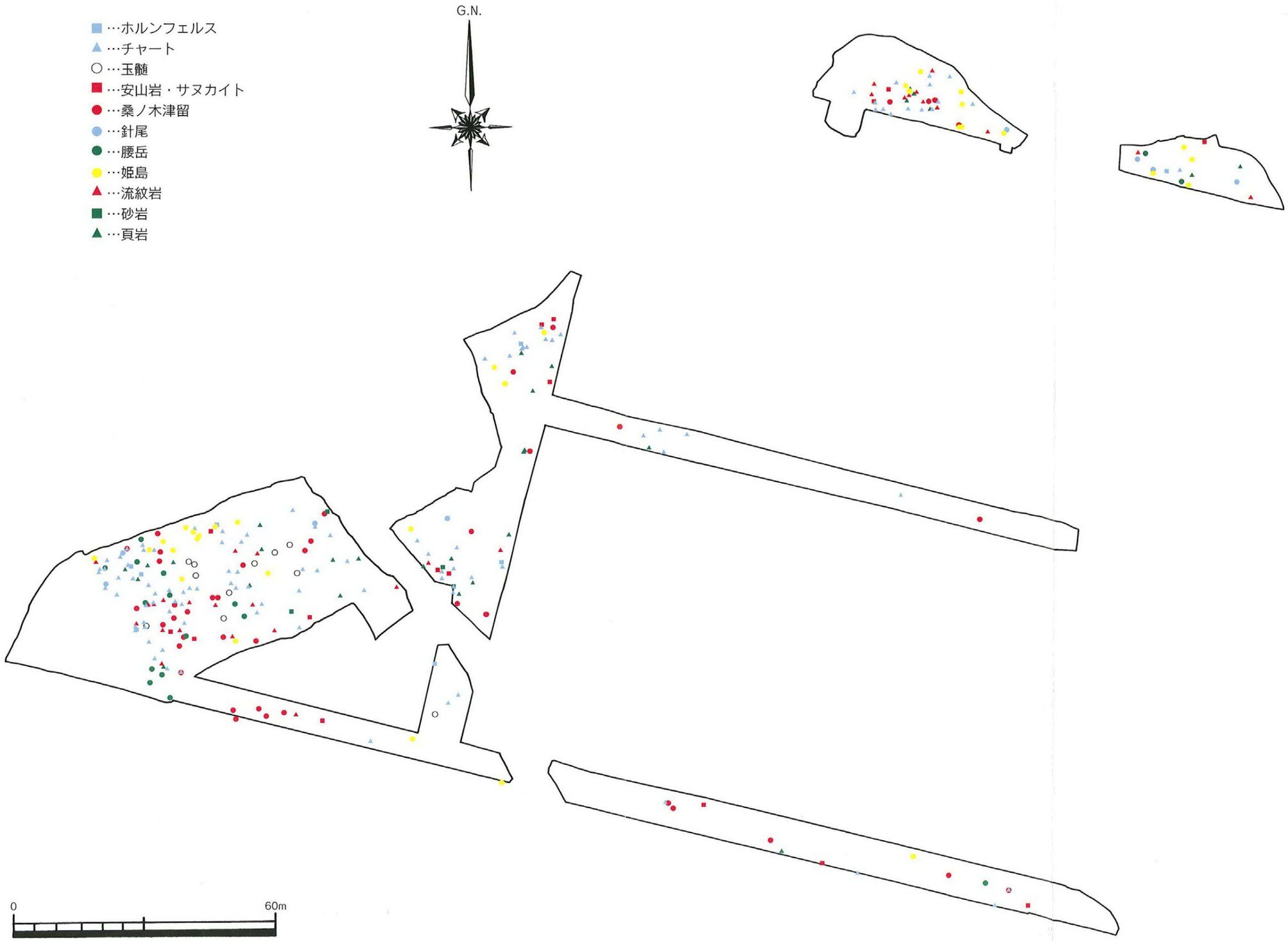
砂岩製で１点のみ出土している。中心に穴が開いており、その周辺部については表面も裏面も



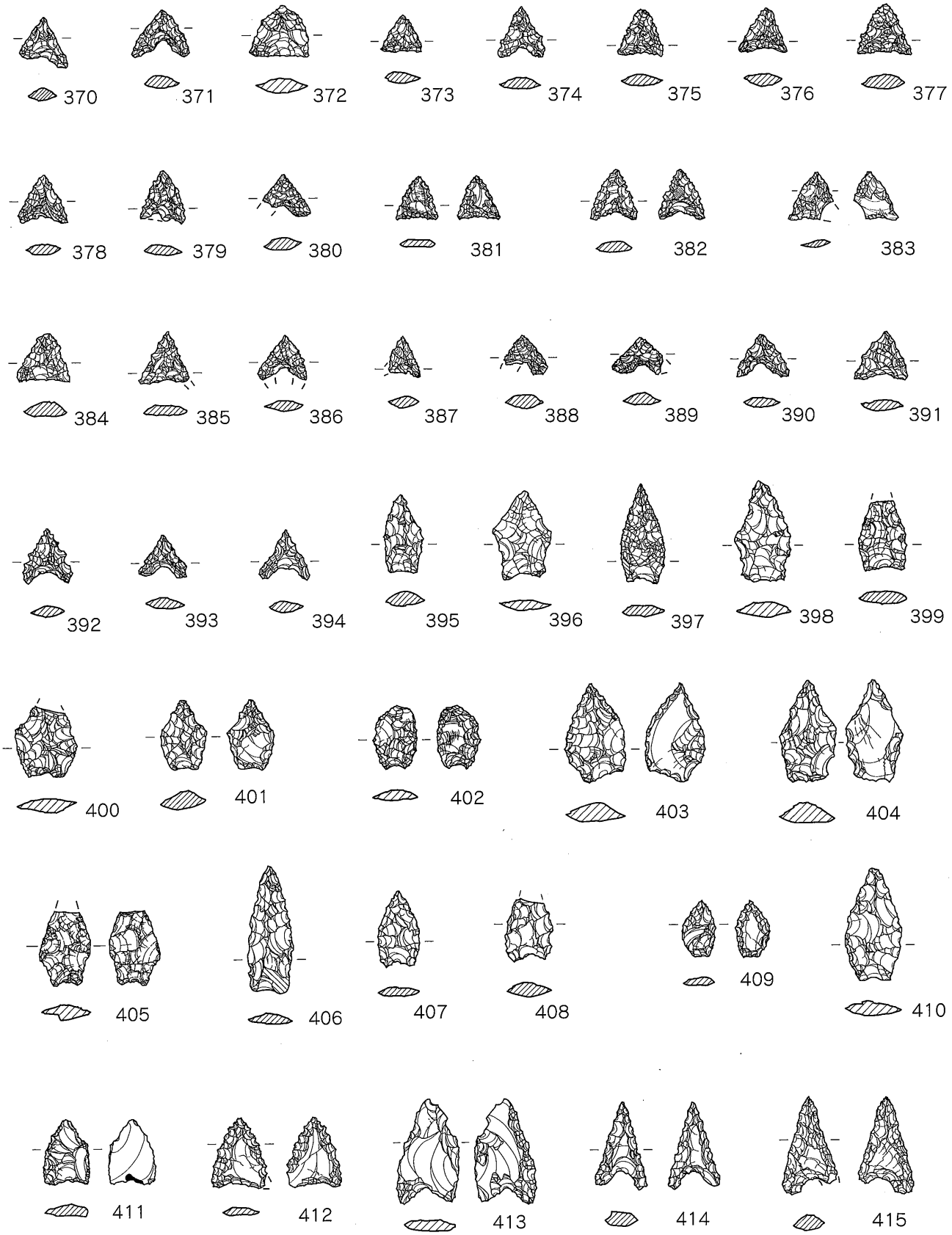
第133図　山田第１遺跡・縄文時代早期遺物包含層出土　敲石・磨石分布図（S=1/1,200）



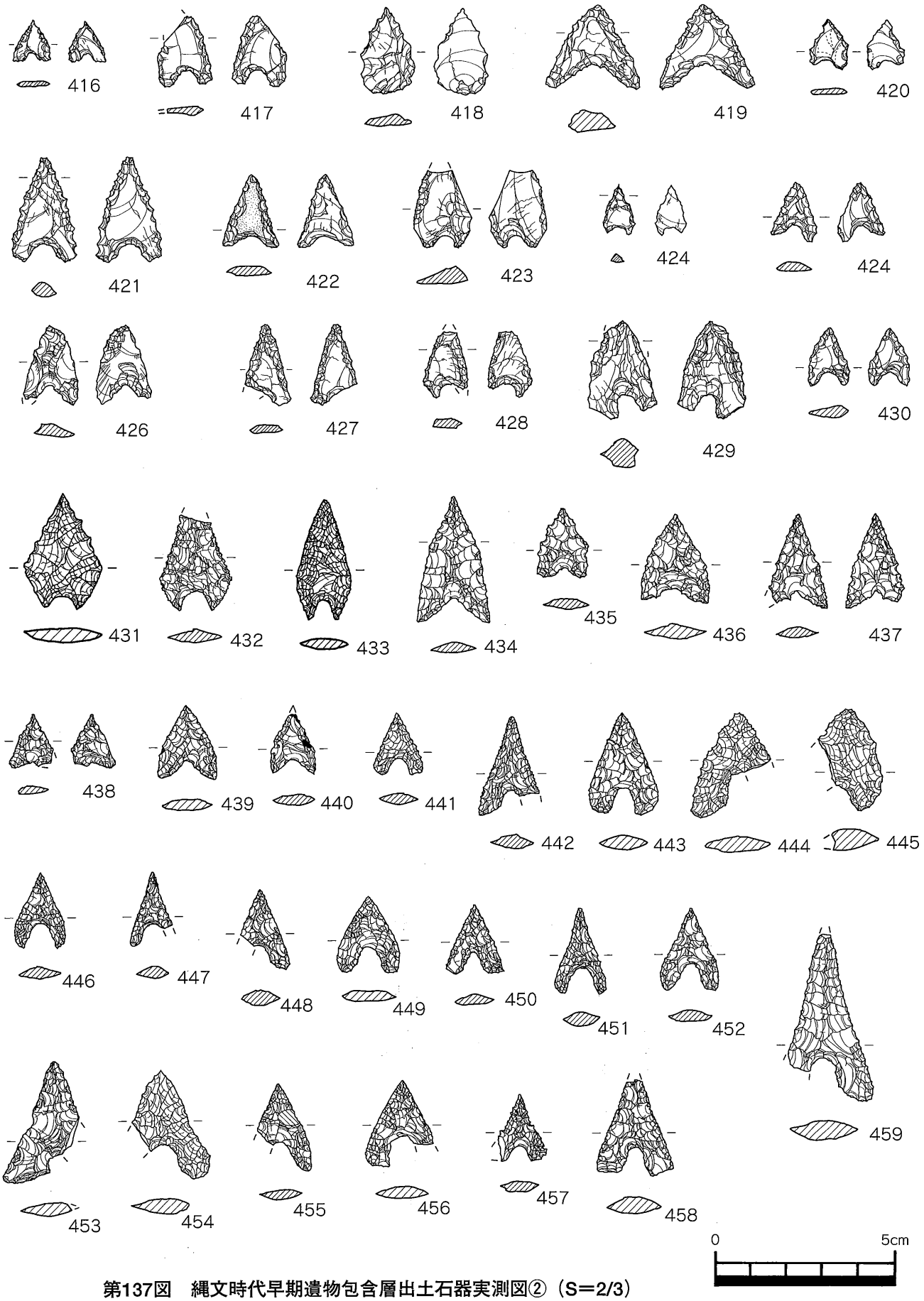
第134図　山田第１遺跡・縄文時代早期遺物包含層出土　石鏃・槍先形尖頭器・尖頭状石器（器類別）分布図（S=1/900）



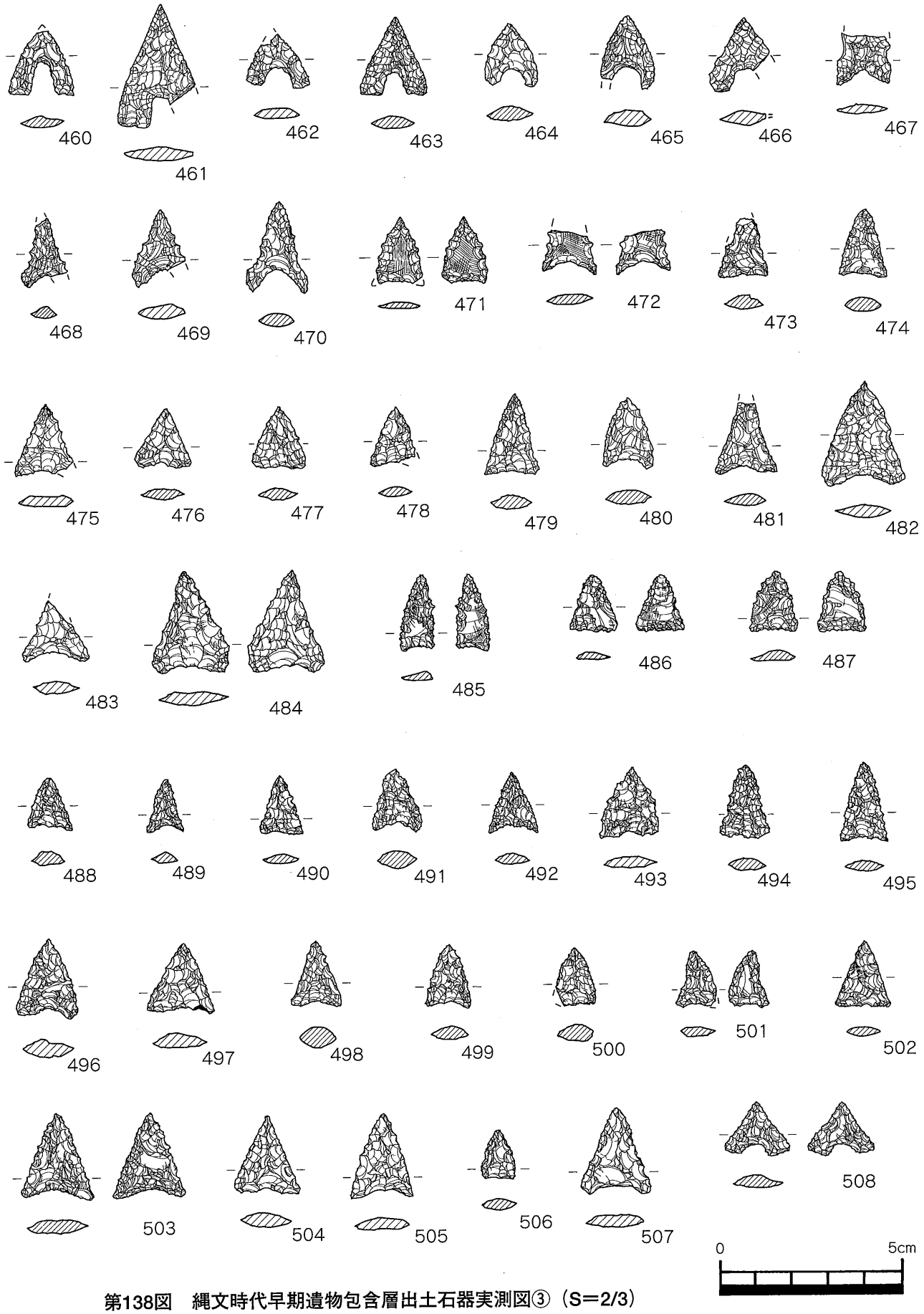
第135図　山田第１遺跡・縄文時代早期遺物包含層出土　石鏃・槍先形尖頭器・尖頭状石器（石材別）分布図（S=1/900）



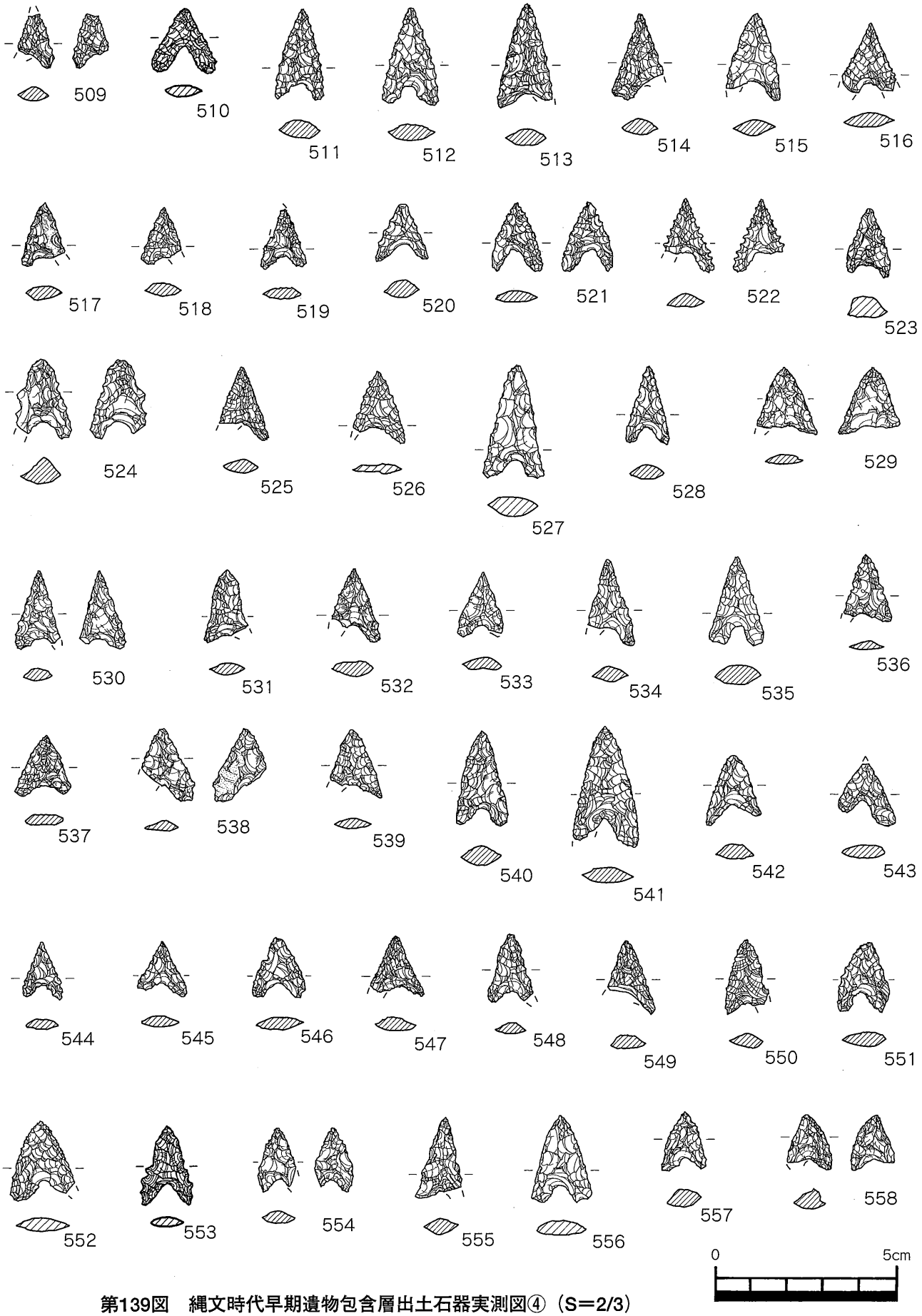
第136図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図①（S＝2/3）



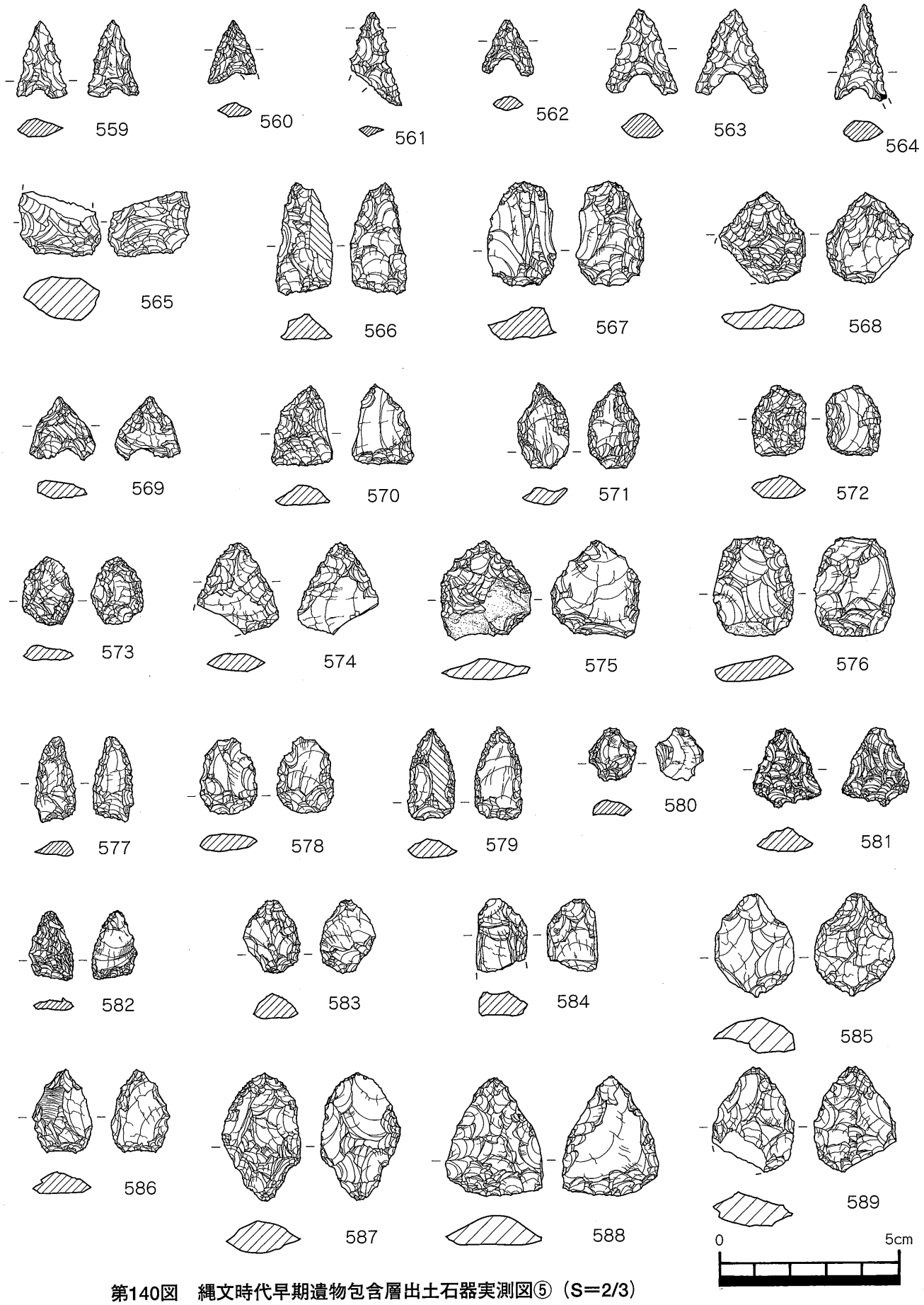
第137図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図②（S＝2/3）



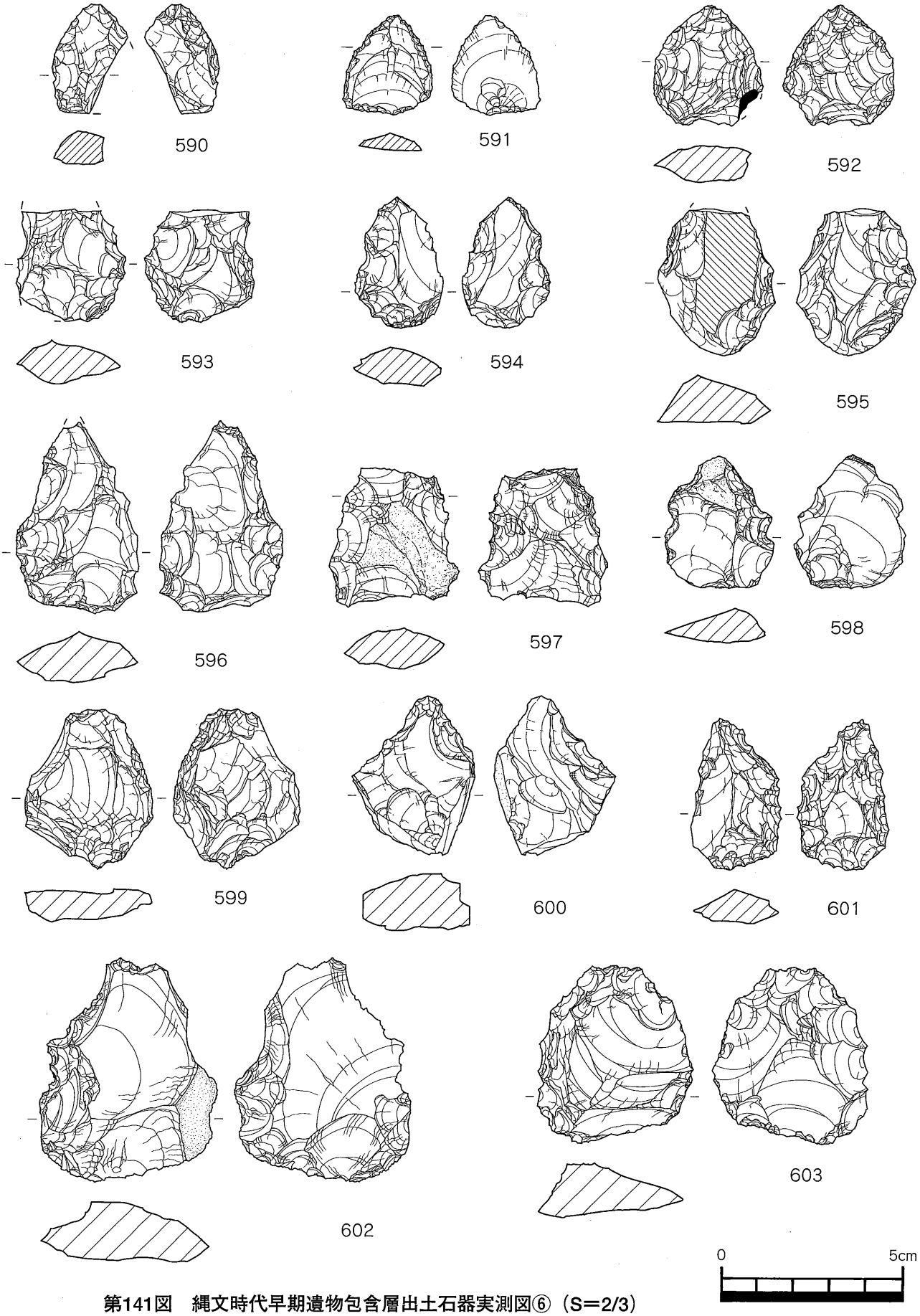
第138図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図③（S＝2/3）



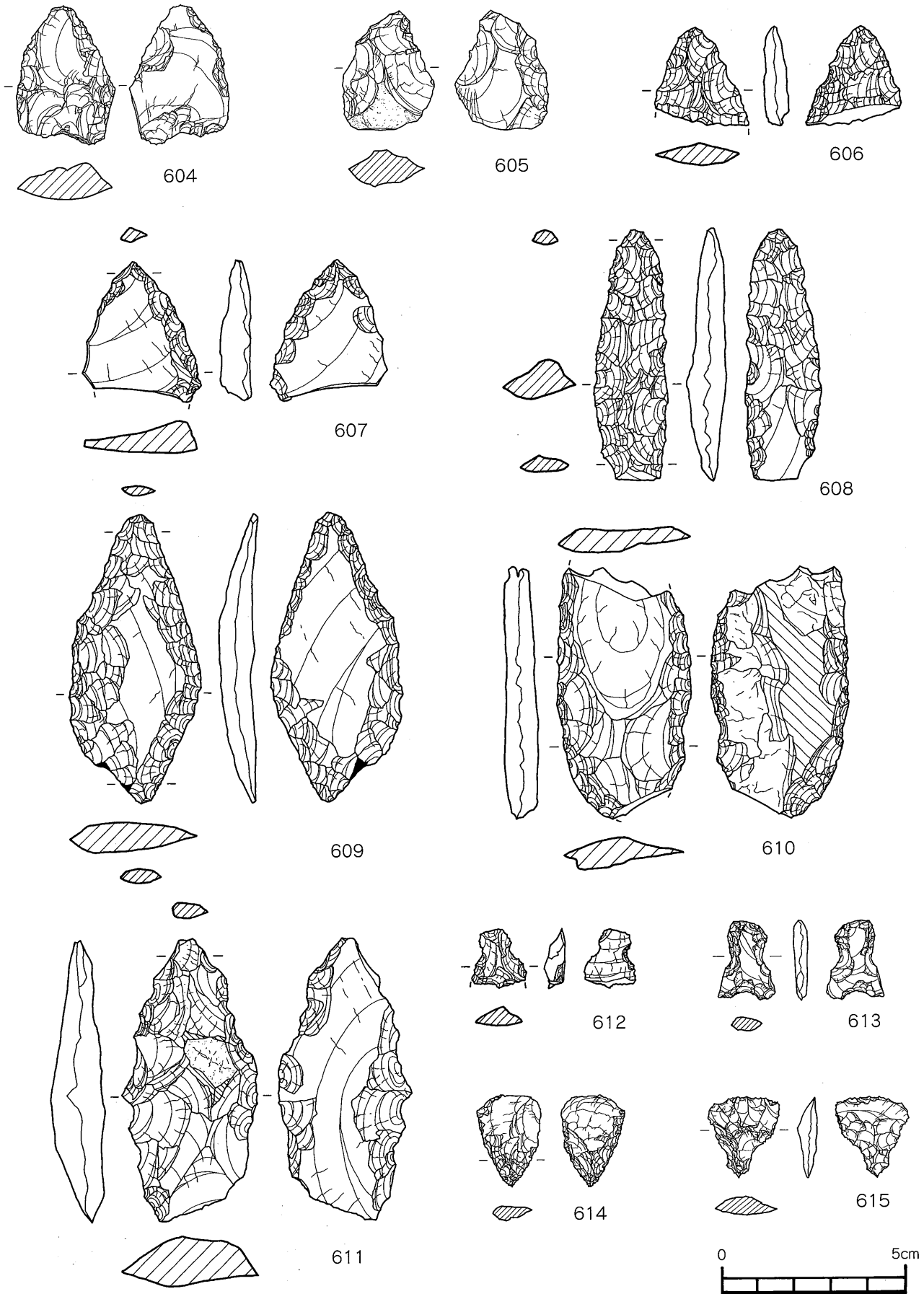
第139図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図④（S＝2/3）



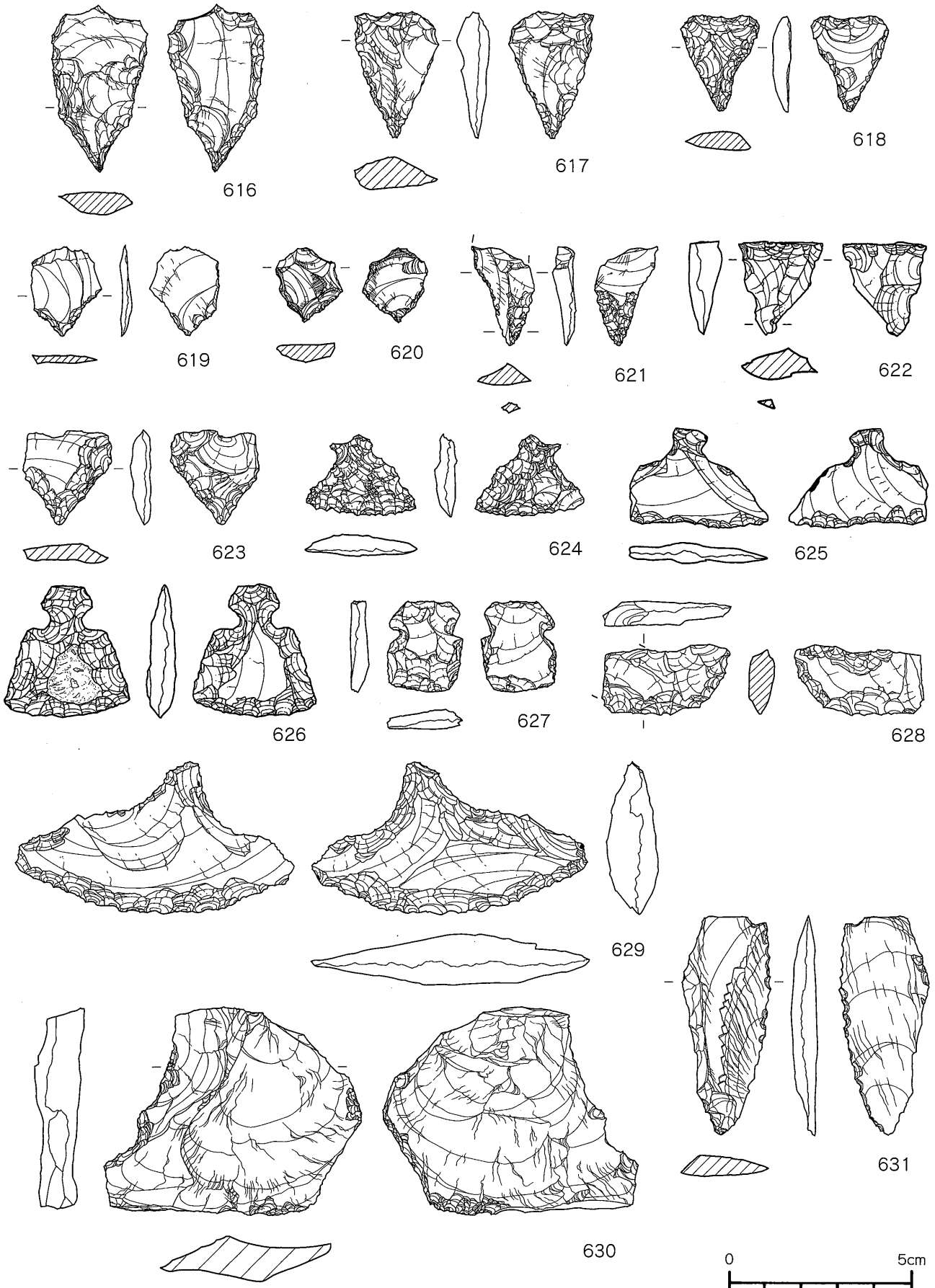
第140図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑤（S＝2/3）



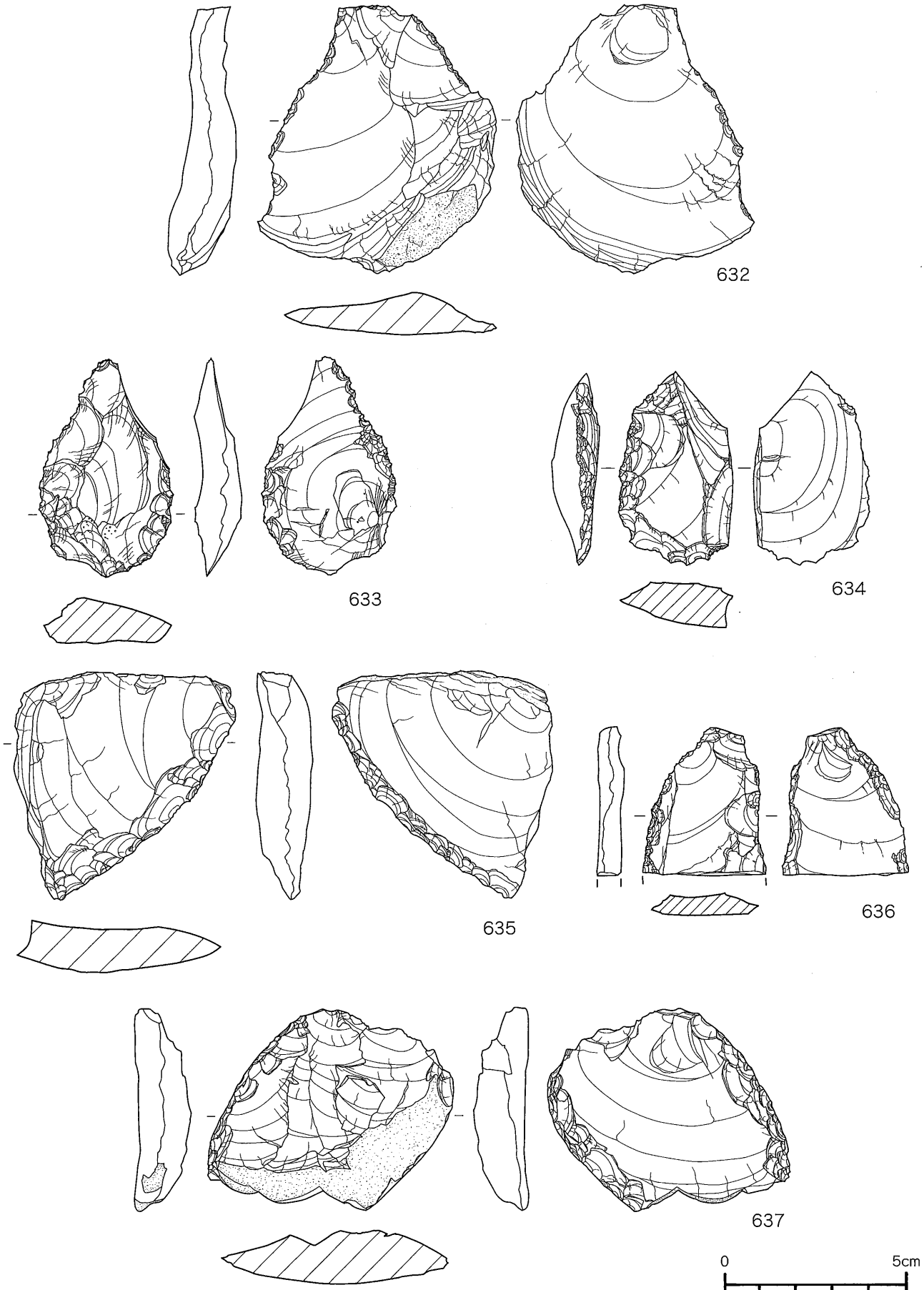
第141図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑥（S＝2/3）



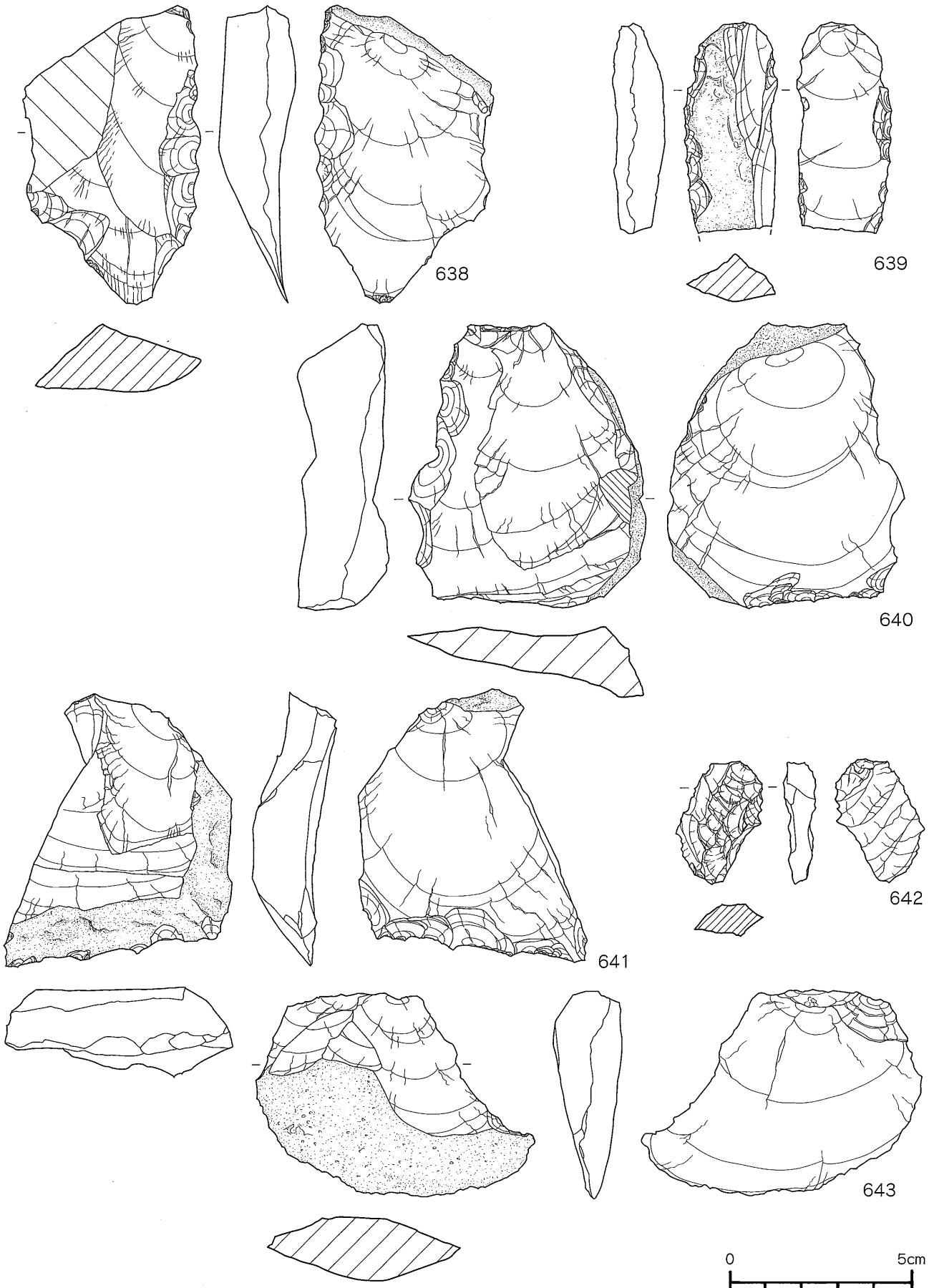
第142図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑦（S＝2/3）



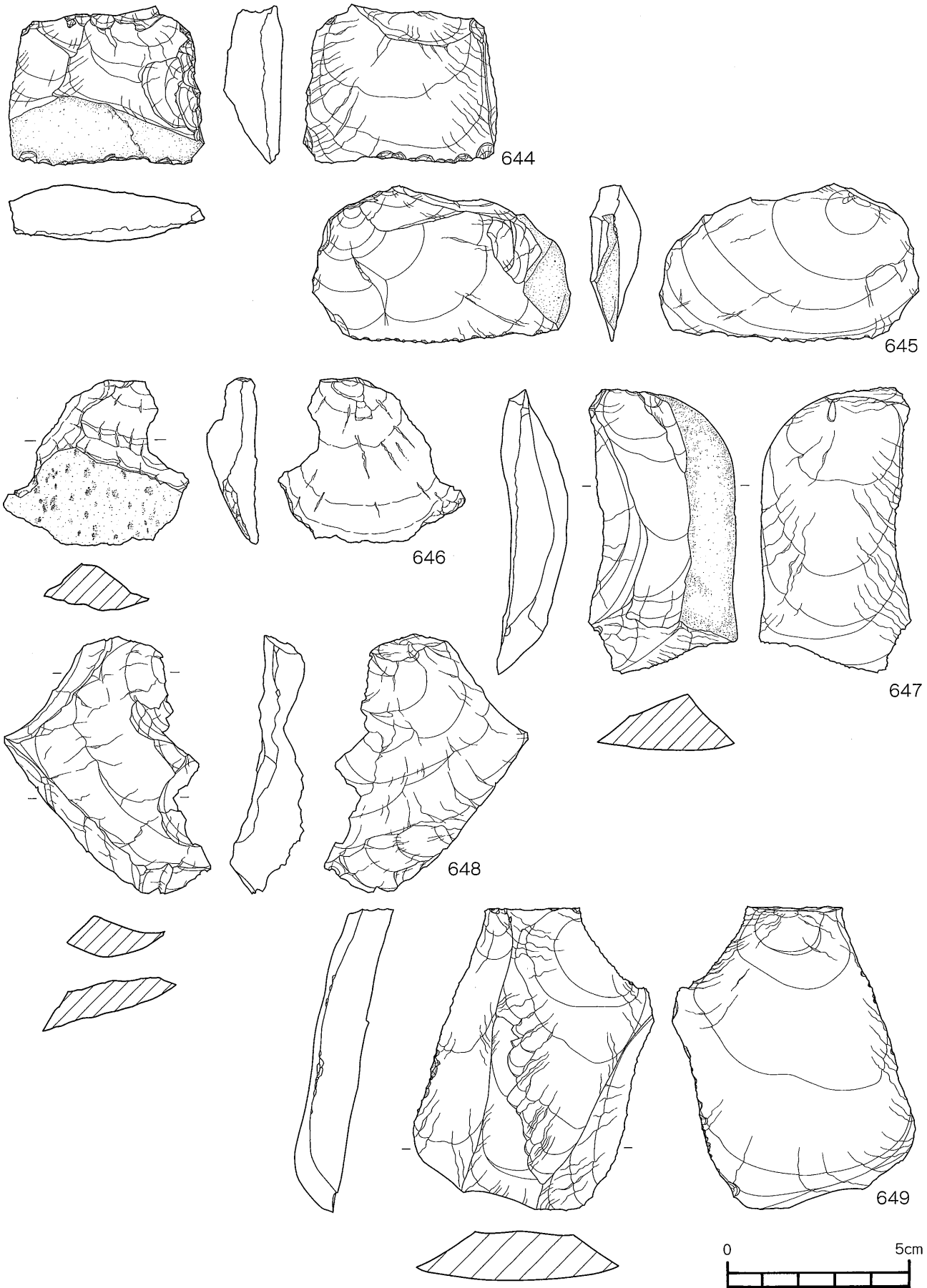
第143図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑧（S＝2/3）



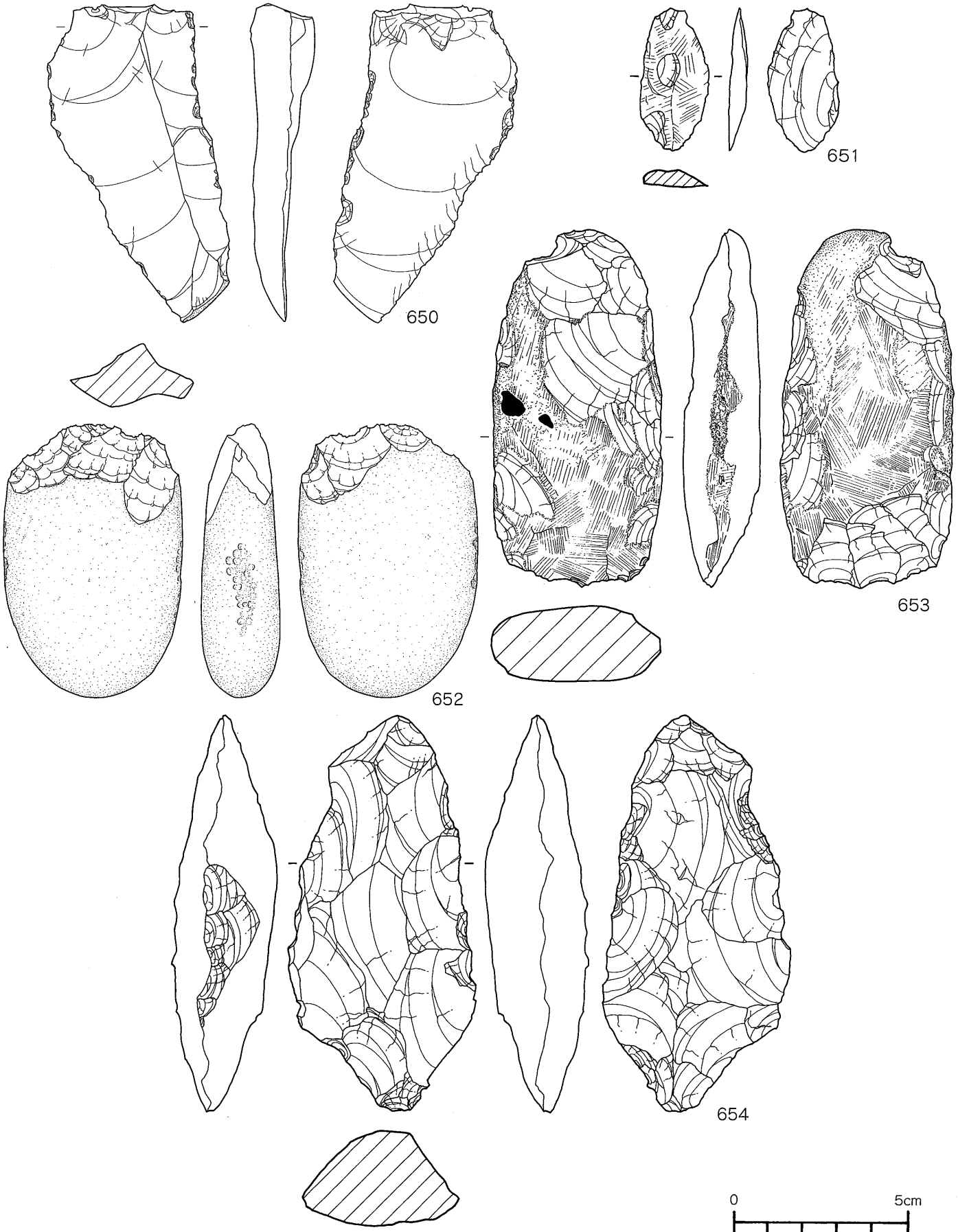
第144図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑨（S＝2/3）



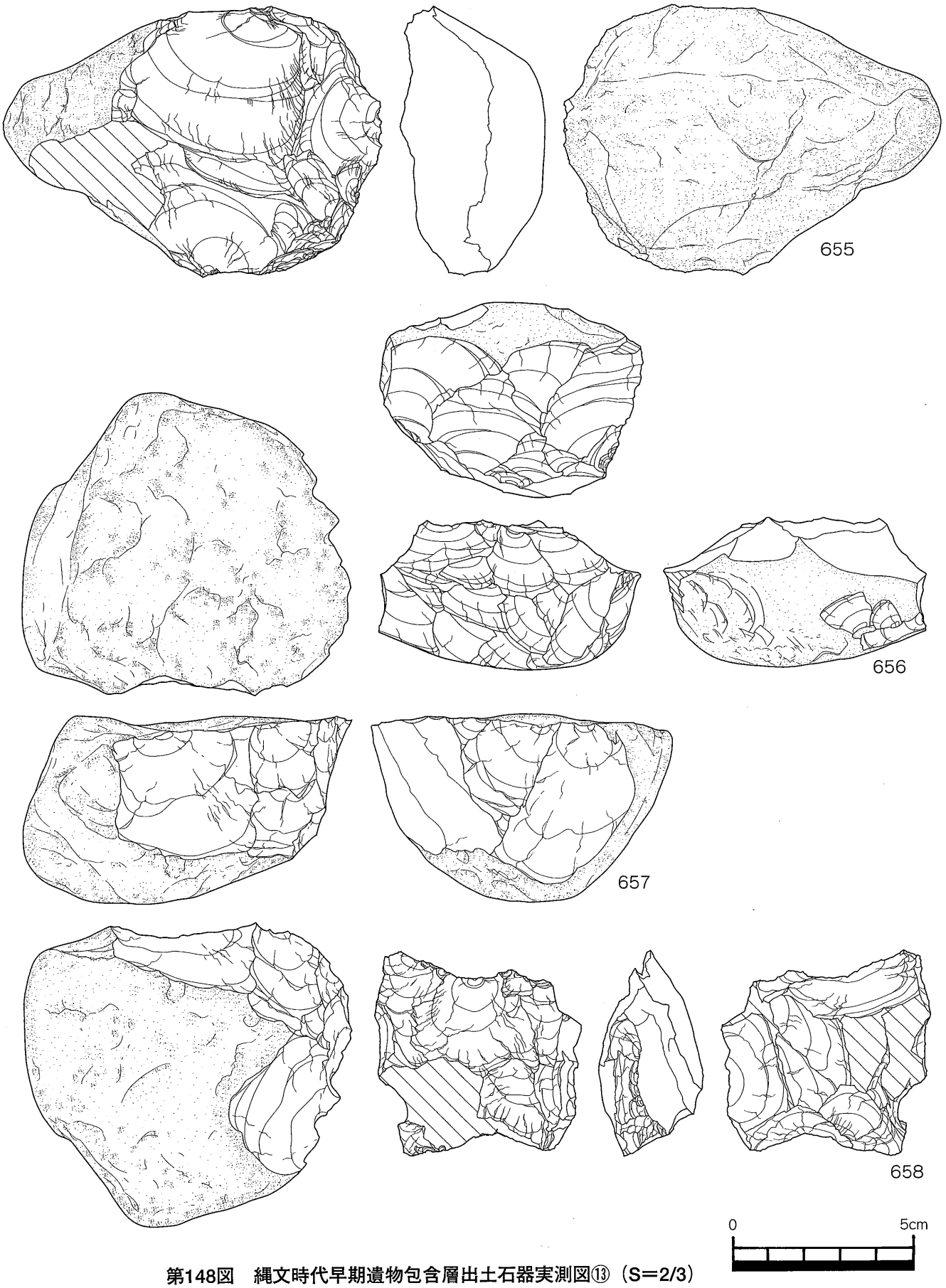
第145図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑩（S＝2/3）



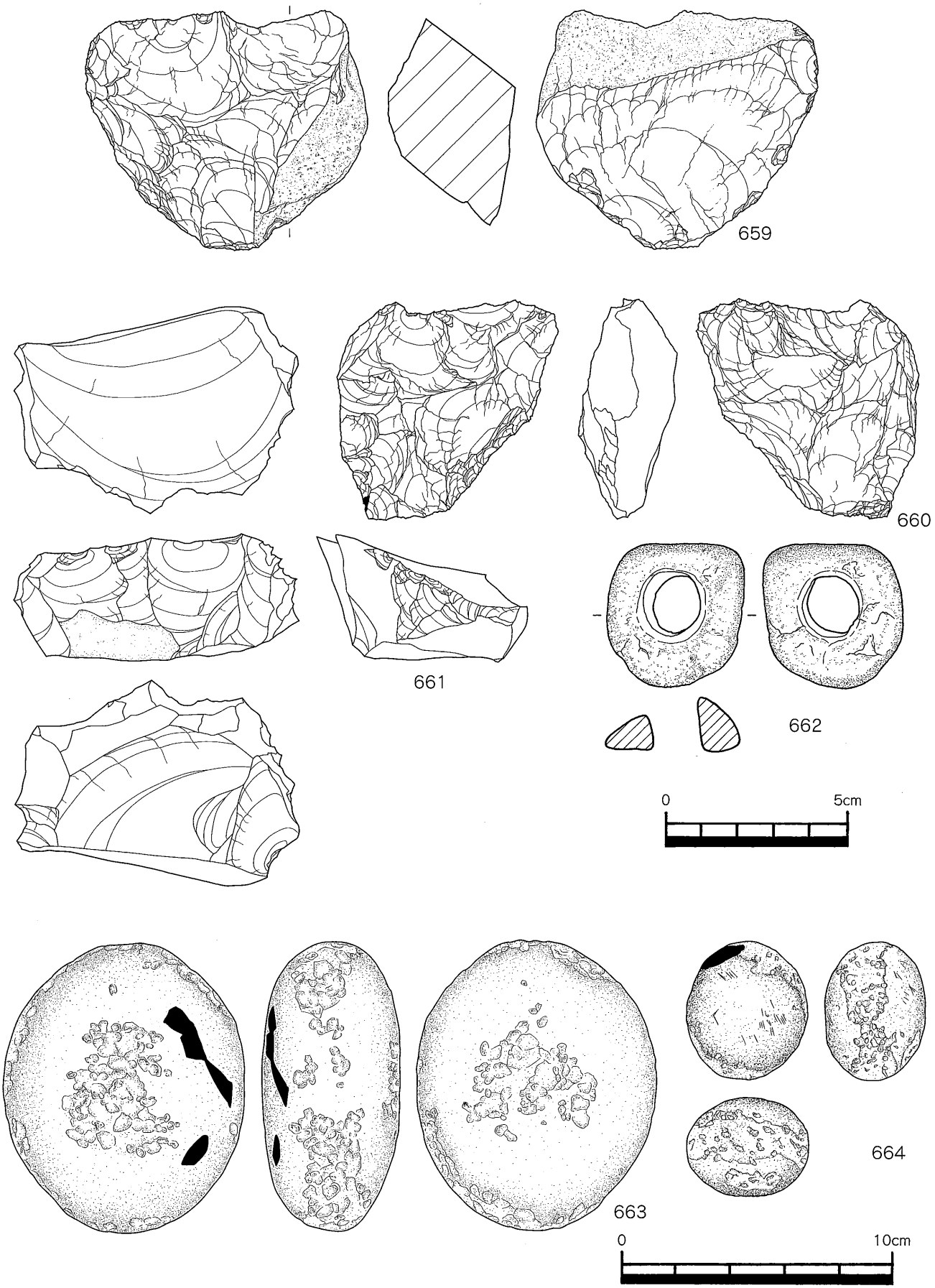
第146図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑪（S=2/3）



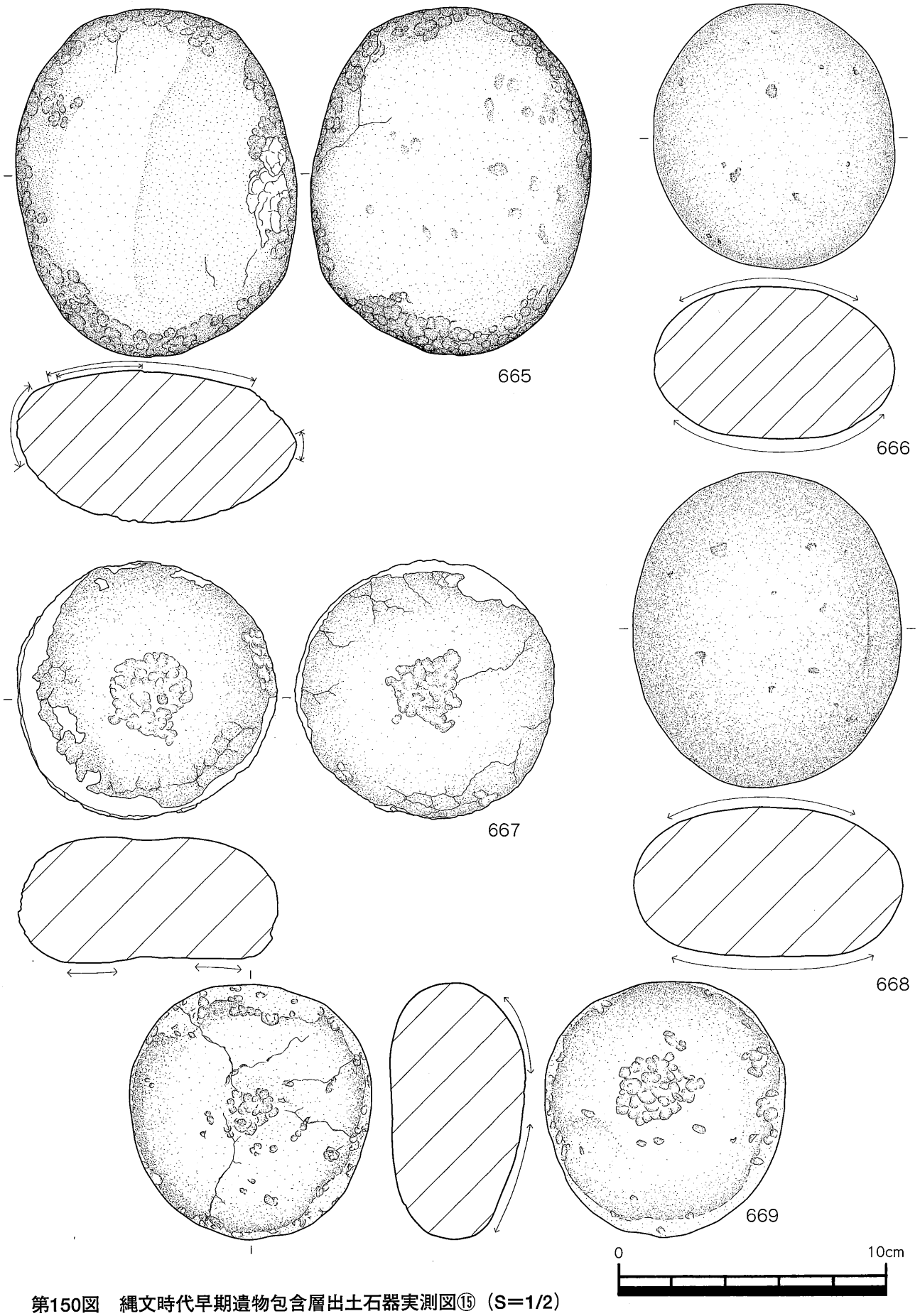
第147図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑫（S＝2/3）



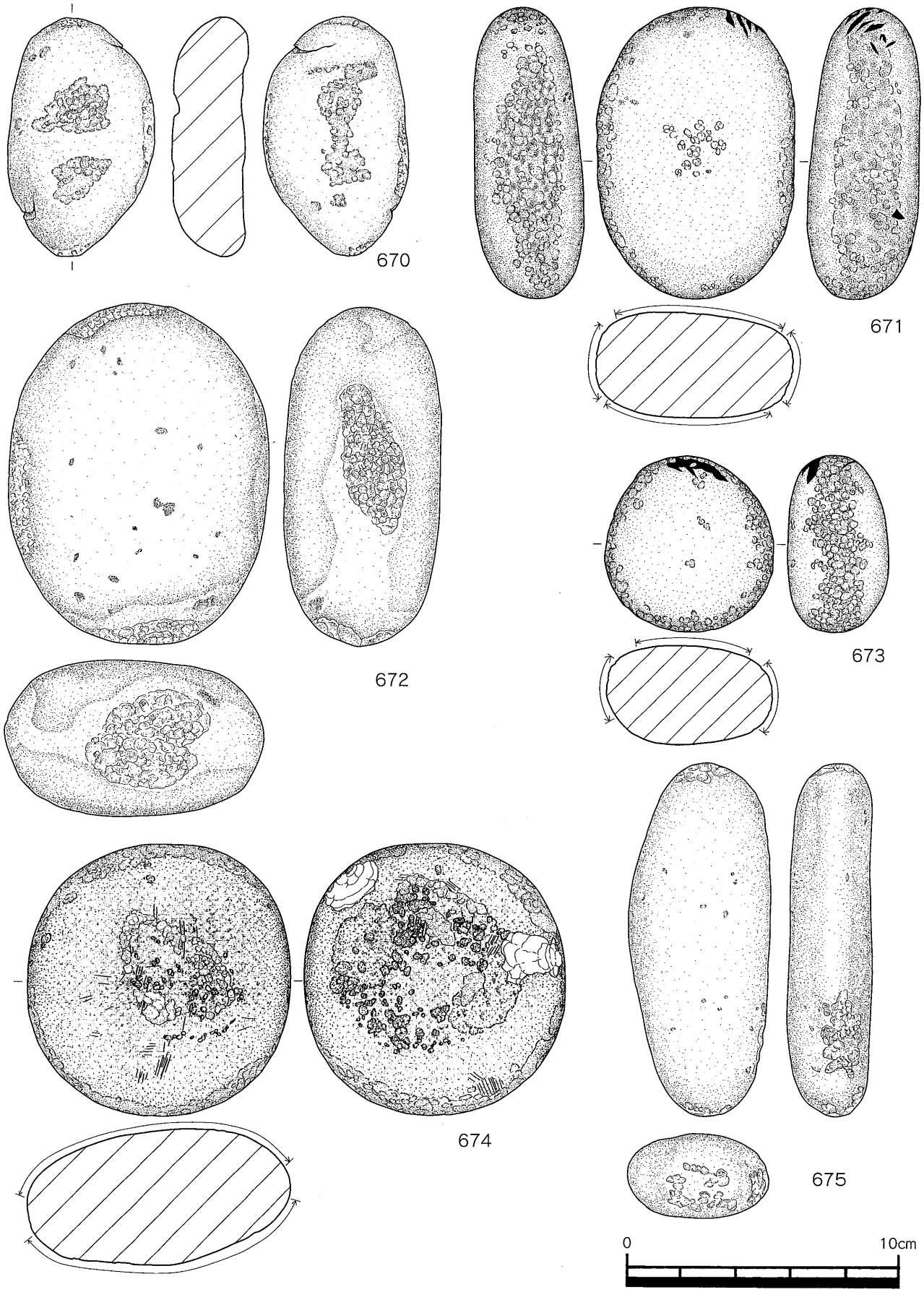
第148図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑬（S＝2/3）



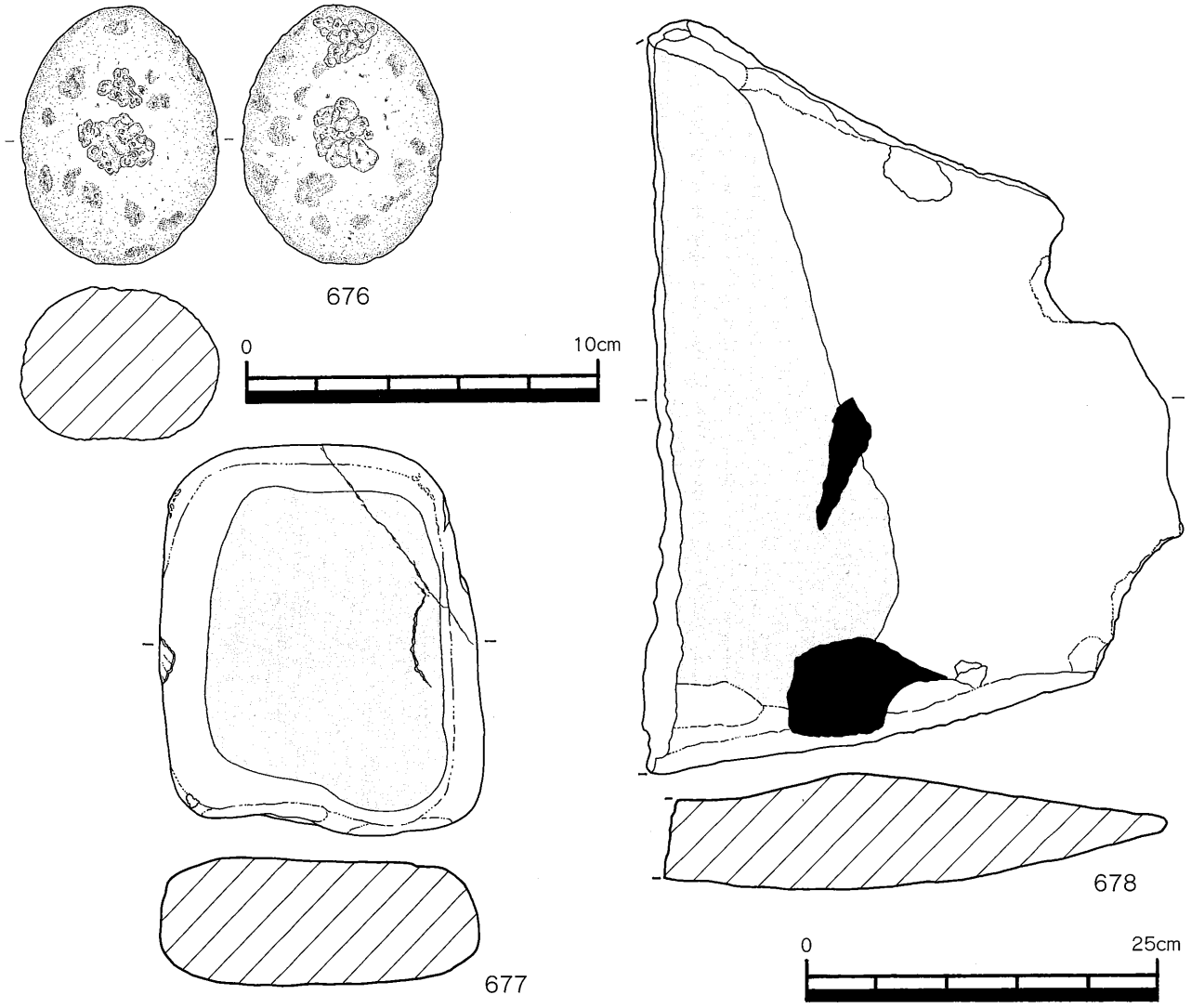
第149図　縄文時代時代早期遺物包含層出土石器実測図⑭（S＝2/3、1/2）



第150図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑮（S＝1/2）



第151図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑯（S=1/2）



第152図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑰（S＝1/2、1/4）

滑らかで光沢が見られる。

敲石（凹石）・磨石（663～676）

敲石は円礫・角礫の一端・両端・平らな面に敲打の結果と考えられる割れや敲打痕、敲打によるものと推定されるくぼみを持つもの。磨石は円礫の片面・両面に平滑な面をもつものを分類した。両方の特徴をもつものも見受けられ、総数57点が出土している（内訳は尾鈴山酸性岩14点、頁岩1点、流紋岩1点、砂岩41点）。しかしこれらの他にも砂岩の円礫は多数出土しており、使用頻度の低いものについては認定できていない資料も存在する可能性もある。調査区のほぼ全域に分布しており、使用石材ごとの分布傾向の偏りは見られなかった。

石皿（677・678）

大ぶりな川原石が使用され、自然面ではない平滑面やくぼんだ滑らかな面をもつもので、総数７点が出土している。そのうちの１点（678）は町内で清武石と呼ばれる溶結凝灰岩製で、残りはすべて砂岩製である。

第13表　包含層出土石器計測分類表

遺物No.	整理No.	器　種	出土グリッド	層位	石　材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備　考
370	73	打製石鏃	D2	Ⅵ	チャート	1.4	1.3	0.3	0.4	Ⅰ類
371	58	打製石鏃	A	Ⅴ	チャート	1.3	1.5	0.3	0.4	Ⅰ類
372	173	打製石鏃	G6	Ⅵ	チャート	1.4	1.6	0.4	0.8	Ⅰ類
373	101	打製石鏃	G5	Ⅴ	黒曜石（桑ノ木津留）	1	1.1	0.3	0.2	Ⅰ類
374	91	打製石鏃	F7	Ⅴ	黒曜石（桑ノ木津留）	1.4	1.3	0.3	0.3	Ⅰ類
375	85	打製石鏃	F3	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	1.3	1.2	0.3	0.4	Ⅰ類
376	62	打製石鏃	A	Ⅴ	黒曜石（桑ノ木津留）	1.2	1.3	0.3	0.3	Ⅰ類
377	79	打製石鏃	D5	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	1.4	1.4	0.4	0.5	Ⅰ類
378	172	打製石鏃	G6	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	1.3	1.3	0.3	0.4	Ⅰ類
379	86	打製石鏃	F3	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	1.5	1.2	0.3	0.4	Ⅰ類
380	123	打製石鏃	G6	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	1.2	(1.2)	0.3	(0.3)	Ⅰ類　脚部欠損
381	17	打製石鏃	F12	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	1.2	1.1	0.2	0.2	Ⅰ類
382	32	打製石鏃	G11	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	1.4	1.3	0.3	0.4	Ⅰ類
383	42	打製石鏃	－	－	黒曜石（桑ノ木津留）	1.3	(1.2)	(0.2)	(0.2)	Ⅰ類　脚部欠損
384	92	打製石鏃	F7	Ⅴ	黒曜石（腰岳）	1.3	1.4	0.4	0.6	Ⅰ類
385	189	打製石鏃	G11	Ⅵ	黒曜石（腰岳）	1.4	(1.4)	0.3	(0.4)	Ⅰ類　脚部欠損
386	193	打製石鏃	G11	Ⅵ	黒曜石（腰岳）	(1.2)	1.3	0.3	(0.3)	Ⅰ類　脚部欠損
387	221	打製石鏃	G6	Ⅵ	黒曜石（腰岳）	(1.1)	(1.0)	0.3	(0.2)	Ⅰ類　脚部欠損
388	234	打製石鏃	G10	Ⅵ	黒曜石（腰岳）	(1.1)	(1.2)	0.4	(0.2)	Ⅰ類　脚部欠損
389	239	打製石鏃	G11	Ⅵ	黒曜石（腰岳）	1	(1.1)	0.3	(0.2)	Ⅰ類　脚部欠損
390	63	打製石鏃	A	Ⅴ	黒曜石（姫島産）	1.2	1.4	0.3	0.3	Ⅰ類
391	64	打製石鏃	A	－	黒曜石（姫島産）	1.3	1.4	0.3	0.4	Ⅰ類
392	68	打製石鏃	B	Ⅴ	黒曜石（姫島産）	1.5	1.4	0.3	0.4	Ⅰ類
393	98	打製石鏃	G1	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	1.2	1.3	0.3	0.3	Ⅰ類
394	171	打製石鏃	G6	Ⅴ	黒曜石（姫島産）	1.4	1.4	0.3	0.3	Ⅰ類
395	197	打製石鏃	G11	Ⅵ	チャート	2.1	1.1	0.4	0.8	Ⅱ類
396	106	打製石鏃	G7	Ⅵ	チャート	2.4	1.6	0.3	1.1	Ⅱ類
397	192	打製石鏃	G11	Ⅵ	チャート	2.7	1.2	0.3	1	Ⅱ類
398	196	打製石鏃	G11	Ⅵ	チャート	2.8	1.5	0.4	1.6	Ⅱ類
399	235	打製石鏃	G11	Ⅵ	チャート	(1.9)	1.3	0.4	(0.9)	Ⅱ類　先端部欠損
400	236	打製石鏃	G11	Ⅵ	チャート	(2.0)	1.7	4	(1.3)	Ⅱ類　先端部欠損
401	26	打製石鏃	G7	Ⅵ	チャート	1.9	1.2	0.5	1	Ⅱ類
402	260	打製石鏃未製品	G11	Ⅵ	チャート	1.8	1.2	0.3	0.7	Ⅱ類
403	27	打製石鏃	G8	Ⅴ	チャート	2.7	1.6	0.5	1.9	Ⅱ類
404	33	打製石鏃	G11	Ⅵ	流紋岩	2.8	1.5	0.5	1.8	Ⅱ類
405	865	打製石鏃	G7	Ⅴ	安山岩	(2.05)	1.4	0.45	(1.0)	Ⅱ類　先端部欠損
406	83	打製石鏃	D7	Ⅵ	玉髄	3.5	1.3	0.3	1.3	Ⅱ類
407	184	打製石鏃	G7	Ⅵ	玉髄	2.1	1.1	0.3	0.6	Ⅱ類
408	222	打製石鏃	G6	Ⅵ	玉髄	(1.7)	1.3	0.4	(0.8)	Ⅱ類　先端部欠損
409	30	打製石鏃	G10	Ⅵ	玉髄	1.6	0.9	0.2	0.3	Ⅱ類
410	182	打製石鏃	G7	Ⅵ	ホルンフェルス	3.1	1.5	0.4	1.9	Ⅱ類
411	12	打製石鏃	B	Ⅴ	チャート	1.8	1.3	0.3	0.7	Ⅲ類
412	24	打製石鏃	G6	Ⅵ	チャート	1.9	1.5	0.2	0.7	Ⅲ類
413	19	打製石鏃	G5	Ⅵ	チャート	2.8	1.7	0.3	1.3	Ⅲ類

（　）内の数値は残存値を示す

遺物No.	整理No.	器　種	出土グリッド	層位	石　材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備　考
414	31	打製石鏃	G10	Ⅵ	流紋岩	2.4	1.4	0.4	0.9	Ⅲ類
415	46	打製石鏃	A	Ⅴ	流紋岩	2.7	(1.5)	0.4	(1.6)	Ⅲ類　脚部欠損
416	37	打製石鏃	－	Ⅵ	流紋岩	1.2	1	0.2	0.2	Ⅲ類
417	35	打製石鏃	H	Ⅵ	流紋岩	(2.0)	1.5	0.3	0.8	Ⅲ類　先端部欠損
418	28	打製石鏃	G8	Ⅴ	流紋岩	2.5	1.5	0.3	1.1	Ⅲ類
419	22	打製石鏃	G6	Ⅵ	流紋岩	2.4	2.6	0.6	2.2	Ⅲ類
420	13	打製石鏃	D2	Ⅴ	頁岩	1.4	1	0.2	0.2	Ⅲ類
421	34	打製石鏃	H	Ⅴ	頁岩	3	1.8	0.4	1.6	Ⅲ類
422	20	打製石鏃	G5	Ⅵ	頁岩	2.1	1.6	0.3	0.7	Ⅲ類
423	53	打製石鏃	D5	Ⅵ	頁岩	(2.2)	1.6	0.5	(1.6)	Ⅲ類　先端部欠損
424	41	打製石鏃	－	－	黒曜石（針尾）	1.4	0.9	0.2	0.2	Ⅲ類
425	36	打製石鏃	－	Ⅴ	黒曜石（姫島産）	1.7	1.3	0.3	0.3	Ⅲ類
426	55	打製石鏃	G7	Ⅴ	黒曜石（姫島産）	2.2	(1.5)	0.4	(0.9)	Ⅲ類　脚部欠損
427	57	打製石鏃	H	Ⅵ	砂岩	2.3	(1.3)	0.3	(0.7)	Ⅲ類　脚部欠損
428	49	打製石鏃	B	Ⅵ	砂岩	(1.9)	1.2	0.3	(0.7)	Ⅲ類　先端部欠損
429	251	打製石鏃未製品	D5	Ⅴ	砂岩	(2.8)	1.9	0.8	(2.8)	Ⅲ類　先端部欠損
430	14	打製石鏃	D4	Ⅵ	ホルンフェルス	1.7	1.1	0.3	0.4	Ⅲ類
431	1	打製石鏃	F5	Ⅴ	チャート	3.3	2.2	0.4	1.8	Ⅳ類
432	208	打製石鏃	A	－	チャート	(2.7)	2	0.5	(1.8)	Ⅳ類　先端部欠損
433	280	打製石鏃	F7	Ⅴ	チャート	3.4	1.6	0.3	1.5	Ⅳ類
434	78	打製石鏃	D5	Ⅴ	チャート	3.6	2	0.3	1.6	Ⅴ類
435	61	打製石鏃	A	Ⅵ	チャート	2	1.4	0.3	0.6	Ⅴ類
436	59	打製石鏃	A	Ⅴ	チャート	2.5	1.9	0.4	1.4	Ⅴ類
437	39	打製石鏃	－	Ⅵ	流紋岩	2.7	(1.6)	0.3	(0.9)	Ⅴ類　脚部欠損
438	52	打製石鏃	D2	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	1.5	(1.2)	0.3	(0.3)	Ⅴ類　脚部欠損
439	66	打製石鏃	B	Ⅴ	黒曜石（姫島産）	2.1	1.6	0.3	0.7	Ⅴ類
440	102	打製石鏃	G5	Ⅵ	玉髄	(1.7)	1.3	0.3	0.4	Ⅴ類　先端部欠損
441	204	打製石鏃	－	Ⅵ	チャート	1.75	1.4	0.35	0.4	Ⅵ類
442	226	打製石鏃	G7	Ⅵ	チャート	2.8	(1.6)	0.4	(0.9)	Ⅵ類　脚部欠損
443	105	打製石鏃	G6	Ⅵ	チャート	2.9	1.9	0.4	1.8	Ⅵ類
444	225	打製石鏃	G7	Ⅵ	チャート	2.9	(2.3)	0.4	(1.7)	Ⅵ類　脚部欠損
445	231	打製石鏃	G8	Ⅵ	チャート	2.9	(1.8)	0.6	(2.3)	Ⅵ類　脚部欠損
446	94	打製石鏃	F10	Ⅴ	チャート	2.2	1.4	0.3	0.6	Ⅵ類
447	215	打製石鏃	D2	Ⅵ	チャート	2.1	(1.1)	0.4	(0.4)	Ⅵ類　脚部欠損
448	240	打製石鏃	G11	Ⅵ	チャート	2.3	(1.2)	0.4	(0.7)	Ⅵ類　脚部欠損
449	99	打製石鏃	G2	Ⅵ	チャート	2.2	1.8	0.3	1	Ⅵ類
450	195	打製石鏃	G11	Ⅵ	チャート	1.9	1.6	0.3	0.6	Ⅵ類
451	103	打製石鏃	G6	Ⅴ	チャート	2.4	1.4	0.4	0.7	Ⅵ類
452	90	打製石鏃	F7	Ⅴ	チャート	2.3	1.6	0.3	0.9	Ⅵ類
453	117	打製石鏃	F3	Ⅵ	チャート	3.4	(1.3)	0.4	(1.7)	Ⅵ類　脚部欠損
454	227	打製石鏃	G7	Ⅵ	チャート	(3.1)	(2.2)	(0.5)	(1.8)	Ⅵ類　脚部欠損
455	122	打製石鏃	G5	Ⅵ	チャート	(2.4)	(1.6)	0.3	(0.8)	Ⅵ類　脚部欠損
456	223	打製石鏃	G6	Ⅵ	チャート	(2.5)	(1.9)	0.3	(1.0)	Ⅵ類　脚部欠損
457	224	打製石鏃	G7	Ⅴ	チャート	(1.9)	(1.4)	0.3	(0.5)	Ⅵ類　脚部欠損
458	242	打製石鏃	－	Ⅵ	流紋岩	(2.7)	2.2	0.5	(1.8)	Ⅵ類　先端部欠損

（　）内の数値は残存値を示す

遺物No.	整理No.	器　種	出土グリッド	層位	石　材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備　考
459	120	打製石鏃	F11	V	流紋岩	(4.7)	(2.4)	0.6	(3.8)	Ⅵ類　先端部･脚部欠損
460	87	打製石鏃	F5	V	頁岩	(1.8)	1.8	0.3	(0.6)	Ⅵ類　先端部欠損
461	216	打製石鏃	D2	Ⅵ	頁岩	3.5	(2.1)	0.4	(1.8)	Ⅵ類　脚部欠損
462	119	打製石鏃	G5	－	黒曜石（桑ノ木津留）	(1.5)	1.8	0.3	(0.6)	Ⅵ類　先端部欠損
463	69	打製石鏃	B	Ⅵ	黒曜石（腰岳）	2.2	1.8	0.3	0.9	Ⅵ類
464	95	打製石鏃	F11	V	安山岩	1.8	1.5	0.4	0.7	Ⅵ類
465	243	打製石鏃	－	Ⅵ	サヌカイト	2.1	1.5	0.5	(1.0)	Ⅵ類　脚部欠損
466	229	打製石鏃	G7	Ⅵ	玉髄	2.1	(1.7)	0.4	(0.9)	Ⅵ類　脚部欠損
467	209	打製石鏃	A	－	チャート	(1.5)	1.5	0.3	(0.5)	Ⅶ類　先端部欠損
468	213	打製石鏃	D2	V	黒曜石（姫島産）	(2.0)	(1.3)	0.3	(0.4)	Ⅶ類　先端部･脚部欠損
469	214	打製石鏃	D2	V	黒曜石（姫島産）	2.2	(1.5)	0.4	(0.6)	Ⅶ類　脚部欠損
470	201	打製石鏃	－	V	黒曜石（姫島産）	2.6	1.7	3.5	0.7	Ⅶ類
471	866	局部磨製石鏃	F4	Ⅵ	頁岩	1.9	(1.3)	0.15	(0.5)	Ⅷ類　脚部欠損
472	867	局部磨製石鏃	選別	Ⅵ	頁岩	(1.25)	(1.5)	(0.3)	(0.5)	Ⅷ類　先端部欠損
473	218	打製石鏃	D7	Ⅵ	チャート	(1.7)	1.4	0.4	(0.7)	Ⅸ類　先端部欠損
474	200	打製石鏃	H	Ⅵ	チャート	1.9	1.3	0.4	0.7	Ⅸ類
475	121	打製石鏃	G5	Ⅵ	チャート	2	(1.6)	0.3	(0.7)	Ⅸ類　脚部欠損
476	76	打製石鏃	D2	Ⅵ	チャート	1.7	1.6	0.3	0.6	Ⅸ類
477	174	打製石鏃	G6	Ⅵ	チャート	1.7	1.5	0.3	0.7	Ⅸ類
478	115	打製石鏃	E2	Ⅵ	チャート	1.6	(1.2)	0.3	(0.4)	Ⅸ類　脚部欠損
479	82	打製石鏃	D7	Ⅵ	チャート	2.3	1.5	0.4	0.9	Ⅸ類
480	187	打製石鏃	G10	Ⅵ	チャート	2	1.4	0.4	0.9	Ⅸ類
481	114	打製石鏃	E2	Ⅵ	チャート	(2.0)	1.7	0.3	(0.8)	Ⅸ類　先端部欠損
482	109	打製石鏃	－	Ⅵ	チャート	2.9	2.2	0.3	1.8	Ⅸ類
483	199	打製石鏃	G11	Ⅵ	流紋岩	(1.7)	1.8	0.3	(0.7)	Ⅸ類　先端部欠損
484	170	打製石鏃	B	Ⅵ	頁岩	2.9	2.1	0.4	2	Ⅸ類
485	23	打製石鏃	G6	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	2.1	1	0.2	0.5	Ⅸ類
486	29	打製石鏃	G10	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	1.6	1.3	0.2	0.4	Ⅸ類
487	16	打製石鏃	F4	V	黒曜石（桑ノ木津留）	1.7	1.3	0.3	0.5	Ⅸ類
488	194	打製石鏃	G11	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	1.5	1.2	0.4	0.5	Ⅸ類
489	180	打製石鏃	G7	V	黒曜石（桑ノ木津留）	1.5	1	0.3	0.2	Ⅸ類
490	183	打製石鏃	G7	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	1.6	1.2	0.3	0.4	Ⅸ類
491	191	打製石鏃	G11	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	1.8	1.4	0.5	0.8	Ⅸ類
492	88	打製石鏃	F6	V	黒曜石（桑ノ木津留）	1.7	1.4	0.3	0.3	Ⅸ類
493	80	打製石鏃	D5	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	2	1.6	0.3	0.8	Ⅸ類
494	178	打製石鏃	G7	V	黒曜石（桑ノ木津留）	2.1	1.4	0.3	0.7	Ⅸ類
495	96	打製石鏃	F11	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	2.2	1.3	0.3	0.7	Ⅸ類
496	67	打製石鏃	B	V	黒曜石（針尾）	2.2	1.7	0.5	1.2	Ⅸ類
497	70	打製石鏃	B	Ⅵ	黒曜石（針尾）	1.9	1.8	0.4	0.9	Ⅸ類
498	202	打製石鏃	－	Ⅵ	黒曜石（姫島産）	1.85	1.4	0.6	0.9	Ⅸ類
499	97	打製石鏃	F12	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	1.8	1.3	0.4	0.6	Ⅸ類
500	210	打製石鏃	B	V	黒曜石（姫島産）	1.7	(1.2)	0.5	(0.6)	Ⅸ類　脚部欠損
501	47	打製石鏃	A	V	黒曜石（姫島産）	1.6	(1.1)	0.3	0.4	Ⅸ類　脚部欠損
502	110	打製石鏃	－	Ⅵ	黒曜石（腰岳）	1.6	1.95	2.5	0.5	Ⅸ類
503	25	打製石鏃	G7	V	黒曜石（腰岳）	2.4	2	0.4	1.2	Ⅸ類

（　）内の数値は残存値を示す

遺物No.	整理No.	器　種	出土グリッド	層位	石　材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備　考
504	71	打製石鏃	D1	Ⅵ	サヌカイト	2.2	1.8	0.4	1.1	Ⅸ類
505	186	打製石鏃	G10	Ⅵ	サヌカイト（多久）	2.4	1.7	0.3	1.1	Ⅸ類
506	185	打製石鏃	G7	Ⅵ	玉髄	1.4	1	0.3	0.4	Ⅸ類
507	81	打製石鏃	D7	Ⅵ	ホルンフェルス	2.4	1.9	0.3	1.3	Ⅸ類
508	18	打製石鏃	G1	Ⅵ	チャート	1.5	1.8	0.3	0.6	Ⅸ類
509	40	打製石鏃	－	－	チャート	(1.5)	(1.0)	0.4	(0.5)	Ⅸ類　先端部･脚部欠損
510	282	打製石鏃	G6	Ⅴ	チャート	1.8	1.8	0.3	0.6	Ⅸ類
511	77	打製石鏃	D4	Ⅵ	チャート	2.6	1.3	0.5	1.3	Ⅸ類
512	74	打製石鏃	D2	Ⅵ	チャート	2.7	1.6	0.5	1.6	Ⅸ類
513	241	打製石鏃	H	Ⅵ	チャート	2.9	(1.5)	0.5	(1.7)	Ⅸ類　脚部欠損
514	207	打製石鏃	A	Ⅵ	チャート	2.5	(1.5)	0.4	(1.0)	Ⅸ類　脚部欠損
515	113	打製石鏃	C	Ⅴ	チャート	2.4	(1.5)	0.5	(1.4)	Ⅸ類　脚部欠損
516	181	打製石鏃	G7	Ⅵ	チャート	(2)	(1.5)	0.4	(0.8)	Ⅸ類　脚部欠損
517	237	打製石鏃	G11	Ⅵ	チャート	1.8	(1.2)	0.4	(0.5)	Ⅸ類　脚部欠損
518	232	打製石鏃	G9	Ⅴ	チャート	1.6	(1.1)	0.4	(0.5)	Ⅸ類　脚部欠損
519	217	打製石鏃	D5	Ⅴ	チャート	(1.7)	1.3	0.3	0.6	Ⅸ類　先端部欠損
520	72	打製石鏃	D2	Ⅴ	チャート	1.6	1.4	0.5	0.7	Ⅸ類
521	21	打製石鏃	G6	Ⅵ	チャート	1.9	1.4	0.3	0.6	Ⅸ類
522	169	打製石鏃	H	Ⅵ	チャート	2.1	(1.4)	0.4	(0.5)	Ⅸ類　脚部欠損
523	60	打製石鏃	A	Ⅴ	チャート	1.9	1.2	0.6	1.2	Ⅸ類
524	11	打製石鏃	A	Ⅴ	チャート	2.2	(1.5)	(0.7)	(1.6)	Ⅸ類　脚部欠損
525	212	打製石鏃	C	Ⅵ	チャート	2.1	(1.4)	0.4	(0.7)	Ⅸ類　脚部欠損
526	230	打製石鏃	G7	Ⅵ	チャート	2	(1.5)	0.3	(0.6)	Ⅸ類　脚部欠損
527	107	打製石鏃	G10	Ⅵ	流紋岩	3.2	1.7	0.6	2	Ⅸ類
528	198	打製石鏃	G11	Ⅵ	流紋岩	2.2	1.2	0.4	0.4	Ⅸ類
529	56	打製石鏃	G11	Ⅵ	流紋岩	1.9	(1.7)	0.3	(0.9)	Ⅸ類　脚部欠損
530	54	打製石鏃	G6	Ⅴ	流紋岩	2.2	(1.3)	0.4	(0.9)	Ⅸ類　脚部欠損
531	238	打製石鏃	G11	Ⅵ	頁岩	2	(1.1)	0.3	(0.5)	Ⅸ類　脚部欠損
532	112	打製石鏃	B	Ⅵ	頁岩	2.1	(1.3)	0.4	(0.9)	Ⅸ類　脚部欠損
533	104	打製石鏃	G6	Ⅵ	頁岩	1.8	1.3	0.3	0.6	Ⅸ類　脚部欠損
534	124	打製石鏃	G7	Ⅵ	頁岩	2.4	(1.3)	0.4	(0.9)	Ⅸ類　脚部欠損
535	100	打製石鏃	G5	Ⅵ	頁岩	2.5	1.6	0.5	1.2	Ⅸ類
536	116	打製石鏃	E2	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	1.9	(1.3)	0.2	(0.5)	Ⅸ類　脚部欠損
537	190	打製石鏃	G11	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	1.7	1.6	0.3	0.6	Ⅸ類
538	50	打製石鏃	D2	Ⅴ	黒曜石（桑ノ木津留）	2	(1.5)	0.3	(0.6)	Ⅸ類　脚部欠損
539	228	打製石鏃	G7	Ⅵ	黒曜石（腰岳）	1.9	(1.5)	0.3	(0.6)	Ⅸ類　脚部欠損
540	108	打製石鏃	H	Ⅵ	黒曜石（針尾）	2.7	1.5	0.6	1.4	Ⅸ類
541	177	打製石鏃	G7	Ⅴ	黒曜石（姫島産）	3.4	(1.8)	0.4	(1.6)	Ⅸ類　脚部欠損
542	93	打製石鏃	F10	Ⅴ	黒曜石（姫島産）	1.9	1.5	0.4	0.6	Ⅸ類
543	203	打製石鏃	－	Ⅵ	黒曜石（姫島産）	(1.8)	1.6	0.35	(0.5)	Ⅸ類　先端部欠損
544	65	打製石鏃	B	Ⅴ	黒曜石（姫島産）	1.6	1.1	0.3	0.3	Ⅸ類
545	175	打製石鏃	G7	Ⅴ	黒曜石（姫島産）	1.6	1.4	0.3	0.2	Ⅸ類
546	179	打製石鏃	G7	Ⅴ	黒曜石（姫島産）	1.7	1.5	0.4	0.6	Ⅸ類
547	211	打製石鏃	C	Ⅴ	黒曜石（姫島産）	1.7	(1.5)	0.4	(0.5)	Ⅸ類　脚部欠損
548	206	打製石鏃	A	Ⅴ	黒曜石（姫島産）	1.9	(1.3)	0.3	(0.5)	Ⅸ類　脚部欠損

（　）内の数値は残存値を示す

遺物No.	整理No.	器　種	出土グリッド	層位	石　材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備　考
549	205	打製石鏃	A	V	黒曜石（姫島産）	2.1	(1.3)	0.4	(0.5)	Ⅸ類　脚部欠損
550	233	打製石鏃	G10	Ⅵ	黒曜石（姫島産）	2.1	(1.2)	0.4	(0.7)	Ⅸ類　脚部欠損
551	176	打製石鏃	G7	V	黒曜石（姫島産）	1.9	1.4	0.4	0.7	Ⅸ類
552	89	打製石鏃	F6	Ⅵ	黒曜石（姫島産）	2.2	(1.8)	0.4	(0.9)	Ⅸ類　脚部欠損
553	281	打製石鏃	－	Ⅵ	黒曜石（姫島産）	1.7	1.5	0.3	0.5	Ⅸ類
554	48	打製石鏃	B	V	黒曜石（姫島産）	1.8	(1.1)	0.4	(0.5)	Ⅸ類　脚部欠損
555	118	打製石鏃	G5	Ⅵ	安山岩	2.3	(1.3)	0.5	(1.1)	Ⅸ類　脚部欠損
556	84	打製石鏃	E5	V	安山岩	2.4	1.7	0.4	1.3	Ⅸ類
557	188	打製石鏃	G11	V	安山岩	1.7	1.3	0.5	0.8	Ⅸ類
558	51	打製石鏃	D2	Ⅵ	安山岩	1.5	(1.2)	0.6	(0.8)	Ⅸ類　脚部欠損
559	38	打製石鏃	－	Ⅵ	サヌカイト	2.2	1.4	0.5	1	Ⅸ類
560	219	打製石鏃	G6	Ⅵ	サヌカイト	1.8	(1.4)	0.4	(0.6)	Ⅸ類　脚部欠損
561	220	打製石鏃	G6	Ⅵ	玉髄	2.6	(1.4)	0.3	(0.8)	Ⅸ類　脚部欠損
562	111	打製石鏃	－	V	砂岩	1.6	1.4	0.4	0.6	Ⅸ類
563	15	打製石鏃	D5	V	砂岩	2.4	2	0.7	2.2	Ⅸ類
564	75	打製石鏃	D2	Ⅵ	ホルンフェルス	2.7	1.4	0.6	1.4	Ⅸ類　脚部欠損
565	168	打製石鏃未製品	－	－	チャート	(2.6)	1.9	1.1	(4.9)	上半部欠損
566	285	打製石鏃未製品	G11	Ⅵ	チャート	3.2	1.6	0.7	3.5	
567	254	打製石鏃未製品	G7	V	チャート	3	1.9	0.9	6	
568	253	打製石鏃未製品	G6	Ⅵ	チャート	2.6	(2.4)	0.7	(4.5)	基部欠損
569	289	打製石鏃未製品	H	V	チャート	1.8	1.9	0.6	1.4	
570	259	打製石鏃未製品	G11	Ⅵ	チャート	2.3	1.7	0.6	2	石錐の可能性有
571	287	打製石鏃未製品	G12	V	チャート	2.4	1.5	0.6	2	
572	283	打製石鏃未製品	G11	Ⅵ	チャート	2	1.5	0.7	2.5	
573	286	打製石鏃未製品	G11	Ⅵ	チャート	1.9	1.5	0.5	1.2	
574	248	打製石鏃未製品	B	Ⅵ	流紋岩	(2.6)	(2.4)	0.5	(2.7)	基部欠損
575	252	打製石鏃未製品	G6	V	流紋岩	2.8	2.5	0.6	4.7	
576	284	打製石鏃未製品	G11	Ⅵ	流紋岩	2.2	2.8	0.7	5.7	
577	244	打製石鏃未製品	A	V	流紋岩	2.4	1.2	0.4	1.3	
578	125	打製石鏃未製品	G4	Ⅵ	流紋岩	2.2	1.6	0.5	(1.9)	先端部欠損
579	245	打製石鏃未製品	A	Ⅵ	頁岩	2.6	1.3	0.6	1.8	
580	250	打製石鏃未製品	D3	V	黒曜石（桑ノ木津留）	1.5	1.3	0.5	0.8	
581	256	打製石鏃未製品	G7	V	黒曜石（桑ノ木津留）	2.3	1.9	0.7	1.9	
582	257	打製石鏃未製品	G7	Ⅵ	黒曜石（腰岳）	2	1.3	0.4	0.7	
583	255	打製石鏃未製品	G7	V	黒曜石（針尾）	2.1	1.6	0.7	1.7	
584	247	打製石鏃未製品	B	V	サヌカイト	(2.1)	1.4	0.7	(2.2)	下半部欠損
585	258	打製石鏃未製品	G7	Ⅵ	ホルンフェルス	2.9	2.2	1	5.9	
586	246	打製石鏃未製品	B	V	ホルンフェルス	2.4	1.7	0.6	2.5	
587	293	尖頭状石器	G7	V	チャート	3.6	2.2	0.9	5.9	
588	166	尖頭状石器	D4	Ⅵ	流紋岩	3.3	2.8	0.8	6.7	
589	296	尖頭状石器	G11	Ⅵ	流紋岩	3	(2.2)	1	(5.6)	基部欠損
590	869	尖頭状石器	G6	V	安山岩	3.05	(2.05)	0.95	(5.5)	基部欠損
591	868	尖頭状石器	G11	Ⅵ	安山岩	2.8	2.5	0.5	3.2	
592	297	尖頭状石器	G11	Ⅵ	流紋岩	3.4	(3.0)	1	(11.3)	基部欠損
593	163	尖頭状石器	A	Ⅵ	流紋岩	(3.2)	3	1.2	(12.8)	先端部・基部欠損

（　）内の数値は残存値を示す

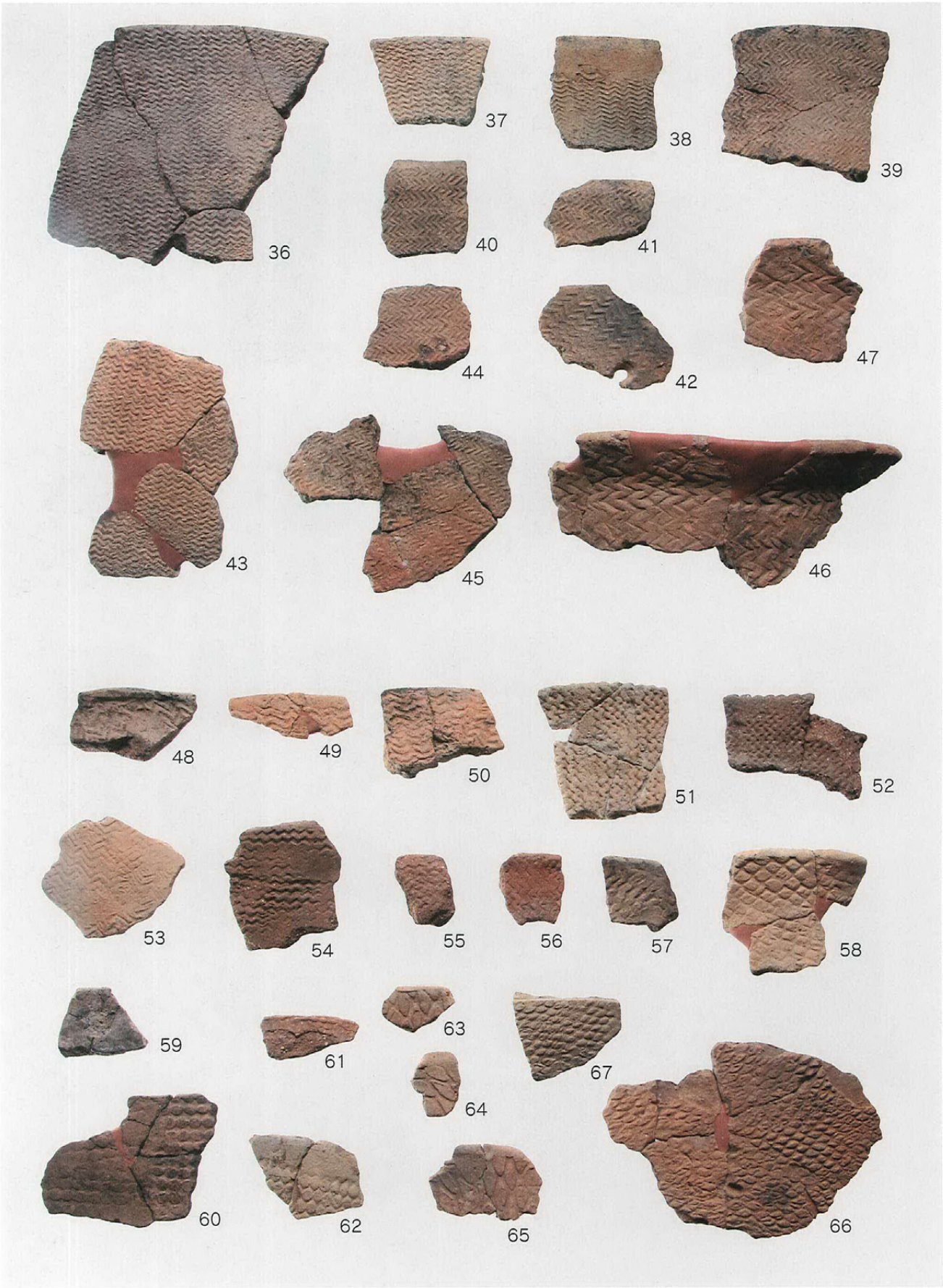
遺物No.	整理No.	器　種	出土グリッド	層位	石　材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備　考
594	162	尖頭状石器	A	Ⅵ	流紋岩	3.6	2.4	1	7.7	
595	290	尖頭状石器	G4	Ⅵ	流紋岩	(4.1)	3.2	1.3	(18.6)	尖頭部欠損　未製品か？
596	161	尖頭状石器	A	Ⅴ	流紋岩	(5.3)	3.4	1.4	(18.4)	先端部欠損
597	298	尖頭状石器	H	Ⅴ	頁岩	3.9	3.6	1.1	16	
598	294	尖頭状石器	G7	Ⅵ	頁岩	3.7	3	0.9	8.9	
599	291	尖頭状石器	G5	Ⅴ	頁岩	4.5	3.5	0.9	15.7	
600	870	尖頭状石器	D5	Ⅵ	頁岩	4.5	3.4	1.6	18.4	
601	164	尖頭状石器	D2	Ⅵ	頁岩	4.2	2.5	9	9.8	
602	167	尖頭状石器	D5	Ⅵ	頁岩	6.3	4.9	1.6	40	
603	292	尖頭状石器	G6	Ⅵ	頁岩	5	4.3	1.5	33.6	
604	165	尖頭状石器	D3	Ⅴ	頁岩	3.8	2.7	1	8.4	
605	295	尖頭状石器	G7	Ⅵ	ホルンフェルス	3.3	2.5	1	7.3	
606	553	槍先形尖頭器	G11	Ⅵ	チャート	(2.75)	(3.1)	(6.5)	(3.5)	下半部欠損
607	554	槍先形尖頭器	B	Ⅴ	流紋岩	(3.9)	(3.25)	(0.9)	(7.9)	下半部欠損
608	277	槍先形尖頭器	D3	Ⅴ	頁岩	6.95	2.1	1.1	13.1	
609	552	槍先形尖頭器	G11	Ⅵ	ホルンフェルス	8.05	4.1	1	24.2	基部の一部にガジリ有
610	555	槍先形尖頭器	G7	Ⅵ	堆積岩（頁岩）	(7.0)	3.8	9	(22.7)	先端部・基部欠損
611	551	槍先形尖頭器	G7	Ⅵ	頁岩	7.8	3.7	1.55	36.1	
612	762	抉入石器？	G6	Ⅵ	チャート	(1.6)	(1.5)	0.55	(0.9)	下半部欠損
613	871	異形石器	D2	Ⅵ	頁岩	2.2	1.6	0.4	1.34	表面･裏面上部に磨り有
614	249	石錐	D2	Ⅴ	チャート	2.5	1.8	0.4	1.8	
615	303	石錐	G11	Ⅵ	流紋岩	2.2	2	0.5	1.6	石錐未製品の可能性有
616	676	石錐	E2	Ⅵ	頁岩	4.6	2.6	0.6	7.9	先端部に研磨の痕跡有
617	299	石錐	D2	Ⅵ	頁岩	3.5	2.3	0.9	5.2	
618	302	石錐	H	Ⅵ	頁岩	2.7	2.1	0.5	2.5	石鏃未製品の可能性有
619	300	石錐	D2	Ⅵ	頁岩	2.5	1.9	0.2	1.2	
620	288	石錐	G14	Ⅵ	黒曜石（腰岳）	2.1	1.8	0.6	1.9	
621	875	石錐	A	Ⅴ	黒曜石	(2.8)	1.75	(0.7)	(1.5)	上半部欠損
622	761	石錐	G7	Ⅴ	安山岩	2.6	2.3	0.9	4.1	
623	301	石錐	D5	Ⅵ	砂岩	2.6	2.4	5.5	3.5	
624	304	石匙	B	Ⅴ	チャート	2.3	3	0.6	2.9	
625	814	石匙	－	Ⅵ	安山岩	2.75	3.8	0.55	3.8	
626	279	石匙	G6	Ⅴ	安山岩	3.7	3.4	0.8	7.6	
627	874	石匙	E5	Ⅵ	安山岩	2.5	2.1	0.5	2.79	
628	305	石匙	B	Ⅴ	安山岩	(3.6)	(1.9)	0.7	(5.4)	左半部欠損
629	3	石匙	－	Ⅵ	サヌカイト	4.2	7.7	1.4	27.6	
630	130	スクレイパー	E2	Ⅵ	チャート	5.8	7.1	1.3	44.2	
631	127	スクレイパー	A	－	流紋岩	6.6	2.5	0.6	9.5	
632	140	スクレイパー	G7	Ⅵ	流紋岩	7.5	6.8	1.9	63.5	
633	126	スクレイパー	A	Ⅵ	流紋岩	6.1	3.7	1.1	20.7	
634	872	スクレイパー	B	Ⅵ	頁岩	5.4	3.2	1.2	20.7	
635	128	スクレイパー	D5	Ⅵ	頁岩	6.4	6.2	1.35	61.1	
636	873	スクレイパー	H	Ⅵ	頁岩	(4.2)	(3.5)	0.7	12.6	下半部欠損
637	306	スクレイパー	D3	Ⅴ	頁岩	5.6	6.8	1.6	58.4	
638	131	スクレイパー	－	－	頁岩	8.3	4.7	2.1	65.9	

（　）内の数値は残存値を示す

遺物No.	整理No.	器　種	出土グリッド	層位	石　材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備　考
639	129	スクレイパー	D5	Ⅵ	砂岩	5.9	2.6	1.4	22.4	基部欠損
640	141	2次加工ある剥片	H	Ⅵ	砂岩	8	6.6	2.6	125.1	
641	139	2次加工ある剥片	G2	Ⅵ	砂岩	7.7	6.4	2.4	90.7	
642	307	剥片	－	－	流紋岩	3.4	2.4	0.9	5.4	
643	138	剥片	F9	Ⅴ	砂岩	5.8	7.8	1.9	58.8	
644	137	2次加工ある剥片	D5	Ⅴ	砂岩	4.4	5.4	1.6	41	
645	133	剥片	A	Ⅵ	頁岩	4.4	7.1	1.4	36.7	微細剥離有
646	876	剥片	B	Ⅴ下	尾鈴山酸性岩	4.65	5.2	1.4	21.6	
647	136	剥片	D2	Ⅵ	砂岩	8	4.2	1.6	52.1	
648	134	剥片	A	Ⅵ	玉髄	7.2	5.8	2	40.5	
649	135	剥片	A	Ⅵ	頁岩	8.4	6.8	1.4	83.4	微細剥離有
650	132	剥片	A	Ⅵ	頁岩	9.3	5.3	1.6	51.7	
651	886	剥片	G6	Ⅵ	頁岩	4.2	2.05	0.55	4.7	磨製石斧の調整剥片か？
652	878	礫器	E2	Ⅵ	砂岩	7.9	5.25	2.3	140.1	
653	2	磨製石斧	E6	Ⅵ	砂岩	10.45	5	2.3	145.9	
654	278	両面加工石器	D2	Ⅵ	ホルンフェルス	11.5	5.45	3	160.5	石核の可能性有
655	144	石核	G6	Ⅵ	流紋岩	7.6	10.5	4.1	323.4	
656	148	石核	D2	Ⅵ	砂岩	4.2	7.3	5.5	206.2	
657	149	石核	G2	Ⅵ	流紋岩	5.3	9.2	8.5	489.8	
658	145	石核	G11	Ⅵ	流紋岩	5.8	5.8	3	82.8	
659	143	石核	G5	Ⅵ	砂岩	6.7	7.8	3.5	164.3	
660	146	石核	H	Ⅵ	流紋岩	6.1	5.7	2.8	101.1	
661	150	石核	G6	Ⅵ	頁岩	3.4	7.9	6	141.5	
662	797	有孔石製品	G6	Ⅵ	砂岩	4	3.8	1.5	22.7	装身具の可能性有
663	159	敲石	G14	Ⅵ	砂岩	10.7	9.4	5.1	659.6	
664	157	敲石	G7	Ⅵ	流紋岩	5.1	3.5	3.6	109.3	摩滅有
665	880	磨石	－	－	砂岩	13.1	10.45	5.75	1055.8	潰痕有
666	151	磨石	D4	Ⅵ	尾鈴山酸性岩	9.9	8.9	5.7	748.3	
667	155	敲石	G6	Ⅵ	砂岩	9.7	9.6	4.7	558.2	
668	154	磨石	D5	Ⅵ	尾鈴山酸性岩	11.9	9.9	5.6	995	
669	153	敲石	D4	Ⅵ	砂岩	9.8	9	5.2	584.1	
670	156	敲石	G6	Ⅵ	砂岩	8.8	5.3	2.8	168.6	
671	881	敲石	D3	Ⅴ	砂岩	10.75	7.2	4.05	460.57	摩滅有
672	160	敲石	－	－	尾鈴山酸性岩	12.5	9.5	5.7	1058	
673	882	敲石	D4	Ⅵ	砂岩	6.5	6.1	3.65	194.7	
674	879	磨石	E2	Ⅵ	頁岩	10.05	9.6	5.05	716.2	潰痕有
675	152	敲石	D2	Ⅵ	砂岩	13	5.2	3.1	281.4	
676	158	敲石	G11	Ⅵ	玄武岩	7.4	5.7	4.3	229.5	摩滅有
677	816	石皿	A	Ⅵ	砂岩	22.15	18.2	7.3	5500	
678	817	石皿	－	－	溶結凝灰石（清武石）	43.1	(30.4)	7.1	7800	

（　）内の数値は残存値を示す

図版35　縄文時代早期遺物包含層出土土器①



図版36　縄文時代早期遺物包含層出土土器②

図版37　縄文時代早期遺物包含層出土土器③

図版38　縄文時代早期遺物包含層出土土器④

図版39　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑤

図版40　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑥